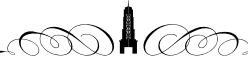




# 歴代大管長の教え

ゴードン・B・ヒンクレー





歴代大管長の教え

# ゴードン・B・ヒンクレー

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会  
ユタ州ソルトレーク・シティ

## 『歴代大管長の教え』シリーズの書籍

- 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(アイテム番号 36481 300)
- 『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』(35554 300)
- 『歴代大管長の教え—ジョン・テラー』(35969 300)
- 『歴代大管長の教え—ウィルフォード・ウッドラフ』(36315 300)
- 『歴代大管長の教え—ロレンゾ・スノー』(36787 300)
- 『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』(35744 300)
- 『歴代大管長の教え—ヒーバー・J・グラント』(35970 300)
- 『歴代大管長の教え—ジョージ・アルバート・スミス』(36786 300)
- 『歴代大管長の教え—デビッド・O・マッケイ』(36492 300)
- 『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス』(36907 300)
- 『歴代大管長の教え—ハロルド・B・リー』(35892 300)
- 『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』(36500 300)
- 『歴代大管長の教え—エズラ・タフト・ベンソン』(08860 300)
- 『歴代大管長の教え—ハワード・W・ハンター』(08861 300)
- 『歴代大管長の教え—ゴードン・B・ヒンクレイ』(08862 300)

これらの書籍を注文するには、教会配送センターで購入するか、[store.lds.org](http://store.lds.org)にアクセスしてください(訳注—[store.lds.org](http://store.lds.org)での日本語版書籍の入手可能時期は未定)。これらの書籍はLDS.orgおよびモバイル用アプリ「福音ライブラリー」で、デジタル版も入手できます。

本書に関するご意見、ご提案をお寄せください。宛先は以下のとおりです。

Curriculum Development  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, UT 84150-0024 USA  
電子メール：[pth-development@ldschurch.org](mailto:pth-development@ldschurch.org)

お名前、ご住所、所属ステーク・地方部名、ワード・支部名を銘記してください。また、本書の題名も忘れずにお書きください。ご意見やご提案には、本書の良い点や改善できると思われる点についてお書きください。

© 2016 Intellectual Reserve, Inc.

All rights reserved.

印刷：アメリカ合衆国

英語版承認：3/11

翻訳承認：3/11

原題：*Teachings of Presidents of the Church: Gordon B. Hinckley*  
Japanese  
08862 300



# 目次

序	v
経歴のまとめ	viii
ゴードン・B・ヒンクレーの生涯と教導の業	1
1 福音の回復——明るい夜明け	41
2 国々の民を招く旗, 世の光	53
3 幸福観と楽観的な考え方を培う	65
4 開拓者が残した信仰と犠牲という受け継ぎ	77
5 神の娘	91
6 祈りは何と力のある行為でしょう	103
7 御 <sup>み</sup> 霊 <sup>たま</sup> のささやき	113
8 キリストに頼る	121
9 証 <sup>あかし</sup> という貴 <sup>とうと</sup> い賜 <sup>たまもの</sup> 物	135
10 結婚における永遠のパートナーとしての関係を養い育てる	147
11 家庭——義にかなった生活の基	159
12 従順——素直に福音に従って生活する	171
13 物質的な自立から得られる平安と充足感	183
14 自分を捨てて他の人に仕える	195
15 聖なる神権	205
16 モルモン書の力	217
17 学ぶという大いなる道を歩み続ける	227
18 徳——人生を築く基となる隅石	241
19 イエス・キリストの教会の神権指導者	251
20 この教会の会員でない人々との友情	263
21 伝道活動という末日の奇跡	275
22 新しい改宗者とあまり活発でない会員に愛を もって手を差し伸べる	287
23 聖なる神殿の祝福	299
24 イエス・キリストの贖 <sup>しよくぞい</sup> 罪——その影響は 広範囲にして個人的	311
25 信仰をもって前進する	325
絵画・写真リスト	335
索引	337



*James M. Harrison*



# 序

大管長会並びに十二使徒定員会は、教会員が天の御父にさらに近づけるように、またイエス・キリストの回復された福音への理解を深められるように、『歴代大管長の教え』シリーズを作成した。本シリーズに新たな書籍が追加されるにつれ、家庭で活用するための福音の参考図書のコレクションが増えるであろう。本シリーズの書籍は、個人学習と教えるためのリソースとして作成されている。また、家庭の夕べのレッスンや、その他のレッスンや話を準備する際、および教会の教義についての質問に答える際にも役立てることができる。

本書では、1995年3月12日から2008年1月27日まで末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長を務めたゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えを採り上げている。

---

## 個人学習

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えを研究するとき、よく祈って御霊みたまの導きを求めるようにする。各章の最後に載っている質問は、ヒンクレー大管長の教えについて深く考え、教えを理解し、実践する助けとなるであろう。以下のアイデアも役立つであろう。

- 研究するときに聖霊から受けた考えや思いを書き留める。
- 覚えておきたい語句に下線を引く。そのような語句を暗記したり、聖典の関連聖句の横にそれを書き込んだりするとよい。
- 理解を深められるよう、章や文章を複数回読む。
- 次のように自問する。「ヒンクレー大管長の教えは、福音の原則に対するわたしの理解をどのように深めてくれるだろうか。」「主は、これらの教えからわたしが何を学ぶよう望んでおられるだろうか。主は、わたしに何をしよう望んでおられるのだろうか。」
- 自分の問題や心配事に対処するうえで本書の教えをどのように役立てられるか自問する。
- 学んだ事柄を家族や友人と分かち合う。

---

## 本書から教える

家庭や教会で本書から教える際に、以下の指針が役立つであろう。

### 教える準備をする

教える準備をするときに聖霊の導きを求める。該当する章を研究し、ヒンクレイ大管長の教えるを理解できたという確信を持てるようにする。それから、自分が教える人々にとって最も役立つと感じる教えるを、よく祈って選ぶ。

参加者には、レッスンの前に該当する章を研究しておくように、また各章の最後にある「研究とレッスンのための提案」に特に注意を払うように勧める。

### ヒンクレイ大管長の教えるについての話し合いを促す

本書から教えるときには、自分の考えを述べ、質問をし、互いに教え合うように人々に勧める。人は積極的に参加するとき、学び、個人的な啓示を受ける備えがさらによくできるようになる。

全ての教えるを網羅しようとせずに、有意義な話し合いを続けさせる。参加者がヒンクレイ大管長の教えるを読み、その教えるを自分の生活に応用する方法を見いだせるような話し合いを促す。

話し合いを促すために、章の最後にある質問を活用する。また、レッスンを受ける人々のために特別に教師自身で質問を用意してもよい。話し合いを促す方法として、他にも以下のようなものが考えられる。

- 参加者に、その章について個人学習で学んだことを発表してもらう。
- 章の最後にある質問を幾つか選び、それを読むように参加者に割り当てる（個人または小さなグループで行わせる）。質問に関連のある教えるを章の中から探すように言う。その後、自分の考えや理解したことを発表してもらう。
- 章の中から選んだヒンクレイ大管長の教えると一緒に読む。参加者に、ヒンクレイ大管長が教えていることを示している例を、聖文や自分自身の経験から話してもらう。
- 参加者に、一つの項を選んで黙読するように言う。同じ項を選んだ人同士で2、3人のグループを作り、学んだことを話し合うように勧める。

### 分かち合いと応用を促す

ヒンクレー大管長の教えが最も大きな意味を持つのは、参加者がそれを他の人々に分かち合い、また自分の生活に応用するときである。以下の方法の一つ、または複数用いるとよい。

- 家庭や教会で責任を果たす際に、ヒンクレー大管長の教えをどのように応用できるか参加者に尋ねる。
- ヒンクレー大管長の勧告に従ったときの経験を参加者に発表してもらう。
- ヒンクレー大管長の教えの幾つかを家族や友人に分かち合うように、参加者に勧める。

### 話し合いを終える

教師がレッスンを簡単に要約するか、または一人か二人の参加者に要約してもらう。教えた事柄について証し<sup>あかし</sup>、学んだことを応用するよう参加者に勧める。また、証を述べるように他の人に勧めてもよい。

### 本書で引用されている資料に関する情報

本書に収められている教えは、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教や書籍、取材から直接引用したものである。出版物からの引用文は、読みやすくするために編集上または印刷上必要な変更が加えられている場合を除いて、原文で使われている句読点、語のつづり、大文字の使用、段落分けをそのまま使用している。引用文は出版物に忠実であるため、読者は本文に多少統一を欠く点があることに気づくかもしれない。例えば、「神会」を指す代名詞は小文字で始まっている場合とそうでない場合とがある。

また、ヒンクレー大管長は度々、男性と女性の両方に対して“men”, “man”, “mankind”などの用語を使用している。また男女両方を指す代名詞として頻繁に“he”, “his”, “him”を使用している。このような言葉の使い方はヒンクレー大管長の時代には一般的だった。





## 経歴のまとめ

以下の年表は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の生涯の主要な出来事を簡単に紹介するものである。

- |             |  |
|-------------|--|
| 1910年6月23日  | ユタ州ソルトレーク・シティーで、ブライアント・S・ヒンクレーとアダ・ビトナー・ヒンクレーのもとに誕生する。              |
| 1922年       | 父親とともにステーク神権会に出席し、ジョセフ・スミスが預言者として召されたという証 <sup>あかし</sup> を得る。      |
| 1932年       | ユタ大学を卒業する。在学中、英語、ジャーナリズム、古代言語を学ぶ。                                  |
| 1933－1935年  | 専任宣教師としてヨーロッパ伝道部で奉仕する。全期間をイングランドで過ごす。                              |
| 1935－1943年  | 教会のラジオ・広告および伝道文献委員会の幹部書記として働く。                                     |
| 1937年       | 日曜学校中央管理会に召される。  |
| 1937年4月29日  | ソルトレーク神殿でマージョリー・ペイと結婚する。   |
| 1943－1945年  | ユタ州ソルトレーク・シティーおよびコロラド州デンバーにあるデンバー・アンド・リオ・グランデ鉄道の管理補佐を務める           |
| 1945－1958年  | 教会職員に戻る。1951年、新たに創設された宣教師管理部の日々の運営の監督を始める。                         |
| 1953－1955年  | デビッド・O・マッケイ大管長の導きの下、多言語で神殿のエンダウメントを行えるよう、エンダウメントの画像フィルム製作を提案し監督する。 |
| 1956年10月28日 | イーストミルククリークステークの会長として奉仕するよう召される。                                   |
| 1958年4月6日   | 十二使徒会補助として支持される。   |

- 1961年10月5日 デビッド・O・マッケイ大管長から使徒に聖任され、十二使徒定員会の会員に任命される。
- 1981年7月23日 大管長会の顧問として奉仕し、スペンサー・W・キンボール大管長とマリオン・G・ロムニー管長、N・エルドン・タナー管長を補佐するよう召される。
- 1982年12月2日 キンボール大管長の第二顧問として奉仕するよう召される。
- 1985年11月10日 エズラ・タフト・ベンソン大管長の第一顧問として奉仕するよう召される。
- 1994年6月5日 ハワード・W・ハンター大管長の第一顧問として奉仕するよう召される。
- 1995年3月3日 ハンター大管長の死に伴い、前任使徒になる。
- 1995年3月12日 末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に任命される。
- 1995年9月23日 「家族—世界への宣言」を中央扶助協会集会の中で発表する。
- 1996年2月 アメリカ合衆国以外の教会員数が合衆国内の教会員数を上回る。
- 1996年4月7日 アメリカのテレビ番組「60 Minutes」に出演する。
- 1996年5月26日 在任中に奉獻した77の神殿の最初の神殿となる中国・香港神殿を奉獻する。77のうち63の神殿の奉獻を自身で行った。
- 1997年4月5日 新たに3つの七十人定員会を組織する。
- 1997年10月4日 世界中に小規模神殿を建設する計画を発表する。
- 2000年1月1日 大管長会および十二使徒定員会の使徒たちとともに、「生けるキリスト—使徒たちの証」を発表する。
- 2000年10月1日 稼働中の100番目の神殿となるマサチューセッツ州ボストン神殿を奉獻する。
- 2000年10月8日 カンファレンスセンターを奉獻する。
- 2001年3月31日 永代教育基金の創設を発表する。
- 2002年2月8日 冬季オリンピックのために世界中からソルトレーク・シティーを訪れる人々を歓迎する。
- 2002年6月27日 ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの殉教158周年にイリノイ州ノーブー神殿を奉獻する。

経歴のまとめ

- |            |  |
|------------|--|
| 2003年1月11日 | 初の世界指導者訓練集会放送を管理する。                              |
| 2003年2月8日  | 初等協会の創設125周年を祝って、衛星放送を通して100万人の初等協会の子供たちに向けて語る。  |
| 2004年4月6日  | 妻マージョリーの死を悼む。                                    |
| 2004年6月23日 | 合衆国で文民に贈られる最高位の賞である大統領自由勲章を受賞する。                 |
| 2007年6月26日 | 教会員数が1,300万人を超え、教会が組織されて以来100万人の宣教師が奉仕したことを発表する。 |
| 2008年1月27日 | ユタ州ソルトレーク・シティの自宅で死去。                             |





# ゴードン・B・ヒンクレー の生涯と教導の業

1998年2月16日、約6,700人の末日聖徒がガーナ、アクラのインディペンデンス・スクウェアに集まった。預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長を歓迎するためだった。<sup>1</sup>ヒンクレー大管長は笑顔で聖徒たちの前に立ち、彼らの祖国に神殿が建設されるという、長年待ち望まれてきた知らせを発表した。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老によれば、ヒンクレー大管長がこのことを発表したとき、人々は「立ち上がって歓喜し、涙を流しながら踊り、抱き合い、泣きました。」<sup>2</sup>数年後に神殿が建設され、奉獻されたときに、その日その場にいたある女性がそのときに感じた喜びの気持ちを思い出し、神殿からどのような祝福を受けてきたかを話した。

「預言者ゴードン・B・ヒンクレーがガーナを訪問して、わたしたちの母国に神殿が建設されると発表したときのことを今でも鮮明に思い出すことができます。皆の表情に現れた興奮や喜び、歓喜の音が今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。……

今日、この国に神殿があるおかげで、わたしは夫と結婚して、この世と永遠にわたって夫と結び固められています。墓を超えて家族とともに暮らすという祝福は、永遠に家族とともにいるためにできる限りのことを行おうと努めるときに、大きな希望を与えてくれます。」<sup>3</sup>

ヒンクレー大管長は、世界中の人々がこの「大きな希望」を見い出して、イエス・キリストの福音に従って生活しようと努力できるよう助けてきた。ガーナでの出来事から分かるように、ヒンクレー大管長はしばしば一度に何千、何万人もの人を教え導いた。また、一人ずつ人々に手を差し伸べた。七十人のアドニー・Y・小松長老は、伝道部会長だったときにヒンクレー大管長が自分の伝道部を訪れたときの気持ちについて語っている。

「3年間の在任中、わたしの数々の弱さにもかかわらず、一度もヒンクレー大管長に批判されたことがありませんでした。……わたしは大いに励まされました。……ヒンクレー大管長は飛行機を降りてくると必ずわたしの手を握り、一生懸命井戸の水をくむかのように握手をしてくれました。『小松会長、調子はいかがですか。……よく頑張ってくださいね』とい

うふうに励ましてくれました。……大管長が去った後、わたしは 100 パーセントではなく 105 パーセントの力を出し切ろうと思ったものです。」<sup>4</sup>

ヒンクレー大管長からの励ましを感じた人たちは、大管長の靈感あふれる言葉からだけでなく、生き様からもそれを感じた。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長は、このように述べている。

「〔ヒンクレー夫妻が〕中央アメリカのある教会堂から空港に向かっていたときのことでした。大管長夫妻の乗った車が事故に遭いました。わたしたち夫婦は後ろの車で事故の様子を目撃しました。ある交差点で鉄筋を積んだトラックが突っ込んで来て、衝突しそうになったのです。トラックの運転手は衝突を避けようとして急ブレーキをかけました。ところが積み荷をしっかりと固定していなかったため、鉄筋が槍投げの槍のように飛んで来て、大管長の車に突き刺さりました。窓は粉々になり、フェンダーやドアもへこみました。一步間違えば大惨事になるところでした。でも、体や洋服に掛かったガラスの破片を払ってもらいながら、大管長はこう言いました。『主の祝福に感謝しましょう。別の車で行きましょうか。』」<sup>5</sup>

危機に瀕した瞬間に口から自然に出た言葉は、ヒンクレー大管長の生涯と、イエス・キリストの弟子としての教導の業を表している。ホランド長老が述べたように、ヒンクレー大管長は「常に神に対する信仰と将来に対する確信に満ちてい〔ました〕」。<sup>6</sup>

---

### 家族の受け継ぎ——信仰と根気の礎

1910 年 6 月 23 日に誕生したゴードン・ビトナー・ヒンクレーは彼の母親エイダにとっては最初の子供だったが、6 人の兄と姉から家族の一員として歓迎された。ゴードンの父、ブライアント・ストリングム・ヒンクレーは最初の妻、クリスティーン<sup>クリスティーン</sup>の死後、エイダ・ビトナーと結婚した。エイダとブライアントはゴードンの後にさらに 4 人の子供をもうけ、異母兄弟、異母姉妹の別なく、愛をもって大家族を養った。ゴードンは幼い頃から家族を大切にすることを学んだ。

ゴードンの姓とミドルネームは彼に、自分が先祖から高貴な受け継ぎを受けていることを思い出させてくれた。ヒンクレー家の先祖には、後にアメリカ合衆国となる土地への初期の移住者がいた。先祖の中には、キリスト教を信仰しているために 1600 年代にその土地へ追放された者もいた。他の者は、1620 年にメイフラワー号に乗ってやって来た。メイフラワー号は、ヨーロッパから北米に移住者を輸送する初期の船の一つだった。その後 2 世紀以上を経て、ゴードンの父方の祖父、アイラ・ナタニエル・ヒンクレーが初期の末日聖徒の開拓者の一人となった。1843 年、孤児になって

間もない14歳のアイラは、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの説教を聞いてイリノイ州ノーブーで教会に加わった。ゴードンの曾祖母アナ・バー・ミュッサー・ビトナー・スターも開拓者だった。その息子、ブレネマン・バー・ビトナーはゴードンの母方の祖父で、1849年にソルトレーク盆地へ移動したときのことについて後に次のように述べている。「[11歳だった]わたしは、暑さや寒さの中、2対の雄牛と荷物でぎゅうぎゅう詰めの荷車を引いて、砂漠や川や山を越えてこの盆地にきました。」<sup>7</sup>

ブライアント・ヒンクレーは、子供や孫たちに、彼らの豊かな受け継ぎについてよく話した。メイフラワー号に乗っていた清教徒たちの危険な旅と、目的地に到着したときに直面した、長くて厳しい冬について、彼はこのように述べた。「春にメイフラワー号が戻って来る準備ができる頃には、生存者は[102人中]49人になっていました。[英国に]帰る人は誰もいませんでした。皆さんは生まれながらにしてそのようなスピリットを持っています。後戻りしないというスピリットです。」<sup>8</sup>ゴードンはこの原則に忠実であり続けたので、想像もできなかったようなことを学び、奉仕し、証する機会を得た。

### 子供時代——楽観的で勤勉で忠実であることを学ぶ

ヒンクレー大管長は人生の後半には活力にあふれた頑健な人として知られるようになったが、幼児期からそうだったわけではない。病気がちな「きゃしゃで体の弱い子供」だった。<sup>9</sup> 2歳のときに「重い百日咳にかかり、……医師はエイダに、唯一の治療薬は、田舎の澄んだ空気だと告げました。ブライアントはこれに応えて、2ヘクタールの農場を購入し、小さな夏の別荘を建てました。」<sup>10</sup> イースト・ミルクリークというソルトレーク盆地の地域にあるこの農場は一家に祝福をもたらした。子供たちが散策し、遊び、一緒に働きながら価値ある教訓を学ぶ場となった。

エイダ・ヒンクレーとブライアント・ヒンクレーは、子供たちに成長と成功の機会を与える、楽観的で勤勉な両親だった。1915年に家庭の夕べのプログラムが導入されるとすぐに、家庭の夕べを行った。寝る前には、しばしば聖典の物語を読み聞かせた。家庭に図書室を設けて、子供たちが良書を読めるようにした。子供を励まし、最善を尽くすよう期待することにより、子供に規律を促した。

成長するにつれ、ゴードンは両親の信仰の影響を受け続けながら信仰を増していった。ある日、ゴードンはある経験をした。その経験は、預言者ジョセフ・スミスについての証の礎を形作る助けとなった。

「わたしが12歳のとき、父がステーキの神権会に連れて行ってくれた。わたしは後列に座り、ステーキ会長であった父は壇上に座った。そのような集会に出席するのは初めてであったが、集会が始まる時会場に集まった数百人の人々は一斉に起立した。人生経験も違い、職業も異なる人々であったが、誰もが心に同じ確信を持ち、その確信を胸に声を合わせてこう歌った。

たたえよ、主の召したまいし  
主と語りし預言者を  
末の時を始めたる  
業を世、<sup>あが</sup>皆崇めよ

信仰を持って歌う人々の声を聞くわたしの心に何かが起こった。少年の心に、<sup>きよ</sup>聖き御<sup>みたま</sup>霊によって、ジョセフ・スミスが本当に全能者の預言者であるという知識が植えられたのである。」<sup>11</sup>

---

### 積年の教育と試練

ゴードンは幼い頃、学校が好きではなかった。教室の壁や机よりも戸外を好んだ。しかし、大きくなるにつれ、少年のときにはだして駆け回った野原と同じくらい、本や学校、家庭の図書室の良さが分かるようになっていった。1928年に高校を卒業すると、同年にユタ大学で学び始めた。

大学在学中の4年間に圧倒されるような数々の試練に見舞われた。1929年に合衆国の株式市場が暴落し、国の内外に大恐慌が広がった。ソルトレーク・シティの失業率は約35パーセントだったが、幸いゴードンには整備員の仕事があり、学費と学用品を賄うことができた。教会のデゼレト・ジムの館長を務めていたブライアントは、自分の給与を減額して、他の職員が職を失わずに済むようにした。<sup>12</sup>

このような経済的な苦難に追い打ちを掛ける出来事が起こった。ゴードンの母に<sup>がん</sup>癌が見つかったのだ。1930年、母はゴードンが20歳のときに、享年50歳で他界した。母の死により心に負った傷は「深く、苦痛を伴った」とゴードンは語っている。<sup>13</sup>この個人的な試練は、この世の哲学の影響と当時の皮肉な考え方と相まって、ゴードンが難しい疑問を抱ききっかけとなった。「ひどい落胆の時代でした」とゴードンは振り返っている。「そして、特に大学内がそのような雰囲気になっていました。わたしも落胆して、さまざまな疑問を抱くようになりました。両親の信仰についても幾分疑問に





青年の頃のゴードン・B・ヒンクレー大管長

思っていたのだと思います。大学生にはよくあることですが、当時の雰囲気は特に深刻でした。」<sup>14</sup>

ゴードンは、自分の心に芽生え始めた疑問に悩んだが、信仰が揺らぐことはなかった。「わたしの心の奥底には、立派な両親や家族、すばらしいビショップ、献身的で忠実な教師たち、そして聖典を読み、深く考えることからもたらされた愛がしっかりと根付いていたのです」と振り返り、ゴードンをはじめとする同年代の人たちが当時直面していた問題についてこのように述べた。「わたしたちの若い頃は何もかも自由に知ることのできる時代ではありませんでしたが、わたしたちの心の中には神に対する愛、偉大な御業みわざに対する愛と言えるものがありました。そのおかげで、わたしたちはどんな疑いや不安をも克服することができました。わたしたちは心から主を愛していましたし、すばらしい立派な人々を大切にしていました。

そのような愛から、わたしたちは大きな力を引き出すことができたのです。」<sup>15</sup>

---

### 伝道と個人の改心

ゴードンは1932年6月にユタ大学を卒業した。専攻科目は英語、副専攻科目は古代言語だった。翌年、ゴードンは重大な選択を迫られた。ゴードンは、ジャーナリストになるためにさらに教育を受けるのを楽しみにしていた。大恐慌のさなかにあっても、僅かな貯金をかき集めて教育資金にするつもりだった。また、結婚も考えていた。ゴードンと、道の向かいに住んでいたマージョリー・ペイという若い女性は、互いへの愛情を深めていた。

そんな中、23歳の誕生日を迎える直前に、ゴードンはビショップであるジョーン・C・ダンカンと話をした。その中でビショップから、伝道に出ることについて考えたことがあるかと尋ねられた。これはゴードンにとって「衝撃的な提案」<sup>16</sup>であった。大恐慌のさなか伝道に召される若い男性は少なかったからである。彼らを支えるための資金が家族にはなかったのだ。

ゴードンはダンカンビショップに、伝道には出たいが、家族がどうすれば伝道資金を工面できるか心配だと言った。ゴードンが預金口座を持っていた銀行が倒産したことが分かったときに、この不安はさらに増した。ゴードンはこう言っている。「それにもかかわらず、父がこう言ったのを覚えています。『おまえの必要を満たせるよう、全力を尽くすよ。』父と兄は、伝道中の資金を工面すると約束してくれました。そんなとき、母が残した僅かばかりの預金が見つかりました。食料やその他の買い物をした際の釣り銭をためたものでした。なけなしのそんなお金まで出してもらって伝道に出られる見通しが立ちました。」ゴードンは母の硬貨を神聖なものみなしていた。「わたしは名誉にかけて、それが無駄にならないように大切に使いました」と語っている。<sup>17</sup>ゴードンはヨーロッパ伝道部で奉仕するよう召された。

息子がまだ悩んでいるのを感じ取ったブライアント・ヒンクレーは、真の力の源を思い起こさせるためにささやかなメッセージを用意した。ゴードンは後にこのように語っている。「〔伝道に出る〕とき父から（英語で）5つの単語を書いたカードを渡されました。……『恐れることはない。ただ信じなさい。』（Be not afraid, only believe）」（マルコ5：36）<sup>18</sup>この言葉に加え、この数週間後に父の筆で綴られた6つの言葉に励まされたゴードン・B・ヒンクレー長老は、忠実に、そして立派に伝道した。

その6つの言葉をもらったのは、ヒンクレー長老がひどい落胆のさなかにあるときだった。その落胆が始まったのは、1933年6月29日にイングランドのプレストンに赴任した日である。アパートに到着すると、自分たちはその晩、町の広場で話をするようになっていたと同僚から告げられた。「別の人を連れて行った方がいいですよ」とヒンクレー長老は答えたが、結局彼も数時間後には、関心のない見物人を前に、台の上で歌ったり話したりしていた。<sup>19</sup>

ヒンクレー長老は、大勢の人たちが回復された福音のメッセージに耳を傾けようとしないうちに気づいた。世界規模の経済的な恐慌により生まれた貧困は、路面電車の中でヒンクレー長老を押しよせる人たちの心を貫いているようだった。ヒンクレー長老は人々に親しみをほとんど感じられなかった。さらに、ヒンクレー長老は肉体的にも病気を患っていた。ヒンクレー長老はこう回想する。「イングランドでは、6月下旬から7月初旬にかけて草が受粉し種になります。わたしが到着したのはちょうどその頃でした。」<sup>20</sup>これがアレルギーの引き金となり、何もかもがさらに悪く思えた。家族が恋しくなり、マージョリーに会いたくなかった。懐かしい母国に帰りたくなかった。伝道は思いどおりに進まなかった。ヒンクレー長老と、一緒に働く宣教師たちは、毎週日曜日に小さな支部で教え、話すことはあったものの、めったに求道者を教える機会に恵まれなかった。

自分の時間と家族のお金を無駄にしていると感じたヒンクレー長老は父親に手紙を書いて、そのみじめな状況について説明した。ブライアント・ヒンクレーは返事を書いて、あることを忠告した。息子はその忠告を生涯守ることになる。「愛するゴードンへ。最近届いた手紙を読みました。わたしにできる忠告はただ一つ。」そこには、以前に書いてくれた5つの単語の重みをさらに増す、6つの言葉があった。「自分を忘れて御業に励みなさい。」(“Forget yourself and go to work.”)<sup>21</sup>この勧告を読んだヒンクレー長老の心に、その日同僚と読んだ聖句がこだました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ8:35)

若きヒンクレー長老は、父からの手紙を手にもひざまずき、自分自身を主にささげると誓った。その効果はすぐに表れた。「世界ががらりと変わりました」とヒンクレー長老は語っている。「霧が晴れて生活に太陽の光が差し込んできました。新たな関心が湧き、この国の美しさが見えるようになりました。人々のすばらしさが分かるようになりました。このすばらしい国になじみ始めました。」<sup>22</sup>



ロンドンのハイドパークで説教する、専任宣教師時代のゴードン・B・ヒンクレー長老

ゴードンは当時を振り返り、母からも助けを受けたと説明した。特に暗く、落胆していたときに、慰めを与えてくれる母の存在を感じた。「そのとき以降、わたしは母の名前に名誉をもたらすような生活を送り、務めを果たすよう努めてきました」と語っている。「母の期待に満たない生活をしていると思うと心が痛み、他の方法では生じ得なかった自己管理能力が育まれました。」<sup>23</sup>

ゴードンは、目的意識と熱意を持った宣教師になった。伝道の最初の8か月間の記録によれば、この間誰にもバプテスマを施すことがなかったが、8,785枚のパンフレットを配り、会員と440時間以上過ごし、191の集会に出席し、220回福音について会話し、一人に確認の儀式を施している。<sup>24</sup>

1934年3月、ヒンクレー長老はプレストンからロンドンに転勤して、イギリス伝道部とヨーロッパ伝道部を管理していた十二使徒定員会会員の

ジョセフ・F・メリル長老の補佐として働いた。<sup>25</sup>ヒンクレー長老は伝道の残りの期間をそこで過ごし、日中は事務所で働き、夜は福音を教えた。改宗者のパプテスマは多くはなかったが、ブライアント・ヒンクレーとエイダ・ヒンクレーの息子の心にともった改心の小さな灯は、炎となって燃え続けた。

---

### 主に仕える新たな機会

ゴードンは伝道から戻ると、こう言った。「もう二度と旅はしたくない。もう一生分の旅をしたからね。」<sup>26</sup>ゴードンと二人の同僚の宣教師は、当時の慣習どおり、帰宅途中にヨーロッパや合衆国を巡り、ゴードンは疲れ果てていた。帰還して間もなく家族は旅行に出かけたが、ゴードンは家に残った。疲れ切っていたものの、旅を振り返りながら幾分かの満足感を味わっていた。自分の祝福師の祝福の一部が成就するのを目の当たりにしたと感じていたのである。何年も後に、このように語っている。

「子供のときに祝福師の祝福を受けました。その中で、地上の国々で真理の証あかしの声を挙げるだろう、と言われました。ロンドンで長期間働き、そこで何度も証をしました。わたしたちは〔アムステルダムへ行き〕、わたしはある集会で少しの間話し、証を述べる機会がありました。その後、ベルリンへ行くと、同じような機会がありました。次に行ったパリでも同じような機会がありました。それから合衆国のワシントン D.C.に行き、そこでも日曜日に同じような機会がありました。帰宅したときには、疲れ切っていました。……わたしは言いました。『……祝福文の〔あの〕部分は終えた。世界の大都市で声を挙げてきたんだ。……』本当にそう感じていたのです。』<sup>27</sup>

伝道が終わったと思えるようになる前に、もう一つ果たさなければならぬ割り当てがあった。ジョセフ・F・メリル長老から、イギリス伝道部およびヨーロッパ伝道部における必要について大管長会に報告するよう割り当てられていたのである。帰還後1か月足らずの1935年8月20日の朝、ゴードンは教会本部ビルの会議室に通された。大管長会のヒーバー・J・グラント大管長、J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長、デビッド・O・マッケイ管長と会い、一人一人と握手をするやいなや、ゴードンは自分に与えられていた仕事に圧倒された。グラント大管長はこう言った。「ヒンクレー兄弟、メリル長老が我々に伝えたい内容を15分で話してください。」<sup>28</sup>

それから15分間、帰還したばかりのこの宣教師は、メリル長老の懸念事項を伝えた。宣教師は、伝道活動に役立つより良い印刷物を必要としてい



教会のラジオ・広告および伝道文献委員会の幹部書記として働くゴードン・B・ヒンクレー

ると述べた。グラント大管長と顧問の二人はこれに対して矢継ぎ早に質問し、面談は予定よりも1時間長引いた。

面談からの帰り道、ゴードンはこの75分間が自分の人生にどのような影響を与えるかなど知る由も<sup>よし</sup>なかった。2日後、ゴードンはマッケイ大管長から電話を受けた。マッケイ大管長から、新たに設立された教会のラジオ・広告および伝道文献委員会の幹部書記の仕事の申し出を受けたのだ。6人の十二使徒で構成されるこの委員会は、ゴードンが大管長会との会談で趣旨を伝えた必要に対処するために取り組むということであった。<sup>29</sup>

ゴードンはこのたびも、大学院に行きジャーナリストになるという計画を延期した。仕事場に行き、ラジオ番組と映写スライドの台本を作り、宣教師用の小冊子を書き、メディア界で新しい時代を切り開く人々と仕事上の関係を築き、教会歴史の研究と執筆に携わった。そして、教会員の信仰を築き、教会外の人々と関係を築く助けとなるメッセージを練り上げることに貢献した。あるとき友人が、ラジオの台本についてゴードンを賞賛する手紙を送り、どのようにして書く才能と語る才能を育んだのか尋ねた。ゴードンはこのように答えている。

「もしもわたしに語る才能と書く才能が少しでもあるとしたら、天の御父に心底感謝するよ。生来備わっていた能力はほんの僅かだったと思う。もし能力が少しでもあるとすれば、自分に与えられた機会を通して伸ばされたのだらう。」<sup>30</sup>

委員会での働きを通して、ゴードンの書き手としての技能は磨かれた。また、使徒と預言者から学ぶ貴重な機会にもなった。ゴードンは、6人の十二使徒がさまざまな決定について慎重に検討し、互いに教え合う姿を見て、この多様な男性たちに与えられている神聖な召しと、ともに評議する中で啓示が与えられる過程に対する理解を深めた。

後に大管長会の第一顧問として奉仕したスティーブン・R・リチャーズ長老は、同委員会の委員長だった。ゴードンはリチャーズ長老についてこう述べている。「思慮深く、慎重で、用心深く、賢明な人物で、決して焦って実行に移さず、行動する前に慎重に観察していました。わたしは、この業において慎重に事を進めることが最善であることを学びました。なぜなら、どのような決断をしようと、その決断は広範に影響を与え、多くの人々の生活を左右するからです。」<sup>31</sup>

その他の5人の委員は、メルビン・J・バラード長老、ジョン・A・ウィットソー長老、チャールズ・A・カリス長老、アロンゾ・A・ヒンクレー長老（ゴードンの叔父）、アルバート・E・ボーエン長老だった。彼らについてゴードンはこのように語っている。

「このすばらしい兄弟たちと、とても親しくなりました。みんなわたしにとっても親切にしてくれました。しかし、彼らが人間だということも分かりました。弱さと問題を抱えていました。しかし、そのことは気になりませんでした。実際、そのことにより彼らに対する尊敬は増しました。なぜなら、彼らは人としての人格に勝る神性の一部を備えていたからです。少なくとも、偉大な大義に対する奉獻を最優先事項としているのを目の当たりにしました。彼らが生活の中で靈感を受けるのを目にしました。彼らが預言者として召されていること、また主が彼らを通して語り、行動されることに何の疑いも持ちませんでした。彼ら全員に、人間的な側面や弱点が幾つかあるのを見ました。しかし、きわめて強い信仰と主に対する愛、そしてこの業と自分に寄せられている信頼に対する絶対的な忠誠心も目にしました。」<sup>32</sup>

## 結婚、家族、教会における奉仕

もちろん、ゴードンは仕事のことばかり考えていたわけではない。マージョリー・ペイとの付き合いは、イングランドから帰国した後も続いていた。ゴードンが去ることは、ゴードンだけでなくマージョリーにとってもつらいことだった。マージョリーは後にこう語っている。「彼が伝道に出ることは楽しみでしたが、電車が駅を出発したときに感じたむなしさと寂しさは一生忘れないでしょう。」<sup>33</sup>

ゴードンがイングランドを去る4年前の1929年の秋、マージョリーはユタ大学のクラスに登録したが、大恐慌のために父親が失業した。マージョリーはすぐにクラスの受講を取りやめ、両親と5人の弟、妹を助けるために秘書の仕事を見つけた。1935年にゴードンが帰ってきてからもその仕事を続けていた。その後彼女が再び正式な教育を受ける機会はなかったが、学び続けることを決意し、読書により独学で学んだ。

マージョリーの朗らかな気質、労働意欲、福音への深い献身はゴードンを引き付け、マージョリーはゴードンの善良さと信仰に感銘を受けた。マージョリーはこのように述べている。「結婚が近づくとつれ、ゴードンから愛されていることをすっかり確信していました。でも、彼の最も大切な存在には決してならないだろうということも何となく分かっていました。彼にとっては主が最も大切で、わたしは2番目に大切な存在になることを悟っていたのです。それで構いませんでした。」さらにこう述べている。「もしも女性が、福音と、自分が地上にいる目的について理解すれば、夫に対して主を最優先することを望むだろうと思いました。彼がそのような男性だと分かって安心しました。」<sup>34</sup>

1937年4月29日、ゴードンとマージョリーはソルトレーク神殿で結婚し、イースト・ミルクリークにあるヒンクレー家の別荘に引っ越した。二人はかまどを作り、一年を通して生活するのに必要な改修作業を行い、果樹園や庭の手入れをしながら、近所に所有していた土地に自宅を建て始めた。このようにして、ゴードンが幼少時代に夏を過ごしたお気に入りの田舎で、マージョリーと二人で家を作り、キャスリーン、リチャード、バージニア、クラーク、ジェーンという5人の子供たちを育てた。

ゴードンとマージョリーは、愛と互いへの敬意、勤勉の原則と福音に従って生活した。日々の家族の祈りという窓を通して、子供たちは両親の信仰と愛を見ることができた。家族が一緒に祈るときに、子供たちは天の御父の存在も近くに感じた。





マージョリー・ペイ

ヒンクレー家では、規則はほとんどなく、子供たちはただ両親から多くを期待された。マージョリーは、言い争う価値のないさまざまなことについて話した。夫と共通の子育ての方法について、マージョリーはこのように述べた。「子供を信頼する必要があることを学んだので、子供に『いいわよ』と言えるときには、『だめ』とは決して言わないようにしました。子育ての時期は、とにかく毎日を何とか乗り切ること、そしてささやかなことを楽しむことを大切にしました。どっちみち子供たちのことについてわたしが全て決めることはできないと分かったので、いちいち細かいことは気にしないようにしました。」<sup>35</sup>両親から信頼されて育った子供たちは、尊重されていると感じ、経験と自信を得た。両親から「だめ」という答えを受けるとき、子供たちは根拠なく制限されているわけではないことを理解していた。

また、ヒンクレー家は笑いに満ちていた。マージョリーはあるときこう言った。「人生を切り抜ける唯一の方法は、自分のことを笑いながら歩むこ

とです。笑うか泣くかのどちらかだとしたら、わたしは笑う方が好きです。泣くと頭が痛くなりますから。」<sup>36</sup>自分自身を笑い、日々の生活にユーモアを見いだすことのできる両親のおかげで、子供たちは家庭を喜びにあふれる避け所と感じていた。

教会での奉仕は、常にゴードンとマージョリーの生活の一部だった。ゴードンはステーキ日曜学校管理会会長として奉仕し、その後日曜学校中央管理会に召され、9年間奉仕した。ゴードンは後にステーキ会長会の顧問、ステーキ会長として奉仕し、マージョリーは初等協会、若い女性、扶助協会で奉仕した。子供たちは教会の奉仕が楽しい特権であるのを目にして、それぞれが大人になったときにこの模範に従った。

---

### 職業上の努力を通して備える

マージョリーとゴードンが結婚してから6年間、ゴードンは教会のラジオ・広告および伝道文献委員会で働き続けた。献身的に働き、プロジェクトと締め切りのために、ゴードンはしばしば能力と経験の限り、あるいはそれ以上を尽くして取り組んだ。友人に宛てた手紙の中でゴードンはこのように述べている。

「やることがたくさんある。この長い名前の委員会は、より大規模で、より複雑で、さらに興味深いものになりつつある。……

ラジオ、映像、さまざまな文献のおかげで、祈り、<sup>けんそん</sup>謙遜になり、忙しく、何時間も働いているよ。……おかげでわたしはもう少し眼鏡<sup>めがね</sup>に頼るようになり、背中はもう少し丸くなり、もう少し落ち着き、何のためにこれら全てを行っているのか、さらに好奇心で満たされるようになった。」<sup>37</sup>

1940年代初頭、第二次世界大戦をきっかけにゴードンの仕事に変化がもたらされた。大戦により専任宣教師の伝道活動が事実上休止したため、伝道用の資料を提供するというゴードンの職務の緊急性は低くなった。戦争で役に立たなければならないという責任を感じたゴードンは、アメリカ海軍の幹部候補生学校に志願した。ところが、アレルギーの病歴のために不適格とされた。「断られたことになりました」とゴードンは後に語っている。「戦争中で、誰もがさまざまな形で役に立っていました。自分も何らかの形で参加しなければならないと感じていました。」<sup>38</sup>このように望んだゴードンは、デンバー・アンド・リオ・グランデ鉄道の管理者補佐の職に応募した。鉄道は、軍隊と軍用品の移動に欠かせなかったため、この仕事なら母国の役に立つだろうと思ったのだ。1943年、鉄道会社に雇われた



ゴードン・B・ヒンクレー，1951年

ゴードンは、1944年にコロラド州デンバーに家族とともに移り住むまで、ソルトレーク・シティーの駅で働いた。

鉄道会社の管理者たちはゴードンの働きに感心し、1945年に大戦が終わると、将来性に満ちた正社員としての地位を提示してきた。同じ頃、スティーブン・L・リチャーズがゴードンに電話をかけ、教会の正規職員に復帰するよう求めた。鉄道会社から教会よりも大幅に高い給料を提示されていたにもかかわらず、ゴードンは自分の心に従ってソルトレーク・シティーに戻った。<sup>39</sup>

教会本部でのゴードンの仕事は、程なく当初より責任が増した。1951年、教会中央宣教師委員会の幹部書記に指名され、新設された宣教師管理部の日々の運営を監督する責任を与えられた。この部署は、福音を広めることに関わる全てのことを監督した。宣教師が使う資料、宣教師および伝道部

会長の訓練、教会と社会の橋渡しの役目を果たし教会についての俗説を払拭するために用いる広報メディアの製作、翻訳、配送に携わった。<sup>40</sup>

1953年秋、デビッド・O・マッケイ大管長はゴードンを事務所に招き、宣教師管理部での職務とは直接関連のないある質問について考えるよう求めた。マッケイ大管長はこう述べた。「ヒンクレー兄弟、御存じのように、スイスで神殿が建設中です。この神殿は、さまざまな言語を話す会員を対象とするという点で他の神殿とは異なります。神殿ワーカーの人数を極力抑えつつ、ヨーロッパのさまざまな言語で神殿での教えを提供する方法を見つけてほしいのです。」<sup>41</sup>

マッケイ大管長は、ゴードンが宣教師管理部から求められる仕事から逃れ、靈感を求められるようにするための場所を提供した。ゴードンは週日の晩、土曜日、そして時には日曜日にも、ソルトレーク神殿の5階の小さな部屋で働いた。日曜日の朝には、しばしばマッケイ大管長とともに、意見を交わし、エンダウメントのプレゼンテーションを入念に調べ、導きを求めて祈った。

深く考え、祈り、啓示を求めた後、ゴードンはエンダウメントのプレゼンテーションを映像にして、神聖な教えを多言語に吹き替えるよう提案した。マッケイ大管長をはじめとする人々はこの提案を承認し、映像の製作をゴードンに割り当てた。ゴードンは有能で忠実な専門家とともに取り組み、1955年9月にこのプロジェクトを完成させた。ゴードンはその後、映像をスイス・ベルン神殿に自ら運び、最初のエンダウメントセッションの技術的な準備を監督した。<sup>42</sup>

ゴードンは自分の働きがヨーロッパの聖徒に喜びをもたらしているのを見て心を動かされた。「10か国から集った人々が神殿の儀式に携わるのを目にして、このような貴い祝福をヨーロッパの国々から集まった信仰深い男女にもたらすよう〔マッケイ大管長が〕主から靈感と導きを受けたということ、これまでも増して確信しました。鉄のカーテンの向こう側からやって来た年老いた人々を目にしました。戦争で家族が散り散りになり、家族を失いながらも、この機会が与えられたおかげで心からの喜びの涙を流す人々の姿も見ました。また、利口でかわいらしい子供たちとともにやって来て、永遠に結び固められる若い夫婦も見ました。」<sup>43</sup>

ゴードンが伝道から帰還してから20年がたっていたが、さらに高い学位を取ってジャーナリストになるという夢はまだ果たされていなかった。その代わりに、新しい技術を用いて神の言葉を広めることを学び、他の宗教の人々と良い関係を育み、教会歴史を研究して書物を著し、何千、何万も

の末日聖徒が神殿の祝福を受ける備えをする助けをした。これらの経験は、残りの人生で行う奉仕の基礎となった。

### 十二使徒会補助としての奉仕

1958年4月5日土曜日、ゴードンとマージョリーの息子リチャードが電話を取った。電話の主は名乗らなかったが、リチャードはデビッド・O・マッケイ大管長の声だと気づき、急いで父に知らせに行った。ゴードンは短くマッケイ大管長と話すと、急いでシャワーを浴び、着替え、車で大管長の執務室に向かった。以前マッケイ大管長から割り当てを受けたことがあったため、翌日の総大会の部会の準備に関連して何かを手伝うよう頼まれるものと思っていた。ところが、マッケイ大管長には別の考えがあったことを知って非常に驚いた。マッケイ大管長は親しく挨拶を交わすと、ゴードンに十二使徒会補助として奉仕するよう求めたのだ。この職は1976年に廃止されたが、この職で奉仕する指導者は中央幹部だった。マッケイ大管長からこの召しを受けたとき、ゴードンはイースト・ミルククリークステーキの会長として奉仕していた。

翌日、ゴードン・B・ヒンクレー長老は総大会で支持された。初めて総大会で話すときには「自分の力不足を痛感していた」ものの、持ち前の信仰と活力を発揮して新たな責任を引き受けた。<sup>44</sup>

十二使徒会補助であるヒンクレー長老に与えられた主要な務めの一つは、アジア全体の教会の働きを監督することであった。ヒンクレー長老はアジアの人々についてほとんど知らず、アジアの言語は一つも話せなかったが、すぐに彼らを愛するようになり、彼らもヒンクレー長老を愛した。日本人の末日聖徒、田中健治兄弟はヒンクレー長老の日本での最初の集会についてこのように語る。「ヒンクレー長老のやる気は、輝く目に表れていました。わたしたちに掛けた最初の言葉は『すばらしい!』（日本語で）でした。その集会の堅苦しい空気が親しみのあるものになり、人々はヒンクレー長老を身近に感じ、温かい雰囲気皆を覆いました。」<sup>45</sup>

ヒンクレー長老はアジアの訪問先全てで同じ雰囲気を人々にもたらした。ヒンクレー長老は、主を信じる信仰があれば大きなことを成し遂げ、母国の教会の発展を助けることができることを人々が理解できるように助けた。また、専任宣教師の勤勉な働きが伝道地の人々に直接影響を与えると考えていたヒンクレー大管長は、専任宣教師たちと親しく交わった。

## キリストの御名の特別な証人

1961年9月30日土曜日、人生を変えるもう一本の電話がかかってきた。今回はマージョリーが電話を取り、聞き慣れたマッケイ大管長の声を耳にした。ゴードン・B・ヒンクレーは再び大管長の執務室に急いだ。そこに呼ばれた理由を知って、再び驚き、圧倒されそうになった。ヒンクレー長老が到着すると、マッケイ大管長はこうに言った。「十二使徒定員会の空席を埋めるためにあなたを指名するべきだと感じました。わたしたちはあなたを今日の総大会で支持したいと思います。」<sup>46</sup>ヒンクレー長老はこのたびも力不足を感じながらも信仰とやる気を胸に前進した。

使徒になったヒンクレー長老は、新たな責任を幾つか受けた。政府高官をはじめとする要人と度々会合を持った。また、合衆国内の批判や文化的な誤解や混乱に対処するために教会を代表して公式の場で語るよう頻繁に求められた。教会の放送力を高め、テクノロジーを使って福音を全世界に広める取り組みの最前線にいた。幅広い役割を担うようになってからも、個人と家族の信仰を強めるという責任を見失うことは決してなかった。一人に向けて語るときでも、1万人に語るときでも、ヒンクレー大管長は一人一人に語り掛けた。人々を一人ずつキリストのもとに連れて行くというこの姿勢は、ヒンクレー長老の教導の業の特徴となった。

ヒンクレー長老はその後7年にわたりアジアにおける取り組みを監督し、アジア地域の友人の成長を見て喜んだ。このように語っている。「主が地球のこの……地域で壮大なデザインのタペストリーを織られるのを目の当たりにして、心が鼓舞されました。」<sup>47</sup>

十二使徒定員会における割り当ての変更に伴い、ヒンクレー長老は世界の他の地域で奉仕する機会を得た。そして、行く先々で個人に関心を向けた。1970年、南アメリカにおける教会の取り組みを監督していたときに、ペルーでステーキ大会を管理した後にチリに移動した。チリに到着して2日後、破壊的な地震がペルーを襲い、4人の宣教師が行方不明になっていることを知った。家に帰るのが遅くなることを承知で、ヒンクレー長老はすぐさまペルーに戻る計画を立てた。「行方不明になっている宣教師がいるのに、良心の呵責を感じずに家に帰ることはできません」と言った。<sup>48</sup>

翌朝、ペルー、リマに到着した。行方不明だった宣教師は、アマチュア無線を操作できる人を見つけ、リマに電話をかけることができ、ヒンクレー長老と話をした。宣教師がいた小さな部屋には、他の生存者も大勢おり、その会話はスピーカーを通して放送された。「無線機で話そうとして騒ぎ立



大管長会の中でただ一人健康であり、総大会に出席できたゴードン・B・ヒンクレー管長

てる人々でごった返す部屋にヒンクレー長老の声がスピーカーを通して流れると、たちどころに部屋中が静まり返りました。ヒンクレー長老は英語で話し、彼らは皆スペイン語を話していたにもかかわらず、人々は『あの男性は誰だ』とささやき声で尋ね合いました。混乱のさなかにも、その声の主がただ者ではないと感じたのです。』<sup>49</sup>

南アメリカで教会を監督した最初の2年間で、ヒンクレー長老は全ての伝道部を巡り、コロンビアとエクアドルに新たな伝道部を設立し、ペルーのリマとブラジルのサンパウロで新しいステークを作り、アルゼンチンで奉仕するように召された宣教師のビザの問題を解決するのを助けた。さらに取り組みを進めようとしていた1971年5月、ヨーロッパの8つの伝道部を監督する割り当てを受けた。<sup>50</sup>

ヒンクレー長老は厳しいスケジュールに疲れを感じる事がしばしばあった。家に帰ってマージョリーや子供たちと時間を過ごせることは、常に喜びだった。しかしマージョリーには、働かない状態が長く続くとヒンクレー長老がそわそわし始めるのが分かった。「全世界におけるキリストの名の特別な証人となる」という使徒としての召しが、彼の脳裏から離れることはなかったのだ（教義と聖約 107：23）。

## 大管長会顧問としての重責

十二使徒定員会で奉仕して20年がたった1981年7月15日、ヒンクレー長老はまたしても驚くべき召しを受けた。当時の大管長であるスペンサー・W・キンボール大管長から、N・エルドン・タナー管長、マリオン・G・ロムニー管長とともに大管長会の顧問として奉仕するよう求められたのだ。二人が顧問を務めるという従来のパターンとは異なるものの、この例外は前例がないわけではなかった。キンボール大管長と顧問の二人は健康状態がすぐれなかったために、大管長会はさらなる支援を必要としていた。<sup>51</sup>

新たな職に召されて最初の総大会でヒンクレー大管長はこのように話した。「わたしのただ一つの願いは、いかなる職に召されても忠実に働くことです。……この神聖な召しを受けることによって、わたしは自分の持つ弱点に気づきました。もしこれまで皆さんを傷つけるようなことがあったとしたら、この場で心からおわびします。どうか赦してください。この召しを果たす期間が長かろうと短かろうと、わたしは愛と信仰を持って全力を尽くす覚悟です。」<sup>52</sup>

キンボール大管長、タナー管長、ロムニー管長の健康状態が悪化するにつれ、ヒンクレー管長の最善の努力が必要となった。大管長会の日々の職務のほとんどはヒンクレー管長が担った。また、ユタ州ジョーダンリバー神殿の奉献をはじめとする多くの大きな取り組みについても責任を負った。さらに、過去から現在に至る教会や指導者に対する世の批判にも直面した。1982年4月の総大会では次のように勧告した。

「今の社会は批判の社会です。……わたしは皆さんに、ビジョンを大きく持ち、小さな欠点を心を煩わせないようにお勧めします。……それらは、[教会指導者たちの]偉大な働きや貢献に比べればほんの枝葉末節のことなのです。」<sup>53</sup>

1982年11月27日にタナー管長が亡くなり、キンボール大管長とロムニー管長の健康状態が悪化したため、1983年4月の総大会では、既に大管長会第二顧問に召されていたヒンクレー管長が壇上の二つの空席の隣に腰掛けた。ヒンクレー管長は独りで、以前「指導者の孤独」と自ら呼んだ気持ちを感じていた。<sup>54</sup>

ヒンクレー管長は預言者よりも前に出ることのないよう、慎重に、祈りながら前進した。教会の日々の諸事を行ううえで、十二使徒の先任使徒たち、特に定員会会長のエズラ・タフト・ベンソン長老に支援を求めた。常にキ





エズラ・タフト・ベンソン大管長（中央）と顧問のゴードン・B・ヒンクレー管長（左）、トーマス・S・モンソン管長（右）。総大会にて

ンポール大管長の勧告に従いながら十二使徒と協力して働いた。にもかかわらず、ヒンクレー管長は非常な重責を感じていた。

大管長会における責任を果たすためにヒンクレー管長はほとんどの時間をソルトレーク・シティーで過ごしたが、時折世界各地を訪れて会員や宣教師を教え導いた。1984年にはフィリピンを再び訪れた。自身の手でフィリピン初の礼拝堂を奉献してから18年後に、最初の神殿を奉献した。ヒンクレー管長は奉献の祈りの中でこのように述べた。

「フィリピンは、多くの島からなる国です。その国民は自由と真理を愛し、主の僕しもべの証あかしに対する感受性が鋭く、永遠の福音のメッセージにすぐさま応じます。この民の信仰に感謝します。この民の犠牲の精神に感謝します。この国におけるあなたの業の発展の奇跡に感謝します。」<sup>55</sup>

1984年6月、教会の継続的な発展が明らかになった。大管長会の代表としてヒンクレー管長は地域会長会を召すことを発表したのだ。地域会長会とは、世界各地に住みながら割り当てられた特定の地域の教会の業を監督する七十人を指す。大管長会と十二使徒定員会の指示の下、この幹部らはその地域で必要とされている指導と訓練を施す。ヒンクレー管長はこのように述べた。「あらゆる決定をソルトレーク・シティーで下すことはできません。権能を委任するために何か手を打たなければなりません。」<sup>56</sup>約1年後、ヒンクレー管長は世界中の教会指導者に向けてこのように語った。「この数か月の間に、わたしたちは靈感を受けて大きな一步を踏み出したと確

信しています。この善良な男性たちが皆さんのところに度々訪れることにより皆さんを元気づけてくれると確信しています。これらの幹部は実際、教会全体を一つに結んでくれているのです。」<sup>57</sup>

スペンサー・W・キンボール大管長は、特筆すべき成長を遂げた12年間にわたって教会を導いた末、1985年11月5日に死去した。前任使徒のエズラ・タフト・ベンソン会長が大管長に任命された。ベンソン大管長は、ゴードン・B・ヒンクレー管長に大管長会第一顧問として、トーマス・S・モンソンに第二顧問として奉仕するよう求めた。大管長会の3人がそろって健康であったため、ヒンクレー管長は重荷が軽くなったと感じた。また、世界中の聖徒たちを訪れる機会が増えた。

数年のうちにベンソン大管長の健康状態が悪化し、教会運営の日々の責任がまたしてもヒンクレー管長にのしかかった。しかし、このたびは大管長会でたった一人ではなかった。ヒンクレー管長とモンソン管長は、常にベンソン大管長の預言者、聖見者、啓示者としての召しを尊重しつつ、教会が確実に前進できるよう精力的に働いた。二人の間には、固く揺るぎない友情と協力関係が育まれた。

1994年5月30日にベンソン大管長が亡くなると、ハワード・W・ハンター会長が大管長になった。ヒンクレー管長とモンソン管長は再び顧問として奉仕した。6月、ヒンクレー管長とヒンクレー姉妹はハンター大管長と妻のイニス、M・ラッセル・バラード長老と妻のバーバラとともにイリノイ州ノーブーを訪れ、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの殉教150周年の記念行事の模様を見守った。ハンター大管長とヒンクレー管長がともに移動したのはこの一度限りとなる。ハンター大管長は何年にもわたって健康上の問題に苦しんでいたが、この旅の後、健康状態は急速に悪化した。1995年2月27日、ハンター大管長はヒンクレー管長に神権の祝福を依頼した。その祝福の中で、ヒンクレー管長はハンター大管長の命が守られるように懇願したが、ハンター大管長が主の御手の中にあるとも告げた。<sup>58</sup>数日後の1995年3月3日、ハンター大管長は死去した。

---

### 預言者、聖見者、啓示者、大管長

ハンター大管長の死は、予期してはいたものの、ヒンクレー一家に重くのしかかった。前任使徒であるヒンクレー管長は、次期大管長となることになっていった。ヒンクレー姉妹はハンター大管長の死の知らせを受けたときのことについてこのように振り返っている。「ハンター大管長が亡くなり、残されたわたしたちが受け継がなければならなくなりました。とても悲しく、孤独でした。ゴー



総大会の壇上でのゴードン・B・ヒンクレー大管長

ドンも同じように感じていました。ゴードンは<sup>ぼうぜん</sup>は呆然としていました。そして、深い孤独を感じていました。ゴードンの気持ちを理解できる人がもう誰もいなくなってしまったのです。」<sup>59</sup>

ハンター大管長の葬儀の後、ヒンクレー管長は神殿で慰めを得た。ソルトレーク神殿の大管長会と十二使徒定員会の集会室でたった一人、聖典を研究し、読んだことについて<sup>めいそう</sup>瞑想した。イエス・キリストの生涯と教導の

業、贖罪しよくざいに思いをはせた。それから、壁の肖像画をつぶさに見た。それは、ジョセフ・スミスからハワード・W・ハンターに至るまでの全ての大管長の肖像画だった。ヒンクレー管長はこのときの経験について日記にこう記している。

「わたしは肖像画の前を行きつ戻りつしながら、描かれている兄弟たちの目を見た。今にも彼らと話ができるような気がした。今にも彼らがわたしに語り掛けて励ましてくれるように感じた。……わたしは大管長会第一顧問として座っていた椅子に腰掛け、長い時間、これらの肖像画を見ていた。全員、今にも動き出しそうだった。その目はわたしを見ているようだった。わたしを励まし、必ず助けると約束してくれているように感じた。天で開かれた会議でわたしに代わって語ったので、恐れる必要はない。わたしは教え導くときに祝福と支持を受ける、と語り掛けられたようだった。

わたしはひざまずいて主に懇願した。長い時間、祈りながら主と語り合った。……御霊みたまの力により確かに主の言葉を聞いた。声は聞こえなかったが、祈りの中で尋ねた質問について心に温かい気持ちを感じた。』<sup>60</sup>

この経験の後、ヒンクレー管長は再び自分の思いを記した。「少し気が晴れた。主が主の大義と王国に関する御心みこころを行っておられること、また主が望まれる間、わたしは大管長として、また預言者、聖見者、啓示者として支持されるという確信を心に得た。御霊の確認を心に感じたわたしは、前進し、自分の知り得る限りの方法で最善の働きを行う備えができた。主がわたしにこの至高の、最も神聖な責任を与えておられるということを信じることは容易ではない。……主から期待されていることを行えるよう、これまで主の訓練を受けてきたことを願うばかりだ。わたしは主に完全に忠誠を尽くし、必ず主の導きを求めよう。』<sup>61</sup>

1995年3月12日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は大管長に聖任され、翌日の記者会見で語り、記者の質問に答えた。「終始明るく穏やかで、しばしば機知に富んだ態度で返答がなされました。会見の終わり近く、ある記者がヒンクレー大管長に次のように尋ねました。『今後どのような事柄に焦点を当てていかれるのでしょうか。教会管理上の目標をお聞かせください。』

ヒンクレー大管長は即座にこう答えました。『「続け、励め、進め」です。わたしたち大管長会の目指すところは、前任者たちが築いてきた偉大な御業を推し進めることです。』<sup>62</sup>

ヒンクレー大管長はその約束を守った。前任の預言者たちを尊重しながら、彼らが行った業を引き継いだ。また、父なる神とイエス・キリストを

信じる信仰を持って、その業を新たな方法で行うようにという啓示に従った。

「暗黒から……教会をもたらす」手助けをする（教義と聖約 1:30）

ヒンクレー大管長が教導の業を始める直前に、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老はこのように語った。「ヒンクレー大管長は暗黒から教会をもたらす助けをしています。わたしたちが升の下に隠れていては、教会は必要な前進を遂げることができません。誰かが進み出なければなりません。ヒンクレー大管長は率先して進み出る人です。ヒンクレー大管長は歴史だけでなく現代にも精通しており、その驚くべき表現の賜物であらゆる地の人々に訴え掛けるメッセージを伝えることができます。」<sup>63</sup>

メディアと放送の分野における幅広い経験を通して、ヒンクレー大管長はこの業のために備えられてきた。大管長としてしばしば世界各地の報道記者のインタビューに応じ、教会の教義と方針に関する質問に答え、救い主と回復された福音に対する証を述べた。インタビューのたびに人々の理解と友情が深まった。

特筆すべきは、1996年にテレビ番組「シックスティ・ミニッツ（60 Minutes）」で行われた、ベテランレポーター、マイク・ウォレスとのインタビューである。ウォレス氏は厳しいインタビュワーとして知られており、ヒンクレー大管長は、番組が全米に向けて放送されるまで、実はあまり乗り気ではなかったと述べている。「良い結果が出ればうれしく思います。もしそうでなければ、もうこれからは二度とそのようなわなに自分の足を踏み入れるようなことはしません。」<sup>64</sup>

インタビューの結果、教会の多くの肯定的な側面を示す良い機会となった。また、インタビューをきっかけに、マイク・ウォレス氏とヒンクレー大管長は親しくなった。

2002年、ソルトレーク・シティは冬期オリンピックの開催地となり、教会は国際社会の注目を浴びた。ヒンクレー大管長と顧問は計画の一部について相談した。ヒンクレー大管長はこう述べた。「わたしたちは熟慮したうえで、これを布教の機会や場所として利用しないという決断を下しましたが、この大きなイベントから教会にとって素晴らしい成果が生じることを確信していました。」<sup>65</sup>そして、そのとおりになった。何万人もの人がソルトレーク盆地を訪れ、地元の人たちから親切なもてなしを受けた。末日聖徒をはじめとする人々が協力してオリンピックを成功に導いたのだ。訪問者たちは temple・スクウェアを見て回り、タバナクル合唱団に耳を傾



ヒンクレー大管長は「国の内外を問わず、人々を訪ね〔る〕」ことを好んだ。

け、家族歴史図書館を訪れた。何億もの人々がテレビでソルトレーク神殿を見た。また、レポーターが教会について好意的な情報を伝える様子を見た。ヒンクレー大管長が述べたように、それは「教会にとってすばらしい成果」だった。

従来の通信手段に加え、ヒンクレー大管長は新しい技術を用いた。例えば、インターネットは、教会と会員を親しく結びつけ、他の宗教の人々に回復された福音を伝える手段になると考えた。ヒンクレー大管長の在任中、教会は LDS.org, FamilySearch.org, そして Mormon.org を公開した。

2004年6月23日、ヒンクレー大管長は94歳の誕生日に、合衆国市民に贈られる最高位の賞である大統領自由勲章を受賞した。ヒンクレー大管長は、受賞を受けてこのように語った。「合衆国大統領からこの名誉ある賞を頂いたことを大変光栄に思います。深く感謝しています。広い意味でこれは、教会に対する表彰であり称賛です。なぜなら、わたしはこれまでに教会から多くの機会を頂き、教会のために務めてきたからです。」<sup>66</sup>ヒンクレー大管長はこの賞について、教会の良い評判が高まったことの象徴であり、教会が確かに暗闇からもたらされたことの証だと捉えた。

## 各地の末日聖徒を巡る

ヒンクレー大管長にとって旅は苦痛で好きではなかったが、末日聖徒の中で奉仕したいという望みは、家にとどまりたいという望みに勝った。このように述べている。「旅は好きではありませんが、わたしは、この民の中に出て行って、感謝を伝え、人々を励まし、主の業の神聖さについて証したいのです。」<sup>67</sup>教導の業を始めて間もない頃、このように語った。「わたしは自分の力の及ぶ限り、国の内外を問わず、人々を訪ね〔る〕……つもりです。……わたしは自分にできる限り、頑張って前進し続けるつもりです。愛する人々と交わりたいと願っています。」<sup>68</sup>

大管長に在任中、合衆国内を広範に旅し、国外の国々を90回以上訪問した。大管長として総計100万マイル（160万キロ）以上を旅し、世界のあらゆる地の聖徒に会った。<sup>69</sup>

一部の地域では、人々はヒンクレー大管長以上に努力を払って大管長に会いに行った。例えば、1996年にヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹が、教会員数が37万5,000人を上回ったフィリピンを訪れた際、夫妻はマニラのアラネタコロシウムで開かれる夜の集会で話をすることになっていた。その日の午後半ばまでに、コロシウムには「収容人数をはるかに超える数の人々が集まって来ていた。集会が始まる12時間も前の朝7時から行列ができ始めた。後に公式に示された参加人数は3万5,000人で、2万5,000の座席と通路とホールが埋め尽くされた。多くの聖徒が20時間をかけて舟やバスでマニラまでやって来た。数か月分の給料に当たる旅費をかけて来た人もいた。……

ヒンクレー大管長は、コロシウムが満員になり、建物の責任者が集会を何とか早く始められないか検討しているという知らせを受けると、即座に『行きましょう』と言った。ヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹は広大なアリーナに入場した。……合図に合わせたかのように、集まった人々はおのずと立ち上がり、拍手し、感極まって『感謝を神にささげん』を歌い始めた。」<sup>70</sup>

大管長と教会幹部で行きたい場所全てを訪れることはできないことを承知していたヒンクレー大管長は、科学技術を用いて世界中の指導者を教えることを唱道し、衛星技術を用いて世界指導者訓練放送を管理した。第1回目は2003年1月に放送された。

霊的な真理とこの世の真理を学び、教えることの大切さを説く

ヒンクレー大管長は次のように述べた。「知識が十分な人は……誰一人いません。学ぶ過程は終わりのない過程です。わたしたちは読まなければならない、観察しなければならない、吸収しなければならない、心に向けるものについて深く考えなければなりません。」<sup>71</sup>また、こうも言っています。「教会における指導の真髄は、効果的に教えることです。永遠の命は、男女が効果的に教えるを受けることで自らの生活を変え、訓練することによってのみ得られます。強制により彼らに義を行わせたり、天国に行かせたりするのは不可能です。皆が導きを得なくてはなりません。つまり教育が必要なのです。」<sup>72</sup>

ヒンクレー大管長は世界中の末日聖徒にさらに霊的な養いを与えたいと望んでいた。1995年、ヒンクレー大管長は教会員に福音図書を提供するために新たなシリーズの本を出版する計画を、熱意を込めて承認した。間もなくして教会は『歴代大管長の教え』というシリーズの出版を始めた。本書もその一部である。

この世の教育もヒンクレー大管長にとって重要だった。ヒンクレー大管長は、貧困にあえぐ地域の教会員が金銭的な余裕がないために高等教育や職業訓練を受けられないことを懸念していた。そのような教育や訓練を受けなければ、ほとんどの人は貧困から脱することはできない。2001年4月の神権部会で、ヒンクレー大管長はこのように述べた。

「こうした（機会に恵まれない）状況を改善するため、わたしたちはある計画を提案いたします。主から靈感を受けたものだとわたしたちは信じています。教会は、忠実な末日聖徒の献金を主体とする基金を設立します。彼らはこれまでも献金をしてくださいましたが、今後もこのような目的で献金してくださいませ。わたしたちは彼らに深く感謝しています。……『永代教育基金』と呼ぶことにいたします。」<sup>73</sup>

ヒンクレー大管長は、このプログラムの恩恵を受ける人々は、教会員からの献金から教育費の貸し付けを受け、学校や職業訓練を受ける費用に充てることができる、と説明した。学業や訓練を修了したときには、他の人が基金を使えるように、ローンを返済するよう期待されている。ヒンクレー大管長はまた、永代教育基金は「『永代移住基金』と同じような原則に従う」とも説明した。永代移住基金は、1800年代にシオンに移住してくる貧しい聖徒を助けるために設立された基金である。<sup>74</sup>

その後半年の間に、末日聖徒は何百万ドルもの献金を永代教育基金として納めた。<sup>75</sup>この計画を導入してから1年後、ヒンクレー大管長はこのよう





「わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。」

に発表した。「このプログラムは今や堅固な基盤のうえに運営されています。……世界の恵まれない地域に住む若い男女で、大半は帰還宣教師の人々が、良質な教育を受けられるようになるでしょう。その結果、彼らは何代にもわたって苦しんできた貧困の淵から救われるでしょう。」<sup>76</sup>このプログラムは引き続き、与え手、受け手双方の末日聖徒に祝福をもたらしている。

#### 結婚と家族の神聖さについて証する

1995年9月23日の中央扶助協会集会の中で、ヒンクレー大管長はこのように述べた。

「わたしたちの方で皆さんに警告したいことがあります。……真理という仮面をかぶった詭弁があふれており、倫理基準や価値観に対する欺瞞が後を絶たず、じわじわと世の汚れに染めていこうとする誘惑があまりにも多いからです。このことを踏まえて、わたしたち大管長会と十二使徒評議会は、教会員並びに一般の方々に向けて一つの宣言を発表いたします。これは、わたしたちの教会の預言者、聖見者、啓示者が歴史を通じて繰り返し述べてきた、家族に関わる標準と教義とその運用についての宣言を再確認するものです。」<sup>77</sup>

この前置きとともに、ヒンクレー大管長は初めて公に「家族—世界への宣言」を読み上げた。

結婚と家族の神聖さは、常にヒンクレー大管長の教えのテーマであった。ヒンクレー大管長はあらゆる種の虐待をとがめ、互いに忍耐し合い、愛し合い、教え合い、仕え合うよう親と子供に勧めた。1999年2月11日付けの手紙に、ヒンクレー大管長と顧問はこう記した。

「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くしてくださるようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、他のどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」<sup>78</sup>

#### 新会員に手を差し伸べる

ヒンクレー大管長は大勢の人々が教会に加わるのを見て非常に喜んだが、その数字に示されている一人一人について心を配った。教導の業を始めた当初、このように語っている。

「改宗者のますますの増加に伴い、わたしたちは、改宗者が道を見いだせるように助けるため、これまで以上に大きな努力を傾けなければなりません。改宗者の誰もが3つのものを必要としています。それは友人と責任と『神の善い言葉』による養いです（モロナイ6：4）。これらを提供するのはわたしたちの務めであり、わたしたちに与えられた機会です。」<sup>79</sup>

ヒンクレー大管長は一貫して新会員を強めることについて話した。ジェフリー・R・ホランド長老は、このテーマについてヒンクレー大管長が強調していることについてこう話した。「ヒンクレー大管長は最近、おどけた顔をして自分の前にある机を手で軽くたたきながら十二使徒にこう言いました。『兄弟たち、わたしの人生が終わって、葬儀の最後に霊がこの世から旅立つときにも、皆さん一人一人の目を見て、「改宗者は定着していますか」と言いますからね。』」<sup>80</sup>

#### 神殿

1910年、ゴードン・B・ヒンクレーが誕生したときには、稼働中の神殿は世界に4つしかなかった。しかも、4つともユタ州にあった。1961年に使徒として聖任されるまでに、その数は12に増えていた。この発展は目を



2002年、ヒンクレー大管長はイリノイ州ノーブー神殿の  
奉獻に先立ち、定礎式でモルタルを塗った

見張るべきものだったが、ヒンクレー長老は世界中の多くの人々が神殿の祝福を完全に受けることができていることについてしばしば懸念を示していた。1973年、教会神殿委員会の委員長として奉仕していたときに、このように日記に記している。「教会は〔当時建設中だった〕ワシントン神殿の費用で〔多くの小規模〕神殿を建設することができるだろう。そうすれば、人々が神殿まで長距離を旅する代わりに、神殿を人々のもとに届けることができる。」<sup>81</sup>

1995年に大管長に支持された当時、稼働中の神殿の数は47まで増えていた。しかし、さらに神殿を建てたいというヒンクレー大管長の望みは依然衰えていなかった。このように語っている。「わたしの心からの望みは、必要な全ての地に神殿を建設し、人々がどこにいようと、大きな犠牲を払うことなく主の宮を訪れて自身のための儀式を受け、死者のための身代わりの儀式を受ける機会を得ることです。」<sup>82</sup>

1997年10月の総大会で、ヒンクレー大管長は歴史的な発表を行った。教会は世界各地に小規模神殿の建設を始めると発表したのだ。<sup>83</sup>後にこのように語っている。「小規模神殿の構想も、直接的な啓示により与えられたと信じています。」<sup>84</sup>1998年、ヒンクレー大管長は既に建設が計画されている



ヒンクレー大管長が2000年10月の総大会で奉献したカンファレンスセンター

神殿と建設中の神殿に加え、30の小規模神殿を新たに建設することを発表した。「これによって現在儀式が行われている51の神殿の他に、合計47の新しい神殿ができることになります。」聴いていた人たちは皆喜んだ。ヒンクレー大管長はさらにこのように付け加えた。「『わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが肉体を取って来られてから』2,000年に当たる今世紀の最後までにさらに二つを加え（教義と聖約20；1）、ちょうど100にできればと考えています。」また、このように約束した。「さらに新たな神殿建設の発表がなされる〔でしょう〕。』<sup>85</sup>

2000年10月1日、ヒンクレー大管長は儀式が行われている中で100番目の神殿となるマサチューセッツ州ボストン神殿を奉献した。2000年末までに、さらに二つの神殿を奉献した。2008年にヒンクレー大管長が亡くなったとき、教会には儀式が行われている神殿が125あり、さらに13の神殿の建設が発表されていた。ヒンクレー大管長はそれらのほとんどの計画と建設に携わり、自らそのうちの85の神殿の奉献と13の神殿の再奉献を行った（再奉献した神殿のうち8つは、以前自ら奉献した神殿だった）。

## カンファレンスセンター

1995年10月の総大会で、ヒンクレー大管長はずっと温めてきた考えについて、ほのめかした。テンプル・スクウェアのタバナクルからこのように語ったのである。「この偉大なタバナクルも、年ごとに、狭くなっていくように感じられます。現在では、さらに大勢の聴衆を収容するもっと大きな施設で、幾つかの地区大会が開かれています。」<sup>86</sup> 1996年4月の総大会で、ヒンクレー大管長はこの考えについてさらに詳しく述べた。

「残念ながら、今朝このタバナクルに入りたいと思ひながら、それができない方々がたくさんいらっしゃいます。タバナクルの周囲の構内には非常に多くの方がいらっしゃいます。主を礼拝するために先祖の開拓者によって建設されたこの独特な、すばらしい建物には約6,000の快適な座席がしつらえてあります。2時間にわたってこの固い座席に座っておられる皆さんの中には、快適という言葉に異議を唱える方がいらっしゃるかもしれません。

わたしは心の中で、このタバナクルに入りたいと思ひながら、それができないでいる方々のことを考えています。1年ほど前にわたしは中央幹部の皆さんに、次のような提案をしました。すなわちもう一つ、この建物の3、4倍の収容力を持つ、より大きな規模の、礼拝施設を建設できるかどうか検討すべき時がやって来たかもしれないということです。」<sup>87</sup>

1997年7月24日、開拓者がソルトレーク盆地に到着してから150年たったことを記念して、テンプル・スクウェアの北隣の区画にカンファレンスセンターと呼ばれる新たなビルの建設を行うため、<sup>くわ</sup>鋤入れ式を行った。それから3年もたたない2000年4月に、建物は完成していなかったものの、総大会の最初の部会がここで開催された。ヒンクレー大管長は2000年10月の総大会でカンファレンス・センターを奉献した。奉献の祈りをささげる前に、ヒンクレー大管長は自分の庭で育てていたクルミの木でできた説教台の前に立った。

「今日、わたしたちは永遠の父なる神とその独り子であられる主イエス・キリストを礼拝する家としてこの建物を奉献します。この壇上から全世界に、証と教えが宣言され、生ける神を信じる信仰と贖い主の偉大な贖いの犠牲に対する感謝の言葉が語り続けられることを希望し、祈っています。」<sup>88</sup>

## イエス・キリストについての証

2000年1月1日、ヒンクレー大管長と顧問、十二使徒定員会は「生けるキリスト—使徒たちの証」を発表した。その中で、救い主についてこの

ように宣言されている。「これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受ける全ての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてこられた人物は存在しません。」<sup>89</sup>

そして、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の生涯にこの御方以上に深遠な影響を及ぼした人物も存在しなかった。ヒンクレー大管長は46年以上にわたってイエス・キリストの御名の特別な証人として奉仕した。ヒンクレー大管長と使徒が「生けるキリスト」を発表した数か月後、ヒンクレー大管長は末日聖徒の前に立ってこのように述べた。「今朝、わたしが感謝の気持ちを感じている全てのことの中で、とりわけ感謝していることがあります。それはイエス・キリスト、全能なる神の御子、平和の君、聖なる御方に対して生きた証を得たことです。」<sup>90</sup>

### 試練と希望

2004年4月の総大会で、ヒンクレー大管長はこのように述べた。「さて、兄弟姉妹の皆さん、個人的な事柄で恐縮ですが、少し話させていただきませう。ヒンクレー姉妹が出席していないことにお気づきの方もいらっしゃるでしょう。わたしが中央幹部に召されて46年になりますが、彼女が総大会に出席しなかったのは初めてのことです。……〔1月のアフリカ訪問からの〕帰路、妻は過労で倒れました。それ以来、体調が思わしくありません。……どうやら時計のぜんまいの巻きが緩んできているようで、どうやって巻き戻したらいいかわかりません。

寂しく思います。今月で結婚して67年になります。妻は、才能豊かで有能な5人の子供の母親、25人の孫の祖母、そして増え続けるひ孫の曾祖母です。わたしたちはこれまで、嵐の日も晴れの日も、友として、伴侶として、手に手を取って歩んできました。彼女はこれまで、遠くまで、また広範囲にわたって旅をして、この業に対する証を述べてきました。どこに行っても愛と励ましと信仰を伝えてきました。」<sup>91</sup>

2日後の4月6日、マージョリー・ペイ・ヒンクレーはこの世を去った。思いやりの心と機知にあふれた、揺るぎない信仰の持ち主だった彼女を愛する何万もの人々がヒンクレー大管長とともに彼女の死を悼んだ。大管長は世界中から寄せられた支援と愛の手紙に感謝した。手紙についてこのように述べている。「悲しんでいるわたしたちに慰めを与えてくれました。」<sup>92</sup> 大勢の人がヒンクレー姉妹の名前で永代教育基金に献金した。

マージョリーを失った悲しみを抱えながら、また自分自身の健康状態も悪化する中、ヒンクレー大管長は教会の業を継続した。やがて、杖を携帯

するようになった。自分の体を支えるために使うこともあったが、それ以上に、杖を振って教会員に挨拶をするために使うことが多かった。トーマス・S・モンソン大管長は、ヒンクレー大管長の杖の使い方、そして杖を使わないことを心配していたヒンクレー大管長の医師との会話をこのように振り返る。医師はこのように言った。「[わたしは] ヒンクレー大管長に転んで腰の骨を折ったり、体調を悪くしたりしてもらいたくないのです。でもヒンクレー大管長は、それを振り回したりして、歩くときに使おうとしません。大管長に、『杖は医師により処方されたものであり、本来の目的で使っただけが必要がある』と言ってもらえませんか。」モンソン管長はこう答えました。「ドクター、わたしはヒンクレー大管長の顧問です。彼の医師はあなたです。あなたが言ってくださいよ。」<sup>93</sup>

2006年初頭、ヒンクレー大管長は95歳でがんを患った。その年の10月の総大会でこのように語っている。「主はわたしが生き長らえるのをお許しになりました。後どれくらい生きられるかは分かりません。しかし、それがどれくらいであっても、わたしは最善を尽くして自分の任務を果たし続けます。……わたしは元気ですし、わたしの健康状態は比較的良好です。しかし、もし後継者の時が来るなら、引き継ぎは円滑に、そしてこの教会の頭である主の御心みこころのままに進められるでしょう。」<sup>94</sup>

1年後の2007年10月、ヒンクレー大管長は最後の総大会を次のように締めくくった。「来年の4月にお会いすることを楽しみにしています。わたしは97歳ですが、わたしも次回の大会に出席したいと望んでいます。それまでの間、天の祝福が皆さんとともにありますよう、へりくだり、心から、わたしたちの贖い主、主イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。」<sup>95</sup>

ヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹の娘のバージニアは、ヒンクレー姉妹の死後4年間をヒンクレー大管長の「人生の絶頂期」だったと言う。そして、2008年1月20日、大管長が亡くなる1週間前にソルトレーク・シティーの改修された教会堂の奉獻に際してささげた祈りについてこのように振り返る。

「父はその祈りの中で、いつもとは非常に異なった方法で、預言者である自身のことを主に嘆願しました。父は感謝を込めてこう祈りました。『ジョセフ・スミスの時代から現代まで、あなたはこの民のために預言者を選び、任命してくださいました。わたしたちはあなたに感謝し、あなたが預言者を慰め、支え、預言者の必要とあなたの偉大な目的に従って、預言者を祝福してくださるようお願いいたします。』」<sup>96</sup>

2008年1月24日木曜日、ヒンクレー大管長は倒れ、毎週神殿で開かれていた中央幹部との集会に初めて出席できなかった。翌日曜日の1月27日、モンソン管長はヘンリー・B・アイリング管長とボイド・K・パッカー長老の助けを得てヒンクレー大管長に神権の祝福を施した。その日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は自宅で5人の子供とその伴侶に見守られて亡くなった。

数日後、何千人もの人々がカンファレンスセンターの預言者のホールで行われたパブリックビューイングで、ヒンクレー大管長のひつぎの前を通り、敬意を表した。他の教会の指導者、政府や経済界のリーダーも哀悼の言葉を送り、ヒンクレー大管長の影響と教えに感謝を表した。

葬儀はカンファレンスセンターで執り行われ、世界中の教会の建物に放送された。タバナクル合唱団は集会の中で、新しい賛美歌「人に死と呼ばれしもの そは何を意味せん」(“What Is This Thing That Men Call Death?”)を歌った。賛美歌の歌詞はヒンクレー大管長が書いたもので、自分を預言者として頼みにしていた友人たちに向けた、イエス・キリストについての最後の証だった。

人に死と呼ばれしもの  
闇の中、音もなく過ぎ行くもの そは何を意味せん  
そは終わりにあらず  
より優れたる世界 より輝かしき光の訪れなり  
おお神よ、わが痛む心に触れたまえ  
絶え間なくわが心を乱す この恐れを鎮めたまえ  
人知を超ゆる汚れなき希望と信仰により  
わが悲しみに打ち勝つ力と平安を与えたまえ  
存在するは死にあらず あるのは収めし勝利の報い  
すなわち変化のみ  
全ての者を愛されし御方  
神の御子、聖者からの賜物なり<sup>97</sup>

## 注

1. スティーブ・ファイデル, "A Temple to Be Built in Ghana," *Church News*, 1998年2月21日付, 3参照
2. ジェフリー・R・ホランド, "Emerging with Faith in Africa," [mormonnewsroom.co.za/article/emerging-with-faith-in-africa](http://mormonnewsroom.co.za/article/emerging-with-faith-in-africa); 2015年2月11日付
3. エステル・コランテマー・アブイエーの言葉, "Accra Ghana Temple: Commemoration of the Tenth Anniversary," [africawest.lds.org/accra-ghana-temple-commemoration-of-the-tenth-anniversary](http://africawest.lds.org/accra-ghana-temple-commemoration-of-the-tenth-anniversary)で引用; 2015年2月11日付
4. アドニー・Y・小松の言葉, シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 288で引用
5. ラッセル・M・ネルソン「霊的な包容力」『リアホナ』1998年1月号, 17
6. ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー



- 大管長—信念と勇気の人『聖徒の道』1995年6月号, 6
7. ベンジャミン・F・ティッピー, Biographical Sketch of Breneman Barr Bitnerで引用。ヒンクレー家およびピトナー家家族歴史記録集, ソルトレーク・シティ, 教会歴史図書館所蔵。Silas Richards Company schedule and reports (教会歴史図書館所蔵), 1849年9月号も参照
  8. プライアント・S・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 193で引用  
大方の推定によると, メイフラワー号の生存者数は49人より少し多いとされている
  9. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 24
  10. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 25
  11. ゴードン・B・ヒンクレー「聖見者ジョセフ」『聖徒の道』1977年10月号, 498。「たたえよ, 主の召したまいし」『賛美歌』16番を引用
  12. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 45
  13. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 388
  14. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 46 – 47で引用
  15. ゴードン・B・ヒンクレー「神がわたしたちにくださったのは, 臆する霊ではなく……」『聖徒の道』1985年2, 3月号, 23
  16. ゴードン・B・ヒンクレー「伝道に出るべきですか」『聖徒の道』1986年7月号, 41
  17. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー大管長—信念と勇気の人」11で引用
  18. ゴードン・B・ヒンクレー「恐れることはない。ただ信じなさい」『リアホナ』1996年5月号, 4
  19. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 62で引用
  20. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 64で引用
  21. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 64参照
  22. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。“His Mission to England Was a Life-Changing Experience.” *Deseret Morning News*, 2008年1月28日付, 11で引用
  23. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 75で引用
  24. Elders' Labor Record of Liverpool Conference of the British Mission of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1933年7月–1934年2月; 教会歴史図書館 (ソルトレーク・シティ) 所蔵
  25. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 69参照
  26. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995–1999* (2005年), 348
  27. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 348
  28. ヒーパー・J・グラントの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 84で引用
  29. この出来事について詳しくは, 本書の第2章を参照
  30. ゴードン・B・ヒンクレー, パーリー・ガイルズ宛ての書簡, 1936年12月7日付; 教会歴史図書館 (ソルトレーク・シティ) 所蔵
  31. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 151–152で引用
  32. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 104で引用
  33. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 59で引用
  34. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 114–115で引用
  35. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 173–174で引用
  36. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。*Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley*, バージニア・H・ピアス編 (1999年), 107で引用
  37. ゴードン・B・ヒンクレー, G・ホーマー・ダラム宛ての書簡, 1939年3月27日付; 教会歴史図書館 (ソルトレーク・シティ) 所蔵
  38. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 126で引用
  39. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 135–136 参照
  40. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 143–144 参照
  41. デビッド・O・マッケイの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 176で引用
  42. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 177–181 参照
  43. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。Conference Report, 1958年4月, 123–124で引用
  44. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。Conference Report, 1958年4月号, 123で引用
  45. 田中健治の言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 220で引用
  46. デビッド・O・マッケイの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 234で引用

47. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。Conference Report, 1958年4月号, 71で引用
48. アレン・E・リットスターの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 313で引用参照
49. アレン・E・リットスターの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 314で引用
50. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 315参照
51. デビッド・O・マッケイ大管長も在任期間の最後の数年間, 自分の補佐として大管長会にさらに何人かの顧問を招いた
52. ゴードン・B・ヒンクレー「確信: 宗教の神髄」『聖徒の道』1982年4月号, 6-7参照
53. ゴードン・B・ヒンクレー「教会員数500万人到達—発展への道しるべ」『聖徒の道』1982年7月号, 85-86
54. ゴードン・B・ヒンクレー, “The Loneliness of Leadership” (ブリガムヤング大学ディボーションナル, 1969年11月4日), speeches. byu.edu
55. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。フランシス・M・オーキオラ, “Temple Dedication Rewards Faith of Filipino Saints,” *Ensign*, 1984年11月号, 106で引用
56. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。“New Mission Presidents Receive Instruction from Church Leaders,” *Ensign*, 1984年9月号, 76で引用
57. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。“Leadership Meetings Focus on Missionary Work, Activation, and Strengthening Members,” *Ensign*, 1985年5月号, 96で引用
58. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 505参照
59. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 505で引用
60. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 508で引用
61. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 508で引用
62. ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー大管長—信念と勇気の人」2
63. ニール・A・マックスウェルの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 536で引用
64. ゴードン・B・ヒンクレー「主よ, あなたのすべての教会員を……思い起こしてください」『聖徒の道』1996年7月号, 96
65. ゴードン・B・ヒンクレー「教会は前進する」『リアホナ』2002年7月号, 4
66. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。“President Gordon B. Hinckley Awarded Presidential Medal of Freedom,” mormonnewsroom.org/article/president-gordon-b.-hinckley-awarded-presidential-medal-of-freedom; 2015年9月21日付けで引用
67. ゴードン・B・ヒンクレー「赦す」『リアホナ』2005年11月号, 81
68. ゴードン・B・ヒンクレー「栄えあるイースターの朝に」『リアホナ』1996年7月号, 75
69. 「ゴードン・B・ヒンクレー大管長の軌跡」『追悼—ゴードン・B・ヒンクレー(1910-2008年)』(『リアホナ』2008年4月号付録) 13参照
70. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 553-554
71. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 298
72. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。ジェフリー・R・ホランド「神からこられた教師」『リアホナ』1998年7月号, 29参照
73. ゴードン・B・ヒンクレー「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号, 61
74. ゴードン・B・ヒンクレー「永代教育基金」61参照
75. ゴードン・B・ヒンクレー「手を差し伸べ, 引き上げる」『リアホナ』2002年1月号, 61参照
76. ゴードン・B・ヒンクレー「教会は前進する」6
77. ゴードン・B・ヒンクレー「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 113
78. 大管長会の手紙, 1999年2月11日付, 「方針, 発表および割り当て」『リアホナ』1999年12月号, 1。このテーマについて, 詳しくは本書10章と11章を参照
79. ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号, 56。このテーマについて, 詳しくは本書22章を参照
80. ジェフリー・R・ホランド「わたしにつながっていないさい」『リアホナ』2004年5月号, 31-32
81. ゴードン・B・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 325で引用
82. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 629
83. ゴードン・B・ヒンクレー「神殿, 改宗者の定着, 伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号, 57-61参照
84. ゴードン・B・ヒンクレー「大管長会定員会」『リアホナ』2005年12月号, 40
85. ゴードン・B・ヒンクレー「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」『聖徒の道』1998年7月号, 96。小規模神殿を建設することに関する靈感について, 詳しくは本書23章を参照
86. ゴードン・B・ヒンクレー「集いの時」『聖徒の道』1996年1月号, 4
87. ゴードン・B・ヒンクレー「栄えあるイースターの朝に」74

88. ゴードン・B・ヒンクレー「この偉大な千年紀の始めの年に」『リアホナ』2001年1月号, 82
89. 「生けるキリスト—使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号, 2
90. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしの証」『リアホナ』2000年7月号, 83. このテーマについて, 詳しくは本書8章と24章を参照
91. ゴードン・B・ヒンクレー「結びの言葉」『リアホナ』2004年5月号, 103—104
92. ゴードン・B・ヒンクレー「人生で会おう女性たち」『リアホナ』2004年11月号, 82
93. トーマス・S・モンソン「神よ, また逢うまで」『追悼—ゴードン・B・ヒンクレー (1910—2008年)』30で引用
94. ゴードン・B・ヒンクレー「山を動かす信仰」『リアホナ』2006年11月号, 82
95. ゴードン・B・ヒンクレー「閉会に当たり」『リアホナ』2007年11月号, 108
96. バージニア・H・ピアス「娘からの追悼の言葉」『追悼—ゴードン・B・ヒンクレー (1910—2008年)』18
97. ゴードン・B・ヒンクレー, “What Is This Thing That Men Call Death?”『追悼—ゴードン・B・ヒンクレー (1910—2008年)』で引用 32



最初の示現は、「地上の全人類に神がかかわってこられた長い歴史の最終章となるものでした。」



# 福音の回復——明るい夜明け

「御父と御子が少年ジョセフに御姿<sup>みすがた</sup>を現され、  
栄光に満ちた福音の時代の幕が開けました。」

## ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は生涯にわたり、福音の回復に関与した人々と場所に深い敬意の念を抱いていた。大管長には、ジョセフ・スミスと彼が回復において果たした役割に対して、特別な感謝の気持ちがあった。「主が神であられることと、預言者ジョセフ・スミスの使命<sup>あかし</sup>について証を述べたいと願い、その願いは絶えず強まっていた」と語っている。<sup>1</sup>

1935年、イングランドでの伝道を終えて故郷に向かう途中、他の帰還宣教師たちとともに聖なる森とクモラの丘を訪れた。また、カーセージの監獄にも立ち寄った。そこは預言者ジョセフ・スミスとハイラム・スミスが殉教した場所である。ノーブーのほこりっぽい通りを歩いた。追放された聖徒たちが湿地を美しい町に変えた所である。これらの場所を訪れ、ソルトレーク・シティへ向かう開拓者の道に沿ってさらに西へ進んだゴードンは、初期の聖徒たちの試練と偉業に思いをはせたに違いない。

その後数十年間、さらに幾度となく、ゴードン・B・ヒンクレーは聖なる回復の地を訪れている。2000年12月3日に行われた大管長会のクリスマスディナーで、大管長は聖なる森を訪れたときの個人的な経験について次のように述べている。

「数年前、わたしはニューヨーク州ロチェスターステーキの大会を管理する責任がありました。土曜日に、同行した幹部に言いました。『日曜日の朝早く起きて、大会の前に聖なる森へ行きましょう。』全員が同意しました。そこで、春の安息日の早朝、伝道部会長、ステーキ会長、地区代表とともにパルマイラへ行き、歩いて森へ入りました。他には誰もいませんでした。それは穏やかで美しい雨上がりの朝でした。木々は新しい小さな葉をつけていました。」

わたしたちは静かに言葉を交わしました。そして、湿った大地にひざまずき、祈りました。耳で聞き取れる声を聞くことはありませんでした。目で見える示現もありませんでした。しかし、言葉では言い表せない方法で、ジョセフが語ったとおりの出来事がここで起きたと言う声が、各自の心に聞こえました。まさしくこの地で、わたしたちの永遠の御父であられる神と、その愛する御子すなわち復活された主イエス・キリストが14歳の少年に御姿を現され、語りかけられたのです。類いまれな光が降り注がれ、ジョセフは行うべきことを教えられました。

そのようなこの上なく神々しい出来事である最初の示現により天が開かれ、キリストの教会が地上に回復されました。荒涼とした暗黒の時代、過去の索漠とした時代を経て、輝かしい新たな時代の幕が開けたのです。主イエス・キリストのもう一つの証としてモルモン書が世に出されました。主の至高の、神聖な神権が、古代に所持していた人々の手により回復されました。神権の鍵と力が預言者とその同僚たちに授けられました。古代の教会が再び地上に建てられ、以前の神権時代にあった全ての祝福、力、教義、鍵、原則が回復されたのです。それは〔キリストの〕教会であり、主の名を冠した教会です。主の神権によって治められる教会です。わたしたちを救い得る名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないのです。ジョセフ・スミスは……主の偉大な証人になりました。』<sup>2</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 主が設立された教会は、救い主がこの世を 去られてから、次第に背教の道をたどった

〔イエス・キリスト〕は過去も現在も、人類史上偉大な中心となる御方、すなわち全ての人の歴史の中で頂点に存在する御方です。

主は亡くなられる前、使徒たちを聖任されました。しばらくの間、彼らは召しを遂行しました。主の教会が設立されたのです。<sup>3</sup>

主が設立された教会は、救い主がこの世を去られてから、次第に背教の道をたどりました。イザヤの次の言葉が成就したのです。「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。」(イザヤ 24：5)<sup>4</sup>

パウロはその手紙の中で、キリストに従う者たちが力を得て、サタンの道にそれないようにと嘆願しました。しかし、最終的には背教の精神が教会内にはびこってしまいました。<sup>5</sup>

何世紀か過ぎ去り、暗雲が地を覆いました。イザヤはこう述べています。「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。」(イザヤ 60:2)

長きにわたって流血と戦いが続く略奪と苦難の時代でした。……希望のうせた、支配者と奴隷の時代です。

最初の1,000年が過ぎ、次の1,000年が幕を開けました。初めの数世紀は前の世紀の継続で、恐怖と苦難に満ちた時代でした。<sup>6</sup>

---

## 2

---

### ルネッサンスと宗教改革が福音の回復への道を備える下地となった

その長い暗黒の時代に、何とかしてろうそくの火がともされました。ルネッサンス時代の到来とともに、学問、芸術、そして科学が開花するのです。さらには大胆で勇敢な男女による運動が起こりました。彼らは、天を仰ぎ見、神と神の御子を認めようとしました。それがいわゆる宗教改革です。<sup>7</sup>

宗教指導者たちが〔キリスト教の〕教会の改革を試みました。ルター、メランヒトン、フス、ツウイングリ、ティンダルなどが有名です。偉大な勇気をもった人々で、何人かはその信条のために悲惨な最期を遂げています。改革を求めてプロテスタントが生まれました。改革が進まないのを見た彼らは、自らの教会を作ったのです。しかし、彼らは神権の権能がないままそれを行いました。彼らが望む一つの願いは、自分たちが思うように神を礼拝できる場所を見つけることでした。

キリスト教界に起こったこの大きなうねりとともに、政治的な力も作用しました。そしてアメリカ独立戦争が勃発し、その結果として政府が宗教に干渉しないことが憲法に宣言された国が誕生します。新たな、栄光の時代の幕開けです。アメリカ合衆国には国教はありません。特定の宗教に対する優遇もありません。

数世紀の暗黒時代の苦痛と困難を経て、福音の回復の 때가 熟しました。この待ち焦がれた日のことを古代の預言者たちは語ってきたのです。

過去の歴史上の出来事は全て、この日を目指していました。あらゆる苦難とあらゆる望みが交錯した数世紀が来ては過ぎていきました。全ての民の全能の裁き主である生ける神は、預言者たちが語ってきた時が訪れたと判断なさいました。ダニエルが見たものはこうでした。一つの石が人手に

よらずに山から切り出されて、大きな山となって全地に満ちました〔ダニエル2：35，44 参照〕。<sup>8</sup>

### 3

#### 御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現され、福音の回復が到来した

幾世代もの人々がこの地上に生を受けました。その多くは争い、憎悪、暗黒、そして悪の中で生涯を送りました。しかしついに、回復というあの偉大な更新の時代が訪れました。御父と御子が少年ジョセフに御姿を現され、栄光に満ちた福音の時代の幕が開けたのです。<sup>9</sup>

1820年の示現はまことにすばらしいものでした。ジョセフが森の中で祈ると、御父と御子の御二方が彼の前に御姿を現されました。すると、そのうちの御一方がジョセフに語りかけ、彼の名を呼び、別の御方を指して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われたのです（ジョセフ・スミス—歴史1：17）。

そのようなことが起きたことは、それまで一度もありませんでした。御父と御子の御二方が御姿を現されることが、なぜそれほど重要だったのかと不思議に思う人もいるでしょう。わたしの考えでは、それは福音の最後の神権時代、すなわちそれ以前の全ての神権時代の要素が一つに集められる「時満ちる神権時代」の到来であったからです。これは、地上の全人類に神が関わってこられた長い歴史の最終章となるものでした。<sup>10</sup>

神の権能に関して教会が主張することは全て、またこの業の正当性に関して教会が提供する真理は全て、少年預言者が見た最初の示現に基づいています。最初の示現なくして、教会が世に言うべきことはあまり多くはありません。これは時満ちる神権時代の大きい幕開けでした。先のすべての神権時代のあらゆる権威、賜物、祝福が回復されると神が約束された時代が到来したのです。<sup>11</sup>

### 4

#### 神権の権能と鍵が回復された

アロン神権の回復に当たって、復活したバプテスマのヨハネがその手をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に置き、こう言いました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」（教義と聖約13：1）<sup>12</sup>





福音の回復の一環として、メルキゼデク神権の権能と鍵が地上に回復されました。

その後、主イエス・キリストの使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネが訪れ、ジョセフとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けました。この神権は地上におられた主御自身の手によって、3人の使徒に与えられたものです。<sup>13</sup>

〔救い主の〕3人の使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフとオリバーに現れました。その場所はサスケハナ川沿いの「荒れ野」のどこかでした（教義と聖約 128：20参照）。3人の使徒は二人の頭に手を置き、この神聖な権能を授けました。……

わたしは自分が持っている神権をこの出来事までまっすぐに遡ることができます。次のようになります。わたしはデビッド・O・マッケイから聖任されました。彼はジョセフ・F・スミスから聖任されました。その先は、ブリガム・ヤング、モルモン書の3人の証人と続きます。その3人の証人たちはジョセフ・スミス・ジュニアとオリバー・カウドリに聖任されました。この二人はペテロ、ヤコブ、ヨハネから聖任され、この3人は主イエス・キリストから聖任されました。

〔メルキゼデク神権者は各自、〕同じように遡ることができます。この神権を持つ人はそれぞれ、聖任の流れを遡ると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに直接つながるのです。<sup>14</sup>

## 主はジョセフ・スミスを通して、他の教会にあるものとは異なる真理を啓示された

わたしたちの教会の教義や礼拝の仕方の中には、他のあらゆる教会と明らかに異なるものがたくさんあり、それらは全て若き預言者ジョセフを通して神から啓示されました。その中の幾つかについて話します。皆さんにとっては聞き慣れたことですが、繰り返し学び、思い巡らす価値のある事柄です。

### 神会

最初の偉大な事柄といえば……、神御自身と、その愛する御子であり復活した主イエス・キリストが御姿を現されたことでしょう。思うに、この大いなる顕現は、時の中間における主の降誕と生涯、死と復活以来の、最も偉大な出来事です。

これに匹敵するような出来事の記録は他にありません。

人々は何世紀にもわたって、集まっては、神の性質に関する議論を繰り返していました。325年、コンスタンティヌスはさまざまな分派の学者をニカイアに集めました。2か月に及ぶ激しい討論の末に、妥協して一つの定義を受け入れました。これはその後何世紀にもわたって、神会についてキリスト教徒の間で信奉された教義となりました。

その定義を読み、少年ジョセフの語ったことと比較してみてください。ジョセフはただ、神が自分の前に立って、語りかけられたと言っています。ジョセフはその目で神を見、その耳で神の声を聞くことができたのです。神は人のような形をし、骨肉の体を持っておられました。神の傍らには、復活した主が、別個の御方として立っておられました。そして神はその御方を御自分の愛する子であると紹介され、ジョセフは御子とも言葉を交わしました。

その驚くべき示現が開かれた短い時間に、ジョセフは神に関して昔の学者や聖職者のだれよりも多くのことを学んだのではないのでしょうか。

この神聖な示現の中で再確認されたのは、主イエス・キリストが文字どおり復活されたことが疑いようのない事実であるということです。

神に関するこの知識は、何世紀にもわたって世の人々から隠されてきました。これこそ、神が御自身の選ばれた僕に啓示された、最初の偉大な事柄だったのです。<sup>15</sup>

### モルモン書は聖書と並ぶもう一つの証<sup>あかし</sup>

次に、神が啓示されたもう一つの非常に重要な事柄について話します。

キリスト教社会は聖書を神の御言葉<sup>みことば</sup>として受け入れています。しかしほとんどの人は、聖書がどのようにしてできたかについては何も知りません。

わたしは最近、著名な学者の書いた、ある新刊書を読みました。そこに書かれていることから判断すると、聖書の中の各書は非体系的とも思える方法で1冊の本にまとめられたことは明らかです。ある出来事が起こってからそれが記録されるまでに、長い時間が経過してしまった場合も幾つもあります。「聖書は真実だろうか。本当に神の御言葉なのだろうか」という疑問を持つ人もいるでしょう。

わたしたちは、正確に翻訳されている限りそれは真実であると答えます。聖書が作られるに際しては、確かに主の御手<sup>みて</sup>がありました。しかし現在、そのような書物は聖書だけではありません。聖書に書かれている重要で意義深い真理に関する、もう一つの証があるのです。

聖文には、「すべての事からは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する」と書かれています(2コリント13:1)。

モルモン書は神の賜物<sup>たまもの</sup>と力によりもたらされました。それは、地から叫ぶ声のように、神の御子を証しています。イエス・キリストの降誕、教導の業、十字架の刑と復活、またアメリカ大陸のバウンティフルという地に住んでいた義人たちに御姿を現されたことについて書かれています。

手に取り、読み、そして試してみることのできる、形あるものです。その中には神からの約束が書かれています。何百万という人がそれを試して、真実の神聖な書物であることを知りました。……

聖書は旧世界の証であり、モルモン書は新世界の証です。両者はともに手を取り合って、イエスが父なる神の御子であられることを宣言しています。……

全能の神からの啓示として世にもたらされたこの神聖な書物は、まさにわたしたちの主が神であられるというもう一つの証です。<sup>16</sup>

### 神権の権能と教会の組織

神権は神の御名<sup>みな</sup>によって行動する権能……です。……最近わたしは、原始キリスト教会の背教に関する本を読みました。原始キリスト教会の権能が失われたなら、その権能はどのようにして元へ戻すべきだったのでしょうか。



「モルモン書は……地から叫ぶ声のように、神の御子<sup>あかし</sup>を証しています。」

神権の権能の源はただ一つしかありません。それは天から来ます。救い主が地上におられた時代にその権能を持っていた人々の手によって授けられたのです。……

神権の回復を契機として1830年に教会が組織されたことは、何とすばらしい展開でしょう。教会の名前そのものも啓示によって示されました。教会はだれのものだったのでしょうか。ジョセフ・スミスの教会でしょうか。それともオリバー・カウドリの教会でしょうか。いいえ、この末の日に地上に回復された、イエス・キリストの教会だったのです。<sup>17</sup>

### 家族

預言者に与えられた、この教会独自のもう一つの偉大な啓示は、家族が永遠の命を受けるための計画でした。

家族は全能の父なる神が創造されたものです。あらゆる人間関係の中で最も神聖なものであり、人が負う全ての義務の中で最も重要なものです。社会の根本を成す組織です。

神が預言者に授けられた啓示を通して、家族をこの世だけでなく、永遠にわたって結び固めるのに必要な教義と権能がもたらされました。<sup>18</sup>

### 幼い子供たちには罪がない

幼い子供たちには罪がないということも、神が預言者ジョセフという器を通して与えられたもう一つの啓示です。いわゆるアダムとエバの原罪というものの影響を取り除くために、幼児洗礼が一般的に行われています。回復された教義では、バプテスマは人がおのおの犯した罪の赦しを受けるためのものと教えられています。バプテスマは神と人との間で交わされる聖約となります。バプテスマは責任を負う年齢に達し、善と悪を見分けられるようになった人に施されるものです。全身を水に沈めるこの儀式は、イエス・キリストの死と埋葬、そして主が復活によってよみがえられたことを象徴しています。<sup>19</sup>

### 死者のための救い

もう一つの啓示された真理について話しましょう。神は人を偏り見ない御方であると教えられています。しかし、生きている人が受けられる全ての祝福を、この世を去った人々のためにも備えているのは、わたしの知る限りこの教会だけです。死者の救いに関する偉大な教義は、この教会独特のものであります。……死者にも生者と同一機会が与えられています。この教義においてもまた、全能者は何とすばらしく、栄光に満ちた方法を預言者ジョセフへの啓示を通して備えられたことでしょうか。<sup>20</sup>

### 神の子供たちの特質、目的、潜在能力

人の持つ永遠の特質も啓示によって明らかにされています。わたしたちは神の息子であり、娘です。神はわたしたちの霊の御父です。わたしたちはこの地上に来る前に存在し、個性を持っていました。そして、神の計画に従って、この地上に生まれてきました。神から与えられた選択の自由を使って行動し、自らのふさわしさを試すために、この地上にいるのです。そして、死んだ後も生き続けます。人の永遠に続く命には3つの段階があります。1つ目は前世、2つ目は現世、そして3つ目は来世です。死をもってこの世に別れを告げた後、人は幕を通り、ふさわしい天の領域に入ります。これもまた、この教会だけが持つ独特で貴い教義であり、啓示によって知らされたものです。<sup>21</sup>

## 現代の啓示

預言者ジョセフ・スミスの頭<sup>こうべ</sup>に神が注がれた、非常に多くの知識と権能について短くまとめて話しました。……もう一つ話しておかなければならないことがあります。それは、現代の啓示に関する原則です。預言者ジョセフが記した信仰箇条に、次のような宣言があります。

「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰箇条 1:9)

この困難な時代にあって発展を続け、全地に広がりつつある教会が、導かれ、前進するには、天の御座<sup>みざ</sup>から絶えず啓示を受ける必要があります。

祈り、主の御心<sup>みこころ</sup>を切に求めるとき、道が示され、啓示が下り、主は行くべき道を進みゆく主の教会を祝福してくださることを証します。

預言者ジョセフの神聖な召しと、ジョセフを通してもたらされた神の啓示という堅固な基の上を、わたしたちは前進して行きます。<sup>22</sup>

ジョセフ・スミスから数えて 15 代目の後継者として、彼にかけられた預言者の外套<sup>がいとう</sup>を着る者として、わたしは、[回復の出来事]に関する預言者ジョセフの言葉が真実であり、御父が……御子の神性について証をなされ、御子が少年預言者を教え導かれたこと、そして……「全地の面に唯一<sup>ほんしゆく</sup>まことの生ける教会」が組織されるに至った一連の出来事が続いたことを厳粛に宣言いたします [教義と聖約 1:30]。<sup>23</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 世の人々が、イエス・キリストの教会と福音の回復を必要としていたのはなぜでしょうか(第1項参照)。主が福音の回復のために道を備えてくださった方法には、どのようなものが挙げられるでしょうか(第2項参照)。
- 最初の示現に関するヒンクレイ大管長の教えについて深く考えてください(第3項参照)。最初の示現<sup>あかし</sup>についての自分の証はあなたにどのような影響を及ぼしていますか。
- 神権が天からの使者によって回復される必要があったのはなぜでしょうか(第4項参照)。メルキゼデク神権者の権能がイエス・キリストへ遡ることができるのは、なぜ重要なのでしょうか。

- 第5項では、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示によってもたらされた真理が幾つか要約されています。それについて再考してください。これらの真理はあなたの生活をどのように祝福してきたでしょうか。これらの真理を子供たちが正しく理解し認識するのを助けるにはどうしたらよいでしょうか。

### 関連聖句

イザヤ 2:1 - 3; 使徒 3:19 - 21; 黙示 14:6 - 7; 2ニーファイ 25:17 - 18; 教義と聖約 128:19 - 21

### 学ぶ際のヒント

「福音の学習が最大の効果を上げるのは、聖霊によって教えを受けるときです。学ぶことができるように必ず聖霊の助けを祈り求めてから福音の勉強を始めます。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』18)

### 注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年) 326
2. "My Redeemer Lives," *Ensign*, 2001年2月号, 72
3. 「時の流れの頂で」『リアホナ』2000年1月号, 87 参照
4. 「山から切り出された石」『リアホナ』2007年11月号, 84
5. 「明るい夜明けだ」『リアホナ』2004年5月号, 82 参照
6. 「時の流れの頂で」87 - 88 参照
7. 「明るい夜明けだ」82 参照
8. 「時の流れの頂で」87 - 88 参照
9. 「明るい夜明けだ」82 参照
10. 「山から切り出された石」84
11. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年) 226
12. 「わたしの知っていること」『リアホナ』2007年5月号, 84
13. 「神が啓示された偉大な事柄」『リアホナ』2005年5月号, 82 参照
14. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年) 411
15. 「神が啓示された偉大な事柄」80 - 81 参照
16. 「神が啓示された偉大な事柄」81 - 82
17. 「神が啓示された偉大な事柄」82 参照
18. 「神が啓示された偉大な事柄」82 参照
19. 「神が啓示された偉大な事柄」82 参照
20. 「神が啓示された偉大な事柄」82 参照
21. 「神が啓示された偉大な事柄」83 参照
22. 「神が啓示された偉大な事柄」83 参照
23. 「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号, 24



「もろもろの国民の旗，世の光となることこそ，この教会の使命で〔す〕。」





## 国々の民を招く旗，世の光

「今は堅固に立つべき時です。わたしたちに  
与えられている使命の意義，大きさ，重要性をよく  
理解して，ためらうことなく前進する時です。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

イギリスで伝道から帰還してすぐに、ゴードン・B・ヒンクレーは伝道部会長であるジョセフ・F・メリルから与えられた最後の責任を果たした。十二使徒定員会の一員でもあったメリル会長はゴードンに、ヒーバー・J・グラント、J・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイから成る大管長会へある報告をするよう依頼していた。ゴードンは大管長会の秘書に連絡を取り、約束を作った。

ゴードンが大管長会の評議会室に入ると、グラント大管長と二人の顧問に温かく迎えられた。そこでグラント大管長が言った。「ヒンクレー兄弟、メリル長老からの伝言を 15 分で伝えてください。」ゴードンが部屋を出たのはそれから 1 時間 15 分後だった。与えられた 15 分間でゴードンは、伝道の助けとなるもっと良い印刷物が宣教師に必要であるという伝道部会長の考えを伝えた。すると、彼の短い報告に対して大管長会から質問があり、その後 1 時間にわたって話し合いが続いたのである。

この責任を果たし終えてゴードンは、「これで本当に伝道が終わった。今度は将来の計画を立てて前進する時だ」と感じた。ゴードンはすでに英語の学士号を取得してユタ大学を卒業しており、ニューヨーク市のコロンビア大学でジャーナリズム学の大学院課程に進みたいと考えていた。しかし、大管長会との会合の 2 日後にかかってきた電話により、その計画は変わってしまった。電話はマッケイ大管長からで、大管長は彼にこう告げた。「ヒンクレー兄弟、昨日大管長会と十二使徒の集会の中で、あなたと話し合ったことについて協議しました。そこで、あなたが必要だと説明した事柄を実行するために、6 人の十二使徒で構成する委員会を組織しました。ステイブン・L・リチャーズ長老が委員長です。そこで、あなたにこの委員会で一緒に働いていただきたいと思いますとわたしたちは考えています。」<sup>1</sup>

ゴードンはこの招きを受け入れて、新たに設立されたラジオ広告および伝道文献委員会の幹部書記として採用された。彼はコロンビア大学に行くことはなかったし、ジャーナリストとして世界のニュースを発信することも一度もなかった。その代わりに、生涯をかけて福音のよきおとずれを発信する取り組みが始まった。後年中央幹部として奉仕するようになると、こうした責任は大きくその範囲を広げることになった。

困難な状況でも自分の考えをはっきり伝える力を培ったゴードン・B・ヒンクレーは、報道記者のインタビューを受ける責任を度々任された。教会の大管長となってからも彼はそうした機会を歓迎し、イエス・キリストの教会を「暗黒」から引き出し（教義と聖約1：30）、世間に知らしめる自らの責任を果たした。ヒンクレー大管長はこう明言している。

「もろもろの国民の旗、世の光となることこそ、この教会の使命であると、わたしは信じ、証<sup>あかし</sup>します。わたしたちは大いなる、あらゆるものを包括した命令を受けており、その命令からひるむことも顔を背けることもできないのです。わたしたちはその命令を受け入れ、果たす決心をしており、神の助けによって成し遂げます。」<sup>2</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

ダニエルが示現で見た石のように、教会は転がり進み、全地に満ちる

この教会は、少年ジョセフ・スミスが父親の農場の森で謙遜な祈りをささげたことから始ま〔りました〕。最初の示現と呼ばれるその驚くべき経験からこの御業<sup>みわざ</sup>が発展し、……これはまさに、人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むという、ダニエルが見た啓示の成就です（ダニエル2：44－45参照）。<sup>3</sup>

1830年に教会が組織されたときの会員は6人だけで、〔その他に〕ほとんど無名の村に住む信者が僅かばかりいただけでした。……今日、シオンのステーキは合衆国、カナダ、メキシコの全州、そして中央アメリカの全ての国、南アメリカ全土に広がっています。

ブリテン諸島やヨーロッパでもステーキや地方部があり、これまで幾多の人々が教会に加入してきました。この業はバルト海諸国へ及び、その南方のブルガリアやアルバニア、その周辺地域にも広がっています。ロシアの広大な国土にも到達しています。さらにはモンゴル、アジア諸国に達し、太平洋諸国、オーストラリア、ニュージーランド、そしてインド、インド

ネシアへと広がっています。アフリカの多くの国で御業は発展しています。  
……

しかも、これはほんの始まりにすぎません。教会はこれからも発展と繁栄を続け、全地に広がっていきます。<sup>4</sup>

## 2

### 初期の教会指導者は預言者として、主の業の行く末を見据えていた

1847年7月24日、末日聖徒の開拓者が〔ソルトレーク〕盆地に入りました。その1日か2日前には先遣隊がすでに到着していました。土曜日にブリガム・ヤングが到着し、その翌日の午前と午後、安息日の礼拝行事が行われましたが、集会所となるような建物は何もありませんでした。7月の日曜の焼けつく日差しの下で、人々は馬車の端に腰を掛けたり、車輪に寄りかかって幹部の兄弟の話聞いたのでしょう。季節は進み、翌年の種まき用の収穫を得るために急いで取りかからなければならない仕事が山ほどありました。しかしヤング大管長は、そのときもそれから後も安息日を破ることのないようにと訴えました。

翌日、人々は班に分かれ、周辺地域の調査に出かけました。ブリガム・ヤング、ウィルフォード・ウッドラフ他数人は、野営地から歩きました。……ドームの形をした山の頂に登りました。体調を崩していたヤング大管長にはきつい道のりでした。

山頂に着いた兄弟たちは、南に広がる盆地を見渡しました。そこはほとんど荒地と言ってよく、僅かに山から湖へと流れる川の岸に沿って柳やイグサが生えているだけで、建物らしきものは一つもありませんでした。しかし、その前の土曜日、ブリガム・ヤング大管長はそこを「まさにこの地だ」と言ったのです。

彼らが立った頂は、イザヤの偉大な預言の言葉を引用してエンサインピーク（旗の峰）と名付けられました。「主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き、地の果から彼ら<sup>はて</sup>を呼ばれる。見よ、彼らは走って、すみやかに来る。」（イザヤ5：26）

「主は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。」（イザヤ11：12）……

彼らはそのとき、イザヤの言葉の成就となる神殿の建設についても話し合ったのではないのでしょうか。

「終りの日に次のことが起る。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべて国はこれに流れてき、

多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。」（イザヤ2：2－3）

1847年7月の朝に、誰か彼らの言葉を聞いた人がいたとしたら、何と愚かな人たちだと言ったかもしれません。彼らは偉大な夢を持った政治家のように見えませんでした。地図を丹念に見ながら帝国の建設を計画する支配者のようにも見えませんでした。彼らは、ミシシッピ〔川〕沿いの美しい町を追われ、西部のこの砂漠地帯にたどり着いた流浪の民でした。しかし彼らには、聖文と啓示の言葉を通して未来がしっかり見えていました。

この少人数の団が持っていた先見の明に、わたしは感嘆します。それは大胆不敵で、ほとんど信じ難いものでした。東に最も近い入植地から約1,600キロも離れ、太平洋岸からも1,300キロ離れた場所に彼らはいました。未経験の気候に加え、土壌もそれまで住んでいたイリノイやアイオワの肥沃な黒色ローム層とは違いました。そこで作物を育てたことも、冬を経験したことも、建物らしい建物を建てたこともありませんでした。しかし、長旅でボロボロになった服を着、ノーブーからこの盆地まで何千キロも歩き通したブーツ姿のこの預言者たちが語り合ったのは、福千年に備えるためのビジョンでした。この御業の驚くべき行く末について、預言者としての展望を力強く語りました。その日、彼らはエンサインピークから下りると、早速夢の実現に取りかかったのです。<sup>5</sup>

### 3

#### 神の業の神聖な行く末と、その中で自分が果たす役割を見失ってはならない

今の時代、狭い道を歩み、細々とした責任を果たしていると、全体像を見失うことがあります。子供の頃、荷馬車を引く馬をよく見かけました。馬具の中で大切な物の一つが、おもがい（訳注——くつわを固定するために馬の頭にかけるもの）でした。おもがいには目隠しが両脇に付いています。馬が脇に視線をそらすことなく、まっすぐ前だけを見るようにするための馬具です。馬が怖がったり、気が散ったりしないよう、足元だけに注意を払うように考案されました。

わたしたちの中には、そうした目隠しをして働いているような人がいます。目の前の狭い道しか見えず、広い視野で見ることはまったくありません。



ソルトレーク盆地に到着して2日後、ブリガム・ヤングと数人の兄弟たちはドームの形をした山に登り、周辺地域を調査した。この山はエンサインピークと名付けられた。

教会での責任は小さなものかもしれませんが。それを勤勉に果たすことはよいことですし、その責任が、発展する神の王国の壮大な業に役立っていることを知るのもよいことです。

ハロルド・B・リー大管長は、……ある無名作家の言葉を引用して「畑全体を調査してから、小さな土地を耕せ」と言ったことがあります。

それはつまり、全てを包括する偉大ですばらしい主の計画がどれほど広く、深く、高いものであるか、まず幾らか認識したうえで、その中で与えられた自分の責任を勤勉に果たすべきだという意味であると、わたしは解釈しています。

わたしたちにはそれぞれ、耕すべき小さな畑があります。それを耕しながらも、もっと広い視野、すなわち神が定めたこの御業<sup>みわざ</sup>の目的の全体像を見失うことのないようにしなければなりません。それは永遠の父なる神によって与えられました。そして、その壮大な織物を織る業においてわたしたち一人一人に果たすべき役割があります。わたしたちができることは微々たるものかもしれませんが。しかし、決して意味のないことではありません。  
……

……召された責任を果たすとき、この時満ちる神権時代が目的とする雄大ですばらしい全体像を決して見失わないでください。あなたの手にある細い糸で、この壮大な織物を美しく織り上げてください。その図柄は天の御父から与えられたものです。標準の旗を高く掲げてください。わたした

ちはその下を歩くのです。そして、この旗にしみを付けないように、勤勉に誠実に、また忠実に、徳高き生活を送ってください。

この王国の未来は、夜明けとともに消えてしまうはかない夜の夢ではありません。それはまさしく永遠の父なる神の計画であり、御業です。神の全ての子供たちに関わる御業です。

〔開拓者〕であったわたしたちの先祖は、〔ユタという〕この西部の盆地にはびこるヤマヨモギを掘り起して州の基盤を作り、生き延びて発展するために必要な多くの日常の雑事を行いながらも、自分たちが携わっている偉大な大義の壮大さをしっかりと見据えていました。この業を、わたしたちも開拓者と同じビジョンを持って取り組むべきです。わたしたちがこの世を去った後も続く業です。神の御心の下に召された僕であるわたしたちのうえに神の助けがあり、不完全な手で完全な図案を織り上げるために団結して王国を前進させ、建設するために最善を尽くせますように。<sup>6</sup>

#### 4

**わたしたちは国々の旗になることができ、地の民に力をもたらすことができる**

兄弟姉妹の皆さん、福千年に向けた末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるために、もう少し忠実になり、目を上げ、思いを尽くす時が来ました。今は堅固に立つべき時です。わたしたちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解して、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、正しいことをなすべき時です。戒めを守っていることを分かってもらえる時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に愛と優しさを示す時です。誰に対しても、互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なお一層キリストのようになる時なのです。<sup>7</sup>

世の潮流が変わらず（変わる可能性はないでしょうが）、また、わたしたちが預言者の教えに従い続けるならば、わたしたちは世界が注目するさらに特異な際立った民となるでしょう。例えば、家庭が世の圧力に屈して崩壊する一方で、家族が神聖なものであると考える自らの立場に信念を持つならば、わたしたちはさらに際立って特異な民であることが明確になるでしょう。

また、性の放縦の風潮が広まり続ける中で、1世紀半以上にわたり教会が一貫して教えてきたことは多くの人にとってますます特異に、また奇異にさえ感じられるものになることでしょう。

現代社会の道徳観念と相まって、年々アルコール消費量と薬物乱用の件数が増えています。1世紀半以上前に主が定められた教会の立場は、世の人々にとってさらに風変わりなものとなっていくことでしょう。……

安息日ますます買い物と娯楽の日へと姿を変えつつある中で、シナイ山の上で主の指をもって書かれ、近代の啓示でも強調された律法の教えに従う人々は、これまで以上に特異に映るでしょう。

世にありながら世のものとならないことは、必ずしも容易なことではありません。わたしたちは、まったく自分たちだけでは生きられませんし、そうすることを望んでもいません。わたしたちは他の人々と交わらなければなりません。人と交わるとき、親切にし、人を傷つけないようにしましょう。独善的な気持ちを抱かず、そうした態度を避けましょう。それでもわたしたちは自分の標準を守ることができるのです。……

これらをはじめ、教会で教えられているさまざまな標準を守るならば、世の多くの人々をはわたしたちに敬意を払うようになり、また、彼らも正しいと知っていることを守る力を得るでしょう。

イザヤの言葉にこうあります。「多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。」(イザヤ2:3)

妥協する必要はありません。妥協してはならないのです。主がこの神権時代にももされた明かりは、全世界を照らす明かりとなることができます。そして、わたしたちの善い業を見る人々は天の御父をあがめ、わたしたちが示す模範に倣って生活するようになります。

皆さんとわたしをはじめとして、家庭や職場、娯楽の場にいるときでも徳を示すことで、教会全体が山の上の町となって人々はそれを見て学び、さらには国々の旗印となって、地の民の力を強めることができます。<sup>8</sup>

もしこの教会を国民の旗、世の光として掲げようとするならば、わたしたち一人一人がそれぞれの環境の中で、キリストの生涯が放つ輝きをもっと身に付けなければなりません。義を守るとき、結果を恐れてはなりません。決して臆<sup>おそ</sup>してはなりません。パウロはテモテにこう言っています。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)<sup>9</sup>



「もしこの教会を国民の旗、世の光として掲げようとするならば……キリストの生涯が放つ輝きをもっと身に付けなければなりません。」

この業を軽く見てはなりません。これはキリストの大義なのです。善と悪の戦いを傍観するだけではだめなのです。……

……わたしは持てる力の限りを尽くして皆さんに訴えます。日常生活で求められる以上の義務のために行動してください。それはつまり、しっかりと立ち、さらには先導者となって、わたしたちの社会を輝かせ、わたしたちの人生に慰めと平和をもたらす大義のために声を上げることです。皆さんは先導者になることができます。この教会の会員として、教会が擁護するこれらの大義にあって先導者にならないといけないのです。恐れに負けて努力することをやめてはなりません。<sup>10</sup>



わたしたちに、恐れるべきものは何もありません。神がわたしたちを導いておられます。神は、この御業の益となるように、全てをつかさどっておられます。主は戒めに忠実に歩む人々に祝福を注いでくださいます。主はそのように約束されました。主がその約束を果たす力をお持ちであることに、疑問の余地はまったくありません。

……わたしたちの贖い主、また大いなるエホバ、偉大なメシヤであられる救い主はこう約束してくださいました。「わたしはあなたがたに先立つて行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84 : 88)

「それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。……

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。

わたしのわきを突き刺した傷跡と、わたしの手と足にある釘の跡を見なさい。忠実であり、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたがたは天の王国を受け継ぐであろう。」(教義と聖約 6 : 34, 36 - 37)

わたしたちは生ける神の僕として、自分たちが仕え、その御名に栄光を帰そうと努めている神の愛子であられる主の業を行い、手を携え一つとなって前進しようではありませんか。<sup>11</sup>

しっかりと立っていなければなりません。世に抵抗しなければなりません。そうするなら、全能者はわたしたちの力となり、守りとなり、導き手、啓示者となってくださいます。自分は主の望んでおられることをしていると知ることによって慰めを受けます。わたしたちに異を唱える人もいるでしょう。しかし、きっとその人も、わたしたちに敬意を払うようになります。わたしたちは、一人取り残されることはありません。信仰は異なっても、同じ気持ちを抱く人は大勢います。彼らはわたしたちを支えてくれるでしょう。わたしたちの取り組みを支えてくれるでしょう。<sup>12</sup>

主の業におけるこのすばらしい時代を喜びましょう。高慢になったり、尊大になったりしないようにしましょう。謙遜に感謝しましょう。全能者のこの壮大な業が力と善を示すかがり火として全地を照らし、世界中の人々が仰ぎ見ることができるよう、その輝きを一層明るくすることを、わたしたち一人一人が心に誓いましょう。<sup>13</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 第1項を読んでください。1830年から現在に至る教会の発展についてどのように感じますか。
- ソルトレーク盆地に到着した最初の開拓者についてのヒンクレー大管長の記述を読んでください(第2項参照)。この話から何を学ぶことができるでしょうか。初期の教会指導者たちが預言者として見据えていた未来像によって、わたしたちはどのような恩恵を受けてきたでしょうか。「国々の民を招く旗」とはどのような意味だと思えますか(イザヤ 5:26;11:12 参照)。
- 第3項でヒンクレー大管長はわたしたちに、神の業の「全体像」を見て、「もっと広い視野」を持つようにと言っています。全体像を見る必要があるのはなぜでしょうか。全体像を見失うことがあるのはなぜでしょうか。わたしたちの小さな努力は、どのように神の王国の発展に役立つのでしょうか。
- どのような点で末日聖徒がこれまで以上に「特異な際立った民」になっているとヒンクレー大管長は言っているか検討してください(第4項)。神の業を進めるために視野を広げ、さらに大きな勇気を得るにはどうすればよいでしょうか。世にあって世のものとならないためにはどうすればよいでしょうか。「キリストの生涯が放つさらなる輝き」を身に付けるにはどうすればよいでしょうか。正しいことを毅然と守ることはなぜ大切なのでしょうか。

### 関連聖句

マタイ 5:14 - 16; 1 ニーフアイ 14:14; 教義と聖約 1:1 - 6;  
65:1 - 6; 88:81; 115:5 - 6

### 教える際のヒント

「あなたは『真の教師』ではないことを忘れてはなりません。それは重大な間違いです。……御霊の<sup>みたま</sup>じゃまにならないように注意しなければなりません。教師の主な役割は人々が主と霊的な経験を持つことができるように道を備えることです。」(ジーン・R・クックの言葉。『教師、その大いなる召し』41で引用)

## 注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley*(1996年), 83-85 参照
2. 「国民の旗, 世の光」『リアホナ』2003年11月号, 82 参照
3. 「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい」『リアホナ』2007年5月号, 115 参照
4. 「山から切り出された石」『リアホナ』2007年11月号, 84 参照
5. 「国々の民を招く旗」『聖徒の道』1990年1月号, 53-54 参照
6. 「国々の民を招く旗」54-56 参照
7. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76-77 参照
8. 「山の上にある町」『聖徒の道』1990年11月号, 6-8 参照
9. 「国民の旗, 世の光」84 参照
10. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年), 138
11. 「主のみ業」77 参照
12. 「国民の旗, 世の光」83 参照
13. 「教会の状態」『リアホナ』2004年11月号, 6 参照



「楽観になれる理由はいくらでもあります。」

## 幸福観と楽観的な考え方を培う

「信じましょう。幸せでいましょう。失望  
しないでください。万事うまくいきます。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の母親、エイダ・ビトナー・ヒンクレーはある言葉をよく口にしていた。「幸せな気持ちとにこやかな表情があれば、ほとんどどんな不幸でも乗り越えられる。幸せになれるかどうかはその人自身に懸かっているのよ」というものであった。<sup>1</sup>父のブライアント・S・ヒンクレーもまた、「生まれながらに物事を前向きに捉える人」だった。<sup>2</sup>ヒンクレー大管長は昔を思い出してこう語っている。「わたしが子供の頃、批判的な口調になると、父はよくこう言ったものです。『皮肉屋は何も貢献せず、懐疑論者は何も作り出さず、疑り深い者は何も達成しない。』」<sup>3</sup>幼いときに両親の教えと模範から影響を受けたゴードン・ヒンクレーは、楽観的に、信仰をもって生きることを学んだ。

イングランドで宣教師だったときも、両親の教えを守ろうと一生懸命に努力した。毎朝同僚と握手し、「人生とは良いものだ」と互いに言葉を掛け合った。<sup>4</sup>それからおよそ70年後、フィリピンの宣教師たちに同じことを行うよう勧めてこう言った。「昨日はわたしの人生ですばらしい日でした。人生の毎日がすばらしい日です。皆さんの一人一人にとって、毎日がすばらしい日でありますように。朝伝道に出かける準備ができれば同僚と握手して、『兄弟（姉妹）、人生とは良いものですね。さあ、行って良い一日にしましょう』と言えるように望んでいます。そして夜帰って来たら、互いにこう言えるように願っています。『今日は良い日でしたね。すばらしい時間を過ごし、人々を助けることができました。……これからもその人たちを助けて、彼らが教会に入るように祈り、願いましょう。』伝道中は、毎日が良い日であるべきです。』<sup>5</sup>

この勧告は、ヒンクレー大管長の人生観をよく表している。十二使徒定員会員のラッセル・M・ネルソン長老は、ヒンクレー大管長とマージョリー夫人について次のように語った。「二人は過ぎてしまったことを考え込んだり、将来を心配したりして時間を無駄にするようなことはしません。逆境

にあっても足を止めません。』<sup>6</sup>十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老も次のように言っている。『『万事うまくいきます。』これはヒンクレー大管長が家族や友人、同僚たちに確信をもって繰り返し語る言葉です。そして、こう言うのです。『努力を続けましょう。信じましょう。幸せでいましょう。失望しないでください。万事うまくいきます。』』<sup>7</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

多くの人が否定的で悲観的であっても、わたしたちは  
幸福観と楽観的な考え方を培うことができる

この地には、風土病と呼んでいいほどの、悲観主義というひどい病が蔓延<sup>まんえん</sup>しています。また、人格破壊、あら探し、互いの悪口を言い合うなど、不快な出来事は絶えず耳や目に入ってきます。……

皆さんをお願いします。嵐<sup>あらし</sup>を探し求めることをやめ、もっと太陽の光を楽しんでください。つまりわたしは、「良いこと」に目を向けましょう、と言っているのです。わたしがお願いしているのは、もう少し目を凝らして良いことを見つけ、侮辱や皮肉の声を静め、徳と努力に対して一層惜しみない称賛を送ることです。

どんな批判もしないようと言っているのではありません。正すことによって成長することができます。悔い改めによって強さが得られます。人から間違いを指摘されたら軌道を修正できる人こそ賢明な男性女性です。どんな会話も甘く優しいものにしてくださいと言っているのではありません。賢明な言葉を心から率直に述べることは、身に付けて養うために努力すべき技能です。皆さんに提案し、お願いします。社会にはびこる否定主義から離れ、わたしたちが生活する国と時代の本当に優れたところに目を向けましょう。互いの欠点より互いの美德について語りましょう。悲観主義を楽観主義に換えましょう。恐れを信仰に換えましょう。<sup>8</sup>

この世で楽観的に生きるべき理由は十分にあります。確かに悲しい出来事はいっぱいあります。どこも問題だらけです。しかし……悲観的、懐疑的な態度からは何も築くことはできません。何も生まれません。楽観的に物事をとらえ、信仰をもって取り組むとき、事は成ります。<sup>9</sup>

絶望してはなりません。あきらめてはなりません。雲間から差し込む光を見つけてください。そうすれば道が開けてきます。悲観的なことを予測する人たちにあなたの可能性を潰させてはなりません。<sup>10</sup>

幸福についての考え方すなわち幸福観を培ってください。楽天的な心を養ってください。信仰をもって歩み、自然の美しさや、愛する人々の善良さを喜び、神にかかわる事柄への証があることを喜んでください。<sup>11</sup>

主の計画は幸福の計画です。わたしたちが幸福観を培うなら、人生を歩む足取りは軽くなり、煩い事が減り、人間関係はより円滑になるでしょう。<sup>12</sup>

## 2

### くよくよ悩まず、感謝の心を導き手とし、祝福を受けましょう

わたしたちは何とすばらしい祝福を受けているでしょう。どれほどの感謝を尽くせばいいのでしょうか！……日々の生活で受ける祝福と、一人一人が享受しているすばらしい賜物と特権に対する感謝の気持ちを深めましょう。柔和な人は地を受け継ぐであろうと、主は言われました（マタイ5:5参照）。柔和とは、人の助けは要らないという態度とは反対の感謝の心を意味し、人の力を超えるより大きな力があることを認識し、神を認め、神の戒めを受け入れることだと言わざるを得ません。それが知恵の始まりです。命とあらゆる善い賜物を与えてくださる神の前に感謝をもって歩みましょう。<sup>13</sup>

世界の歴史の中で、今ほど地上で生活することがすばらしい時代はありませんでした。これほどたくさんのすばらしい祝福が与えられているこの驚嘆すべき時代に生を受けていることに、わたしたちはそれぞれどれほど感謝すべきでしょうか。<sup>14</sup>

人類の歴史で成し遂げられたことを全て合わせた数よりさらに多くの驚異的なことが、わたしが生きてきた年月の間に達成されました。それを思うとき、わたしはただ畏敬と感謝の念に立ち尽くすばかりです。自動車と飛行機、コンピューター、ファクシミリ、電子メール、インターネットが思い浮かびます。全てが奇跡的で驚異的です。また、医学と公衆衛生の飛躍的な発展についても考えます。……これら全てに加えて、イエス・キリストの純粋な福音の回復がありました。皆さんとわたしが一翼を担っているこの大いなる大義と王国の奇跡と驚異は、地の上に広がり、それを受ける全ての人の生活を祝福していますわたしは心から深く感謝しています。<sup>15</sup>

わたしたちは、時満ちる神権時代に生きています。この言葉に注意してください。時満ちるという言葉に注目してください。これは、過去〔から〕集められ、この最後の神権時代に地上に回復されたあらゆる善を意味しています。

わたしの心は……全能の神への感謝の気持ちでいっぱいです。この世界の神である御子という賜物を通して、わたしたちはこの上ない祝福を受けてきました。「み恵み数えあげ 主の業数え見よ；み恵み数えあげ 主のみ業ほめたたえよ」という賛美歌の歌詞がわたしの心にこだまします（『賛美歌』153番）。<sup>16</sup>

心に感謝の念を抱き、目の前の数少ない問題についてくよくよするのはやめましょう。それより、祝福を数え上げ、深い感謝の気持ちを抱き、大いなる信仰に突き動かされて、地上に神の王国を築くために進みましょう。<sup>17</sup>

夜も昼も感謝の心を導き手とし、祝福を受けましょう。それを目指して頑張りましょう。そうすることですばらしい結果がもたらされます。<sup>18</sup>

---

### 3

---

#### イエス・キリストの福音は喜ぶ理由を与えてくれる

主はこう言われました。「また、心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」〔教義と聖約 25：13〕。主はわたしたち一人一人に、幸福になりなさいと言っておられると、わたしは思います。福音は喜びです。福音があるので、わたしたちには喜びがあります。<sup>19</sup>

自分が何者であるかを決して忘れないでください。皆さんは確かに神の子供です。神は皆さんの永遠の御父であられます。そして皆さんを愛しておられます。……御父は御自分の息子と娘が幸福になることを望んでおられます。罪が幸福を生じたことはありません。背きが幸福を生じたことはありません。不従順が幸福を生じたことはありません。幸福への道は天の御父の計画の中にあり、御父の愛する御子、主イエス・キリストの戒めに従うことにあります。<sup>20</sup>

これまでどのように生活してきたかにかかわらず、皆さんに課題を差し上げましょう。……イエス・キリストの教えに沿って生活し、この教会を、皆さんの信仰の基として愛と敬意と感謝をもって見てください。模範となり、イエス・キリストの福音が人に幸福をもたらすものであることを示してください。<sup>21</sup>

悔い改めは福音の第一の原則の一つです。<sup>ゆる</sup>赦しは神の業です。皆さんには希望があります。皆さんの人生はこれからです。たとえ、過去の人生が罪によって傷つけられたとしても、未来は幸せに満ちたものにすることができます。問題を抱えている人々を救い、助けるのが主の業であり、福音の目的なのです。<sup>22</sup>





「生きている間、大いに楽しみ、笑いましょう。人生とは、ただ堪え忍ぶだけではなく、楽しむためにあります。」

わたしは日頃、与えられた責任の重さについて文句ばかり言う人に多く会います。確かに、わたしたちが受けるプレッシャーは相当なものです。しなければならないことが多くあります。多すぎるほどです。そうした圧力に加えて金銭上の問題もあり、それらを全部抱えていると、わたしたちはよく家の中で、またしばしば公の場でも不平を言ってしまいます。考え方を改めてみましょう。福音とはよきおとずれです。人は喜びを得るために存在するのです〔2ニーファイ2：25参照〕。幸せでいてください。その幸せの光をあなたが輝かし、証あかしを通して伝えましょう。問題が起きることは予想できます。時には悲しい出来事もあるでしょう。しかし、主の次の願いは、こうした苦しいときの光です。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11：28 - 30)

何年か前、わたしは『デゼレトニュース』(Deseret News)のコラムに載っていたジェンキンス・ロイド・ジョーンズの言葉を切り抜きました。わたしの好きな言葉です。皆さんにも紹介します。……彼はこう言っています。

「無上の喜びがごく普通に得られると思う人は、自分はだまされたと叫び回って多くの時間を無駄にするだろう。

ゴルフのパットはなかなか入らないものだ。牛肉はまず固い。ほとんどの子供は成長すればただの人となる。ほとんどの場合、夫婦がうまくいくためには相手への寛容さが大いに求められる。仕事は楽しいよりつまらないことが多い。……

人生とは昔の列車の旅のようなものだ。遅延、本線から側線にそれてしまうこと、煙、ほこり、すす、揺れは付き物で、美しい景色と胸のすくようなスピードが楽しめるのはごくたまにしかない。

大切なことは、主があなたを列車に乗せてくださったことに感謝することだ。」(Deseret News, 1973年6月12日付)

兄弟姉妹、繰り返しますが、大切なことは、列車に乗せていただいたことを主に感謝することです。実際のところ、人生はなかなかすばらしい旅ではありませんか。楽しみましょう。人生を笑い飛ばしましょう。歌いましょう。箴言しんげんの作者の言葉を忘れないでください。

「心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。」(箴言 17:22)<sup>23</sup>

心を軽くすることを人生に取り入れましょう。楽しいこと、幸せなことがありますように。ユーモアのセンスを持ち、折りに触れて愉快なことを笑えるようになりましょう。<sup>24</sup>

生きている間、大いに楽しみ、笑いましょう。人生とは、ただ堪え忍ぶだけではなく、楽しむためにあるのです。<sup>25</sup>

---

## 4

---

### 福音とは勝利の言葉であり、熱意と愛を込め、 楽観的に受け入れるべきものである

今日きょうわたしは、主の業に関する楽観主義者としてここに立っています。神がこの業を打ち立てられたのは、挫折させるためだとはとても信じることができません。この業が弱くなってきているとも信じることができません。この業がますます強くなっていることをわたしは知っています。……

わたしはただ単純に、そして厳肅げんしゆくに、正しいことが勝ち、真理が勝利を収めるという信仰を持っています。<sup>26</sup>

カレブとヨシュアをはじめとするイスラエルの斥候たちの話はいつ読んでも興味深いものです。モーセはイスラエルの民を荒れ野へ導きました。荒れ野をさまよい始めて2年目、彼は十二部族から一人ずつ代表者を選び、カナンの地を探り、その地の産物と人々についての情報を持ち帰るよう指示しました。カレブはユダの部族、そしてヨシュアはエフライムの部族の代表でした。12人はカナンの地へと出かけて行きました。彼らはそこが肥沃な土地であることを知りました。40日の間探索し、その地が肥沃であることの証拠として「熟し始め [た]」ブドウを持ち帰りました（民数 13：20）。

彼らはモーセとアロン、そしてイスラエルの全会衆の前にやって来てカナンの地についての報告をしました。「そこはまことに乳と蜜の流れている地です。これはそのくだものです。」（27節）

しかし斥候のうち10人は、自分の中の疑いと恐れのおもひに負けました。その10人は、カナン人の体格のよさと人数の多さから悲観的な報告をしたのです。「彼らはわたしたちよりも強い」と結論づけ（31節）、その地で見た巨人に比べれば、自分たちはイナゴおぐびようのようなものだと言いました。彼らは自分の臆病さに負けたのです。

次に、ヨシュアとカレブが人々の前に立ち上がり言いました。「わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。

もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。

ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食べ物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません。」（14：7－9）

しかし人々はカレブとヨシュアよりも、懐疑的な10人を信じました。

このとき主は、疑いと恐れを抱いたこの世代の人々が世を去るまで、イスラエルの民は40年間荒れ野をさまようことになるであろうと宣告されました。聖文は「すなわち、その地を悪く言いふらした人々は、疫病にかかって主の前に死んだが、

その地を探りに行った人々のうち、……ヨシュアと、……カレブとは生き残った。」（37－38節）40年間荒れ野をさまよう旅を全うして約束の地

に入る特権を受けたのは、その土地に関して前向きな報告をしたヨシュアとカレブだけだったのです。

わたしたちの周りには、この業の将来に無関心な人、冷ややかな人、限界を口にする人、恐れをあらわにする人がいます。また、自分の思い込みだけで、まったく無意味なあら探しをし、それを公表することに時間を費やしている人もいます。御業の過去に疑いを持つ人に、未来の姿は見えません。

古代の人は言っています。「未来の見えない民は滅びる。」（欽定訳箴言29：18）この業には、悲運と憂鬱の言葉しか信じない人の居場所はありません。福音とはよきおとずれです。勝利を伝える言葉です。熱い思いをもって受け入れるべき大義です。

問題など起こらないと主がおっしゃったことはありません。教会員はこの業に反対する人々が引き起こすあらゆる苦難を体験してきました。しかし、数々の悲しみの中にあっても、彼らは信仰を表してきました。この業は開始当初から常に前進を続け、一歩たりとも後退したことはありません。……

これは全能者の業です。わたしたち個人が前進するかどうかは、各自の責任です。しかし、教会が前進をやめることは決してありません。……

モーセをみもとに召された後、主はヨシュアに言われました。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」（ヨシュア1：9）これは主の業です。決してそれを忘れないでください。愛と熱意をもって受け入れてください。<sup>27</sup>

---

## 5

---

**わたしたちが皆神の子供であることを知れば、もう少し堂々とし、  
もう少し背筋を伸ばし、もう少し善い人になることができる**

今の世の中には、人が互いにけなし合うという悲しむべき傾向が見られます。人を傷つける言葉を発するためにほとんど脳を使う必要がないことに皆さんはお気づきでしょうか。その反対を行ってください。相手に賛辞の言葉を送るように努めてください。……

またこの社会にあるもう一つの悲しい傾向は、多くの人が自分自身を過小評価することです。他の人が自信ありげに見えるかもしれませんが。しかし実際のところ、ほとんどの人は何らかの劣等感を持っているものです。大切なのは、そのことをあまり自分に問いかけないことです。……大切なのは、今自分の持っているものを最大限生かすことです。

自己憐憫れんびんに時間を無駄にしないでください。自分を過小評価しないでください。自分が神の子供であることを忘れないでください。皆さんには神聖な生得権があり、皆さんの内には間違いなく神の性質が宿っています。<sup>28</sup>

わたしたちは「神の子です」（『賛美歌』189番）を歌います。これはただの想像を詩的に表現したものではありません。これは生きた真理です。わたしたちの誰もが、何らかの神性を備えています。そしてその神性は育まれ、表に現れ出なければなりません。神性を表す方法を見つけなければなりません。父親、母親である皆さん、子供たちに彼らが文字どおり神の息子、娘であることを教えてください。自分の内に何らかの神性が備わっていると考えること、世界中でこれより偉大な真理はありません。<sup>29</sup>

自分自身を信じてください。自分には偉大で善いことを成し遂げる力があると信じてください。高すぎて登れない山などないと信じてください。耐えられないほどのひどい嵐あらしはないと信じてください。……皆さんは神の子供です。無限の力を持っているのです。<sup>30</sup>

もう少し堂々とし、もう少し向上し、もう少し善い人間になりましょう。より一層努力してください。もっと幸福になります。それまで経験したことのない満足感と喜びを知りましょう。<sup>31</sup>

もちろん人生には問題も起こります。克服すべき困難もあります。しかし、永遠に続くわけではありません。〔神〕は皆さんをお見捨てにはなりません。……

物事の良い面を見るようにしましょう。主が皆さんを見守っておられることを知ってください。主は皆さんの祈りを聞き、答えを与え、皆さんを愛し、その愛を表してくださることを知ってください。<sup>32</sup>

喜ばしいもの、すばらしいもの、美しいものがたくさんあります。それを基とした人生を歩みましょう。わたしたちはイエス・キリストの福音を生きる者です。福音とは「よきおとずれ」を意味します。主がお伝えになったのは、希望と救いの教えです。また主の声は、喜びを知らせる声です。主の業は栄光ある偉業です。

暗く、苦しいときに主は、愛する者たちに言われました。「あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ 14：27）

この力強い偉大な言葉は、わたしたち一人一人に示されたかがり火です。主こそ、わたしたちが信頼を置くことのできる御方です。なぜなら、主と主の約束は決して滅びることがないからです。<sup>33</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 「もう少し目を凝らして良いことを見つけ」、「幸福観と楽観的な考え方を培ってください」というヒンクレー大管長の勧告について考えてください（第1項）。今日、なぜこの勧告が必要なのでしょう。幸福観を培うにはどうすればよいでしょうか。
- ヒンクレー大管長は、「感謝の心を導き手」とするとき、「すばらしい結果」がもたらされると言いました（第2項）。なぜ「すばらしい結果」がもたらされると思いますか。感謝の念を持つとき、どのように祝福されるのでしょうか。
- 人生を「昔の列車の旅」にたとえた話を読んで、どのようなことを思いましたか（第3項参照）。福音の「よきおとずれ」は人生に対するあなたの取り組みにどのような影響がありますか。
- カレブとヨシュアの話は、あなたの生活にどのように生かすことができますでしょうか（第4項参照）。あなたは今まで、熱心に福音を守っている人々のどのような模範を見てきたでしょうか。失望したとき、どうすればもう一度楽観的に考えることができるようになるでしょうか。主の業をさらに楽観的に受け止める助けとなった経験には、どのようなものがありますか。
- 人に対して、また自分自身に対して過小評価してしまいがちなのはなぜだと思いますか。この傾向を克服するにはどうすればよいでしょうか。どうすれば、人が「もう少し堂々とし」、「もう少し向上〔する〕」のを、個人として、また家族として助けることができるでしょうか（第5項参照）。

### 関連聖句

ヨハネ 16：33；ピリピ 4：13；モーサヤ 2：41；アルマ 34：38；エテル 12：4；教義と聖約 19：38－39；128：19－23

### 学ぶ際のヒント

「学んだ事柄を実行することによって、理解がさらに深まり、永続するものとなります（ヨハネ 7：17参照）。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』19）家庭、職場、または教会の責任において、この教えをどのように自分に当てはめることができるか考えてください。

## 注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: Teachings of Gordon B. Hinckley* (1996年), 37
2. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 37
3. 「絶えず真理を求める」『聖徒の道』1986年2月号, 3参照
4. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 76
5. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995-1999*(2005年), 343
6. ラッセル・M・ネルソン「霊的な包容力」『聖徒の道』1998年1月号, 17参照
7. ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー大管長—信念と勇気の人」『聖徒の道』1995年6月号, 「ゴードン・B・ヒンクレー大管長特別記事」6参照
8. “The Lord Is at the Helm” (プリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1994年3月6日), 3-4, [speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu)
9. ジェフリー・R・ホランド, 「ゴードン・B・ヒンクレー大管長—信念と勇気の人」5-6参照
10. 「絶えず真理を求める」3-4参照
11. 「汝もし忠実にして」『聖徒の道』1992年3月号, 7参照
12. 「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号, 100
13. “With All Thy Getting Get Understanding,” *Ensign*, 1988年8月号, 3-4
14. “The Spirit of Optimism,” *New Era*, 2001年7月号, 4
15. “Keep the Chain Unbroken” (プリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1999年11月30日), 1-2, [speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu)
16. “My Redeemer Lives,” *Ensign*, 2001年2月号, 70
17. “The Lord Is at the Helm,” 6
18. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 34参照
19. 「汝もし忠実にして」7参照
20. 「誠意を尽くし, 忠誠を守る」『聖徒の道』1996年7月号, 109参照
21. 「真理を守り」『聖徒の道』1996年9月号, 5参照
22. 「誠意を尽くし, 忠誠を守る」110参照
23. “Four Imperatives for Religious Educators” (宗教教育者に向けた講演, 1978年9月15日), 4
24. “A Challenging Time—a Wonderful Time” (宗教教育者に向けた講演, 2003年2月7日), 4
25. 「誠意を尽くし, 忠誠を守る」110参照
26. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年), 410
27. 「この道を歩み続け, 信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, 76-78参照
28. 「互いを強める」『聖徒の道』1985年6月号, 3参照
29. *One Bright Shining Hope: Messages for Women from Gordon B. Hinckley* (2006年), 90-91
30. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 452
31. 「すばらしい生き方を求めて」『リアホナ』1999年9月号, 8参照, [speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu)
32. 「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 115参照
33. 「絶えず真理を求める」『聖徒の道』5参照



「福音に従った先人を駆り立てた力は、まさしく神を信じる信仰の力でした。」





## 開拓者が残した信仰と 犠牲という受け継ぎ

「先祖が開拓者であっても、教会に入ったのがつい昨日であっても、皆さんは開拓者が夢見た、教会の壮大な未来を成す一員です。……彼らは土台を据えました。わたしたちの責任は、その土台の上に築くことです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、オハイオ州コロンバス神殿の奉献式で、開拓者だった先祖について思い巡らしていた。大管長は後にこう回想している。

「日の栄えの部屋で椅子に座りながら、曾祖父について考えました。……先日、ニューヨーク州との境のすぐ北の、カナダにある曾祖父の墓を訪れたばかりでした。……曾祖父は 38 歳の若さで亡くなりました。」

ヒンクレー大管長の曾祖父が亡くなったとき、曾祖父の息子アイラは 3 歳にもなっていなかった。アイラはヒンクレー大管長の祖父となった人である。アイラの母親は間もなく再婚し、その後の数年間でオハイオ州、そしてイリノイ州へと移り住んだ。彼女は 1842 年に亡くなり、アイラは 13 歳で孤児となった。ヒンクレー大管長は続けて次のように話している。

「祖父〔アイラ・ヒンクレー〕はノーブーでバプテスマを受け……さらに〔開拓者〕とともに平原を渡りました。」1850 年の旅の途中、アイラの「若い妻と〔異父兄弟〕が同じ日に亡くなりました。アイラは粗末なひつぎを作って二人を埋葬し、生まれて間もない娘を抱いて〔ソルトレーク〕盆地まで歩きました。

彼はブリガム・ヤングの依頼を受けてコーブフォートを建設し、〔ユタ州〕フィルモアで最初のステーキ会長となり、御業を推し進めるために数え切れないたくさんのことを行いました。

そして、父が生まれました。……父は 1 万 5 千人以上の会員がいる、教会で一番大きいステーキの会長になりました。」

間もなく、ヒンクレー大管長の思いは先祖から子孫へと向かった。大管長は、続けてこう語っている。

「神殿の中で、座ってこの3人の男性の生涯について思い巡らしながら、わたしの娘と、その娘である孫、そしてさらにその子供であるひ孫たちに思いをはせました。このとき、自分がこの7世代のちょうど真ん中にいることにふと気がつきました。わたしの前に3世代、そして後に3世代いるのです。

あの聖なる、神聖な宮の中で、わたしにとつともなく大きな責任があることを実感しました。先代の人たちから受け継いできた全てを、今度はわたしの後に生まれてきた世代に伝える責任があるのです。」<sup>1</sup>

ヒンクレー大管長は、開拓者であった自分の先祖や初期の末日聖徒が残した受け継ぎに感謝を表すと同時に、世界各地の教会員は現代の開拓者であるとししばしば強調した。1997年に、グアテマラの聖徒にこう述べている。「今年、モルモンの開拓者がソルトレーク盆地に到着してから150年を祝います。開拓者はほろ馬車や手車で遠い道のりをやって来ました。彼らは道を開拓しました。しかし、今日も開拓の業は続いています。世界中に開拓者がいます。皆さんもその一人です。」<sup>2</sup>タイの聖徒にはこう述べた。「皆さんは、この偉大な国で主の業を推し進める開拓者です。」<sup>3</sup>2002年にウクライナを訪れたときも同じようなことを語った。「教会の初期の時代に開拓者がいました。そして、皆さんも今日の開拓者です。」<sup>4</sup>

初期の開拓者について語るとき、ヒンクレー大管長には、過去に生きていた人々に焦点を当てることよりも、はるかに大きな目的があった。大管長は未来に目を向け、初期の聖徒の信仰と犠牲について次のことを願っていた。「わたしたちは皆、そのとつともない模範を原動力にすることができます。なぜならわたしたち自身も皆、人生において、そして家族において開拓者だからです。」<sup>5</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

初期の末日聖徒の開拓者は未来への展望を持ちながら努力し、彼らを通して現れる神の力に頼ることでついにその信仰を実現させた

信仰があったからこそ、初期に改宗した〔合衆国東部の〕少数の人々は良心の命じるとおりに神を礼拝する平和と自由を求めて、ニューヨークか

らオハイオへ、オハイオからミズーリへ、そしてミズーリからイリノイへ移動しました。

信仰の目があったからこそ、イリノイ州コマースの湿地帯を初めて歩いて渡ったとき、美しい町〔ノーブー〕が見えました。行いを伴わない信仰はむなしいことを確信していたからこそ、湿地の排水をして町を設計し、頑丈な家や礼拝堂、学校を建設し、さらに当時のイリノイで最も立派な建物となった壮麗な神殿を建てました。

……〔間もなく〕迫害が起きました。血に飢えた卑劣な暴徒によって預言者は殺され、彼らの夢は打ち砕かれました。しかし、このときもまた信仰があったからこそ、以前主が命じられたのと同じ方法で一致協力して、脱出の旅に再び備えたのです。

聖徒たちは涙をこらえ、心の痛みに耐えながら、居心地のよい家や仕事場を後にしました。聖なる神殿を振り返り、それから信仰をもって、地図もない未開の西部に目を向けました。1846年2月、真冬の雪の中、ミシシッピ川を渡り、泥まみれになりながらアイオワの平原を越えていきました。

信仰をもってミズーリ〔川〕にウィンタークォーターズを築きましたが、疫病や赤痢、ジフテリアに見舞われたことで数百人の命が奪われました。しかし、生き残った人々は信仰によって支えられました。愛する家族を川辺の丘に埋葬し、1847年の春になると……西部の山々に向かって出発しました。

ブリガム・ヤングは信仰により、熱く乾き切っていたこの盆地を見渡して、「まさにこの地である」と宣言しました。そして4日後に、再び信仰により、……地面をステッキで突いて、「ここに神の宮が建つであろう」と述べたのです。このタバナクルの東にそびえる壮麗で神聖な〔ソルトレイク神殿〕は、それを建てた人々の信仰だけでなく、現在そこで愛をもって献身的に奉仕する人々の信仰をも表す証<sup>あかし</sup>なのです。

パウロはヘブル人への手紙の中で次のように記しています。「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。」（ヘブル11：1）わたしが話した偉大な業績も、かつては「望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認すること」にすぎませんでした。しかし、初期の末日聖徒の開拓者は未来に目を向けて努力し、彼らを通して現れる神の力に頼ることによって、ついにその信仰を実現できたのです。<sup>6</sup>

福音に従った先人を駆り立てた力は、まさしく神を信じる信仰の力でした。まさにこの同じ力によって、人々はエジプトを脱出し、紅海を渡り、

荒れ野を長い間旅し、約束の地にイスラエルを建設することができたのです。……

わたしたちにも、生ける神とその生ける復活された御子に対する力強い証がとても必要です。福音を受けた先人はそのような大いなる原動力となる信仰を持っていました。

彼らには、他のどんな事柄をも超越した、はるかに価値ある未来が見えていました。開拓者が西部に着いたとき、東側で最も近い入植地から約1,600キロ、西側で最も近い入植地から約1,300キロ離れていました。彼らの強さの核心は、永遠の父なる神がおられることを個人個人が知っているということでした。彼らは信仰を持って神を仰ぎ見ることができました。そして、聖典に書かれた、かの偉大な指示を心から信じていたのです。「神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ 37:47) 彼らは信仰をもって、主の御心みこころを行おうとし、信仰をもって天からの教えを理解し、受け入れました。信仰があるからこそ、力尽きるまで働き続け、御父であり神である御方に報告する義務が自分たちにあると確信していました。<sup>7</sup>

わたしたちは輝かしい歴史を受け継いでいます。勇気をもって行動し、原則を固く守り、忠誠を尽くした多くの人々の歴史です。また、信仰によって築かれた歴史です。わたしたちには輝かしい未来が待っています。その未来に向かって、今日踏み出すのです。休んでいる暇はありません。スピードを緩めてはなりません。歩みを遅くしたり、歩幅を狭めたりしてはならないのです。<sup>8</sup>

---

## 2

---

### 初期の末日聖徒の開拓者はシオンという壮大な夢をもって未来を見詰めた

わたしたちはこの偉大な業の土台を据えた人々に深い敬意を表すべきです。……彼らの最大の目標はシオンでした〔教義と聖約 97:21; モーセ 7:18参照〕。開拓者はシオンについて歌い、夢見ました。シオンは彼らの大きな望みでした。彼らの勇壮な旅は比類のない偉業としていつまでも伝え続けなければなりません。何万もの人々による西部への大移動は、命を落とすことも含め、ありとあらゆる危険をはらんでいて、どの幌馬車隊ほろばぐるまも手車隊も、危険を免れることはできませんでした。

わたしはブリガム・ヤングを心から尊敬します。彼は現地を肉眼で見ると前に、示現を通してソルトレーク盆地を見ました。そうでなければ、そこにとどまらなかったと思います。カリフォルニアやオレゴンにはもっと緑豊かな土地がありますし、土壌が深くて肥沃な場所は他にもありまし

た。木材や水がたくさんある所は他にありますし、より安定して過ごしやすい気候の場所もありました。

ユタには山から流れる小川は確かにありましたが、大きな河川はありませんでした。土壌は耕やされたことがまったくなく、暑さで乾ききった地表にくわを入れた人はいませんでした。ヤング大管長がそれほど大勢の人を……一度もくわが打ち下ろされたことのない、収穫がなされたことのない土地へ率いて来たことに、ただ驚嘆します。……

この開拓者は旅で疲れきっていました。ウィンタークォーターズからソルトレーク盆地まで到達するのに111日かかりました。彼らは疲労で弱っていて、衣類は擦り切れ、家畜は酷使されていました。天候は暑くて乾いていました。7月の暑さです。それでも彼らは何年も先に目を向け、福千年の夢、すなわちシオンという壮大な夢を思い描いていました。<sup>9</sup>

先日わたしはイングランド、リバプールの古い棧橋の上に立ってみました。わたしたちが訪れた金曜の朝、そこは特にこれといった動きもない静かなたたずまいを見せていました。しかしそこはかつて、人々の活気でむせ返っていた所です。1800年代、何万人という教会員が、わたしたちの歩いた同じ敷石の上を歩いたのです。彼らはこの教会に改宗し、イギリスの島々やヨーロッパの国々からやって来たのです。その唇に証を、心に信仰あかしを携えてやって来ました。家を捨てて、未知の新世界へ足を踏み入れるのは大変なことだったのではないのでしょうか。無論言うまでもないことです。しかし彼らは熱意と喜びをもってそうしたのです。彼らは船に乗り込みましたが、当時の船は帆船です。どんなに順調な航海であっても、さまざまな危険が伴うことを彼らは知っていました。航海はつらいことの連続でした。船尾の窮屈な部屋で何週間も過ごさなければなりません。病と嵐、また船酔いにも耐えなければなりません。途中で多くの人が死に、海に葬られました。つらく、恐怖に満ちた旅でした。心に疑いが生じたこともあったでしょう。しかし彼らの信仰は疑いに打ち勝ち、将来への希望は恐れを克服していきました。彼らにはシオンという夢がありました。そして、その成就に向けて進んだのです。<sup>10</sup>

### 3

#### ウィリー手車隊とマーティン手車隊の救助は、 イエス・キリストの福音の真髄を表している

1856年10月……を振り返ってみましょう。〔10月4日〕土曜日にフランクリン・D・リチャーズと何人かの同僚が、〔ソルトレーク〕盆地に到着しました。ウィンタークォーターズから旅して来たのでした。元気な雄

牛と軽い荷車の編成だったために、旅は速やかに進みました。リチャーズ兄弟は、直ちにヤング大管長を訪ね、子供を含む何百人かの男女が、……〔ソルトレーク〕盆地に通じる長い道のりにわたってあちこちに散らばっているということを報告しました。ほとんどの人は手車を引いていました。……行く手には、ロッキー山脈に至る、ずっと上り坂の続く、長く険しい道が控えていました。彼らは非常に危険な状態にありました。……助けがない限り、皆死んでしまうことでしょう。

ヤング大管長は、おそらくその晩、眠れなかっただろうと思います。困難に苦しむ……人々の姿が、心に次々と浮かんだことでしょう。

翌朝、彼は……聴衆を前にこう言いました。

「わたしは、これから話をする長老たちに代わって、教会員に申し上げたいことがあります。……大勢の兄弟姉妹が、平原を手車でこちらに向かっています。ほとんどの人は、ここから1,100キロぐらい離れた所にいます。彼らをここへ連れて来なければなりません。彼らに援助を送る必要があります。……わたしが申し上げたいのは、彼らをここに連れて来てほしいということです。

これは、わたしの信じていることであり、わたしが受けた聖霊の指示です。その人々を救いましょう。

わたしは今日、ビショップの皆さんに要請します。60頭の元気ならばの隊と12台から15台の荷車が必要です。明日まで待つことも、その翌日まで待つこともできません。牛を送ろうとは思いません。必要なのは元気な馬とらばです。ここには馬もらばもいます。ぜひそれを集めなければなりません。また12トンの小麦粉と、実際に馬<sup>か</sup>やらばを駆る人の他に、良い御者を40人そろえる必要があります。

皆さんに申し上げます。わたしが今話しているような原則を実行に移さない限り、皆さんの中で、その信仰、宗教、信仰告白によって神の日の栄えの王国に救われる人は誰もいないでしょう。さあ、行って、今平原にいる人々を連れて来てください。」(リロイ・R・ヘーフェン、アン・W・ヘーフェン共著、Handcarts to Zion [1960年], 120 - 121)

その日の午後、女性たちの働きによって多くの食糧、寝具、衣類が集まりました。

翌朝、馬のていてつが打ち変えられ、荷車の修理や荷積みが行われました。

翌日の火曜日の朝、16台の荷車が東に向けて出立しました。10月の末までには同じ道を250台の荷車が救助に向かいました。<sup>11</sup>



「窮地に立つ聖徒たちのもとに到着したとき、救助隊は天からの使者のようでした。」

窮地に立つ聖徒たちのもとに到着したとき、救助隊は天からの使者のようでした。人々は感謝の涙を流しました。手車隊の人々は急いでソルトレークの入植地に行けるよう、荷車に移されました。

200人以上が亡くなりましたが、1,000人が助かりました。<sup>12</sup>

こうした聖徒の<sup>かんなん</sup>艱難辛苦や死の話は度々繰り返されることでしょう。……彼らの救助についての話も、何度も繰り返される必要があります。イエス・キリストの福音の真髄を表しているのです。

……山中のこのシオンに向かう途中で、雪に見舞われ、凍えたり死んでいたりする兄弟姉妹が、今はいないことに、感謝しています。しかし、絶望的な環境にあって、助けを求めている人は大勢います。

飢えや貧困に苦しむ人、助けを必要としている人は、世界中に大勢います。わたしたちは、この教会の会員ではなくても本当に援助が必要な人々、わたしたちの力で援助できる人々に、助けの手を差し伸べていますが、それができることに、感謝しています。しかし、あまり間口を広げすぎる必要はありません。苦しみや、悩み、孤独、恐れのために、助けを求めている

人が、身近にいるからです。そのような人々に援助の手を差し伸べて、彼らを引き上げること、飢えている者を食べさせ、真理と正義を切望している人の霊を育むことは、わたしたちの神聖かつ重大な責任です。

目的なくさまよい、麻薬や非行、不道德な行為、そしてそれらにまつわるあらゆる罪悪に巻き込まれ、悲しみの道を歩いている若人が非常に多くいます。夫に先立たれ、親切な声や、愛に満ちた心からの気遣いを待ち望んでいる人々もいます。かつては信仰を持って熱心だったにもかかわらず、だんだんそれが冷めてきている人がいます。教会に戻ることを望みながら、どうしたらよいのかまったく分からずにいる人も大勢います。彼らは優しく差し伸べられる手を必要としています。少しの努力があれば、その多くの人が、また戻って来て、主の食卓で再び恵みにあずかれるようになります。

兄弟姉妹の皆さん、わたしには今、望み、祈っていることがあります。……皆さん一人一人に、困っている人、苦しみを抱えて困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会に導く決心をしていただきたいのです。そしてその人たちが、教会員の力強い手と優しい心によって温かく迎えられ、慰められ、支えられ、幸福で実り多い道を歩めるようにしてほしいのです。<sup>13</sup>

---

## 4

---

### わたしたち一人一人は開拓者である

現在を評価し未来への見通しを立てるために過去に目を向けることは良いことです。未来に待ち受けているものが何であれ、それに立ち向かう力を得るために先人の高潔さに目を向けることは良いことです。熱心に働きながらも、この世ではほとんど何も得ることのなかった人々があります。しかし、彼らの夢と初期の計画は進展し、現在わたしたちはその恩恵にあずかっています。彼らの行った事柄を思い巡らすのは良いことです。わたしたちは皆、そのとてつもない模範を原動力にすることができます。なぜならわたしたち自身も皆、人生において、そしてしばしば自分の家族においても開拓者だからです。また、多くの人は世界各地で福音の礎を据えようと日々努めています。<sup>14</sup>

わたしたちはまだ開拓者の業を続けています。民がノーブーを後にして、……やがてグレート・ソルトレーク盆地へと下って行ったあのときから、開拓者としての業をやめたことはありません。一連の旅には危険もありました。しかし、その目的は、定住して、良心の命じるとおりに神を礼拝するための場所を見つけ出すことでした。……



現在、わたしたちは世界中で成長を続け、……〔かつては〕とても入国できない〔い〕と思われたような国々でも業を進めています。……わたしは教会がフィリピンで発展していく様子を見てきました。わたしは1961年にフィリピンにおける伝道活動を開始する特権を受けました。1961年5月に開いた集会に出席していたフィリピン人の教会員は1人でした。〔1996年に〕マニラに来たときは……3万5千人を超える人々があの巨大なアラネタ・コロシウムに集まりました。……偉大なフィリピンの地で業を開始した当時〔から考えると、〕奇跡としか思えません〔この経験について詳しくは29－30ページ参照〕。

教会は至る所に福音を<sup>の</sup>宣べ伝えようとしています。そのために開拓者の業を続けなければなりません。一部の地域では、宣教師は最良の環境で生活しているわけではありませんが、業を行うために出て行き、その働きが実を結びます。すると、見る見るうちに会員の数は数人から100人、500人、1,000人と増えていきます。<sup>15</sup>

教会における開拓者の業はまだやんでいません。幌馬車や手車の時代とともに終わっていないのです。……開拓者は、福音を教える宣教師の中に、また教会に入ってくる改宗者の中にいます。たいていの場合、開拓者であることは難しいことで、必ず犠牲が伴いますし、時には迫害も伴います。しかし、これらの代価は喜んで支払われ、その価値は、1世紀以上前に壮大な開拓者の業の中で平原を渡った人々の犠牲の価値と同じように貴いのです。<sup>16</sup>

先祖が開拓者であっても、教会に入ったのがつい昨日であっても、皆さんは開拓者が夢見た、教会の壮大な未来を成す一員です。開拓者が行ったのはとてつもない業でした。わたしたちにはそれを継続していく大きな責任があります。……彼らは土台を据えました。わたしたちの責任は、その土台の上に築くことです。

開拓者は道を作り、先導してくれました。わたしたちの義務は、その道が世界全体を包み込むまで、それを大きくし、広くし、強めることです。……あの困難な時代、開拓者が指針としたのは信仰でした。今日、わたしたちが指針とするべきものも信仰なのです。<sup>17</sup>

---

## 5

---

**わたしたちは開拓者の模範に倣い、彼らが据えた土台の上に  
建てることで、彼らの残した犠牲と受け継ぎに敬意を表す**

兄弟姉妹、偉大な受け継ぎがあるのは何とすばらしいことでしょう。わたしたちの前に道を切り開き、行くべき道を備え、わたしたちやさらに後



「先祖が開拓者であっても、教会に入ったのがつい昨日であっても、皆さんは教会の壮大な未来を成す一員です。」

の世代にとって人生の道しるべとなる大いなる永遠の原則を教えてくれた人々がいたと知っていることは、何と喜ばしいことでしょう。今日、わたしたちは彼らの模範に倣わなければなりません。開拓者は大いなる信仰、深い忠誠心、考えられないような勤勉さ、そして絶対に屈しない、揺るぎない高潔さを持つ人々でした。<sup>18</sup>

今日、わたしたちは〔開拓者の〕多大な貢献の恩恵を受けています。わたしたちがそのことに感謝しますように。開拓者が行った全てのことに深い感謝の念を持ち続けますように。

……開拓者は大いなることを成し遂げるように期待されていました。わたしたちも同じです。開拓者が主から受けたものを使ってどんなことを成し遂げたか、わたしたちは知っています。わたしたちはさらに多くのものを受けており、出て行って神の王国を築くという非常に大きなチャレンジを受けています。やるべきことはたくさんあります。わたしたちはあらゆる国民、部族、国語の民、民族に福音を携えて行くという神聖な命令を受けています。人々を教え、主イエス・キリストの名によってバプテスマを

施すという命を受けています。復活された救い主はどのように言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を<sup>の</sup>宣べ伝えよ。」〔マルコ 16：15〕……

わたしたちの先祖は、堅固なすばらしい土台を据えてくれました。現代のわたしたちには、キリストを隅のかしら石として、全てを備えた教会という建物を築くすばらしい機会があります。<sup>19</sup>

皆さんは〔開拓者の〕全ての計画と骨折りが結んだ実です。……開拓者は何とすばらしい人々だったのでしょうか。これまでの歴史を通じて、彼らの偉大な功績に並ぶものは他にありません。……神の祝福により、彼らに関する記憶をわたしたちの益とすることができますように。人生がつらいとき、全てを失ったと落胆するとき、わたしたちは開拓者を思い出し、彼らがいかに大変だったか知ることができます。未来を不安に思うとき、開拓者とその偉大な信仰の模範を見ることができます。……

これほど大いなる受け継ぎを得ているわたしたちは、前進しなければなりません。決して力を緩めてはいけません。頭を高く上げて、高潔に歩まなければなりません。「義を行い、結果を神にゆだね」なければならないのです（『賛美歌』〔英文。1985年〕、237番）。<sup>20</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ソルトレーク盆地に集合する開拓者にとって、なぜ信仰が不可欠だったのでしょうか（第1項参照）。彼らはどのような方法で信仰を実践したのでしょうか。わたしたちの前にある「壮大な未来」を実現するため、わたしたちはどのような方法で信仰を実践できるのでしょうか。
- ヒンクレー大管長は、初期の開拓者はシオンを「最大の目的」「大きな望み」「夢」として未来を見ていたと教えています（第2項）。このことが初期の開拓者にとってこれほど力強い原動力となったのはなぜだと思いますか。今日、どのような類似の望みがわたしたちの原動力となっていますか。
- ヒンクレー大管長が語ったウィリー手車隊とマーティン手車隊の救助の話について考えてください。あなたはどんなところに感銘を受けましたか（第3項参照）。救助するよというブリガム・ヤングの指示は、どのような点で彼が預言者として靈感を受けたことを示していますか。大管長の指示

に従った人々から何を学べるでしょうか。今日、助けの必要な人々を救助し、引き上げるために何ができるでしょうか。

- 過去に目を向けることは、どのような点で「現在を評価し未来への見通しを立てる」助けになりますか。(第4項参照)。わたしたち一人一人はどのような点で開拓者でしょうか。
- なぜ初期の開拓者に敬意を表すことはわたしたちにとって良いことなのでしょう(第5項参照)。全ての教会員はどのような点でこれらの開拓者の信仰と犠牲によって祝福を受けているでしょうか。初期の開拓者の模範は、わたしたちが困難に直面するときに、どのような助けとなるでしょうか。

### 関連聖句

マタイ 25 : 40 ; エテル 12 : 6 - 9 ; 教義と聖約 64 : 33 - 34 ; 81 : 5 ; 97 : 8 - 9 ; 98 : 1 - 3

### 教える際のヒント

「福音を教える場合、そのほとんどは有意義な話し合いを展開することが基本となっている。……よく管理された話し合いは生徒の関心と集中力を高める。生徒一人一人を学習のプロセスに積極的に参加するよう励ますことができる。……よく考えて答えさせるような質問を投げかけ、また一人一人が福音について真剣に考えるよう助ける。」(『教師、その大いなる召し』63)

### 注

1. "Keep the Chain Unbroken" (ブリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1999年11月30日) 2, speeches.byu.edu
2. グアテマラシティー北地区、南地区大会で行われた説教, 1997年1月26日, 2; 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ
3. タイのバンコクで開かれた会員との集会で  
行われた説教, 2000年6月13日, 2; 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ
4. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 360 - 361
5. "The Faith of the Pioneers," *Ensign*, 1984年7月号, 3
6. 「神が授けて下さった信仰」『聖徒の道』1984年1月号, 89 - 90 参照
7. "The Faith of the Pioneers," 5 - 6
8. 「神が授けて下さった信仰」90 参照
9. "These Noble Pioneers" (ブリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1997年2月2日) 1 - 2, speeches.byu.edu
10. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, 77 参照
11. 「援助の手を差し伸べる」『聖徒の道』1997年1月号, 98 参照
12. 「山を動かす信仰」『リアホナ』2006年11月号, 84
13. 「援助の手を差し伸べる」98 - 99 参照
14. "The Faith of the Pioneers," 3
15. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 592 で引用

16. ゲリー・アバント, "Present-Day Pioneers: Many Are Still Blazing Gospel Trails," *Church News*, 1993年7月24日付, 6で引用
17. "These Noble Pioneers," 2, 4
18. "These Noble Pioneers," 2
19. 「信仰に忠実に」『聖徒の道』1997年7月号, 77参照
20. "These Noble Pioneers," 2, 6



「皆さん一人一人は神の娘です。この至高の事実に込められた驚くべき意味について考えてみてください。」



## 神の娘

「信仰篤<sup>あつ</sup>い女性の力は実に驚くべきものです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレーは生涯を通じて、女性の優れた能力と貢献に感謝を示した。また、神の永遠の計画における女性の役割の大切さについても力強く証<sup>あかし</sup>した。女性の救い主を信じる信仰や、家族と教会における献身的な働きはもちろん、女性にさまざまな機会が増えていることも喜んだ。

ゴードン・B・ヒンクレーの母親エイダは、聡明<sup>そうめい</sup>で教養のある女性で、文学と音楽と芸術を愛した。エイダは 29 歳のとき、先妻を亡くしたブライアント・ヒンクレーと結婚し、母親の死を悲しんでいた 8 人の子供の養育の責任を引き受けた。エイダは愛をもって子供たちを養い、彼らに必要な助けを与え、大家族を切り盛りする方法を学んだ。ゴードンはエイダとブライアントの間に生まれた 5 人の子供の 1 番目だった。ゴードンが 20 歳のときにエイダは亡くなったが、彼女の教えと模範は生涯にわたって彼に善い影響を残した。母エイダについて話すとき、ゴードンは母の絶大な影響力について必ず語った。

ゴードン・B・ヒンクレーの妻、マージョリー・ペイ・ヒンクレーも夫にとっても大きな影響を及ぼした。マージョリーはイエス・キリストの福音を心から愛する力強い女性だった。類いまれな深い信仰を持ち、朗らかな性格で、人生への喜びにあふれていた。妻にしたためた手紙の中で、ヒンクレー大管長は愛と尊敬の思いを表した。

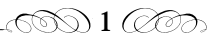
「わたしたちは一緒にありとあらゆる所へ旅し、全ての大陸を訪れてきました。世界の大都市でも、小さな町でも、集会を開いてきました。……何百万という人がわたしたちの声を聞き、あなたのすばらしさを知りました。あなたの打ち解けた話し方は、それを聞く全ての人の好意を勝ち得てきました。現実には則した良識、聡明でさわやかなユーモア、物静かで尽きることのない知恵、そして並外れた揺るぎない信仰が、あなたの言葉に耳を傾ける全ての人の心をすっかりつかんでしまいました。……大好きな読書と

旺盛な探求心は、実り多い長い人生ですっとあなたの精神を研ぎ澄ませ、斬新な物の見方ができるようにしてきたのです。」<sup>1</sup>

ヒンクレー大管長は女性が神から受け継いだ特質についてしばしば話し、さらに躍進し、信仰を深めるよう女性に勧めた。若い女性に対しては、次のように語った。「皆さん〔は〕……文字どおり全能者の娘です。皆さんの可能性に限界はありません。生活をうまくコントロールすれば、将来は機会と喜びに満たされます。自分の才能や時間を無駄にしている余裕はありません。皆さんにはすばらしい機会が待ち構えているのです。」<sup>2</sup>成人女性に対しては、こう述べた。「世は女性の働きと愛、慰め、強さを必要としています。この過酷な世の中には女性の励ましの言葉や女性が生来持つ美しさ、彼女たちが受け継いできた慈愛の精神が必要です。」<sup>3</sup>

最愛の伴侶マージョリーが亡くなった後の総大会で、ヒンクレー大管長は心からの感謝の言葉で説教を締めくくった。「人生で出会う女性たちに心から感謝します。わたしたちの誰もが感謝していることでしょう。彼女たちに神の祝福がありますように。神の大いなる愛が女性たちに注がれ、栄光と美、恵みと信仰の冠が授けられますように。」<sup>4</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



### 女性は神の永遠の計画において崇高かつ神聖な役割がある

皆さん一人一人は神の娘です。この至高の事実に入れられた驚くべき意味について考えてみてください。……

1842年4月に、預言者ジョセフ・スミスが扶助協会の女性に語った言葉を紹介しましょう。彼はこう語りました。「もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんの友とならずにはいられないでしょう。」『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(2007年)、454] 皆さんは何と驚くべき可能性を持っていることでしょう。<sup>5</sup>

皆さん一人一人はとても貴い存在で、……わたしたちの天の御父である神の永遠の計画において、崇高かつ神聖な役割を担っています。皆さんは神に愛され、神にとって貴く大切な神の娘です。神の偉大な計画は皆さんの力なくして実現できません。<sup>6</sup>

姉妹の皆さん、皆さんは御父がその子供たちの永遠の幸福のために定められた計画の中で、劣る位置に置かれているわけではありません。神の計画において、絶対不可欠な位置を占めているのです。皆さんなくして、こ



の計画は機能することができません。女性がいなければ、教会のプログラム全体が立ち行かなくなります。<sup>7</sup>

生まれながらの受け継ぎとして、皆さんは美しく、神聖な、天与の特質を授かっています。決してそのことを忘れないでください。皆さんの永遠の御父は偉大な宇宙の主であります。御父は全てを支配しておられますが、御自分の娘である皆さんの祈りにも耳を傾け、皆さんが語り掛けるときに聞いてくださいます。そして皆さんの祈りにこたえてくださるのです。皆さんを独りにしたりはなさいません。<sup>8</sup>

## 2

### エマ・スミスに対する主の勧告は全ての女性に当てはまる

教義と聖約第25章は、預言者ジョセフ・スミスを通して妻のエマに与えられた啓示です。……主はエマに、そしてわたしたち一人一人にこう言われています。

「わたしはあなたに、わたしの思いについて啓示を与える。あなたが忠実であって、わたしの前に徳の道を歩むならば、わたしはあなたの命を守ろう。そして、あなたはシオンで受け継ぎを得るであろう。」〔教義と聖約25:2。16節も参照〕……

全能の神が与えてくださる祝福を受けるかどうかは、わたしたち一人一人の意志に大きく左右されます。もし祝福が欲しければ、代価を払わなければなりません。その代価の一つが、忠実であることです。何に対する忠実さでしょうか。自分自身、すなわちわたしたちの内にある、至高の特質に対する忠実さです。いかなる女性といえども、自分の品位を落としたり、卑下したり、自分の能力や才能を軽んじたりすることは許されません。それぞれが持つ大いなる、神聖な特質に誠実でなければなりません。福音に忠実に、また教会に忠実でありましょう。わたしたちの周囲には、教会を傷つけ、初期の指導者の弱点を見つけ、プログラムのあら探しをして、批判の声をあげようとしている人が大勢います。わたしは心から証します。この業は神の業であり、この教会に反対する人は神に反対しているのです。

神に忠実でありましょう。神は皆さんの力の真の源であり、天の御父であります。神は生きておられ、祈りを聞いてこたえてくださいます。神に忠実でありましょう。

主は続けてエマに「あなたが……徳の道を歩むならば」と言われました。

……全ての女性はこの言葉の意味が分かることと思います。エマ・スミス、ひいてはわたしたち全員に与えられたこの言葉は、神の王国で受け継ぎを

得る人が満たさなければならぬ条件を示していると思います。徳の欠如は、神の戒めに対する従順と相反するものです。徳ほど麗しいものはありませんし、徳の力ほど大いなる力はありません。また、徳を備えた高潔さに匹敵する高潔さは他にありません。徳以上に麗しく魅力的な特質はないのです。……

エマは「選ばれた婦人」と呼ばれました〔教義と聖約 25：3〕。別の聖句を使って表現すれば、彼女は「主の選ばれた器」でした（モロナイ 7：31 参照）。皆さん一人一人は選ばれた婦人です。イエス・キリストの回復された福音にあずかる者として、世の中から選び出されています。皆さんが自分の選びを確かなものとし、それにふさわしい生活をするならば、主は皆さんを尊重して、大いに高めてくださるでしょう。……

エマはまた、「わたしの御霊<sup>みたま</sup>により知らされるままに、聖文を説き明かし、教会員に説き勧めるために」ジョセフの手によって聖任<sup>9</sup>されました〔教義と聖約 25：7〕。

エマは教師となって、真理と義について教えるように期待されていたのです。主はこの召しに関して、次のように告げられました。「あなたは聖霊を受けるであろう。また、あなたの時間は、記録することと、多く学ぶことに費やさなければならない。」「教義と聖約 25：8〕

エマは福音を研究し、同時に世の中のことも学ぶ必要がありました。これは一連の啓示の中で明らかにされており、わたしたち全員にも当てはまります。エマは「多く学ぶことに」時間を費やし、自分の思いを記録にとどめるように言われたのです。

現代の女性の皆さん、年齢を問わず、全ての人が記録を残し、日記を書き、自分の考えを紙に記すよう勧めます。書くことは厳しい鍛練です。努力に努力を重ねて身につけなければならないものです。……書くことはさまざまな場面で役立ち、家族をはじめとする多くの人の生活に祝福をもたらすことでしょう。……

啓示の中で、〔エマ〕は「わたしの御霊により知らされるままに、聖文を説き明かし、教会員に説き勧める」ように命じられました。

エマとこの教会の全ての女性に対して、何とすばらしい責任が与えられていることでしょうか。聖なる御霊の導きに従って、学び、備え、思いを整理し、聖文を説き明かし、善い行いをするように説き勧めるのです。

主は続けてこう言われました。「あなたはこの世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求めなければならない。」「教義と聖約 25：10〕

主がエマに、衣食住について心配しないように言われたわけではないとわたしは思います。わたしたちの多くがそうであるように、これらについて過度に心を悩ませてはならないと主は言っておられたのです。人生においてより気高い事柄、正義と善に関わる事柄、人々への慈愛と愛、永遠に関わる事柄に思いを向けるように言われたのです。……

主はさらに、こう言われました。「また、心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」〔教義と聖約 25：13〕

わたしたち一人一人に、幸福になるように言われているとわたしは思います。福音は喜びをもたらします。歓喜する理由がわたしたちにあります。もちろん悲しみのときもあります。心配し、不安になるときもあります。誰でも悩むことがあります。しかし、心を励まして喜びなさいと主は告げておられるのです。<sup>10</sup>

### 3

#### 母親には義と真理の下で子供を育てる神聖な召しがある

あらゆる国家、社会、家族の真の強さは、たいていの場合、母親の穏やかで簡素な日々の接し方によって子供が身につける人格にあります。<sup>11</sup>

新しい世代を担う人々を生み出すのは家庭です。母親の皆さんにぜひ次のことを理解していただきたいと思います。結局のところ、安心できる穏やかな環境、一緒にいて、愛があり、成長し物事をうまくできるようになりたいという意欲が湧くような環境で子供を養い育てることほど、大変でありながらも報いの多い務めはありません。<sup>12</sup>

全ての母親に申し上げます。皆さんの召しは神聖なものです。皆さんの代わりを務められる人は誰もいません。この世に迎え入れた子供を、愛と安らぎと誠実さをもって育てることほど大きな責任と義務はありません。<sup>13</sup>

光と真理の中で子供を育てましょう。小さな頃から祈ることを教えてください。たとえ全部は理解できなくても、聖文を読み聞かせてください。また、初めてお金を手にしたときには什分の一と献金を納めることを教えましょう。そしてそれが生涯にわたって習慣となるようにしてください。息子には女性を尊ぶことを教えてください。娘には徳を守って生きるように教えましょう。教会の責任を引き受けてください。どのような責任であっても、主が皆さんをそれにふさわしい者となれるよう助けてくださると信じてください。皆さんが子供の手本となるのです。<sup>14</sup>

母親の皆さんに神の祝福がありますように。人々の努力の成果が全て決まり、人々が人生の戦いに疲れ果て、この競争の世で人が手に入れようと



「母親の皆さんに神の祝福がありますように。……皆さんはそこにいて、……新しい世代を強めなければなりません。」

するものが全て目の前で消えていくとき、皆さんはそこにいるでしょう。皆さんはそこにいて、人類の飽くなき進歩を担う新しい世代を強めなければなりません。新しい世代がどのような成長を遂げるかは、皆さんに懸かっているのです。<sup>15</sup>

#### 4

### 女性は救いの業において大きな責任を担っている

この教会の女性には強さと大きな能力があ〔ります〕。この主の王国の一翼を担い、神権者と手を携えて御業を推し進めるときに、指導と指示が与えられ、確かな独立心と深い充実感があります。<sup>16</sup>

神はこの教会の女性に、神の王国を築くうえでなすべき業を与えられました。それは、責任の3本の柱の全てに関わっています。責任の3本の柱とは、第1に世界に福音を宣べ伝えること、第2に教会員の信仰を強め幸福を築くこと、第3に死者の救いの偉大な業を推し進めることです。<sup>17</sup>

教会の女性は兄弟たちと協力して、主の大いなる業を推し進めています。……主の計画の下で女性は重要な責任を担い、その責任を果たす義務を負い、任された組織を指導します。しかもその組織は強固で活気にあふれ、世の中をよくするために際立った力を発揮します。女性は神権者と同じ責

任を担っています。地上に神の王国を築くために、全ての人が力を合わせて働くのです。わたしたちは女性の能力を尊重し、女性が指導力と強さを発揮し、任された組織の管理運営を通してすばらしい結果をもたらすように期待しています。……わたしたちは女性の皆さんを神の娘として支持し、支援します。神の全ての息子娘の不死不滅と永遠の命をもたらす神の業においてともに働きます。<sup>18</sup>

## 5

### 扶助協会は計り知れない祝福をもたらす

扶助協会の姉妹たちは文字どおり、主の愛の腕に永遠に抱かれています。わたしが知る限り、扶助協会は世界最大の女性の組織です。扶助協会は神によって創設されました。ジョセフ・スミスは1842年に扶助協会を組織したとき、預言者として語り、行動しました。<sup>19</sup>

教会の女性が主の計画から見て適切かつ正しいことのために力強く確固として立つのは、この上なく重要なことです。この教会の扶助協会に匹敵する組織はどこを探しても見当たらないとわたしは確信しています。……〔この組織に属する会員〕が一つとなり、声を一つにして語るとき、その力は計り知れません。<sup>20</sup>

わたしが出席したあるステーキ大会で、シングルアダルトワードの扶助協会会長を務める若い女性が、奉仕について、そして自分のワードの若い女性たちに与えられたすばらしい機会について話しました。扶助協会にはこれが全てそろっています。皆さんのための組織があり、有能な指導者が勧告を与えてくれます。皆さんが困難に遭い、悩んでいるときに手を差し伸べてくれる人々があります。<sup>21</sup>

何百万もの女性がどれほどの奇跡的な影響を受けてきたか、想像できる人がいるでしょうか。姉妹たちは知識を増し加え、広い視野を持つようになり、生活に幅ができ、神に関わる事柄を深く理解するようになりました。それは皆、扶助協会の集会で数知れぬレッスンが効果的に教えられ、また姉妹たちがそれを学んできた結果なのです。

親しく交わり、ワードや支部の輪の中で知り合い、甘美で貴いきずなを通して互いの生活を豊かにすることで、姉妹たちがどれほど喜びを経験してきたか、想像できる人がいるでしょうか。

慈愛にあふれた行為がどれほど行われてきたか、想像力をいっぱい働かせても、推し量れる人がいるでしょうか。何も無いテーブルに食物が置かれ、重い病気にかかった人の信仰が養われ、傷口に包帯が巻かれ、苦し

みは愛に満ちた助けの手と静かな励ましの言葉によって和らげられ、愛する人を亡くし孤独を感じる人に慰めが与えられてきたのです。……

地元の扶助協会が取り組み、行ってきた働きの数を、計り知ることのできる人はいません。これらの組織に属する女性の生活にどんな善い影響があり、彼女たちの善い行いを通してどのような恩恵がもたらされたか、推し量ることのできる人はいません。……

末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会に神の祝福がありますように。扶助協会の姉妹たちの原動力となってきた愛の精神が……ますます広がり、世界中に伝わりますように。姉妹たちの慈愛に満ちた行いがあるところで、数え切れない人の生活に善い影響がありますように。そして、この非凡な、神によって定められた組織を通して、光と理解力、学習と知識、永遠の真理が、世界の国々において、これから生まれてくるたくさんの世代の女性の人生に彩りを添えますように。<sup>22</sup>

---

## 6

---

### 自分の内にある神の特質を伸ばす

皆さんは巨大とも言える末日聖徒イエス・キリスト教会の女性の集合体なのです。……皆さんに秘められた大なる善の力がどれほどのものか誰も計算することはできません。……わたしは……これまで社会の進歩を支える土台となってきた大切な徳を守るに当たり、皆さんが気高く強くあるようにチャレンジします。皆さんが一つとなるとき、その力に限界はありません。皆さんは自分たちの望むどんなことでも達成することができます。そして、サタンの力が猛威を振っているように見え、価値が崩壊している世の中であって、皆さんは本当に必要とされています。<sup>23</sup>

あらゆる地に住む女性たちに申し上げます。皆さんが持っている大きな可能性を発揮していただきたいと思います。能力以上のことをしてくださいとお願いしているわけではありません。できないからと言って、自分を責めないでください。能力以上の目標を立てる必要はありません。ただ、できるだけのことを、最善を尽くして行ってください。それによって、皆さんは目の前で奇跡が起きるのを見るでしょう。<sup>24</sup>

今では地球上に何百万にも達している忠実な末日聖徒の女性の皆さんにわたしの感謝を申し上げます。善いことを成し遂げる皆さんの力は大なるものです。皆さんの才能と献身は驚くべきものであり、皆さんの信仰と、主と主の業への愛、そして神の息子、娘への愛はこの上なく大きいものです。福音に従った生活を続け、全ての友人に信仰を表してください。皆さんの



「あらゆる地に住む女性に申し上げます。皆さんが持っている大きな可能性を発揮していただきたいと思います。」

善い行いは皆さんの語るどんな言葉よりも説得力を持つでしょう。信仰と忠実さをもって、徳と真理のうちを歩んでください。皆さんは永遠の父なる神が定められた永遠の計画の一部なのです。皆さんの過ごす一日一日が永遠の一部です。

皆さんの多くが非常に大きな重荷を負っていることを知っています。教会の友人、すなわち皆さんの兄弟姉妹がその重荷を負うのを助けてくれますように。皆さんの祈りが、皆さんを愛し、助けとなる力と要因をもたらしてくださる御方に届きますように。これは奇跡の業です。そのことは皆さんも、わたしも知っています。言うのはたやすいことですが、あえて申し上げます。落胆しないでください。ぜひ信仰をもって進んでください。<sup>25</sup>

信仰篤い女性あつの力は実に驚くべきものです。この力はこの教会の歴史において幾度となく示され、今でも、わたしたちの間にあります。これは皆さんの内にある神の力の一部だとわたしは思います。

姉妹の皆さん、神から授かったその特質を伸ばしてください。そうした努力を通して、皆さん自身のため、そして皆さんの後に続く全ての人のために世界をよりよい場所に変えてください。<sup>26</sup>

この教会に素晴らしい女性たちがいることを、神に感謝します。神が皆さんの心に、自分の能力に対する誇りと、どのような嵐の中でも皆さんを導く真理への確信を、植え付けてくださいますように。<sup>27</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- ヒンクレー大管長の教えから、天の御父が御自分の娘たちに対して抱いておられる気持ちについて、どのようなことが分かるでしょうか(第1項参照)。神の永遠の計画における女性の「崇高で神聖な役割」を理解することはなぜ大切なのでしょうか。
- エマ・スミスに対する主の勧告の中で、あなたにとって特に役立つ部分はどこでしょうか(第2項参照)。第2項では、忠実であることについてどんなことを学べますか。「選ばれた婦人」であることについてどんなことを学べますか。聖文を自分に当てはめる方法についてどんなことを学べますか。
- 母親に対するヒンクレー大管長の勧めを読むときに、どんなことを感じますか(第3項参照)。母親の影響によってどんな祝福を受けてきましたか。親にとって、「愛と安らぎと誠実さをもって」子育てをすることほど「大きな責任と義務」はないのはなぜでしょうか。
- あなたはどのような例を通して、教会の女性の「強さと大きな能力」を目にしましたか(第4項参照)。女性が「神の全ての息子娘の不死不滅と永遠の命をもたらす」方法にはどのようなものがありますか。主の業を推し進めるために男性と女性がともに働くことはなぜ大切なのでしょうか。あなたはこのことについてどのような例を見てきましたか。
- ヒンクレー大管長が第5項で述べた、扶助協会がもたらす祝福を読み返してください。若い女性や初等協会で奉仕する姉妹も含めて、扶助協会の姉妹の働きを通してあなたはどのような祝福を受けてきましたか。あなたはどうすればワードの扶助協会を強めることができるでしょうか。扶助協会は女性が善い影響力となるのをどのように助けることができるでしょうか。
- 「皆さんが持っている大きな可能性を発揮」するようにというヒンクレー大管長の勧めについて考えてください(第6項)。どうすれば神の目に映るわたしたちの可能性をよりはっきりと見ることができるでしょうか。どうす



れば自分の可能性を発揮することができるでしょうか。あなたはどのようなときに「信仰篤い女性の力……〔が〕驚くべきもので」あるのを見てきましたか。

### 関連聖句

箴言 31:10 - 31; ルカ 10:38 - 42; 使徒 9:36 - 40; ローマ 16:1 - 2; 2テモテ 1:1 - 5; アルマ 56:41 - 48

### 教える際のヒント

「各レッスンを教える準備をするときは、あなたの最も神聖な思いをいつ伝えるべきか、御霊の導きを祈り求めるべきである。そうすると、レッスンの最後だけでなく、途中でも何度か証をしたいと思うようになるであろう。」(『教師、その大いなる召し』44)

### 注

1. *Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley*, バージニア・H・ピアス編 (1999年), 194 - 195
2. 「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい」『リアホナ』2007年5月号, 115
3. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 509 - 510
4. 「人生で出会う女性たち」『リアホナ』2004年11月号, 85 参照
5. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 110 参照
6. 「神の娘」『聖徒の道』1992年1月号, 109 参照
7. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 76 参照
8. 「気高い道にとどまる」『リアホナ』2004年5月号, 112
9. ヒンクレー大管長がここで使っている「聖任」という語は、教義と聖約 25:7で用いられているのと同じ用法によってこの文で引用されている。英語版の聖典では、この聖句の「聖任」の脚注に「または任命する」(or set apart)と書かれている。回復の初期の時代、「聖任」と「任命」という表現は差異なく使用され、「聖任」は必ずしも神権の職に言及したものでなかった(例えば、教義と聖約 63:45参照)。
10. 「汝もし忠実にして」『聖徒の道』1985年1月号, 87 - 89 参照
11. *Motherhood: A Heritage of Faith* (パンフレット, 1995年), 6
12. 「世の策略に対抗して立つ」112 参照
13. 「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号, 67 参照
14. 「世の策略に対抗して立つ」111 参照
15. *Motherhood: A Heritage of Faith*, 13
16. 「教会の女性」76
17. 「天父から受け継いだ資質に恥じない生き方」『聖徒の道』1984年1月号, 151 参照
18. 「汝もし忠実にして」86 参照
19. 「主の愛の御腕」『リアホナ』2006年11月号, 115
20. 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20
21. 「The BYU Experience」(プリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1997年11月4日) 2, speeches.byu.edu
22. "Ambitious to Do Good," *Ensign*, 1992年3月号, 4 - 6
23. 「母親としての最も大きなチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 112 参照
24. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 696
25. 「神の娘」112 参照
26. 「あなたの内なる神の賜を伸ばしなさい」『聖徒の道』1990年1月号, 99 参照
27. 「天父から受け継いだ資質に恥じない生き方」151 参照



「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ7:7)



## 祈りは何と力のある行為でしょう

「自分の知恵を超えた知恵を得、なすべきことを行う力を受け、安心感と慰めを授かり、感謝を表すために、主に祈ることは意義深く、すばらしいことです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っている。「本当のところ、どんな人も一人では何もできないのです。わたしたちには助けが必要です。その助けは祈りの答えとして与えられるものです。」<sup>1</sup>ヒンクレー大管長は、教会の大管長として物事を決定する際にこの原則を実践した。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は、ヒンクレー大管長について次のように語っている。「彼は類いまれな判断力を持つ<sup>そうめい</sup>聡明な人です。しかし、解決できない問題にぶつかったときはひざまずきます。」<sup>2</sup>

ヒンクレー大管長と妻のマージョリーは、家庭でも祈りの原則を実践した。息子のリチャードはこう語る。「わたしが記憶している限り、家族で祈らなかった日はありません。父の番になると、父は決して芝居じみた口調になったり、感情的になったりせず、心を込めて祈りました。父が祈るのを聞くことでわたしたちは父の信仰の深さがよく分かりました。尊敬する賢明な教師または師に話し掛けるかのような深い敬意をもって神の名を呼びました。また、救い主について語るときも深い愛情を込めて語りました。わたしは子供ながらに、御<sup>お</sup>二<sup>ふた</sup>方<sup>かた</sup>が父にとって実在する方々で、父が御二方を愛し敬っていることを知りました。」<sup>3</sup>マージョリーは次のように述べている。「家族の祈りは、わたしたち親の求めに子供たちがどう応えるかという点で大きく影響したと思います。子供たちは、ゴードンが説教しなくても、親であるわたしたちが聞いてほしいことを全て家族の祈りで聞いていたのです。」<sup>4</sup>

中央幹部として奉仕している間、ヒンクレー大管長は教会員に「祈りと祈りの力を信じる」ように勧め、<sup>5</sup>「祈ることにより、わたしたちのために天の力が解放放たれる」と証<sup>あかし</sup>した。<sup>6</sup>また、次のように約束した。「よく祈って

ください。そうすれば、天の神があなたにほほえんで祝福をお与えになり、心に喜びが、そして生活に平安があるでしょう。」

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 神はわたしたちの御父であり、個人で祈るように勧めておられる

わたしがこれまで読んだ偉大ですばらしい、靈感あふれる約束の中で、最も安心させてくれるのは救い主の次の言葉です。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ7:7)<sup>8</sup>

自分が何者であるかを決して忘れないでください。皆さんは本当に間違はなく神の子供です。神は皆さんの永遠の御父で、皆さんを愛しておられます。皆さんは祈りによって御父のもとに行くことができます。御父は祈るように皆さんを招いておられます。……何とすばらしいことでしょうか。御父は最も偉大な御方であり、宇宙の創造主、統治者であります。そのような御方が皆さんの祈りを聴いてくださるのです。<sup>9</sup>

わたしたちは祈りを通して主に近づくことができます。祈りは、感謝をささげるといふ主との対話ともなります。どうして宇宙の偉大な神、すなわち全能者が子供であるわたしたちに、御自身と個人的に話すよう招いておられるのか、わたしはいまだに完全に理解できません。何と貴い機会でしょうか。これが現実には起きているのは、何とすばらしいことでしょうか。へりくだり、心を込めてささげるわたしたちの祈りが聞き届けられ、こたえられることを証します。それは奇跡のようですが、現実なのです。<sup>10</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんがよく祈っていることを知っています。多くの人の生活から祈る習慣が消えてしまったこの時代に、祈る習慣があるのはすばらしいことです。自分の知恵を超えた知恵を得、なすべきことを行う力を受け、安心感と慰めを授かり、感謝を表すために、主に祈ることは意義深く、すばらしいことです。<sup>11</sup>

皆さん一人一人に切にお願いしたいことがあります。それは、もっと主に近く生活し、もっと頻繁に、一層の信仰を込めて、主と交わろうと努めることです。

父親と母親の皆さん、子供のために祈ってください。子供が世の悪から守られるよう祈ってください。子供が信仰と知識を培えるように祈りましょう。彼らが実り多い善良な生活を送れるよう祈ってください。夫は妻のた

めに祈りましょう。妻への感謝を主に表し、妻のために主に嘆願するのです。妻は夫のために祈ってください。無数の問題や複雑な状況が散在する非常に険しい道を歩んでいる夫がほとんどだからです。夫が義になかった努力をするとき、導きと祝福、守りと靈感を受けられるよう、全能者に請い願ってください。

地に平和があるように祈りましょう。そして宇宙を治める全能者が御手を伸ばして人々に御霊を感じさせてくださり、国々が互いに怒りを抱かなくなるように祈ってください。……人生の困難な道を歩むとき、知恵と理解力を求めて祈ってください。<sup>12</sup>

主イエス・キリストの名によって天の御父と対話するという観点から言うと、祈りのすばらしいところは、個人がじかに、独自にするものだという事です。他人が入り込む余地はありません。よく祈ってください。あなたの罪を赦してください、主に求めてください。主に助けを求め、祝福して下さるよう、またあなたの義になかった志を実現する助けを頂けるように尋ね求めてください。……皆さんの生活で大切なもの全てを主に請い求めてください。主はいつでも助ける用意ができておられます。そのことを決して忘れないでください。<sup>13</sup>

---

## 2

---

### 家族の祈りは個人と家族、社会に奇跡を引き起こす

現代では、誠実さ、道徳心、高潔さを以前にも増して強調する必要があります。真の文明社会の本質である美德を実生活で再び築いていくときのみ、現代社会の風潮を変えることができるのです。そこで皆さんは「一体何から始めればよいのだろう」という疑問に直面するのではないのでしょうか。

わたしが確信しているのは、まず神を永遠の御父として認識し、また自分を神の子として認識することから始める必要があるということです。すなわち御父を主権者と認めて交わりを持ち、個人的な事柄に関して日々御父の導きを願い求めることから始めるのです。

古くから守られてきた祈りの習慣、すなわち家庭でささげる家族の祈りの規範を取り戻すことは、社会の品格をむしろ恐ろしい病を食い止める基本的な治療薬の一つだとわたしは思います。たった一日で奇跡が起きることを期待するべきではありませんが、皆さんの子供が大人になる頃には奇跡を見るでしょう。……

ひざまずくという姿勢そのものに、パウロが「高慢な者、……乱暴者、高言をする者」と表現した態度とは正反対の性質があります。

父親と母親、そして子供たちがひざまずいてともに祈るという習慣に、パウロが言う「親に逆らう者、……無情な者」の芽を摘む大切なものが含まれているのです。

神に話し掛けるという行為の中に、神を冒瀆<sup>ぼうとく</sup>したり、「神よりも快樂を愛する者」となったりする傾向を抑える大切なものがあるのです〔2 テモテ 3: 1－4 参照〕。

「恩を知らぬ者、神聖を汚す者」になる傾向をなくすには、家族が集まって、日々の暮らしと平安に対して、そして与えられているもの全てに対して、主に感謝の祈りをささげることです。家族が互いのことを主に感謝するとき、互いへの新しい理解や尊敬、愛情が培われます。……

家族が主の前にひざまずき、貧しい人や苦しんでいる人を心に留めるとき、無意識であるものの実際に、無私の愛や尊敬の気持ち、人の必要を満たすために働きたいという望みを育てているのです。苦しむ隣人に助けが与えられるように神に願うとき、人は必ずその隣人を援助するために自ら行動するよう強い気持ちに駆られます。利己心を乗り越え、自分を忘れて人々に奉仕するなら、世の人々の生活にどれほど奇跡が生じるでしょう。家族を守り、多くのよい実をもたらす祈りの習慣は、家族で日々主に懇願することによって作られ、養われるのです。……

わたしの知る限り、ともに祈ることほど、家庭内の張り詰めた雰囲気や和らげ、親に対する尊敬の念を養って従順をもたらす良い方法はありません。ともに祈ることほど、過ちを悔い改める精神を引き出し、家庭の崩壊という暗い影を多分に遠ざける良い方法はありません。ともに祈ることほど、ともに主の前に自らの弱さを告白し、家庭とそこに住む家族一人一人に主の祝福を請い求める良い方法はありません。……

家庭は社会の基本単位であり、ともに祈る家族こそ、より良い社会を築く担い手なのです。「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。」（イザヤ 55：6）<sup>14</sup>

悲嘆に暮れた若い〔宣教師〕の次の言葉に心を動かされたことがあります。「ここに来てもう何か月にもなりますが、一向に言葉が分かりませんし、人も好きになれません。昼は苦しみ、夜は泣いています。もう死んでしまいたいです。母に手紙を書いて、家に帰りたいと言いました。するとこんな返事が来ました。『みんなであなたのために祈っています。朝は食事の前に、夜は床に就く前に、一日も欠かさずに皆でひざまずいて、あなたに祝福を



一緒にひざまずいて祈ることで家族を強められる。

授けてくださるよう主に心を込めて祈っています。祈りに加えて断食もしています。妹や弟たちはこう祈っています。「天のお父様、ジョニーを祝福してください。……兄さんが言葉をよく学べて、召しをよく果たせるように助けてあげてください。』」

この青年はその後、涙を流しながらこう続けました。「もう一度やってみます。家族とともにわたしも祈り、家族とともにわたしも断食します。」

それから4か月後、この青年から手紙を受け取りました。こう書いてありました。「奇跡が起こりました。主が賜物<sup>たまもの</sup>を授けてくださって言葉が分かるようになり、わたしはこの美しい国の人々を愛するようになりました。家族の祈りに心から感謝しています。」<sup>15</sup>

家庭を一層美しい場所にできるでしょうか。できます。あらゆる真の美の源である御方に、家族で祈るときにそれができるのです。社会を強め、もっと住みよい場所にできるでしょうか。できます。家族でともにひざまずき、全能者にその愛子<sup>あいし</sup>の名によって祈りをささげ、堅固な家庭生活を築くことによってできるのです。

家族での礼拝に立ち戻り、ともに祈る習慣が世界中に広がっていけば、わたしたちを破滅に至らせる深刻な問題を僅か1世代で大幅に取り除けるでしょう。家族の祈りが人々の心に正直、互いへの敬意、感謝の精神を回復してくれるからです。<sup>16</sup>

祈りはそれほど難しいことでしょうか。幼い子供とともにひざまずいて、神の名を呼び、祝福に対する感謝を表し、自分たちだけでなく苦しむ人々のために祈り、そして世の救い主および贖い主の名で懇願するよう、父親や母親に勧めることはそんなに難しいことでしょうか。祈りは何と力のある行為でしょうか。このことを皆さんもわたしも証<sup>あかし</sup>することができます。この貴い、簡単な習慣を有効活用しない家族は何と大きな祝福を逃していることでしょう。<sup>17</sup>

もし皆さんの中に、家族で祈っていない人がいれば、家族とひざまずく習慣を今から始めてください。もしできるなら、毎朝毎晩主に語り掛けて感謝を述べ、助けの必要な人に主の祝福を願い求め、自分の幸福についても主に話してください。<sup>18</sup>

もし家族の祈りを心から行うなら、必ず祝福があることを証いたします。変化はすぐには表れないかもしれず、ごく僅かかもしれませんが。しかし、確実に起こります。神は「ご自身を求める者に報いて下さる」からです（ヘブル 11：6）。

わたしたちが家族で祈りをささげ、周りにも同様の習慣を持つように勧めて、世の人の前に忠実に模範を示せるよう願っています。<sup>19</sup>

### 3

#### 祈りはこたえられるので、よく祈り、よく耳を傾ける必要がある

決して自分一人の力で人生を歩めるとは思わないでください。主の助けが必要です。人目に触れない場所でひざまずいて主と話すことを、決してためらわないでください。祈りは何と驚くべきこと、何とすばらしいことでしょうか。考えてみてください。実際に天の御父と話すことができるのです。御父は確かに聞いてこたえてくださいますが、わたしたちはその答えに耳を傾ける必要があります。天の御父に話すのに、内容が深刻すぎるとか、取るに足りないなどということはありません。<sup>20</sup>

答えがあることを期待しながら主に祈りましょう。……わたしたちのほとんどの祈りで問題なのは、電話で食料品を注文するように祈ることです。注文が終われば電話を切るように、願い事を伝えると一方的に祈りを終えてしまいます。何を祈り何を願うか瞑想、熟考し、考える必要があります。その上で、人が人と語るように主と話をするのです。「主は言われる、さあわれわれは互<sup>たがひ</sup>に論じよう。」（イザヤ 1：18）<sup>21</sup>

主の手に託すことほど助けになることはありません。……わたしはこれまで祈りがこたえられてきたと躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>なく言うことができます。こたえられ



たと知っていて、否定することはできません。この困難な時代にあって、導きを求めて祈ることが必要です。……すばらしいのは、天才でなくても祈れるということです。主は最も謙虚な人々の声をお聞きになります。……主を呼び求めてください。主は、招いておられ、こたえてくださいます。<sup>22</sup>

祈りの持つ力と尊厳を信じてください。主はわたしたちの祈りにこたえてくださいます。わたしはそのことを知っています。実際に祈りがこたえられる場面を、何度も繰り返しこの目で見てきました。祈りを通じて、わたしたちは神を伴侶はんりょとすることができるようになります。祈りは神と語り、あふれんばかりの祝福を神に感謝し、人生の旅路を進んでいくときに導きと守りを頂けるよう神に願い求める機会です。この偉大な業は全地へと広められていますが、その端緒たんしよは一人の少年の祈りにあります。少年は家族の聖書で次の聖句を読みました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑われないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブの手紙1:5-6)これが約束です。世界中どこを探しても、これ以上に偉大な約束があるでしょうか。<sup>23</sup>

わたしの友である皆さん、よく祈り、耳を傾けてください。実際に声が聞こえることはないかもしれませんが。ほとんどの場合はそうです。しかし、説明できない方法で、促しと祝福を受けるでしょう。なぜなら、主は「あなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしは……あなたの心に告げよう」と約束されたからです(教義と聖約8:2)。

よく祈ってください。そうすれば、神が祈りを聞き、こたえてくださることが分かるでしょう。必ずしもわたしたちが望む方法でこたえてくださるわけではありませんが、年月を重ねていくうちに日の出のように確かに、主が祈りを聞き、こたえてくださったと確信するようになります。<sup>24</sup>

主の力と慈しみを認め、ひざまずいて祈る謙虚さを保ってください。主は皆さんをお見捨てにはなりません。皆さんの祈りを聞き、こたえてくださいます。皆さんが苦悩し、助けを必要とするとき、夜の静けさの中から主の御霊みたまのささやきが聞こえ、皆さんを導いてくれるでしょう。困難な時期は必ず皆さんにも訪れます。全ての人がそのような経験をするからです。神を信じ続けてください。神は皆さんを見捨てることはなさいません。皆さんに背を向けられることは決してありません。<sup>25</sup>

いつも天の御父をあなたの友とし、祈りを通して御父のもとへ行ってください。<sup>26</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 祈りは、天の御父に近づかうえでどのように役立ってきたでしょうか。何について祈るべきか、というヒンクレー大管長の勧告を読み返してください(第1項参照)。祈りはどのようなときに「自分の知恵を超えた知恵」を見いだす助けとなったでしょうか。祈りはどのようなときに「安心感と慰め」をもたらしたでしょうか。折に触れて「感謝を表す」祈りをささげるべきなのはなぜでしょうか。
- ヒンクレー大管長が語った、家族の祈りがもたらす祝福について一つ一つ深く考えてください(第2項参照)。あなたの家族はともに祈ることでどのような祝福を受けてきたでしょうか。家族で一貫して祈るうえで障害となるのはどんなことでしょうか。この障害を乗り越えるために家族はどのように協力できるでしょうか。
- 第3項に書かれたヒンクレー大管長の教えを実践すると、どのように祈りはさらに有意義なものとなるのでしょうか。天の御父が祈りにこたえられる方法についてどのようなことを学びましたか。祈りの力によって「神を伴侶とする」ことができるのはなぜでしょうか。

### 関連聖句

マタイ 6:5 - 15; ルカ 18:9 - 18; 2 ニーファイ 32:8 - 9; アルマ 34:17 - 28; 37:36 - 37; 3 ニーファイ 18:15 - 25; 教義と聖約 19:28

### 学ぶ際のヒント

「書、章、数節をざっと読むか、前書きに目を通して概要を把握します。前後関係と背景を理解するようにします。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』23) 理解を深められるよう、章や文章を何度か読むとよいでしょう。そうすることで深く悟るかもしれません。

### 注

1. 「誠意を尽くし、忠誠を守る」『聖徒の道』1996年7月号, 110参照
2. ロバート・D・ヘイルズの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 444で引用
3. リチャード・G・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 171で引用
4. マージョリー・ペイ・ヒンクレーの言葉。シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith*, 171で引用

5. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年), 469
6. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 470
7. "Dedication of Gordon B. Hinckley Building" (プリガム・ヤング大学—アイダホ校, 2002年10月22日) byui.edu/Presentations/transcripts/devotionals/2002\_10\_22\_hinckley.htm; 2015年9月21日に配信
8. "Pillars of Truth," *Ensign*, 1994年1月号, 2
9. 「誠意を尽くし、忠誠を守る」109 参照
10. 「へりくだり悔いる心」『リアホナ』2001年1月号, 102 - 103 参照
11. 「信仰と証<sup>あかし</sup>があやなす織物」『聖徒の道』1996年1月号, 99 参照
12. 「閉会に当たり」『リアホナ』2003年5月号, 99 - 100 参照
13. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 468
14. 「家族の祈りがもたらす祝福」『聖徒の道』1991年9月号, 3 - 6 参照
15. Conference Report, 1963年4月, 128
16. 「家族の祈りがもたらす祝福」5 参照
17. "Four Simple Things to Help Our Families and Our Nations," *Ensign*, 1996年9月号, 8
18. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 217
19. 「家族の祈りがもたらす祝福」6 参照
20. 「気高い道にとどまる」『リアホナ』2004年5月号, 114 参照
21. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 469
22. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 469
23. 「恐れることはない。ただ信じなさい」『リアホナ』2000年10月号, 28 参照
24. "Watch the Switches in Your Life," *Ensign*, 1973年1月号, 93
25. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 346
26. 「神の娘」『聖徒の道』1992年1月号, 111 参照



中国香港神殿



御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>のささやき

「わたしはお願いします。絶えず主の靈感と主の聖なる御<sup>み</sup>霊との交わりを求めてください。そして、祝福を得て、わたしたちの働きの成果が靈的に高い水準に維持されますように。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

6月24日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、新任伝道部会長とその夫人のための集会で話し、これから3年間にわたって奉仕するうえで指針となる勧告を与えた。このとき、ハロルド・B・リー大管長からステーク会長に任命されたときに受けた指示について、次のように話している。

「リー大管長が言ったことを一つだけよく覚えています。『真夜中に、御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>のささやきに耳を傾け、その声に答えなさい。』理由は分かりませんが、啓示は時として夜中に与えられます。実際、そうなのです。もちろん、日中にも与えられます。いずれにせよ、啓示の賜物である御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>のささやきに耳を傾けてください。皆さんにはその資格があるのです。』<sup>1</sup>

この指示に従ったときの経験についてヒンクレー大管長はこう語っている。「主は静かに語りかけてくださいました。……夜中、頭の中にいろいろな考えが浮かびました。思うに、それはその内容からして、預言的なものでした。」<sup>2</sup> 例を挙げると、1982年7月、ヒンクレー大管長は、神殿の建設用地を探すため、他の教会指導者とともに香港を訪れていた。ある晩、下さなければならない決定について確信を持ってないまま床に就いた。翌朝早く、ヒンクレー大管長は、御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>のささやきで目が覚めた。

「とても興味深い考えが心に浮かんだ」と日記に記録している。「実際に声が聞こえたわけではない。しかし、心の中に御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>の声が聞こえたのだ。その声はこう言った。『この問題についてどうして悩むのか。伝道本部と小さな礼拝堂が立っているその場所に、すばらしい土地があるではないか。それはまさしく九龍<sup>カウロン</sup>の真ん中にあり、交通の便が最も良い場所にある。……〔数階〕建ての建物を建てなさい。下の二つの階を礼拝堂と教室にし、その上の二つまたは三つの階を神殿にするのだ。』」その啓示を受けると、ヒンクレー大管長は「ほっとして、もう一度眠りに就いた」そうである。<sup>3</sup>

今日、香港の人口密集地域である九龍の、以前、礼拝堂と伝道本部が立っていた所に、一つの建物が立っている。礼拝堂、伝道部会長宅、伝道本部事務局、聖なる神殿を擁するこの建物は、神の預言者に御霊がささやいたことを証するものである。

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

聖霊は慰め主であり、真理の証人である。

聖霊は神会の第三の御方であり、救い主が約束された慰め主です。この慰め主は、主に従う者たちに全てのことを教え、また主が語られたことを、ことごとく思い起こさせてくださいます（ヨハネ 14：26 参照）。<sup>4</sup>

聖霊は、わたしたちの心に御父と御子について証してくださいます。<sup>5</sup>

〔イエス・キリストについての〕証は聖霊の力によるものです。それは、神会の第三の御方から啓示によって与えられた神聖な、驚くべき賜物です。<sup>6</sup>

聖霊は真理を証される御方です。聖霊は、〔わたしたち〕が互いに教えることのできない事柄を教えてください。モロナイのあの偉大な勧めの言葉の中で、モルモン書が真実であることは「聖霊の力によって」分かるように約束されています。次いで、モロナイはこう宣言しています。「そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」（モロナイ 10：4－5）

今日、この力、この賜物がわたしたちに与えられていることを、わたしは信じています。<sup>7</sup>

### 2

家庭と教会で奉仕するときには、聖霊に導いていただく必要がある。

わたしたちの生活で受けられる祝福の中で、聖霊の賜物、すなわち聖なる御霊を伴侶とすること以上に大きな祝福はありません。聖なる御霊は、わたしたちを導き、守り、祝福し、いわば、わたしたちの前を行く柱のように、また、正義と真理の道に導く火のように進みます。わたしたちがふさわしく生活するならば、神会の第三の御方がお持ちになる導きの力はわたしたちのものとなるのです。<sup>8</sup>

管理上の多くの責任を果たすには、聖なる御霊が必要です。クラスで福音を教えるとき、また世の人々を教えるとき、聖なる御霊が必要です。家族を治め、教えるときも、聖なる御霊が必要です。

もしもわたしたちが御霊の影響を受けながら指導し教えることができれば、託された人々の生活に霊性をもたらすことができるのではないのでしょうか。……

……聖なる御霊の靈感の下に与えられる教えの実は甘く、霊を養い、魂に養いを与えます。

親として家族の長の立場にいる方々に、わたしは特別な助言を差し上げたいと思います。家庭の霊性を高めるといふ、わたしたちに与えられた難しいながらもすばらしい務めを果たすに当たっては、聖霊の導きが必要です。<sup>9</sup>

御霊の促しに耳を傾けてください。謙遜<sup>けんそん</sup>であってください。あなたに宿る御霊やあなたの態度、思い、謙遜さに応じて主の御手<sup>みて</sup>が差し伸べられ、誰かのもとに導かれることもあるでしょう。<sup>10</sup>

### 3

啓示は、ほとんどの場合、静かな細い声、すなわち  
御霊<sup>みたま</sup>のささやきを通して与えられる。

わたしは何度か、メディアのインタビューを受けることができました。そして例外なくこのように尋ねられました。「啓示はどのように教会の預言者に与えられるのですか。」

「過去に与えられたと同様に、現在も与えられます」とわたしは答えます。このことに関してわたしはメディアの人々に、エリヤがバアルの祭司たちと競った後の経験を詳しく話します。

「その時主は通り過ぎられ、主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

地震の後火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声<sup>きこ</sup>が聞えた。」(列王上 19：11 - 12)

これが啓示です。静かな細い声。祈りへの答えとして与えられ、御霊のささやきとして下ります。夜の静寂のうちに与えられることもあるでしょう。

疑問の余地があるのでしょうか。あり得ません。わたしは何度もそれを目の当たりにしてきました。<sup>11</sup>

このように、ほぼ例外なく、神の御言葉は、ラッパのような大きな音でもなく、学者の会議室からでもなく、啓示という静かな細い声で与えられ

なのです。知恵を見いだそうとしても見いだせない人や、病んだ世界に効く妙薬〔解決策〕があると声高らかに宣言する人の話を聞いていると、「静まって、わたしこそ神であることを知れ」という詩篇の言葉や（詩篇 46：10）、「耳のある者は聞くがよい」という主の言葉を返したくなります（マタイ 11：15）。<sup>12</sup>

#### 4

御霊みたまに関する事柄は、わたしたちを啓発し、築き上げ、鼓舞する。

御霊に関する事柄はどのようにすれば分かるのでしょうか。それが神から出ていることがどうして分かるのでしょうか。もたらす実によって分かります。成長と進歩に通じるもの、信仰と証あかしに通じるもの、物事をもっとよく行う方法に通じるもの、また神性につながるものであれば、それは神に属するものです。逆にわたしたちを傷つけ、暗闇へと導き、混乱と不安をもたらし、不信仰にいざなうものであれば、それは悪魔から出ているのです。<sup>13</sup>

御霊の促しは、御霊の実によって識別することができます。すなわち啓発し、成長させてくれるもの、前向きで肯定的であり、心を高め、より良い思いと言葉と行いに導くものは、神の御霊です。傷つけ、禁じられた道に誘いこむのは、サタンです。実に、単純明快だと思えます。<sup>14</sup>

かつて、教会は主知主義（訳注——知性的・合理的・理論的なものを重んずる考え方）の敵であるという見解を述べた学者がいました。もし彼が、主知主義のことを、「知識は、ことごとく、あるいは主として純粋な理性から生まれるもの」であり、「理性は、実在の根底を成す」という説を奉じる哲学の一分派と解釈してそう言ったのだとしたら、わたしたちは偏狭な解釈で宗教を持ち出すことに断固反対の立場をとります（*Random House Dictionary of the English Language*, 738 ページから引用）。そのような解釈は、〔わたしたち〕に、または〔わたしたち〕を通して語りかける聖なる御霊の力を排除するものです。

理性に力があるということは信ずるに足ることですが、知識の源は理性だけではないのです。全能者の靈感のもとに与えられた約束が、次のような美しい言葉で述べられています。「神はその聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物たまものによって、……知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」（教義と聖約 121：26）

主の御業みわざを批判する人文主義者、人の品位を落とす主知主義者たちは、霊的顕れあらわを知らずに語っているだけなのです。彼らは御霊の声を聞いたこ





「神につける事柄は、神の御<sup>みたま</sup>霊によって理解されます。その御霊こそ確かなものです。」

とがないのです。またそれらを求めようともせず、御霊の聲が聞けるように自らふさわしく整えることもしないために、聞くことができないのです。知識は理性からのみ生ずるものであり、理性の作用であるという考え方の彼らは、聖霊の力によってもたらされるものを受け入れようとはしません。

神につける事柄は、神の御霊によって理解されます。その御霊こそ確かなものです。御霊の働きを経験した人々にとって、そのようにして得られた知識は、五感を通して得られたものと同様確かなものなのです。わたしはこのことを<sup>あかし</sup>証したいと思います。また教会員のほとんどの方々も、同様に証できるものと確信しています。また絶えず心を御霊の波長に合わせていただきたいと思います。そのようにするとき、わたしたちの生活は豊かになり、永遠の父なる神に親しみを感じるのです。そして他のいかなる方法でも得られない喜びを味わうことができるでしょう。

人を惑わす世の議論のわなに、かからないでください。そのようなものは、ほとんどが否定的なもので、好ましくない結果を生むことが多いのです。これから先も、明るい面を見て語り、自信ある態度を養いながら信仰をもつとともに歩んで行こうではありませんか。そのようにするとき、わたしたちの強さが他の人々に強さをもたらしていくのです。<sup>15</sup>

祝福を得て、わたしたちの働きの成果が霊的に高い水準に維持されるよう、どうぞ絶えず主の靈感と主の聖なる御霊との交わりを求めてください。これらの祈りは必ずかなえられます。<sup>16</sup>

## 5

この祝福にふさわしく生活するならば、聖霊は常にわたしたちの<sup>はんりよ</sup>伴侶となる

わたしたちが戒めを守るならば、「聖霊は常に〔わたしたちの〕伴侶となり」、わたしたちを高め、教え、導き、慰め、支えてくださいます（教義と聖約 121:46）。そう言われたのは、他ならぬ主です。聖霊を伴侶とするには、そうあるように願ひ求め、ふさわしく生活し、主に忠実であることが必要です。<sup>17</sup>

「常に主の<sup>みたま</sup>御霊を伴侶とするには、どうすればよいでしょうか。」主の御霊を受けるにふさわしく生活することです。そうすれば御霊を受けることができます。……正しい生活を送る、それだけです。低俗なものに近寄らないでください。ポルノグラフィーに近寄らないでください。このように人の品位を落とすものには近寄らないでください。人は、読む本や雑誌、見るビデオやテレビ番組、見に行くショー、全てから影響を受けます。こうした刺激にさらされると、その影響を受けます。こうしたものは、関わった人を貧しくする一方で、他の誰かを豊かにするようにできています。このようなものに近寄らないでください。<sup>18</sup>

毎週、日曜日になると、あなたは主イエス・キリストの<sup>みな</sup>御名を受けるといふ<sup>げんしめく</sup>厳粛な聖約を更新します。そのことについて、その大切さについて、主イエス・キリストの御名を自分自身に引き受けるという聖約と約束を交わすことの意味について、考えたことがありますか。神は、御自分の御霊を皆さんのもつと送るといふ聖約と約束を皆さんと交わされます。なんとすばらしいことでしょう。<sup>19</sup>

神聖な権能を有する人から<sup>たまもの</sup>聖霊の賜物を授かり、神会の御一方から導きを得られるとは、何と大きな祝福でしょうか。徳高く歩み続けるならば、主が語られたこんな約束の<sup>ま</sup>成就を<sup>しめく</sup>目の当りにすることができるのです。「聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの<sup>しめく</sup>筋は義と真理の不変の筋となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」（教義と聖約 121:46）<sup>20</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- わたしたちにはなぜ聖霊が必要なのでしょうか（第1項と第2項を参照）。あなたはこれまで、どのようなときに、聖霊による教えと導きを感じてきましたか。そのような経験からどのようなことを学んできたでしょうか。
- 啓示が教会の預言者に与えられるプロセスについて、ヒンクレー大管長の説明からどのようなことが学べるでしょうか（第3項参照）。聖霊は、通常、「静かな細い声」でメッセージをお伝えになります。これを理解しておくことが大切なのは、なぜでしょうか。聖霊の伝えるメッセージを理解することについて、あなたは経験からどのようなことを学んできましたか。
- 第4項でヒンクレー大管長が端的に説明している「御<sup>みたま</sup>霊のもたらす実」を読み返してください。この教えは、御霊の影響を理解するうえで、どのように役立つでしょうか。「知識の源は理性だけ……〔である〕」と思ひ込むことのどこに危険があるでしょうか。霊的な知識を得ることについて、あなたはどのような経験をしてきましたか。
- 第5項にある、聖霊を伴侶とすることに関するヒンクレー大管長の教えについて、あなたはどう感じますか。また、あなたはこれまで、聖霊からどのような祝福を受けてきたでしょうか。

### 関連聖句

1 コリント 2：9－14；1 ニーフアイ 10：17；2 ニーフアイ 31：17－18；モーサヤ 3：19；モロナイ 8：25－26；教義と聖約 11：12－14

### 教える際のヒント

「生徒を愛するようになると、生徒一人一人のために祈るようになる。そして彼らの関心事や達成したこと、必要としていること、悩んでいることを知るために最善を尽くす。たとえ余計に時間と労力が必要になっても、生徒の必要に合わせてレッスンの内容を変える。出欠席の状況をよく把握する。必要なときは助けの手を差し伸べる。」（『教師、その大いなる召し』31）

### 注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 556
2. *Discourses of President Gordon B. Hinckley Volume 1:1995-1999* (2005年) 441

## 第7章

3. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 481
4. 「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号, 8
5. "Latter-day Counsel: Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley," *Ensign*, 1999年7月号, 72
6. 「御父と御子と聖霊を信じる」7
7. 「御父と御子と聖霊を信じる」8
8. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 259
9. 「霊を養い、魂に養いを与える」『聖徒の道』1998年10月号, 4-6
10. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 440
11. 「大管長会定員会」『リアホナ』2005年12月号, 39
12. Conference Report, 1964年4月, 38-39で引用
13. "Inspirational Thoughts," *Ensign*, 1998年7月号, 5
14. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 261
15. 「絶えず真理を求める」『聖徒の道』1986年2月号, 4-5参照
16. 「霊を養い、魂に養いを与える」4
17. 「確信をもって生活する」『リアホナ』2001年9月号, 5
18. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 377-378
19. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 319
20. "Priesthood Restoration," *Ensign*, 1988年10月号, 72



## キリストに頼る

「わたしたちはキリストを信じ、キリストについて教え、  
キリストに頼ります。キリストはわたしたちの  
あがな贖い主、主、救い主であります。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

1975年4月の総大会で、当時十二使徒定員会会員であったゴードン・B・ヒンクレー大管長は、こんな体験談を話している。

「最近、アリゾナ州〔メサ〕神殿のオープンハウスを行いました。神殿の改装が終了した後、25万人もの人々が美しい内装を見学に訪れました。一般公開の初日には、他の宗派の牧師たちを来賓として招待しましたが、数百人の方々に応じてくれました。わたしは恵まれて彼らに話をし、また見学の最後に質問に答える特権が与えられました。わたしは彼らに、どのような類いの質問が出ようとも喜んで答える旨を告げました。数多くの質問が出されました。その中には、あるプロテスタントの牧師から出された次のような質問がありました。

彼はこう言いました。『わたしはこの建物の中を隅から隅まで見せていただきました。この神殿の正面には、イエス・キリストの名が掲げられています。しかし、どこを探しても、キリスト教の象徴である十字架を表すようなものは、まったく見当たりませんでした。他にもあなた方の教会の建物を見てきましたが、やはり十字架はありませんでした。イエス・キリストを信じると言っておられるのに、これはどうしてですか。』

わたしはこう答えました。『同じキリスト教徒である皆さんの感情を害しようななどという気は毛頭ありませんが、皆さんは、聖堂の尖塔や礼拝堂の祭壇に十字架を使い、また、祭服には十字架を縫いつけ、さらに出版物にも十字架の印を押していらっしゃいます。しかしながら、わたしたちにとっては、十字架は死にゆくキリストの象徴であって、わたしたちが伝えているのは、生けるキリストの御言葉なのです。』



「第1にわたしたちの信仰に絶対に欠くことのできないものは、……神の御子イエス・キリストについての証<sup>あかし</sup>です。……キリストはこの教会の隅のかしら石であられ、教会にはその名が付けられ……ています。」

すると、彼は次のように尋ねました。『では、十字架を使わないのなら、あなた方の宗教の象徴は何ですか。』

わたしは、わたしたちの信仰の何であるかを表現するうえで、教会員の生活こそがただ一つ意味のあるものとなっていなければならない、と答えました。事実、教会員の生活こそがわたしたちの礼拝の象徴なのです。……

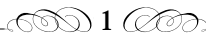
……いかなる印であろうとも、いかなる芸術品であろうとも、そしていかなる形であろうとも、生けるキリストの栄光と奇跡とを表現するのに足るものはありません。主はわたしたちに、何が主の信仰の象徴となるべきかということについて、次のように教えられました。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。』(ヨハネ 14: 15)

わたしたちは、主に従う者として、万一下劣で、悪らつで、好ましくないようなことをすることがあれば、そのときには、必ず主の御姿みすがたを汚しているのです。反対に、もし善良で、慈悲深く、また高潔な行いをしていれば、主の象徴をもっと輝かすことができます。わたしたちは、主の御名みなをこの身に受けているからです。

それゆえ、わたしたちの生活を意義深いものとしなければなりません。わたしたちの生活こそ、生ける神の永遠の御子であられる生けるキリストについて証あかしする、その証の宣言の象徴だからです。

兄弟姉妹たち、これは、単純でありながら、それほど深遠なことなのです。決して忘れることのないようにしようではありませんか。<sup>1</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



### イエス・キリストは生ける神の生ける御子である

第1にわたしたちの信仰に絶対に欠くことのできないものは、……神の御子イエス・キリストについての証あかしです。……キリストはこの教会の隅のかしら石であられ、教会にはその名が付けられ……ています。<sup>2</sup>

わたしたちはキリストを信じ、キリストについて教え、キリストに頼ります。キリストはわたしたちの贖あがない主、主、救い主であられます。<sup>3</sup>

### 地上における教導の業

神の御子であり独り子であられるイエスは御父の天の王宮を離れて死すべき肉体をまとわれました。その誕生に際して、天使たちは歌い、賢者が

贈り物をするためにやって来ました。イエスはガリラヤのナザレで他の少年たちと同じように成長されました。そこで彼は「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」ました（ルカ2：52）。

イエスは12歳のときにマリヤとヨセフに連れられて、エルサレムを訪れました。帰宅の途中、二人はイエスがおれられないことに気づきました。エルサレムに引き返すと、イエスは神殿で学識のある博士たちと話していらっしやいました。勝手に両親のもとを離れたことをいさめるマリヤに対して、イエスは次にお答えになりました。「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。」（ルカ2：49）その言葉は将来携わることになる御業<sup>みわざ</sup>の予表でした。

その御業はまず、いとこのヨハネの手によって受けられたヨルダン川でのイエス御自身のバプテスマから始まりました。イエスが水から上がられると、聖霊が鳩<sup>はと</sup>のような姿を取ってイエスに降られ、そして次のように語られる天の御父の御声<sup>みこえ</sup>が聞こえました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」（マタイ3：17）この宣言はイエスが神の御子であられることを確認するものとなりました。

イエスは40日間の断食で、天の御父より授かった聖なる使命からイエスを引き離そうとする悪魔の試みに遭われました。誘惑しようとする悪魔に対してイエスは次のように答えられました。「主なるあなたの神を試みてはならない……。」（マタイ4：7）ここでもまたイエスは神の御子であられることを宣言されました。

イエスはパレスチナの土ぼこりにまみれた道を歩かれました。自分の家と呼べる家も、体を横たえて休まれる場所ありませんでした。イエスのメッセージは平和の福音でした。イエスの教えはすなわち愛と寛容の教えでした。「あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。」（マタイ5：40）

イエスはたとえによって教えられました。イエスは後にも先にも決して行われたことのない奇跡を行われました。長い間治らなかつた病気が癒やされました。目の見えない人は見え、耳の聞こえない人が聞こえ、足の不自由な人は歩けるようになりました。イエスは死者をよみがえらせられ、再び命を得た人々はイエスを賛美しました。確かにそのような奇跡を行った人はそれまで一人もいませんでした。

イエスに従ってきた人々も何人かいましたが、ほとんどの人々は彼を憎みました。イエスは律法学者やパリサイ人を偽善者と呼び、また白く塗った墓にたとえられました。律法学者やパリサイ人は、イエスを陥れる策略



を立てました。イエスは主の宮から両替人を追い出されました。この両替人たちも一緒になってイエスを殺そうと計画したことでしょう。しかしイエスはひるむことなく「よい働きをし」続けられました（使徒 10：38）。

主への追憶の情を不朽のものとするのに、これらの事実があれば十分ではないでしょうか。歴史上、名言や業績ゆえに偉人として記憶にとどめられる人々の名前の中に、いえ、それ以上の位置に主の御名を掲げるために、これらの事実を挙げれば十分ではないでしょうか。まさにイエスは史上最も偉大な預言者の御一人です。

しかし全能者の御子を語るのに、これらだけでは十分とは言えません。これらの事実は、より偉大なことが起きる前兆にすぎませんでした。その偉大なことは、不思議なまた悲惨な方法で実現されることになったのです。<sup>4</sup>

### 捕縛と十字架、死

主は裏切られ、捕らえられ、死を宣告され、ひどい苦しみの中、十字架につけられ亡くなられました。主は生きたまま、体を木の十字架に釘で打ち付けられました。言葉にならない苦痛の中、主の命は少しずつ衰えてきました。まだ息があるとき、主は叫ばれました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」（ルカ 23：34）

主の霊が肉体を離れると、地は揺れ動きました。その様子を見ていた百卒長は厳粛に言いました。「まことに、この人は神の子であった。」（マタイ 27：54）

主を愛していた者たちは主の遺体を十字架から降ろしました。彼らは遺体を布で包み、……新しい墓に納めました。……

主の友人たちはさぞや涙を流したことでしょう。主が愛された、主の神性を証するために召された使徒たちも涙を流しました。主を愛した女性たちも嘆き悲しみました。主が3日目によみがえると語られたことを理解していた人はだれ一人いませんでした。そのようなことがどうして理解できたのでしょうか。そのようなことは、これまで起きたことがありません。まったく前例のないことです。彼らでさえも信じられないことでした。

そして死によって主が取り去られてしまったと思ったとき、彼らは落胆し、絶望しそして苦痛を感じたことでしょう。<sup>5</sup>

### 復活

しかしそれが全ての終わりではありませんでした。3日目の朝、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが墓に戻ってみました。驚いたことに、石



イエスのメッセージは平和の福音でした。イエスの教えはすなわち愛と寛容の教えでした。

がのけられ、墓が開いていました。二人は中をのぞいてみました。すると主の遺体が置かれていた場所の両端に、白い衣を着た二人の御方が腰をかけていました。一人の天使が、彼女たちに言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。

すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか。」(ルカ 24:5-7)

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」と語ったこの率直な言葉は、あらゆる文学をもしのぐ最も意味の深い言葉となりました。その言葉は、空となった墓で宣言されました。それはよみがえりについて主が語られたあらゆる言葉の成就でした。そして地上に生を受けた全ての男女、そして子供が抱いていた疑問に対する、この上ない答えとなったのです。

よみがえった主はマリヤに語られ、マリヤは答えました。主は幻ではありませんでした。空想でもありませんでした。主は、亡くなられる前と何ら変わることなく、確かに生きておられました。主は、御自分に触れることをマリヤにお許しになりませんでした。まだ天の御父のみもとに昇って

おられなかったからです。その後間もなく主は天に昇られました。どんなにすばらしい再会だったことでしょう。御父の御手に抱かれたのです。御父は御子を愛しておられました。御子が苦しめられたときには、きっと自らも涙を流されたことでしょう。

主はエマオの村へ行く道で二人の人に御姿<sup>みすがた</sup>を現されました。主は彼らと言葉を交わし、ともに食されました。使徒たちを招いて、彼らに教えられました。トマスは最初主が御姿を現されたときに、その場にいませんでした。2度目に主が御姿を現されたとき、主はトマスに御自分の手とわき腹に触るようにと言われました。傷跡に驚いたトマスはこう叫びました。「わが主よ、わが神よ。」(ヨハネ 20:28) 主は〔別の〕折に、500人の人々と話をされました。……

そしてキリストを証するものがもう一つあります。聖書のもう一つの証であるモルモン書です。モルモン書は主が旧世界の人々にだけでなく、新世界の人々にも御姿を現されたことを証しています。主はかつてこのように宣言されなかったのでしょうか。「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼<sup>ひつじかい</sup>となるであろう。」(ヨハネ 10:16)

主は復活後、西半球の人々に御姿を現されました。主が天の雲から降られたとき、このように厳かに宣言する永遠の父なる神の御声が再び聞こえました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」(3 ニーフアイ 11:7) ……

もしこれら全ての事実をもってしてもまだ十分でないならば、この神権時代の偉大な預言者ジョセフ・スミスの、明白で疑う余地のない証があります。少年ジョセフは森に入り、光と知識を求めて祈りました。すると、筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がジョセフに現れ、空中に立たれました。そのうちの御一方<sup>おひとかた</sup>がジョセフに語りかけ、ジョセフの「名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた」のです〔ジョセフ・スミス—歴史 1:17〕。

このジョセフは、後にこう宣言しています。「そして、わたしたちは御父の右に御子の栄光を見、その完全を受けた。……」

そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』(教義と聖約 76:20, 22)<sup>6</sup>

皆さんの中で疑いを持っている方がいれば、主が両手の釘跡に触れたトマスに言われた言葉を繰り返し申し上げたいと思います。「信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」〔ヨハネ 20：27〕この世においても永遠の世においても最も大なる御方、神の御子イエス・キリストを信じてください。世界が創造される前に遡るその類いない命を信じてください。キリストがわたしたちの住むこの地球の創造主であられることを信じてください。イエスは旧約聖書のエホバであり、新約聖書のメシヤであり、一度死んだ後復活し、この西半球を訪れて民を教え、この最後の福音の神権時代を開かれたこと、そして生ける神の御子、わたしたちの救い主、贖い主として今も生きておられることを信じていただきたいのです。<sup>7</sup>

## 2

わたしたちは一人一人が、キリストは神の御子であり、世の贖い主であり、墓からよみがえられた御方であられることを知ることができる

人の……信仰を巡る戦いが、今まさに繰り広げられています。しかし、必ずしも……はっきりと敵味方の区別がつくわけではありません。というのは、キリストの名で語りながらも、キリストの神聖を汚そうとする人々がいるからです。その言葉にそれほど人を引き付ける力がなく、その影響力がそれほど広範囲に及ぶわけでもなく、また、用いる論理がそれほど巧妙でないとしたら、そのような人に耳を傾けることはないかもしれません。

……おびただしい数の人々が、あちこちの丘の頂に集まり、復活祭の朝を喜んで迎え、キリストの話を読み起こします。キリストの復活を記念するのです。美しく、希望にあふれる言葉で、いろいろな宗派の牧師たちが、空になった墓について詳しく語って聞かせます。彼らに、また皆さんに、わたしはこう問いかけます。「この出来事を本当に信じていますか。」

イエスが神の御子、御父の文字どおりの御子であられることを、あなたは本当に信じていますか。

神、すなわち永遠の父なる神の声が聞こえて、ヨルダン川の上空から次のように宣言したことを、あなたは信じていますか。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マタイ 3：17)

この同じイエスが、奇跡を起こし、病人を癒やし、体の弱った人々に元氣を取り戻させ、死者をよみがえらせた御方であられることを、あなたは信じていますか。

カルバリの丘で死に、ヨセフの墓に葬られ、3日後にそこから生きて出てこられたことを、あなたは信じていますか。



復活した救い主、二人の弟子とともにエマオへ続く道を歩かれる。

主が今も生きておられ、實在の、命と人格をお持ちの方であり、昇天されたときに天使が約束したとおり、再び戻って来られることを、あなたは本当に信じていますか。

以上のことを、あなたは本当に信じていますか。もしそうであるならば、あなたは聖書を文字どおり解釈しています。このような人は次第に少数派になってきており、哲学者からますます笑い者にされ、一部の教育者からますます嘲られ、多数派となっていく聖職者や影響力のある神学者からますます「時代遅れ」と見なされています。

……こうした知識人の目から見れば、今わたしが語ったようなこと、つまりイエスがユダの地でお生まれになり、天使がそれを賛美したこと、病人を癒やし、死者をよみがえらせるといった奇跡を起こされたこと、墓からよみがえられたこと、また天に昇られ、約束されたように戻って来られることなどは、おとぎ話なのです。

このような現代の神学者たちは、主からその神性を剥ぎ取り、そのうえで、なぜ人々は主を礼拝しようとししないのかと首をかしげます。

このような才気あるれる学者たちは、イエスから神性という衣を剥ぎ取り、イエスをただの人間にしてしまっているのです。彼らは自分の偏狭な考えに合わせて、イエスを作り変えようとしています。そして、その過程において、主が神の御子であられることを否定し、本来王であるべき御方をこの世から葬ってきたのです。……

……わたしはこのような人々に<sup>げんしゆくあかし</sup>厳肅に証したいと思います。神は死んだと解釈する人がいますが、神は死んではおられません。……

……理性的な確信以上のものがが必要です。つまり、主が聖なる贖い主として担っておられる、他に類いのない役割に対する理解と、主御自身と、神の御子としてのメッセージに対する情熱が必要なのです。

この理解と情熱は、代価を支払うなら、誰でも得ることができます。この二つは高等教育と相いれるものではなく、哲学書を読んだだけで得られるものでもありません。得る方法はもっと簡単です。神につける事柄は、<sup>みたま</sup>神の御霊によって理解されるのです（1コリント2：11参照）。啓示の言葉は、そう言っています。

主に対する理解と情熱は、簡単なルールに従うことによって得られるのです。……3つの原則を取り上げてみたいと思います。いずれも簡単な概念で、繰り返し教えられているため平凡だと思われるでしょうが、応用という点から考えると基本的なものであり、最も実り豊かな結果を与えてくれるものです。……

第1は、主の言葉を読むことです。……例えば、ヨハネによる福音書を、初めから終わりまで読み通してください。主御自身に語っていただくのです。主の言葉が静かな確信をもたらし、主のあら探しをする人々の言葉を無意味なものとしてくれるでしょう。「イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されること」の証として世に出た新世界の契約の書、モルモン書も読んでください（モルモン書のタイトルページ）。

次は、主の業で奉仕することです。……キリストの大義に疑いは必要ありません。必要なのは体力と時間と才能です。この3つを用いて奉仕するならば、信仰が育ち、疑いは徐々に消えていきます。……

第3は、祈ることです。御父の愛する御子の<sup>みな</sup>御名によって、永遠の父なる神と話してください。主はこうっておられます。「見よ、わたしは戸の

外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3:20)

これは主御自身からの招きであり、その約束は確かです。天から声が聞こえてくることはないかもしれませんが、神が安らかな不動の確信を与えてくださることでしょう……

……哲学、いわゆる高等批評、現代の否定的な神学などが引き起こすあらゆる混乱の中を、聖霊の証が輝きを放ちながら現れます。聖霊はわたしたちに、イエスが肉体をまとってこの世に生まれた真の神の御子、墓からよみがえった世の贖い主、王の王として治められる主であられることを証してくださるのです。これを知る機会があなたに与えられています。見いだすのは、あなたの義務なのです。<sup>8</sup>

### 3

#### 「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」と絶えず自問する必要がある

今から約2千年前にポンテオ・ピラトが尋ねたことを、ここでもう一度繰り返したいと思います。「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか。」(マタイ27:22) 確かに、このことを自分自身に問いかけてみる必要があります。キリストといわれるイエスについて、わたしたちは何をしたらよいのでしょうか。その教えについてはどうでしょうか。どうしたらそれを、わたしたちの生活から切り離せないものとすることができるのでしょうか。……

……「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ1:29) キリストの教えやその比類ない模範がなかったとしたら、わたしたちの生活はどんなに味気ないものとなるでしょうか。もう一方の頬を向けること、2マイル行く精神、戻って来た放蕩息子の教訓、その他数多くのすばらしい教えは、幾世代にもわたって人間の無情さの中から親切心と慈愛を引き出す媒体となってきました。

キリストが忘れ去られると、残虐さが人を支配します。反対にキリストを認め、その教えを守るならば、親切と寛容が優勢になります。

では、キリストと言われるイエスについて、わたしたちは何をすればよいのでしょうか。「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」(ミカ6:8)

「それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。」(教義と聖約 64：9) ……

では、キリストと言われるイエスについて、わたしたちは何をしたらよいでしょうか。「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ 25：35 - 36) ……

では、キリストといわれるイエスについて、わたしたちは何をしたらよいでしょうか。

キリスト御自身についてよく知り、キリストについて証する聖文を学ぶことです。またキリストの生涯と使命の奇跡を深く考えることです。そしてもう少し熱心にキリストの模範に従い、その教えを守ることです。<sup>9</sup>

---

#### 4

---

**わたしたちの救いの岩であられ、力、慰め、信仰の中心であられる主に頼る**

わたしたちの前途には何が待ち受けているか分かりません。明日どうなるかも分かりません。わたしたちは不確かな世に生きています。ある人にとっては偉大な達成の日となり、他の人にとっては落胆の日となるかもしれません。喜びと楽しみ、健康、感謝に満ちた日々を送る人もいれば、病気や悲しみに見舞われる人もいることでしょう。わたしたちには分かりません。しかし、はっきりと分かることが一つあります。天空の北極星と同じように、将来に何が起きようと、世の贖い主、神の御子は、わたしたちが不死不滅の命に至るための力強い支えとして、確かに、間違いなく存在しておられる、ということです。主は救いの岩であられ、わたしたちの力、慰めであられ、信仰の中心であられます。

晴れの日も雨の日もわたしたちが主に頼れば、主はそこにおられて、励まし、ほほえみかけてくださいます。<sup>10</sup>

贖いの主、  
神生きて、  
われ恵む  
苦しみと死とに、勝利せし王よ  
  
主はわれらの岩、  
輝く望みよ



よ  
 善き道を照らす、  
 と  
 永遠のかなたへと  
  
 みたまをそそぎて、  
 平和授けたまえ  
 行く道細くも、  
 神、われ導く<sup>11</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 第1項にあるヒンクレー大管長の証<sup>あかし</sup>の言葉を復習し、イエス・キリストについての自分自身の証はどうか、時間を取ってよく考えてください。あなたが救い主の教導の業と贖い<sup>あがな</sup>に感謝しているのはなぜですか。救い主の生涯で、あなたにとって特に意味があるのは、どのような話や教えですか。
- 第2項にある質問を、一つ一つ自分に問いかけてください。それに対する答えは、毎日の生活にどのような影響をもたらすでしょうか。同じ項でヒンクレー大管長が提案している、「神につける事柄」を理解するための3つの「簡単なルール」を復習してください。このルールは、霊的な理解を深めるうえでどのように役立ってきたでしょうか。
- ヒンクレー大管長は、繰り返しこう問いかけています。「キリストといわれるイエスについて、わたしたちは何をしたらよいでしょうか。」(第3項)これに対するヒンクレー大管長の答えから、何が学べるでしょうか。自分ならこの質問にどう答えるか、よく考えてください。救い主の教えと模範を知らなかったとしたら、あなたの人生はどうなっていたでしょうか。
- ヒンクレー大管長は、イエス・キリストはわたしたちにとって、不確かな世における力強い支えであることを強調しています。試練のときに救い主の力や慰めを感じたことがありますか。それはどんなときでしたか。第4項でヒンクレー大管長が紹介している賛美歌の歌詞をよく考えてください。どのような点でキリストは「輝く望み」なのでしょう。どのような点で「善き道を照らす」御方なのでしょう。

### 関連聖句

ルカ 24:36 – 39; ヨハネ 1:1 – 14; 使徒 4:10 – 12; 2 ニーファイ 2:8; 25:26; アルマ 5:48; 教義と聖約 110:3 – 4

### 学ぶ際のヒント

「救い主を信じる信仰を築〔く〕……ように、学習活動を計画する。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』22）例えば、学習するとき、以下のような質問を自分に問いかけてみるとよいでしょう。この教えは、イエス・キリストの<sup>あがな</sup>贖いの理解を深めるうえでどのような助けとなるだろうか。この教えは、さらに救い主のような者になるうえでどのような助けとなるだろうか。

### 注

1. 「キリストの象徴」『聖徒の道』1976年12月号, 543 参照
2. 「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号, 4
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 280
4. 「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」『リアホナ』1999年7月号, 83 - 84
5. 「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」84 参照
6. 「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」84 - 85 参照
7. 「信じない者にならないで」『リアホナ』1990年4月号, 4
8. Conference Report, 1922年4月, 85 - 87
9. 「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」『聖徒の道』1984年5月号, 2 - 5 参照
10. 「キリストに頼る」『リアホナ』2002年7月号, 101 - 102 参照
11. 「<sup>あがな</sup>贖いの主」『賛美歌』73番。詩:ゴードン・B・ヒンクレー

あかし      どうと      たまもの

## 証という 貴い賜物

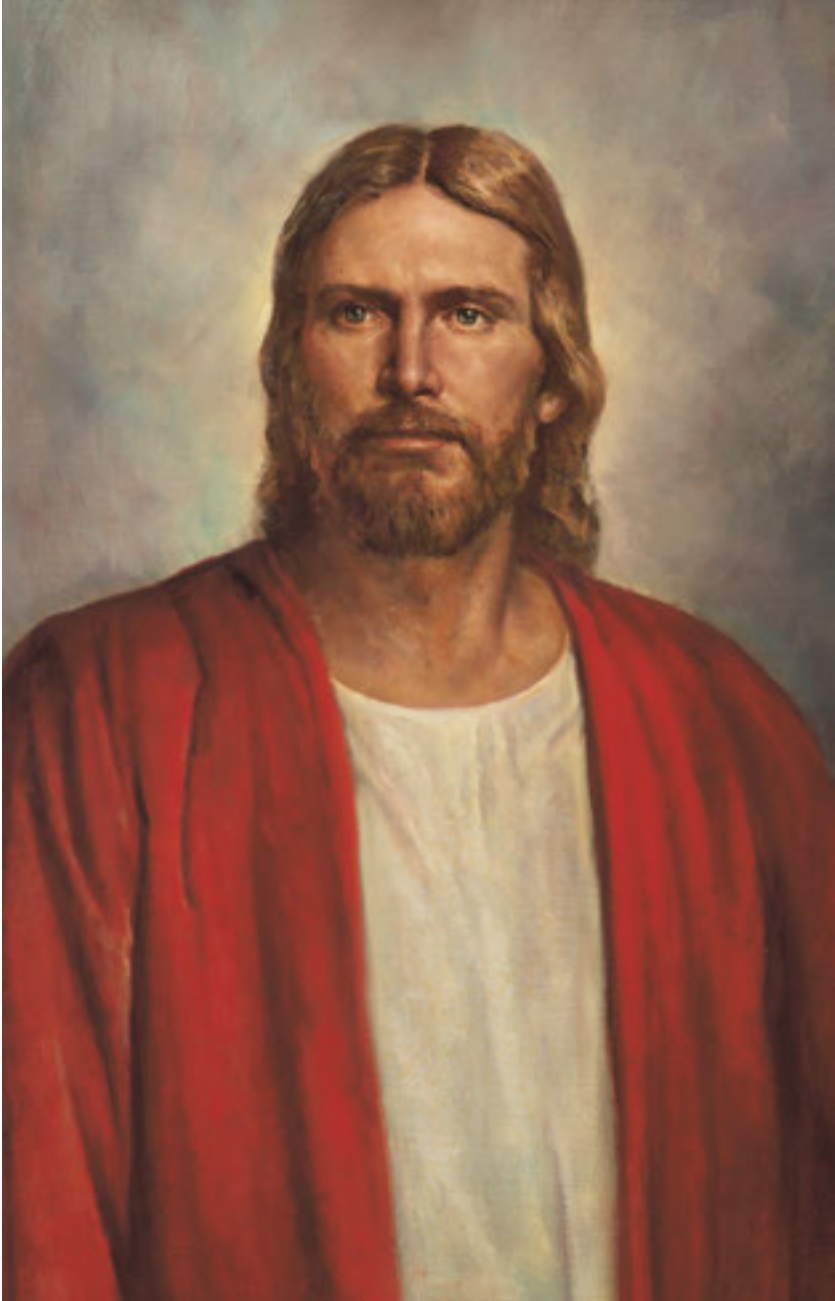
「わたしたちの話す言葉は違いますし、生活環境も  
さまざまです。しかし、わたしたち一人一人の心の  
中には、共通の証<sup>あかし</sup>が脈打っているのです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

「記憶をたどると、わたしが最初に霊的なものを感じたのは、まだ幼い5歳ぐらいのときでした。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長はそう語る。「わたしは耳が痛くて泣いていました。……母は食塩を袋に入れ、それをかまどにかざして温めました。父はわたしの頭にそっと手を置いて、聖なる神権の権能とイエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によって祝福を与え、痛みと病を叱責しました。それから父はわたしを両腕に抱いて、温かい塩の袋を耳の上に置いてくれました。痛みは収まり、去っていきました。わたしは父にしっかりと抱かれながらまどろんでいました。眠りに入ろうとしたときに、癒やしの祝福で言われた言葉が心の中でこだましていました。主の御名によって神権の権能が行使されたことについて、これが記憶に残っている最も古い経験です。

10代の半ばごろまで、わたしは兄弟と一緒にの寝室を使っていました。その部屋は冬でも暖房がありませんでした。……暖かいベッドに入る前に、わたしたちはひざまずいてお祈りをしました。簡単に感謝の気持ちを述べるだけでした。……アーメンと言ってから急いでベッドに飛び込むと、首まで毛布を引き上げて、御子の御名によって天の御父に話したことを思い巡らしたものでした。福音について大した知識があったわけではありませんでしたが、主イエスを通して天と交わりを持ったことについて平安と安心感が心に残るのを感じていました。……

宣教師時代に読んだ新約聖書から、またキリストについてさらに証<sup>あかし</sup>するモルモン書から得たその証は心の中で強くなりました。その知識はわたしの人生の基礎となりました。この基礎は少年時代にこたえられた祈りに根ざしていました。それ以降、わたしの信仰はさらに篤<sup>あつ</sup>くなりました。やがて、キリストの御心<sup>みこころ</sup>を行い、キリストの言葉を教える使徒に任じられました。世の人々に対してキリストを証する者となりました。」<sup>1</sup>



末日聖徒として、わたしたちにはイエス・キリストに対する共通の証<sup>あかし</sup>がある。

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

<sup>あかし</sup>  
証は教会の偉大な力であり、信仰と活動の源である

わたしたちは、全世界に広がる大家族になりました。話す言葉は違いますが、生活環境もさまざまです。しかし、わたしたち一人一人の心の中には、共通の証が脈打っているのです。わたしたちは知っています。神は生きておられ、この神聖な業を導いておられます。イエスはわたしたちの贖い主であり、主の御名を頂くこの教会の頭であられます。ジョセフ・スミスは、この時満ちる神権時代の長となる預言者です。神権が彼のうえに回復され、それは途切れることなく今日のわたしたちに伝えられています。モルモン書は、主イエス・キリストの存在と神性を真に証するものです。<sup>2</sup>

わたしたちが証と呼ぶこの確信は、教会の偉大な力です。それは信仰と行動の源泉です。……この地上にあるさまざまな力と同様に、現実中存在し、しかも、強力なのです。主は、ニコデモにお話しになったとき、その証について、次のように言われました。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである。」(ヨハネ3:8) わたしたちが証と呼ぶこの確信は、定義することも簡単ではありませんが、しかし、その御霊の実は明白です。聖なる御霊がわたしたちを通じて証をしておられるのです。<sup>3</sup>

### 2

<sup>あかし</sup>  
証は、わたしたちが信仰をもって歩むときにわたしたちを支え、わたしたちを行動へと駆り立てる静かな、励ましの声である

個人の証は、人々が教会に加入するとき、その生き方を変える要因になります。その証があると、教会員は主に仕えるときにはあらゆるものを捨てても仕えたいという気持ちになります。この証は静かな励ましの声であって、信仰によって歩いている者を、その生涯の終わりの日まで、休むことなく支え続けてくれるものなのです。

証とは神秘的で不思議なものであって、神から人に与えられる賜物です。人が奉仕の業に召されるときには、証は貧富の差を超越した働きをします。教会員の心の中にこの証があると、進んで義務を果たそうという気持ちになります。証は、若い人も年老いた人も同じように持っています。セミナーの生徒も、宣教師も、ビショップも、ステーキ会長も、伝道部長も、扶助協会の姉妹も、中央幹部一人一人も、皆同じように持っています。証は、教会員であること以外には特に責任のない人々から聞くこともあります。

証は、この業に不可欠なものです。証は、主の業を全世界に向かって進めるときの原動力となっています。証は人を行動へ駆り立てます。証があると、わたしたちは求められていることを実際に行うようになります。証は、人生には目的があり、他よりはるかに大切な事柄が存在するというのを、そして、わたしたちは永遠の旅路の途中であり、また、わたしたちは神に報告をする責任があるということを、確信させてくれます。……

最初は弱く、どこか頼りなさそうに見えても、求道者が改宗の道へと歩み始めるのは、この証を持つようになるからです。そして、改宗者が確固たる信仰を持つようになるのも、この証のためです。……

教会が組織されている所ではどこでも、この証の力が感じられます。わたしたちは自らの足で立ち、「わたしたちは知っています」と言います。……はっきりしていることは、神が生きておられ、イエスは確かにキリストであられ、この教会は御二方の大義であり王国であるということを、わたしたちが確かに知っているということです。使う言葉は簡潔でも、その言葉にかける思いは心から沸き上がってきたものです。教会が組織されている所では、また、宣教師が福音を教えている所では、そして、教会員がその信仰を人々に伝えている所では、決まってこの証の影響力が感じられるのです。

証には論議の余地がありません。反論する人たちは、聖句を引用し、教義について延々と議論を仕掛けてきます。そういう人たちは賢く、説得力のある場合もあるかもしれませんが。しかし、ある人が「わたしは知っています」と言ったら、それ以上論議することはできないでしょう。その言葉は相手に受け入れられないかもしれません。しかし、確信をもって語りかける心の底からの静かな声に反論したり、その声を否定したりすることのできる人がいるでしょうか。<sup>4</sup>

### 「生活にもたらされた光」

〔デビッド・カスタニョーダと〕彼と奥さんのトマサと子供たちは、〔メキシコの〕トレオンの近くの乾燥地にある、小さな荒れた牧場に住んでいました。所有しているものは、30羽の鶏と、2匹の豚と、1頭のやせた馬だけでした。鶏は僅かながらも卵を産んで家族を支え、時にはささやかな収入をもたらすこともありましたが、生活は貧困そのものでした。そんなある日、宣教師がこの家族を訪ねたのです。カスタニョーダ姉妹はこう言っています。「長老たちはわたしたちの目から覆いを取り去り、生活に光をもたらしてくれました。わたしたちはイエス・キリストについて何も知りま

せんでした。長老たちが訪ねてくれるまで、わたしたちは神様のことについて何も知らなかったのです。」

姉妹は学校教育を2年しか受けておらず、ご主人はまったく受けていませんでした。長老たちはこの家族を教え、ついに彼らはバプテスマを受けました。……父親が5人の息子さんと一緒に働くビジネスも、次第に軌道に乗り、業績も上がってきました。純真な信仰によって、什分の一も納め、主に全幅の信頼を置いて、福音の教えに従った生活をしました。召されればどのような職であっても一生懸命仕えました。息子さんのうち4人と娘さんのうち3人が伝道に出ました。……彼らを批判し、嘲る人々もいます。しかし、彼らの答えは、自分たちの生涯は主の力で導かれているという証なのです。

この家族に影響されて、親族や友人の中から200人ほどが教会に加わりました。また、親族や友人の息子娘が、30人以上伝道に出ました。今、教会堂が建っている土地は、この家族が寄付したものです。

立派に成長した子供たちと両親は、毎月順番にメキシコ・シティーへ出かけて行きます。神殿で奉仕をするためです。この家族は、人々を高め変えてくれる主の業の偉大な力の生きた証です。この家族と同じように、この業が真実であるという証がその生活の中にもたらされたときに、モルモンの教えに伴う奇跡を実際に体験した人々は、世界中に何千何万といのです。<sup>5</sup>

「福音は真実です。違いますか。それなら、他のものが何だというのですか」

合衆国で高度な訓練を受けるために遠方の国から派遣された、ある聡明で若い海軍将校の話です。その青年は、合衆国海軍の何人かの同僚に、彼らの宗教について教えを乞いました。その行いを見て心を引かれたからです。この青年はキリスト教徒ではありませんでしたが、興味を持ちました。彼らが話してくれたのは、ベツレヘムで生まれ、全人類のために命をささげられた、世の救い主イエス・キリストについてでした。永遠の父なる神と復活した主が少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたことや現代の預言者についても話し、主の福音を教えてくださいました。御霊に心を動かされ、この青年はバプテスマを受けました。

わたしがその青年を紹介されたのは、彼が祖国に帰る直前のことです。この改宗談を聞いたわたしはこう言いました。「故国の人々はキリスト教徒ではありませんね。キリスト教徒として、特にモルモン教徒として帰国されることで、何か支障はありませんか。」

彼は顔を曇らせ、こう答えました。「家族はがっかりするでしょう。わたしと縁を切り、わたしを死んだものとみなすかもしれません。仕事の上でも将来的にあらゆる機会から見放されると思います。」

わたしはこう尋ねました。「福音のためにそれほど大きな代価を、喜んで払うおつもりですか。」

すると、黒い瞳に涙を浮かべたこの青年は、整った褐色の顔をさっと輝かせ、こう言いました。「福音は真実です。違いますか。」

わたしはこのような質問をしたことを心に恥じながら答えました。「そのとおり、真実です。」

「それなら、他のものが何だというのですか」という言葉が返ってきました。

わたしはこの質問を皆さんにも投げかけたいと思います。「福音は真実です。違いますか。それなら、他のものが何だというのですか。」<sup>6</sup>

#### 人生に対する新たな見方

以前わたしは、教会に加入して間もない技師の体験談を聞いたことがあります。宣教師の訪問を受けた彼の奥さんは、二人を家に招き入れました。奥さんは宣教師のメッセージに積極的だったのですが、ご主人の方は自分の意に反して勝手にレッスンが進んでいるように感じていました。ある晩、奥さんはバプテスマを受けたいと、ご主人に打ち明けました。ご主人の心には怒りが込み上げました。「それがどんな意味か妻は分かっているのだろうか。時間は取られる。什分の一は納めなければならない。友達と違って別れる。たばこもあきらめなけりゃならないんだ。」彼は上着をつかみ、ドアを荒々しく閉めて夜の戸外へ出て行きました。歩きながら、奥さんを、宣教師を、宣教師にレッスンを許した自分を、ののしったのです。やがて歩き疲れ、怒りも収まってきました。すると何かしら祈りたい気持ちにかられました。彼は歩きながら祈りました。疑問に答えてくださるよう、神に懇願したのです。そのとき、はっきりと心に訴えるものがありました。「福音は真実である。」そう告げる声が聞こえたようでした。

「福音は真実、福音は真実……。」繰り返しつぶやいていると、安らかな思いに満たされました。家に着くまでには、あれほど怒りを覚えたもろもろの制約や要求、条件が進歩の機会に思えてきたのです。玄関のドアを開けると、そこにはひざまずいて祈る奥さんの姿がありました。

……彼は聴衆に向かい、自分たちの家庭に訪れた喜びがいかに大きいものかを話してくれました。什分の一は問題ではありませんでした。全てを





「確信をもって語りかける心の底からの静かな声に反論したり、その声を否定したりすることのできる人がいるでしょうか。」

与えてくださった神に一部をお返しすることは、苦になりません。奉仕の時間も問題ではありません。毎日の時間をあと少し慎重に計画すればよかったです。教会での責任も問題ではありませんでした。むしろ成長を実感し、人生に対する見方が変わりました。こうして、物質界の事実を扱うことに慣れていたこの聡明で有能な技師は、自分の生活に起きた奇跡に目を潤ませながら、<sup>げんしゆく</sup>厳粛な証を述べたのです。<sup>7</sup>

#### 「わたしの生活で一番大切なもの」

何年前か、ドイツのベルヒテスガーデンで開かれた、軍務に就く教会員の大会に出席したときのことです。わたしはそこで、高い教養を身に付けた才気あふれる若い女性の話聞く機会を得ました。彼女は陸軍少佐と医学博士の肩書きを持ち、その専門分野では高い評価を受けている人でした。彼女はこう語りました。

「わたしが世の中で何よりも望んだのは神に仕えることでした。ところが、どんなに努力しても神を見いだせずにいました。そんなとき、奇跡が起きたのです。神がわたしを見つけてくださったのです。1969年9月のある土曜日の午後でした。わたしはカリフォルニア州パークレーの実家にいました。ドアのベルが鳴ったので、出てみると、ワイシャツとネクタイ、それに背広に身を包んだ二人の青年が立っていました。髪の手入れも行き届

いていて、好感を持ったわたしはこう言いました。『何のセールスか知りませんが、買わせていただきますわ。』すると、青年の一人が言いました。『セールスマンではありません。わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師で、お話をしに伺ったのです。』わたしは二人を招き入れました。宣教師は自分たちの信仰について話してくれました。

これが証を得るきっかけでした。わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である特権と榮譽に、言葉に尽くせない感謝の気持ちを抱いています。喜ばしい福音が心にもたらしてくれた喜びと平安は、この世の天国ともいべきものです。御業みわざに対するわたしの証は、わたしの生活で一番大切なものであり、天の御父の贈り物です。わたしはこの贈り物に、永久に感謝し続けると思います。』<sup>8</sup>

このような体験を持つ人々は、世界に数え切れないほどいます。才能や教養に恵まれた人、実業家や専門家、現実的で、世の中のことだけを考えていた実利的な〔人〕が、今や心の中に静かな証の火を燃やしているのです。彼らは神が生きておられること、イエスがキリストであること、この業が神の御業であり、救いの機会を受け入れる全ての人に祝福をもたらすために地上に回復されたことを証しています。<sup>9</sup>

### 3

#### 神とその愛する御子みこの实在と御二方の業の回復について、誰でも証を得ることができる

この確信、この証は、神のあらゆる賜物たまものの中でも最も貴重なものの一つとすることができます。適切な努力をすれば、これは天から間違いなくもたらされるものです。人がその心の中に、この偉大な末日の業が真実であり、その業を指揮しておられるのが生ける神と主イエス・キリストであるという確信を得ることは、この教会に属するあらゆる人々の特権であり、責任です。

イエスはそうした証を得る方法を、次のような言葉で説明されました。「わたしの教おしえはわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7：16 - 17)

わたしたちが、仕え、研究し、祈るにつれて、信仰も知識も深まっていくのです。

イエスが5,000人の飢えを満たされたとき、その人々はイエスの行われた奇跡を認め、不思議に思いました。しかし、戻って来た人々は僅かでした。主はその人々に、御自分の使命は御父から託されたものであるという教義を教え、自らが命のパンであると言われました。そして、人々が教えに関心を持たず、むしろ、肉体の飢えを満たすことにのみ関心を持っていることに触れて、人々を責められました。主の御言葉と教えを聞いて、中にはこう言う者もいました。「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか。」(ヨハネ6:60)。こんな人物の教えていることを、だれが信ずるものか、と言うのです。

「それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

そこでイエスは十二弟子に言われた、〔主は幾らか落胆した気持ちでおっしゃったことでしょう。〕『あなたがたも去ろうとするのか。』

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言ことばをもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。』(ヨハネ6:66-69)

これは大きな意義を持つ問いかけであり、またそれに対する答えです。わたしたちは皆、同じように自問してみる必要があります。「もし、あなたでないとと言われるのなら、主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」

生ける神の實在、その愛する御子の神性、この時代における御おふたかた二方の業の回復、そしてその後の栄光に満ちた数々の現れに対して、心の内から沸き起こる静かな確信こそが、わたしたち一人一人の信仰の基となっています。これがわたしたちの証となっているのです。

……わたしは最近ニューヨーク州パルマイラ〔ジョセフ・スミスが最初の示現を受けた場所に近い〕を訪れる機会がありました。その辺り一帯で起こった出来事について、人はこう言わざるを得ません。「それは起こったか、起こらなかったかのどちらかである。灰色の部分、いわば中途半端な部分はあり得ない。」

それに対して信仰の聲がささやきます。「それは皆起こったことなのです。ジョセフ・スミスが起こったと言ったとおりに起こったのです。」

近くにクモラの丘があります。この丘から古代の記録が取り出され、それが翻訳されてモルモン書となりました。その神聖な出所に関して、人は受け入れるか、拒むか、どちらかを選ぶ必要があります。しかし、その証拠の重さを考えれば、その書物を信仰をもって読んだ人々は、こぞって、「これは真実である」と言うに違いないのです。

そして、わたしたちが、古代の福音の回復、古代の神権の回復、古代の教会の回復と呼ぶ、一連の奇跡的な出来事も、同じように、「真実である」と言うことができるのです。

この証は、これまでも常にそうであったように、今でも、わたしたちが知っているままの真理の宣言であり、また、真理の率直な表明でもあります。<sup>10</sup>

---

#### 4

### わたしたちは証をわたしたちのよりどころとし、 それを人に伝えなければならぬ

パウロはテモテにこう語っています。「自分のことと教のことに気を付け、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(1 テモテ 4：16) 若いテモテにパウロが与えた指示の何とすばらしいことでしょう。

パウロは続けてこう言っています。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」(2 テモテ 1：7) 神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力の霊です。つまり、メッセージの力、人々への愛、分かち合うべき福音への愛、健全な心、イエス・キリストの回復された福音の簡単で分かりやすい原則を下されたのです。

「だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2 テモテ 1：8) 兄弟姉妹の皆さん、主の証をすることを決して恥ずかしく思わないでください。……わたしたちには次のような大きな責任と義務が課せられています。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」<sup>11</sup>

これは神の聖なる業です。この教会は、神の教会であり王国です。そして、聖なる森での示現は、ジョセフが述べたとおりに起きました。そこで起きたことがいかに重要か、わたしは心の底からはっきりと理解しています。モルモン書は真実であり、主イエス・キリストについて証しています。神権は回復され、わたしたちの中にあります。天の使者を通して回復された

神権の鍵は、わたしたちに永遠の祝福をもたらすために行使されています。皆さんやわたしの中にある証は、わたしたちのよりどころであり、人と分かち合うべきものです。この証と、わたしからの祝福、そして皆さんへの愛をお伝えます。そして、皆さんが偉大な末日の奇跡、末日聖徒イエス・キリスト教会の一員として歩み続けてくださるよう願っています。<sup>12</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 個人の証は教会が力をつけていくうえでどのような貢献をするでしょうか（第1項参照）。
- ヒンクレー大管長は、証はわたしたちを支え「[わたしたちを] 行動へと駆り立てる」と強調しています（第2項）。証はあなたをどのように支えてきたでしょうか。その証は、あなたの行動にどのような影響を及ぼしてきたでしょうか。第2項で紹介されている話を、あなたは個人として、どのように応用できるでしょうか。
- 証を得ることについてのヒンクレー大管長の教えからどのようなことが学べるでしょうか（第3項参照）。あなたにとってどんな経験が、証を得るうえで助けとなりましたか。証を強くするために、わたしたちにはどんなことができるでしょうか。
- 人に証を伝えると証が強くなるのはなぜだと思いますか。証を分かち合うときに感じる恐れを、あなたはどのように克服してきましたか。他の人の証を通して、あなたはどのような祝福を受けてきたでしょうか（第4項参照）。

### 関連聖句

1 コリント 12：3；1 ペテロ 3：15；；アルマ 5：43－46；32：26－30；モロナイ 10：3－5；教義と聖約 8：2－3；80：3－5

### 教える際のヒント

「生徒一人一人を理解するようになると、生徒それぞれの状況に合わせたレッスンを準備できるようになる。また、各人が話し合いや他の学習活動に参加するのを助ける方法を見つけるようになる」（『教師、その大いなる召し』34）

注

1. 「わたしの証<sup>あかし</sup>」『リアホナ』2000年7月号, 83-85
2. 「御霊<sup>みたま</sup>の力によって聞く」『リアホナ』1997年1月号, 5 参照
3. 「証」『聖徒の道』1998年7月, 73-74
4. 「証」74
5. 「証」74-75
6. 「福音は真実です。違いますか」『聖徒の道』1993年10月号, 3-4 参照
7. 「福音は真実です。違いますか」5-6 参照
8. 「福音は真実です。違いますか」6-7
9. 「福音は真実です。違いますか」5-6
10. 「証」75-76
11. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年) 369
12. 「完全な希望の輝き—新会員の皆さんへ」『リアホナ』2006年10月号, 5



## 結婚における永遠のパートナー としての関係を養い育てる

「人生における最も楽しい思いや、人の心を最も豊かにし満たしてくれるひときは、世の悪の及ばない清く汚れのない結婚によってもたらされます。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ある晩、ヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹がともに静かに座っていると、ヒンクレー姉妹がこう言った。「わたしが飛べるように、あなたはいつも翼をくれたわね。そんなあなたを愛しているわ。」<sup>1</sup>妻から受けたその言葉について、ヒンクレー大管長は次のように言っている。「わたしは妻の個性、人格、望み、これまでの経験、心からの願いを理解するように努めてきました。妻が自由に羽ばたけるようにするのです。そうです。妻が自由に飛んで、才能を伸ばせるようにし、自分の方法で物事を行うのを見守り、じゃまをしないことです。すると驚くような成果が見られます。」<sup>2</sup>ヒンクレー姉妹も同じように、夫が、父親としての務め、個人的な興味、またさまざまな教会の奉仕に時間を使うのを支えた。

幼い頃から成長するまでのほとんどの間、ゴードン・B・ヒンクレーとマージョリー・ペイは、同じワード内に住み、長年、通りを挟んだ向かい合った家に住んでいました。ヒンクレー大管長は後日、「彼女に初めて会ったのは初等協会のときでした」と回想している。「彼女が読み物をくれたことがあります。それがわたしにどんな影響を与えたのか分かりませんが、そのことはずっと忘れませんでした。やがて彼女は美しい若い女性に成長し、わたしは彼女と結婚したいと思うようになりました。」<sup>3</sup>

二人が初めてデートしたのは、教会のダンスパーティーのときだった。ゴードンが19歳、マージョリーが18歳だった。後にマージョリーは、「この人、きっと何かを成し遂げるわ」と母親に言った。<sup>4</sup>ゴードンがユタ大学に通っている間も、二人は関係を育み続けた。ゴードンは、卒業した翌年の1933年にイングランドで伝道するように召された。1935年に帰還した



ヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹は、幸福で愛に満ちた夫婦関係を楽しみ、「再び相まみえ、永遠の伴侶はんりよとしてともに歩むという静かではっきりとした確信」によって強められた。



とき、二人は再び交際を始め、1937年にソルトレーク神殿で結婚した。結婚当初を振り返り、ヒンクレイ姉妹はこのように語っている。

「お金は僅かしかありませんでしたが、わたしたちは希望にあふれ、終始楽観的でした。結婚したての時期は、楽しいことばかりではありませんでしたが、幸福な家庭を築く決意と大きな望みにあふれていました。わたしたちはお互いに愛し合っていましたし、それは確かなことでした。しかし、互いに慣れることも必要でした。どの夫婦も、互いに慣れる必要があると思います。

結婚した当初、絶えず相手を変えようとするより、互いに慣れるよう努力した方がよいことに気づきました。相手を変えるのは不可能だからです。……幸福な家庭を築くには、多少の譲り合いが必要であり、大いに柔軟でなければなりません。」<sup>5</sup>

ヒンクレイ大管長が、1958年に中央幹部として召されて奉仕を始めた当初、教会の責任で旅行をするときは、ヒンクレイ姉妹は家庭にとどまり、いつも5人の子供の世話をしていた。子供たちが成長した後、ヒンクレイ夫妻はよく二人で旅行し、その機会を大切にしました。1977年4月、二人がオーストラリアの聖徒に会うために長旅をする途中で結婚40周年の記念日を迎えた。その日、ヒンクレイ大管長は日記に次のような思いを書き記している。

「今わたしたちはオーストラリアのパスにいる。わたしたちの今の姿は、年月を重ねて形作られたものだ。今日は、オーストラリアのパス伝道部の宣教師との集会に出席して一日を過ごした。多くの証や教えを聞き、すばらしい日となった。宣教師たちがマージョリーにコサージュをプレゼントしてくれた。時間がなくて、自分では買ってあげられないものだった。

これまでの40年をつづるには、かなりのページが必要だろう。……悩みや問題もあった。しかし大体において、人生は順調だった。わたしたちはすばらしい祝福を受けてきた。この年になると、人は永遠の意味や永遠の関係の価値に気づき始める。もし今晚、自宅にいたなら、家族で夕食を共にしていただろう。今は主の奉仕で家を離れているが、それもまたすばらしい経験だ。」<sup>6</sup>

その20年後、教会の大管長として奉仕していたヒンクレイ大管長は、60年間にわたる結婚生活を振り返り、その思いをヒンクレイ姉妹への手紙に次のように書いている。「君はこれまでどれほど大切な伴侶だったことか。二人とも年を取ったけれども、すばらしい経験をしてきたね。……いつか将来、死の手がどちらかに触れるとき、もう一方は涙に暮れるだろう。し

かし、再び相まみえ、永遠の伴侶としてともに歩むという静かではっきりとした確信にも包まれるだろう。」<sup>7</sup>

2004年の初め、ヒンクレー夫妻がガーナ、アクラ神殿の奉獻から帰る途中で、ヒンクレー姉妹は疲労で倒れた。その後回復することなく、2004年4月6日にこの世を去った。その6か月後の10月の総大会で、ヒンクレー大管長はこう語った。

「妻の手を取り、その指から地上での命が消えていくのを見て、わたしは途方に暮れました。結婚する前……、彼女はわたしの夢の人でした。……3分の2世紀以上の間、妻はわたしの愛する伴侶であり、主の御前みまへにおいては対等でしたが、実際はわたしより優れた人でした。そして今このとしくなって、彼女は再び夢の人になってしまいました。」<sup>8</sup>

悲しみに暮れながらも、ヒンクレー大管長は自分とマージョリーが永遠に結び固められているという知識に支えられていた。「太陽が輝くときも、影が覆うときも、長年ともに歩んできた最愛の伴侶を亡くすのは、まったく途方に暮れる出来事でした」と、ヒンクレー大管長は言う。「耐えられないほどの孤独感が強さを増し、ひどく心がえぐられるようでした。しかし、夜の静けさの中で、かすかなささやきが聞こえてきます。『すべては善し。すべては善し。』その声がどこから来たのか分かりませんでしたが、それはわたしに平安を与えてくれました。そして、死は終わりではなく、人生は続き、なすべきことがあり、やがて勝利を得るのです。耳には聞こえないほどかすかなその声は、別れがあるのと同じように、喜びに満ちた再会があるという確信をもたらしてくれるのです。」<sup>9</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 天の御父は創世の初めから結婚を定められた

永遠の御父の計画の中で、結婚はいかにすばらしいことでしょうか。それは神の子らの幸福と安寧のため、また人類が存続するために、神の知恵をもって備えられた計画です。

御父はわたしたちの造り主であり、創世の初めから結婚を定められました。エバが創造されたとき、「人は言った。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。……』それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:23-24)

パウロはコリントの聖徒たちにこう書き送っています。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」(1 コリント 11：11)

主は近代の啓示の中で言われました。「さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。結婚は人のために神によって定められているからである。」(教義と聖約 49：15) ……

古代と近代の両方の聖文を読むと、結婚が神聖なものであることがはっきりと分かります。人生における最も楽しい思いや、人の心を最も豊かにし満たしてくれるひとときは、世の悪の及ばない清く汚れない結婚によってもたらされます。

このような結婚は、全ての男女が望み、あこがれ、祈り求めるものだと信じています。<sup>10</sup>

## 2

### 神殿の中で、夫と妻はともに永遠の家族として結び固められる

神殿は他の場所では得られない祝福を提供しています。この聖なる宮で行われる全てのことは、人の永遠の行く末と関係があります。ここで、夫と妻と子供たちは家族としてともに永遠に結び固められます。結婚は「死が二人を分かちまで」の関係ではありません。夫婦双方がその祝福にふさわしく生きていけば、結婚は永遠です。<sup>11</sup>

女性を心から愛した男性、あるいは男性を心から愛した女性で、二人の関係が墓を超えて続くことを願わない人がいるでしょうか。子供を亡くした両親で、次の世で我が子を再び腕に抱く日が来ることを願わない人がいるでしょうか。永遠の命を信じている人は誰であっても、天の神が御自分の息子や娘に人生で最も大切な特質、すなわち家族関係において最も貴い心の現れである愛を与えてくださることに疑問を持つことができるでしょうか。そのような人はいないはずです。わたしたちの理性が家族のきずなは死後も続くことを教えてくれます。人の心がそう願ひ、神はそれを実現する方法を啓示されました。主の家で行われる神聖な儀式はそのためにあるのです。<sup>12</sup>

正しく結婚し、正しく生活するならば、家族のきずなは必ず訪れる死や過ぎ行く時を乗り越えて続きます。このことを知るときに得られる平安は、どれほど心の慰めとなることでしょうか。またその確信はいかに深い平安と喜びを与えてくれることでしょうか。人は愛の歌を書き、歌います。望み、あこがれ、そして夢見ることもあります。しかし、時と死の力を超えた権

能で結び固められなければ、それらは皆、ロマンチックなあこがれにすぎません。<sup>13</sup>

### 3

#### 夫婦は永遠の旅路を並んで歩む

神はその偉大な計画によって、最初に人を創造されたとき、二つの性をお創りになりました。その対等性を気高い形で表したのが結婚です。一方が他方を補っています。<sup>14</sup>

結婚関係に優劣の関係は存在しません。女性が男性の前を歩くのでも、男性が女性の前を歩くのでもありません。二人は神の息子娘として並んで、永遠の旅路を歩んで行くのです。<sup>15</sup>

結婚生活は、本来、対等な協力関係です。一方が他方を支配するのではなく、むしろどんな責任を果たし、目標を掲げるときにも、互いに励まし合い、助け合う関係なのです。<sup>16</sup>

妻である皆さん、夫をかけがえのない伴侶として認め、その関係にふさわしい生活をしてください。夫である皆さん、妻の中に今も永遠にわたっても最も価値のある資質を見てください。あなたの妻は神の娘であり、人生の中で、晴れのときも嵐あらしのときも、喜びのときも苦難のときにも、手を取り合って歩むことのできる伴侶です。<sup>17</sup>

高校と大学のときの……二人の〔友人〕について思い出します。男性の方の友人は、田舎町の出身で、見かけは平凡で、お金もなく、将来有望な人でもありませんでした。農場で育ち、もし人を引き付ける特質があったら、働く能力だけでした。……しかし、まったく田舎者らしい風貌の彼でしたが、笑顔と善良さを絵に描いたような性格の人でした。女性の方の友人は、都会の出身で、かなり裕福な家庭で育ちました。……

二人の間に奇跡が起こり、彼らは恋に落ちました。……学生時代、〔二人は〕ともに笑い、ダンスをし、学びました。二人が結婚したとき、周囲の人々はどうやって必要な生活費を稼ぐのだろうと思いました。彼は専門学校に通う間、一生懸命に努力し、クラスでトップに近い成績で卒業しました。彼女は儉約し、貯金し、働き、祈りました。本当に苦しいときでも、彼女は「大丈夫よ、きっと」と静かに言いながら、彼を励まし、支えました。彼女の信仰に支えられて、彼は困難な年月を耐え抜いていきました。子供が生まれると、二人はともに子供を愛し、養い育て、お互いに対する愛と忠誠という模範によって子供を守りました。そして今、45年以上の月日が

流れました。子供たちは成長し、二人にとっても、教会にとっても、彼らが住む地域にとっても誉れとなっています。

最近、ニューヨークからの飛行機の中で、機内の薄暗い通路を歩いていると、ある白髪の女性が目に留まりました。彼女は夫の肩に寄りかかり、まどろんでいました。彼の手は彼女の手を優しく包んでいました。彼は起きていて、わたしに気づきました。彼女は目を覚まし、わたしたちは話し始めました。彼らもニューヨークから戻る途中でした。彼はそこでアメリカの高度な学問の学会の一つに論文を提出してきたのです。彼はそれについてほとんど語りませんが、彼女は彼に与えられた名誉について誇らしげに話してくれました。……

そのことについて思い巡らしながら、わたしは機内の自分の席に戻りました。そして心の中でこう思いました。「彼らの昔の友人たちは、二人を田舎生まれの農家の少年と鼻にそばかすのある笑顔の少女としか見なかっただろう。しかし、この二人は互いの中に、愛と忠誠、平安、信仰、そして将来の可能性を見ていたのだ。相性が良かったのだと言う人もいるだろう。確かにそれも多少はあるかもしれないが、もっと多くのことがあっただろう。むしろ父なる神によって、そこに植えられた神聖な何かが生長し花開いたのだろう。学校時代、二人はその花開く過程にふさわしい生活をした。徳と信仰、そして自分自身と相手に対する感謝と尊敬をもって生活したのだ。仕事や経済的なことで困難を経験していたときも、二人のきずなの中に、この世を生き抜くための最大の強さを見いだしていたのだ。今、年老いた彼らは、平安と静かな満足をともに感じている。そしてその向こうには、主の宮で何年も前に交わした聖約と、受けた約束によって、喜びに満ちた関係が永遠に続くことを確信していた。」<sup>18</sup>

---

#### 4

---

### 神は、ふさわしい個人に対して、結婚していないという理由で祝福を差し控えられることはない

どういうわけか、わたしたちは教会の中で非常に重要な皆さんに対して、一つの呼び名をつけてしまっています。それは「独身」という呼び名です。それはしないようにしたいと思います。皆さんは一人一人異なる個人であり、女性であり男性であり、神の息子であり娘です。「同じように見える人」や「同じような行動をする人」の集合体ではありません。たまたま結婚していないだけで、他の人と本質的に違っているわけではありません。わたしたちは皆、外見も感情の動きも、考えたり判断したりする能力も、大差

ありません。皆同じように惨めな気持ちにもなり、幸福感も味わい、愛し、愛される点で変わりはありません。

天の御父の計画の中で、皆さんは他の人たちと同様に大切な存在です。御父の憐れみにより、結婚していないことで、永遠に皆さんに与えられない祝福などないのです。<sup>19</sup>

これまで結婚する機会がなかった皆さんに短く話をさせてください。わたしたちは、皆さんの多くが抱えている孤独感に敏感になっています。孤独感とは、つらく、心が痛む感情です。誰しも、一度ならず感じたことがあるでしょう。わたしたちは理解と愛を込めて、皆さんに心を寄せています。……

……皆さんの人生のこの時期は、素晴らしいものとなり得ます。皆さんは成熟しています。皆さんには思慮分別があります。皆さんの多くは訓練を受け、経験を積んでいます。人々を高め、助け、励ますことのできる、身体的、精神的、霊的な強さがあります。

皆さんを必要としている人々が大勢います。……皆さんの霊を100パーセント充電し、人々の心に明かりをともしてください。<sup>20</sup>

まだ結婚していない皆さんにお話ししたいと思います。……神は皆さんに何らかの才能を与えておられます。人々の必要のために働く能力、親切的な心、関心を向けることなどにより、人々の生活を祝福する能力を与えておられます。困っている人に手を差し伸べてください。……

知識に知識を加えてください。自分が選んだ専門分野で、知性と技術を磨いてください。それらを活用する準備ができていれば、皆さんには非常にたくさんの機会があります。……独身だからといって、神が皆さんを見捨てられたと思わないでください。世界は、皆さんを必要としています。教会も、皆さんを必要としています。このように、非常に多くの人や大義が、皆さんの強さや知恵や才能を必要としているのです。

よく祈り、希望を捨てないでください。……あなたができる最高の生活をしてください。そうすれば主は、その人知を超えた知恵により、永遠の時間の中で、皆さんの祈りに答えを与えてくださるでしょう。<sup>21</sup>

離婚した皆さんに申し上げます。結婚生活が実を結ばなかったという理由で、わたしたちが皆さんを失敗した人として軽視したりしないことを分かっていたきたいと思います。……わたしたちの義務は非難することではなく、赦し、忘れ、引き上げ、助けることです。孤独を感じる際には、主に心を向けてください。主はこう言っておられます。「すべて重荷を負う

て苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28, 30)

主は皆さんを否定されることも、追い出すこともされません。皆さんの祈りへの答えは劇的なものではないかもしれませんが。容易に理解し、喜んで受け入れるのが難しいかもしれません。しかし、皆さんが祝福を受け続けてきたことを知る時が訪れるでしょう。<sup>22</sup>

## 5

### 結婚生活における幸福は、伴侶の幸福のために 愛にあふれた関心を示すことにある

結婚生活を養い育て、高めてください。それを大切に守り、堅実で美しい関係を保つように努力してください。……結婚は一つの契約であり約束です。それは全能者の計画の下に、男と女が一つになることです。結婚は壊れやすい場合もあります。養い育てることと多大な努力が必要です。<sup>23</sup>

長年何百組もの離婚問題に取り組んできて、確信していることがあります。それは、一つの原則を応用することで、この深刻な問題に対し、他の何にも増して効果的な解決が得られるということです。

全ての夫や妻が、伴侶を慰め、伴侶を幸せにすることを絶えず実行するならば、離婚はあったとしても非常に少なくなるでしょう。……言い争いはなくなり、非難を浴びせる声は消えうせ、怒りを爆発させることもなくなるでしょう。そして虐待と辛辣な言動が、愛と関心しんらつに変わるでしょう。……

結婚に関する多くの問題を離婚で解決することはできません。それは悔い改めと赦しゆる、そして親切と関心を示すことにあります。黄金律を自分に当てはめるときに解決できるのです。

若い男性と若い女性が聖壇で手を取り合い、神の御前みまえで互いに尊び、愛するという聖約を交わす光景は大変美しいものです。しかし、数か月後あるいは数年後、攻撃的な言葉や辛辣で相手を傷つける言葉、声を荒げ、厳しい非難が飛び交う光景は何と重苦しいことでしょうか。

愛する兄弟姉妹の皆さん、そうなる必要などありません。わたしたちはこれらの「無力で貧弱な、もろもろの霊力」に打ち勝つことができます(ガラテヤ 4:9 参照)。天の御父の子供であるわたしたちの内にある神の性質を互いに探し、認め合うことができます。そして伴侶を訓練しようとする



「結婚生活を養い育て、高めてください。それを大切に守り、  
堅実で美しい関係を保つように努力してください。」

のではなく、自分自身を訓練するなら、自分ができるところを成し遂げることで、神が定められた結婚の規範の中でも生きていくことができます。<sup>24</sup>

どのような結婚生活にも、時折、嵐のような時期が訪れるものです。しかし、忍耐と寛容の精神、そして互いを尊重する心があれば、この嵐に耐えることができます。過ちがあったときは、謝罪し、悔い改め、赦さなければなりません、夫と妻の両方に進んでそうする態度がなければなりません。……

家庭生活の幸福の本質は……伴侶の安らぎと幸福を切に願う気持ちにあることをわたしは学びました。自分のことだけを考え、自分の欲望だけを満たそうとする姿勢からは、信頼も愛も幸福も生まれません。無私の心があるときだけ、愛はそれに伴う優れた特質とともに、生き生きと花開くのです。<sup>25</sup>

わたしたちの多くは欠点を見るのをやめて、長所を見るようにする必要があります。……残念なことに、女性の中には自分の計画に合わせて夫を作り変えたいと思っている人がいます。また男性の中には、自分が理想とする標準に妻を従わせるのが夫の特権であると考えている人がいます。これは決してうまくいきません。言い争いや誤解、悲しみを招くだけです。

夫婦はお互いの関心事を尊重しなければなりません。個人の才能を伸ばして表現する機会と励ましを与える必要があります。<sup>26</sup>



あなたが選んだ伴侶に完全に誠実で忠実であってください。この世と永遠の観点から見て、彼女あるいは彼は、あなたがこれまで持った中で最もすばらしい財産となるでしょう。あなたの中に秘められた最もすばらしい特質にふさわしい存在となるでしょう。<sup>27</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- ヒンクレー大管長は、天の御父は「神の子らの幸福と安寧のために」男女の間の結婚をお定めになったと教えました(第1項)。この知識は、夫と妻の関係にどのような影響を及ぼすでしょうか。夫と妻は結婚をどのように「世の悪の及ばない清く汚れのない」状態で守ることができるでしょうか。
- 永遠の結婚によって、この世と永遠においてどのような祝福があるでしょうか(第2項参照)。どのような経験を通して、永遠に続く関係に対する感謝を深めたでしょうか。子供たちに永遠の結婚の大切さをどのように教えることができるでしょうか。
- なぜ結婚は「対等な関係」でなければならないのでしょうか(第3項参照)。第3項から、あなたはどんなことを学ぶことができるでしょうか。どうしたら夫婦は結婚生活においてこのような強さを養うことができるでしょうか。
- 第4項にあるヒンクレー大管長の約束と勧告は、どのように結婚してない人々の助けになるでしょうか。この項に書かれている教えは、どのように全ての人に当てはまるでしょうか。人々に仕えるために、自分の才能や技術を使うことが大切であるのはなぜでしょうか。
- 夫婦が結婚生活を「養い育てて高め[る]」にはどのような方法があるでしょうか(第5項参照)。夫婦はどのようにともに問題を乗り越え、より深い幸福を見いだすことができるかについて、何を学んだでしょうか。どのような例を実際に目にしたことがありますか。

### 関連聖句

1 コリント 11：11；マタイ 19：3－6；教義と聖約 42：22；132：18－19；モーセ 2：27－28；3：18，21－24

## 学ぶ際のヒント

「毎日時間を取って個人でも家族でも神の言葉を研究するなら、皆さんの生活に平安が満ちるでしょう。平安は外の世界から来るものではありません。それは、皆さんの家庭から、皆さんの家族から、皆さん自身の心から来るのです。」(『リアホナ』2014年11月号, 93)

## 注

1. 「人生で出会う女性たち」『リアホナ』2004年11月号, 84 参照
2. 「ヒンクレイ夫妻が歩んできた道」『リアホナ』2003年10月号, 32 参照
3. ジェフリー・R・ホランド, “President Gordon B. Hinckley: Stalwart and Brave He Stands,” *Ensign*, 1995年6月号, 10 – 11 で引用
4. *Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley*, バージニア・H・ピアス編, (1999年), xで引用
5. *Glimpses*, 184で引用
6. ゴードン・B・ヒンクレイの日記(英文), 1977年4月29日付
7. ゲリー・エバント, “A Tender Farewell to an Elect Lady,” *Church News*, 2004年4月17日付, 4で引用
8. 「人生で出会う女性たち」82 参照
9. マージョリー・ベイ・ヒンクレイ著, *Letters* (2004年), 264で引用。R・スコット・ロイド, “Apostle’s Work Continues beyond Veil,” *Church News*, 2004年7月31日付, 3 参照
10. 「神が合わせられたもの」『聖徒の道』1991年7月号, 72 – 73 参照
11. 「わたしの知っていること」『リアホナ』2007年5月号, 85 参照
12. 「なぜ神殿を」『聖徒の道』1992年6月号, 5 – 6 参照
13. 「永遠に続く結婚」『リアホナ』2003年7月号6 – 7 参照
14. 「人生で出会う女性たち」84 参照
15. 「神権を行使する個人のふさわしさ」『リアホナ』2002年7月号, 60 参照
16. 「わたしは信じる」『聖徒の道』1993年3月号, 7 参照
17. 「神が合わせられたもの」75 参照
18. “And the Greatest of These Is Love” (Brigham Young University devotional, Feb. 14, 1978), 2–3, [speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu)
19. “To Single Adults,” *Ensign*, 1989年6月号, 72
20. “To Single Adults,” 72 – 73
21. 「天父から受け継いだ資質に恥じない生き方」『聖徒の道』1984年1月号, 149 – 150 参照
22. “To Single Adults,” 74
23. 「主の光の中を歩む」『聖徒の道』1999年1月号, 110 参照
24. 「人生で出会う女性たち」84 参照
25. 「わたしは信じる」7 参照
26. 『永遠の結婚—生徒用手引き』インスティテュート生徒用資料, 53 参照
27. “Thou Shalt Not Covet,” *Ensign*, 1990年3月号, 6



## 家庭——義にかなった生活の基

「皆さんの子育てがイエス・キリストの福音に沿った、  
愛と高い理想に基づいたものであればあるほど、  
子供たちの生活に訪れる平安の度合いは大きくなります。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

1973年の終わり頃、ゴードン・B・ヒンクレーとマージョリー・ヒンクレーは、ソルトレーク・シティの教会本部の近くに住めるように、イースト・ミル・クリークの家を離れることをやむなく決心した。当時十二使徒定員会の一員だったヒンクレー大管長は、その年の大みそかに時間を取り、自分たちの家について書き記している。ヒンクレー大管長の言葉は、その場所に対する思いだけでなく、愛にあふれた家族に対する思いを表している。

「ここを去ることについて、わたしたちはどれほど悲しく思っていることだろう。」家を建て、周囲の土地を造成するために家族で働いたことを回想し、その後、互いの関係や神との関係に思いを巡らしてこう記している。

「子供たちが成長する間、わたしたちはここでともに遊び、ともに祈った。わたしたちと子供たちは、ここで天の御父を知るようになり、御父が生きておられ、祈りに耳を傾け、祈りにこたえてくださることを知るようになった。

わたしは、……世のためではなく、5人の子供たちとその伴侶や子孫のために、1冊の本を書き続けてもよいだろう。そして、あの家の物語を言葉で正しく表すことができるなら、それには笑いと涙があり、包み込むような豊かで静かな愛の精神にあふれ、読む人の心の琴線に触れるだろう。なぜなら、そこに住んだ人々が互いに愛し合い、隣人を愛し、神と主イエス・キリストを愛したからである。」<sup>1</sup>

教導の業に携わる間、ヒンクレー大管長は常に愛と忠実な家族の大切さについて証した。ヒンクレー大管長の指示の下、大管長会と十二使徒定員会は、「家族—世界への宣言」を発表した。それについて十二使徒のM・ラッセル・バラード長老は、「家族を守り強めるための明快な呼びかけ」である



「親である皆さんに、子供たちを教えることに全力を尽して下さるようお願いいたします。」

と表現した。<sup>2</sup> 1995年9月の中央扶助協会集会でこの宣言を読み上げた後、ヒンクレー大管長は次のように宣言した。「いかなる国家であろうと、その強さは家庭という囲いの中に根ざしているのです。わたしたちは、世界中に住むわたしたちの民が、時を超えて生き続けるこの価値観にのっとって家族を堅固なものにするように強く勧めます。」<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 家族関係は全ての関係の中で最も神聖である

家族は神聖です。家族は天の御父によって定められました。家族は全ての関係の中で最も神聖なものです。家族という組織を通してのみ、主の目的は達成できるのです。<sup>4</sup>

わたしたちの教会は、家族、すなわち父親、母親、子供が大切であること、わたしたちは皆、永遠の父なる神の子供であるという事実<sup>あかし</sup>を証する教会です。子供たちをこの世にもたらす両親には、子供たちを愛し、養い育て、世話をし、彼らの生活に益となる価値観を教えることによって、彼らが善良な市民となるようにする責任があります。……すでに皆さんがよく御存じであることを強調したいと思います。それは愛と親切、感謝と尊敬、主の道を教えることによって家族を結び合わせる大切であるということです。そうすることによって、皆さんの子供たちは義のうちに生活し、世界中の実に多くの家族を襲う悲劇を避けることができるでしょう。<sup>5</sup>

あなたの家族をないがしろにしないのが急務です。あなたの持っているものの中で家族以上に貴いものはありません。<sup>6</sup>

### 2

#### 父親と母親には、子供たちの世話をし、イエス・キリストの福音を教えるという特権がある

親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに最善を尽くしてくださるようお願いいたします。そうすることによって子供たちは教会にこれからもずっと活発に集うことでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、他のどのような手段も、家庭に代わる役割を果たしませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえで必要不可欠な役割を果たしてくれません。<sup>7</sup>

わたしは次の事柄に満足しています。それは、福音の素晴らしい教えから得られる家族生活のプログラム以上に、親の責任を果たすというリスク

の高い務めを確実に成功させるものはないということ、また、家庭の父親は神の神権の衣をまとえるということです。天の御父の子供たちを管理する者として、彼らに必要なものを提供することは父親の特権であり義務です。父親は「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛によ〔る〕」という神権者の精神によって家庭を治めるのです（教義と聖約 121：41－42）。さらに、家庭における母親は神の娘であり、神の御<sup>み</sup>霊の衣をまとることができる知性と献身と愛の人です。子供たちに日々必要なものを与えて養い育てることは、天の御父の子供たちを管理する者としての母親の特権であり責任です。彼女もまた夫の伴侶<sup>はんりよ</sup>として、子供たちが「悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと<sup>あんしゆ</sup>按手による聖霊<sup>たまもの</sup>の賜物の教義を理解するように〔子供もたちを〕教え……祈ること、主の前をまっすぐに歩むことも教えなければならない」のです（教義と聖約 68：25, 28）。

このような家庭では、両親は怖がられることなく愛され、恐れられることなく感謝されます。そして、子供たちは主の賜物と見なされて、世話され、養われ、励まされ、導きを与えられます。

時には不一致があるかもしれませんが。小さいさかいがあるかもしれませんが。しかし、家族に愛と祈りと思いやりがあれば、そこには永遠のきずかなとなる愛情の基があり、常に道案内となる忠実な心が存在するでしょう。<sup>8</sup>

ここでひとり親の皆さんにお話しします。……皆さんは、子供たちを育て、彼らの必要を満たすことに配慮しながら日々奮闘するという、非常に骨の折れる重荷を背負っています。これは、孤独な務めです。しかし、たった一人で果たす必要はありません。この教会には、気配りと理解をもって手を差し伸べてくれる人が実にたくさんいるのです。彼らは、触れてほしくないことに立ち入るようなことはしません。むしろ、心から誠実な関心を示し、あなたやあなたの子供たちの生活に祝福が注がれるようにしてくれます。それにより、彼ら自身の生活にも祝福が注がれるのです。彼らの助けを受け入れてください。彼らは助けを与える必要があります。それはあなたのためだけでなく、彼ら自身のためでもあるのです。

教会には優れたビジョッパが何千人もいます。優れた定員会の役員が何千人もいます。すばらしい扶助協会の姉妹が何千人もいます。ホームティーチャーや訪問教師もいます。彼らはあなたの友です。あなたに手を貸すように力が与えられ、主から遣わされているのです。そして、他の誰よりも主御自身が偉大な力の源であられることを決して忘れないでください。ひとり親として7人の子供たちを育てている女性……が語ってくれた経験に

わたしは胸を打たれました。彼女は、明日の試練に堪えるための慰めと力を得るために、一晩でもよいので主のみもとに行かせてくださいと天の御父に嘆願したのです。そして、彼女の心に穏やかな答えが啓示のように降りました。「あなたはわたしのもとに来ることはできない。しかし、わたしがあなたのもとに行こう。」<sup>9</sup>

皆さんの子育てがイエス・キリストの福音に沿った、愛と高い理想に基づいたものであればあるほど、子供たちの生活に訪れる平安の度合いは大きくなります。<sup>10</sup>

### 3

#### 家族の祈りを通して、子供たちは生ける神を信じる信仰を育みながら成長する

皆さんの幼い子供たちを見てください。子供と一緒に祈ってください。子供たちのために祈り、子供たちを祝福してください。彼らが入って行くとしている世界は複雑で、困難な世の中です。彼らは試練の大海原にこぎ出して行くでしょう。子供たちがまだあなたのそばにいる間に、彼らは与えられる限りのあらゆる力と信仰を必要としています。より高い力から得られる、より偉大な力も必要としています。彼らには、周りで起こることに同調して生きる以上のことをしなければなりません。彼らは世を引き上げなければなりません。そうするための「てこ」は、彼ら自身の生活の模範であり、神の事柄にかかわる証と知識から来る説得する力なのです。彼らは主の助けを必要とするでしょう。彼らが幼いうちにとともに祈り、必要などときにはいつでも得られる力の源を知ることができるようにしてください。<sup>11</sup>

祈るために家族で一緒にひざまずくことほど、皆さんの生活に健全な影響を及ぼす習慣は他にありません。「天のお父様」という言葉そのものに、すばらしい力があります。確信をもって真心からこの言葉を口にするとき、皆さんは神に対する自らの責任を感じずにはいられないでしょう。……

天の御父と毎日話すことによって、他の何物からも得られない心の平安と生活の喜びがもたらされるでしょう。……愛が深まるでしょう。互いへの感謝の気持ちが高まるでしょう。

子供たちは、神の御霊が宿る家庭で生活することにより、安心感に包まれるでしょう。また、両親が互いに尊敬し合っていることを知り、そのような両親を愛し、人を敬う心を育むでしょう。静かな優しい言葉に安らぎを覚えるでしょう。神に対して正直に生活し、伴侶や同胞に対して正直に生活している両親によって、子供たちは守られるでしょう。また、両親

が祈りの中で大小を問わず祝福に感謝するのを聞いて、感謝の心を養うでしょう。そして、生ける神を信じる信仰をもって成長するでしょう。<sup>12</sup>

---

#### 4

---

### 家庭の夕べで、両親と子供たちは主の道を学ぶ ことによって、一つになることができる

わたしが5歳の幼い少年だった頃、ジョセフ・F・スミス大管長が全教会員に対し、家族を集めて家庭の夕べを開くように発表しました。わたしの父は言いました。「教会の大管長がわたしたちにそうするように言っているなら、わたしたちはやります。」

こうしてわたしたちは皆家庭の夕べに集いました。愉快的な時間でした。父が「歌を歌うよ」と言うのですが、わたしたちはあまり歌は上手ではなく、……歌おうとしながら、お互いに笑い合っていました。そこで他にも多くのことをしました。でも、そのときの経験から、それは徐々にすばらしい時間になってきました。わたしたちはその習慣に助けられ、家族として一つになり、強められ、家庭の夕べの価値を心に確信するようになりました。<sup>13</sup>

わたしは、教会の基本的なプログラムの一つとして、毎週家庭の夕べを開くという習慣があることに感謝しています。忙しい日々の中で、世界中の何千もの家族が、心から努力して週の1日をささげ、ともに歌い、主の方法で互いに教え合い、ともにひざまずいて祈り、主の憐れみに感謝し、主の祝福がわたしたち自身、家庭、仕事、そして国に注がれるよう祈り求めるのは、何と価値あることでしょう。わたしたちは、このプログラムがもたらす途方もない価値を過小評価していると思います。<sup>14</sup>

もし家庭の夕べの価値に疑いを持っているなら、試してみてください。子供たちをあなたの周りに集め、教え、<sup>あかし</sup>証し、ともに聖文を読み、ともに楽しいひとときを過ごしてください。<sup>15</sup>

---

#### 5

---

### 両親は子供たちがごく幼い頃から教え始めなければならない

わたしたちは結婚して間もなく、最初の家を建てました。お金があまりなかったので、ほとんどの作業を自分でした。庭造りをするのは全部わたしの責任でした。たくさんの木を植えましたが、その最初はサイカチの木でした。夏には涼しい木陰を作ってくれる日が来ると想像しながら植えました。そこは峡谷からの東風が一番強く当たる角地でした。穴を掘り、そこに苗木を植えました。そして周りに土を入れ、水をかけましたが、その木のことは



ほとんど忘れていました。それは直径2センチほどの小さな木でした。枝はとてもしなやかで、どちらの方向にでも簡単に曲がりました。年月は過ぎていきましたが、わたしはその木にはほとんど注意を向けませんでした。そしてある冬の日、たまたま窓越しに、葉をすっかり落としたその木を見たのです。それは樹形も悪く、バランスが取れず、西方に傾いていました。まったく信じられない思いでした。わたしは外に出て、その木を自分の力で押して、まっすぐに立てようと試みました。しかし幹の直径はすでに30センチほどになっていて、わたしの力ではびくともしません。そこでわたしは、道具箱から滑車とロープを取り出してきて、ロープの一方の端を木に、もう一方方をしっかりした支柱に縛りつけ、ロープを引っ張りました。滑車が少し動き、木の幹が僅かに揺れました。しかし、それだけでした。「おまえにはわたしをまっすぐにすることはできない。遅すぎるよ。おまえが構ってくれなかったから、わたしはこんなふうになってしまったのさ。てこでも動かないよ」と、その木に言われているような気がしました。

わたしは最後の一念で、西側に伸びた大枝をのこぎりで切り落としました。木から少し離れて、自分がしたことの結果を見てみました。わたしが切ったのは木の主要な部分で、約20センチの大きな傷跡を木の周囲に残し、1本の小さな枝だけが空に向かって伸びていました。

……先日、その木を見てみました。大きくなり、形もよくなっていました。今ではその家にとって貴重な存在となっています。しかし、わたしがその若い木に残した傷はひどいものでした。まっすぐに立て直すためとはいえ、随分手荒なことをしてしまったものです。最初に植えたときに、ひも1本で動かないようにしておけば、風の力にも耐えて、まっすぐに育っていたことでしょう。ひもを結わえることなど、僅かな手間でできたことですし、そうすべきだったのです。しかし、わたしはそれをしませんでした。そして木は、吹きつける風の力に負けて傾いてしまったのです。

子供は木とよく似ています。小さな子供であれば、それほど力を入れなくても、その生活を形作り、導いていくことができます。箴言の作者はこう書いています。「子をその行くべき道に従って教えよ。そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6) この訓練の根幹は家庭にあります。<sup>16</sup>

イザヤは言いました。「あなたの子らはみな主に教<sup>おしえ</sup>をうけ、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ54:13)

そのように皆さんの息子や娘たちを導いてください。子供たちがまだ小さいときからそのように指導し教えてください。主の道にかなってそのよ



「子供たちをあなたの周りに集め、教え、<sup>あかし</sup>証し、ともに聖文を  
読み、ともに楽しいひとときを過ごしてください。」

うに子供たちを教えてください。そうすれば平安が伴侶となって生涯彼らにとどまることでしょう。<sup>17</sup>

## 6

子供たちが反抗するなら、両親は彼らのために祈り、  
愛し、手を差し伸べ続けなければならない

愛を注ぎ、熱心にまた忠実に教えたにもかかわらず、子供たちがそれとは反対に成長し、悲惨な結果へと続く道に故意に進み、道を外れた子供たちを見て嘆いている両親がいることを知っています。このような人々に、わたしは深い同情を寄せると同時に、エゼキエルの次の言葉を送りたいと思います。「子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。」(エゼキエル 18 : 20)<sup>18</sup>

時折、あらゆる努力をしたにもかかわらず、反抗的な子供がいます。でも、努力を続けてください。決してあきらめてはいけません。あなたが努力を続ける限り、彼らを失うことはないのです。努力を続けてください。<sup>19</sup>

たとえ子供や愛する人が「反抗している」状態にあったとしても、あきらめなくてください。彼らのために祈り、愛し、手を差し伸べ、助けてください。<sup>20</sup>

時として手遅れと思えるかもしれません。……しかし、わたしのサイカチの木のことを思い出してください〔164 – 165 ページ参照〕。手荒な処置をし、苦勞もありましたが、それでも随分美しくなり、後には暑い日差しを防ぐ心地よい木陰を作るようになったのです。<sup>21</sup>

## 7

### 天の助けを求め、互いに愛と尊敬の精神を養い育てるとき、家族を強める

〔家族を育てるの〕は容易なことではないかもしれません。失意と困難な問題に遭遇することもあるでしょう。勇気と忍耐が求められるでしょう。……愛があれば状況を変えることができます。幼児期にたっぷりと愛情を注ぎ、思春期の難しい年代にもそれを続けるなら、変えることができます。子供にいくらお金をかけてもできないことを、愛は成し遂げてくれるのです。

そして忍耐です。舌を抑え、怒りを抑えてください。……

それから励まします。褒めるに早く、批判するに遅くしてください。

これらに祈りを加えるなら、すばらしい成果を上げることができます。ただ自分一人ではできません。天の子供を育てるのですから、天の助けが必要です。あなたの子供は、天の御父の子供でもあるのです。<sup>22</sup>

ほんの僅かな例外を除けば、子供は皆、その家族の影響を強く受けます。良い家庭であろうと、悪い家庭であろうと、無関心な家庭であろうと、そのことが言えます。子供が年月を経て成長するにつれて、彼らの人生にはおおよそ、育った家庭の教えが色濃く反映しています。もし辛辣な行いや虐待、そして度を過ぎた怒りや不誠実な行為が家庭の中にあれば、その実は誰の目から見ても明らかです。同じようなことが幾世代にもわたって繰り返されます。逆に、忍耐や赦し、尊敬や思いやり、優しさや憐れみ、愛の心がある場合も、その実は誰の目にも明らかです。しかも、永遠の報いとなります。建設的で幸福な、立派な実を結ぶことでしょう。このように親が憐れみを実際に施し教えるときに、次の世代の者たちも、その生き方においても行いにおいても、親の模範に従っていくことでしょう。

世界中の父親や母親の皆さんに申し上げます。どうぞ、家庭において辛辣な行いをやめ、怒りを抑え、声を荒らげず、憐れみと愛と尊敬の念で互いに接してください。<sup>23</sup>

「柔らかな<sup>こたえ</sup>答は憤りをとどめ〔る〕」(箴言 15:1) という古いことわざがあります。穏やかに話すとき、わたしたちはめったに問題を起こすことは

ありません。わたしたちが声を荒立てたときにのみ、火花が飛び、小さなもぐら塚が大きな山となるほどの論争に膨れ上がるのである。……天の声は静かな細い声です（列王上 19：11 - 12 参照）。同様に家庭の平和な声も静かな声です。<sup>24</sup>

子供のしつけが必要なことは言うまでもありません。しかし、極端に厳しく、暴力を伴うしつけは、子供たちを正しい方向へ導きません。むしろ恨みと反感を招くことになります。それでは問題の解決にはならず、問題を悪化させるだけです。それは自滅的です。<sup>25</sup>

この世の中で、愛情のこもったしつけに勝るしつけは他にはありません。愛情あるしつけには特有の不思議な力があります。<sup>26</sup>

家族を強めるために引き続き努力しましょう。夫、妻である皆さん、互いに対する完全な忠誠心を培いましょう。互いに当たり前のことは思わずに、互いへの愛と尊敬の精神を養うよう常に努めましょう。<sup>27</sup>

永遠の父なる神よ、親たちが愛と忍耐と励ましをもって、あなたのみもとから来た最も貴い子供たちに教えることができるように祝福してください。それによって、彼らがともにみ守りを受け、善に導かれ、またその成長過程で世の人々に祝福をもたらすことができるようにしてください。<sup>28</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- ヒンクレー大管長は、家族は「全ての関係の中で最も神聖なもの」と教えてくれました（第1項）。この真理はあなたと家族の関係にどのような影響を及ぼすでしょうか。また、わたしたちの時間や活動の優先順位を決めるのに、どのような影響を及ぼすでしょうか。
- なぜ両親は、「子供たちを福音の原則の中で教え育てることに最善を尽くす」必要があるのでしょうか（第2項参照）。家庭で福音を教えることで、家族はどのような祝福を受けてきたでしょうか。両親は子供たちが福音に従って生活できるように助ける努力を、どのように改善できるでしょうか。
- 家族の祈りがもたらす祝福について、ヒンクレー大管長の教えをもう一度読んでください（第3項参照）。家族の祈りによって祝福がもたらされるのはなぜだと思いますか。定期的に家族の祈りをすることで、どのような祝福を経験したことがありますか。家族の祈りをおろそかにすると、何を失うでしょうか。

- ゴードン・B・ヒンクレーが少年時代に得た家庭の夕べの経験から、わたしたちは何を学べるでしょうか（第4項参照）。家庭の夕べを通して、あなたの家族はどのような祝福を受けてきたのでしょうか。
- ヒンクレー大管長のサイカチの木の物語をもう一度読んでください（第5項参照）。この話をあなたの生活にどのように応用できるでしょうか？
- 第6項で述べられているヒンクレー大管長の教えは、道をそれた子供を持つ親にとってどのような助けとなるでしょうか。両親や他の人々は、どのような方法で愛を持って彼らに手を差し伸べることができるでしょうか。
- 両親が怒りではなく愛を持って子供たちをしつけることが大切なのはなぜでしょうか。愛をもってしつけるために、両親はどのようなことができるでしょうか。家族がお互いに抱く愛の精神と尊敬の念を養い育てるにはどうしたらよいでしょうか（第7項参照）。

### 関連聖句

申命 11：19；エノス 1：1－5；モーサヤ 4：14－15；アルマ 56：45－48；3 ニーフアイ 18：21。「家族—世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号，129も参照

### 教える際のヒント

「あなたは教えようとしている原則についての理解が不足していると感じるかもしれない。しかし、祈りをもって研究し、その原則を実践するように努力し、教える準備をし、そしてそれを人に分かち合うとき、あなた自身の証は強く、深くなる。」（『教師、その大いなる召し』19）

### 注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: Teachings of Gordon B. Hinckley* (1996年), 333で引用
2. M・ラッセル・バラードによる引用, 「今も響き渡る呼びかけ」『リアホナ』2013年9月号, 36. lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/proclamation-on-family-is-still-a-clarion-call
3. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 114参照
4. 「真理の柱」『リアホナ』2002年5月号, 5
5. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 208
6. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 387
7. 「大管長会からの手紙」『聖徒の道』1999年12月号, 1参照
8. 「真理の柱」『リアホナ』2002年5月号, 5参照
9. 「To Single Adults,」*Ensign*, 1989年6月号, 74
10. 「世の策略に対抗して立つ」112
11. 「子供たちを見なさい」『リアホナ』2001年6月号, 5参照
12. 『永遠の結婚 生徒用引き』55参照
13. *Discourses of President Gordon B. Hinckley*, 第2巻, 402
14. Conference Report, 1965年10月, 51
15. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 212

## 第11章

16. 「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」『リアホナ』1996年6月号, 6 参照
17. 「あなたの子らの平安は深い」『リアホナ』2001年1月号, 61 - 68 参照
18. 「幼い子供たち」『リアホナ』2007年12月号, 6 参照
19. "Inspirational Thoughts," *Ensign*, 1997年8月号, 4
20. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 54
21. 「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」9 参照
22. 「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号, 67 参照
23. 「あわれみ深い人たちは、さいわいである」『聖徒の道』1990年7月号, 75 - 76 参照
24. 「永遠の結婚へのおや石」『聖徒の道』1971年10月号, 305 参照
25. 「子供たちを見なさい」5 参照
26. 「家庭の環境」『聖徒の道』1985年10月号, 5
27. 「主の祝福への感謝」『聖徒の道』1999年7月号, 106 参照
28. 「子をその行くべき道に従って教えよ」67 参照



## 従順——素直に福音に 従って生活する

「福音の道は複雑な道ではありません。……自ら  
謙遜<sup>けんそん</sup>になり、従順に歩んでください。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレーは、14歳の頃にソルトレークタバナクルで経験したことが大切な決意をするきっかけとなった。後日そのことを思い出してこう話している。

「わたしはヒーバー・J・グラント大管長が少年時代にモルモン書を読んだ経験について話すのを〔聞いていました〕。グラント大管長はニーファイについて語り、自分の人生がニーファイから大きな影響を受けていると話しました。そして、わたしにとって決して忘れられない確信に満ちた声で、ニーファイの偉大な言葉を引用しました。『わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。』(1 ニーファイ 3 : 7)

そのとき、若いわたしの心の中に、主が命じられることを行う努力をしようという決意が生まれました。』<sup>1</sup>

ゴードン・B・ヒンクレーは、いつもこの決意を心の中に抱いていた。それから何十年もたって教会の大管長になってからも、若い男性のときに聞いたメッセージをその教えの中で繰り返した。ある地区大会で末日聖徒の会衆に向けてこう話した。

「わたしはたくさんの〔新聞〕記者からインタビューを受けてきました。彼らはこのような質問をします。『ところで、あなたの管長会としてのテーマは何でしょうか。』わたしはただこう言います。『わたしが思い出せる限り、この教会で大管長と使徒から繰り返し聞いてきたことと同じです。それは、素直に福音に従って生活し、そうする人が皆、自分の生活に取り入れていることが福音の真理であるという確信を心の中に受けることです。』<sup>2</sup>



ニーファイが示した従順の模範が若いゴードン・B・ヒンクレーに靈感を与えた。



教会の大管長としての最初の総大会で、ヒンクレー大管長は全ての人に対して、福音に従った生活ができるようさらに努力することを呼びかけた。

「さて、兄弟姉妹の皆さん、福千年に向けた末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるために、もう少し忠実になり、目を上げ、思いを尽くす時が来ました。今は堅固に立つべき時です。わたしたちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解して、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、正しいことをなすべき時です。戒めを守っていることを分かってもらえる時です。悲しみの中にある人々、また暗闇くらやみと苦しみの中をさまよっている人々に愛と優しさを示す時です。誰に対しても、互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なお一層キリストのようになる時なのです。」<sup>3</sup>

ヒンクレー大管長はこのメッセージを強調し続けた。10年後の総大会でこの言葉を繰り返し、次のように言った。「10年前に呼びかけたことがどれくらい実現できているかを判断するのは皆さん一人一人です。」<sup>4</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

**わたしたちは聖約の民である。そして、その聖約には大いなる義務が伴う**

わたしたちは聖約の民です。これは非常に重大なことです。この業が回復され、主が回復の目的を宣言されたとき、回復の理由の一つが主の永遠の聖約を再び打ち立てることと言われました。この聖約は……アブラハムとエホバとの間ひんしゆくで交わされました。そのとき、大いなるエホバはアブラハムに偉大で厳粛な約束をされました。アブラハムの子孫は海辺の砂のように多くなり、全ての国民はアブラハムを通して祝福されるであろうと主は言われたのです。主は、エホバが彼らの神となり、彼らはエホバの民となるであろうという聖約をアブラハムと交わされました。……そのとき、この聖約に入る全ての人の永遠の生活にとこしえの影響を与える関係が打ち立てられたのです。この聖約には驚くべき意味が含まれています。わたしたちが神の子供として行うべきことを行うなら、主がわたしたちの神となってわたしたちを祝福し、愛し、導き、助けてくださるのです。

今日、この神権時代に、その永遠の聖約が再び確立されました。実際、わたしたちはバプテスマを受けたときに、その聖約を交わしました。言うなれば、わたしたちは神の聖なる家族の一員となったのです。神の子供たちは皆神の家族の一員ですが、神とその聖約の子供たちとの関係は特別



「聖餐を受けるたびに、……わたしたち〔は〕イエス・キリストの御名を受け、主の戒めを守ることを聖約〔する〕。」

ですばらしいものです。教会に入ったとき、……わたしたちは聖約の民の一員となりました。そして、聖餐を受けるたびにわたしたちが行うのは、わたしたち一人一人のために命をささげてくださった神の御子の犠牲を思い起すことだけではありません。聖餐にはもう一つの要素があります。それは、わたしたちがイエス・キリストの御名を受けてその戒めを守ると聖約し、主は聖霊によってわたしたちを祝福してくださると聖約されるということです。

わたしたちは聖約の民です。そして、その聖約には大いなる義務が伴います。わたしたちは普通の人であってはならないのです。人より抜きん出ていなければなりません。わたしたちはもう少し忠実でなければなりません。わたしたちはもう少し善良で、もう少し親切で、もう少し寛大で、もう少し礼儀正しく、もう少し思慮深く、もう少し人々に手を差し伸べなければなりません。<sup>5</sup>

わたしたちは厳粛な聖約を交わし、主イエス・キリストの御名をその身に受けている民です。もう少し努力して戒めを守り、主が求めておられるように生活しましょう。<sup>6</sup>

---

## 2

---

主はわたしたちに、あらゆる面で福音に従って生きるよう期待しておられる

わたしたちは妥協と譲歩の時代に生きています。日々遭遇する状況の中で、何が正しいかを知っていながら仲間からの圧力やわたしたちを説得しようとする魅力的な声に負けたり、妥協したり、譲歩したり、屈したりしてしまいます。そして、自分を恥ずかしく思うのです。……自らの信念に従って生きる強さを培わなければなりません。<sup>7</sup>

福音の道は複雑な道ではありません。求められることの中には、あなたにとって初歩的で不必要に見えるものがあるかもしれません。それらを踏みつけないでください。自ら謙遜けんそんになり、従順に歩んでください。わたしは約束します。そうすれば、目を見張るような結果が得られ、満足のいく経験をすることができます。<sup>8</sup>

わたしの心からの願いは、わたしたちの内にある神聖な能力に従って行動するようにもう少し努力することです。今よりももっと良くなります。今よりもっと善い人間になることができます。神から何を受け継いでいるかを考え、そして神がわたしたちの父であり、人は皆きょうだいであるという思いを絶えず持ち続けるなら、わたしたちはもう少し寛容になり、もう少し親切になり、周りの人々を高め、助け、支えるためにもう少し手を差し伸べることができるでしょう。明らかに自分にふさわしくないことに身を落とすことは少なくなるでしょう。<sup>9</sup>

わたしたちが信じている宗教は、1週間に7日という毎日のものであり、日曜日だけのものではありません。……いつもです。すなわち、1日24時間、1週間7日、1年365日なのです。<sup>10</sup>

主が期待しておられることは、生活を整え、全ての面において福音に従って生活することです。<sup>11</sup>

---

## 3

---

主は戒めに忠実に歩む人々に祝福を注いでくださる

主はエリヤに向かい、ケリテ川のほとりに行って身を隠し、その川の水を飲み、からすから食物の施しを受けるように言われました。聖典にはエリヤに関する簡潔ですばらしい文章が記されています。「エリヤは行って、主の言葉のとおりにした。」(列王上 17:5)

言い争いも、言い訳も、あいまいな態度も一切ありませんでした。エリヤはただ「行って、主の言葉のとおりにした」のです。その結果、彼は恐

ろしい災難から救われました。しかし<sup>あざけ</sup>嘲り、言い争い、疑った人たちは大きな災難を被りました。<sup>12</sup>

モルモン書には、その全体を通して、ある民の物語が語られています。義にかなった生活をしていたとき、そしてイエス・キリストを礼拝していたときは、地に栄えて主の惜しみない豊かな祝福を受けましたが、罪を犯し、道を外れて神を忘れたときには、惨めな状態となり、戦争や困難に陥った民の話です。わたしたちの安全、平安、繁栄は、全能者の戒めに従順であることの中にあります。<sup>13</sup>

「絶えずわたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたは義の冠を受けるであろう。」〔教義と聖約 25：15〕これは、エマ・ヘイル・スミスに与えられた主の約束です。わたしたち一人一人に対する主の約束です。幸福は戒めを守ることの中にあります。末日聖徒……には、これらの戒めを破るときにただ惨めさがあるだけです。そして、戒めを守る全ての人には、義と永遠の真理の……冠を受けるといふ約束があります。<sup>14</sup>

神の勧告に対する従順さの中に真の自由があります。「戒めはともしびである、<sup>おしえ</sup>教は光である」という古いことわざがあります（箴言 6：23）。

福音は、非常に多くの人が考えているような、人を縛り付ける哲学ではありません。それは自由を得るための計画であって、欲望を自制し、行動に方向を与えるものです。その果実は甘く、その報いは豊かです。……

「自由を得させるために、キリストはわたしたちを開放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながれてはならない。」（ガラテヤ 5：1）

「主の霊のあるところには、自由がある。」（2 コリント 3：17）<sup>15</sup>

わたしたちの安全は悔い改めの中にあります。わたしたちの強さは、神の戒めに従順であることによってもたらされます。……自国にあっても外国にあっても、悪に対して断固とした態度で臨みましょう。必要であればわたしたちの生活を改め、全ての人の御父である御方に頼り、天の祝福を受けられるよう、ふさわしく生活しましょう。<sup>16</sup>

わたしたちに、恐れるべきものは何もありません。神がわたしたちを導いておられます。神は、この業の益となるように、全てをつかさどっておられます。主は戒めに忠実に歩む人々に祝福を注いでくださいます。主はそのように約束されました。主がその約束を果たす力をお持ちであることに、疑問の余地はまったくありません。<sup>17</sup>

## 4

## 教会の指導者は道を示し、福音に従って生活するよう会員に勧める

「あれこれ細かいことに関してどう考えるべきか、また人生をどう生きるべきかについて、教会はわたしに指図はしない」と言う人たちがいます。

その人たちにお答えします。そのとおりです。教会は誰に対してもどう考え、何をすべきであると指図することはありません。教会は道を示して、全ての会員が福音に従って生活するように、そしてそのような生活から祝福を受けるように勧めているだけです。教会は誰に対しても指図することはありません。勧告し、説得し、促し、そして、教会員であると公言している人が忠実であるよう期待しているだけです。

わたしが大学生だったとき、中央幹部があることを提唱したことについて、それは権限の逸脱ではないかと思うと父に言ったことがあります。父はとても賢明で善良な人でした。父はこう言いました。「大管長はこれまでもわたしたちに指示を与えてきた。わたしは大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持しているし、大管長の勧告に従うつもりだよ。」

わたしは……〔何〕年もこの教会の中央評議会で働いてきました。……教会の方針とプログラムを検討する集会に文字どおり何千回と出席してきましたが、主の導きを求めないまま集会を開いたことは一度もありません。また、だれかを傷つけたり、強制的に何かをさせることを主張したり、実行しようとした人は、出席者の中に一人もいませんでした。そのことを証<sup>あかし</sup>したいと思います。<sup>18</sup>

わたしは中央幹部に代わってお伝えします。わたしたち〔教会の中央評議会の会員〕は個人的な関心事についてではなく、ただ主の大義に従って評議しているのです。わたしたちが勧告や警告の声明を出すときに、批判する人々がいます。どうか、わたしたちの嘆願の言葉が利己的な気持ちから出たものではないことを分かっていたいただきたいと思います。また、わたしたちの警告には重要な意味と理由があることを理解していただきたいのです。さまざまな問題についての決定が発表されるときには、必ず熟考と討議と祈りによって決められていることも分かっていたいただきたいと思います。わたしたちのただ一つの望みは、皆さん一人一人の問題や困難を、そして家族や生活を助けることです。……主御自身が教えられたであろうこと以外の事柄を教えるという思いはまったくありません。……

わたしたちの責任はエゼキエルの言葉に要約されています。「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわた

しの口から言葉を聞かされたときに、わたしに代<sup>かわ</sup>って彼らを戒めなさい。」(エゼキエル3:17)

わたしたちのさまざまな勧めの言葉に、私心はまったくありません。わたしたちの望みは、兄弟姉妹が幸福であり、家庭に愛と平安があること、そして全能の神の力によって皆さんが、その義にかなった多くの行いに対して祝福を受けることだけです。<sup>19</sup>

神は御自身の方法で、絶えず御自分の民に関わる御心<sup>みこころ</sup>をお知らせになります。わたしは証します。この教会の指導者がわたしたちに求めることは、主の助けがあれば成し遂げられることだけです。自分はふさわしくないと感じるかもしれません。わたしたちが行うように求められることは、自分の好みや考えに合わないかもしれません。しかし、信仰と祈りと決意をもって努力するなら、成し遂げることができます。

皆さんに証します。末日聖徒の幸福、末日聖徒の平安、末日聖徒の進歩、末日聖徒の繁栄、そして、この民の永遠の救いと昇栄は、神の神権者の勧告に従って歩むことにあります。<sup>20</sup>

---

## 5

---

### 小さな決断が大きな結果を生む

一つの原則について説明しましょう。……もしそれを守るなら、正しい決定ができる可能性が大いに高まり、その結果として、人生におけるわたしたちの成長が大きく促され、さらに幸福になります。この偉大な原則とは信仰を守ることです。……

全てのことをどのように決定するかを細かく皆さんに伝えることはできません。しかし、わたしが約束できることは、皆さんが福音の標準と教会の教えに従って決定し、信仰を守るなら、皆さんの人生は大いなる善の実を結び、幸福と達成の多くを味わうということです。<sup>21</sup>

何十年前も前、わたしは鉄道会社で働いていました。……その当時は、どれもが列車で旅行をしていました。ある朝のこと、ニュージャージー州ニューアークの駅員から電話がかかってきました。彼はこう言いました。「列車番号何々の列車が到着しましたが、貨物車がありません。どこかで300人分の荷物が紛失し、乗客が怒っています。」

わたしはすぐに、貨物車がどこへ行ってしまったかを突き止めようと思いました。その貨物車はカリフォルニア州オークランドでは正しく荷物を積んで、旅客列車に正しく連結されたことが分かりました。その後、わたし

が勤めるソルトレーク・シティーの鉄道会社に送られ、〔最終的に〕セントルイス〔に到着しました。〕そこで、その貨物車の処理は、ニュージャージー州ニューアークまで運ぶ別の鉄道会社が行うことになっていました。しかし、セントルイス操作場の不注意な連結作業員が、連結ポイントで小さな鉄片を7.5センチだけ動かし、その後レバーを引いてその貨物車を切り離してしまっただけです。こうして、ニュージャージー州ニューアークに届くはずの貨物車が、実は、目的地から2,400キロも離れたルイジアナ州ニューオリンズにあることが分かりました。不注意な作業員によりセントルイスの操作場でポイントがほんの7.5センチずれただけで、貨物車は違う線路に乗って動き出し、本来の目的地からとてつもなく離れた場所に到着してしまっただけです。わたしたちの人生にも同じことが言えます。わたしたちは、着実なコースを歩まずに、何らかの誤った考えにより別の方向に引っ張られることがあります。最初の目的地からそらせる動きがごく小さなものであったとしても、それを続けるなら、そのごく僅かな動きが大きな誤差となり、ついには予定していた目的地から遠く離れてしまいます。……わたしたちの人生に大きな違いを生み出す変化は、実にささいな事柄から生じるのです。<sup>22</sup>

わたしはある日、大きな農場の門に近づきました。かんぬきを上げて門を開きました。蝶番ちょうつがいの動きは、動いているかどうか分からないほど僅かでしたが、門扉の反対側の端は、約5メートルの半径で大きな円弧を描きました。蝶番の動きだけを見ていると、その小さな動きからどのような大きな動きが生まれるか決して夢にも思わないでしょう。

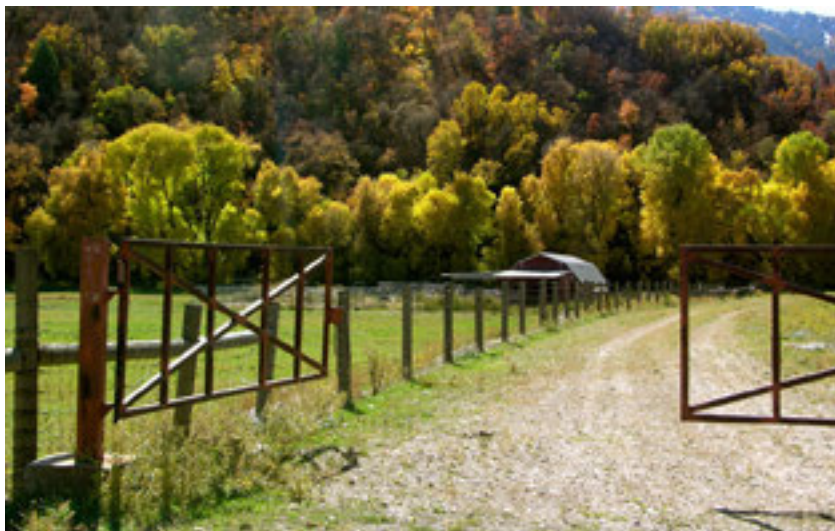
わたしたちの人生における決定についても同じです。ある小さな考え、ささいな言葉、小さな行動がとてつもなく大きな結果につながるがあります。<sup>23</sup>

## 6

### 福音に従って生活することにより、わたしたちは教会を強め、 世界中の神の業の発展に寄与することができる

皆さんは自分自身の生き方によって〔教会〕を強めることができます。福音を自分の剣と盾にしてください。……

……全能者が、福音を受け入れてそれに従って生活する全ての人々に良いものを与えてその業を推し進めておられるので、未来は何とすばらしいものになることでしょう。<sup>24</sup>



ヒンクレー大管長は、わたしたちの決定を農場の門に  
取り付けられている蝶番ちようつがいにたとえた。

わたしは、この非常に不確実な世界にあって、すばらしい将来を予見しています。もしわたしたちが自らの価値観を固く守り、受け継いだものに基づいて生活するなら、また、主の前に従順に歩み、素直に福音に従って生活するなら、輝かしく、すばらしい祝福を受けるでしょう。わたしたちは、特別な幸福に至る鍵かぎを見つけた特異な民と思われるでしょう。<sup>25</sup>

全ての男性、女性、子供に主の業をこれまでよりもさらに良く、さらに強く、さらに偉大にするように決意させましょう。わたしたちの生活の質が物事を変えていくのです。イエス・キリストの福音に従って生活するというわたしたちの決意により物事が変わるので。これは個人一人一人の問題です。わたしたちが皆祈るなら、教会はそれだけ一層強固になります。それは、福音の全ての原則について言えることです。わたしたちが、全世界で発展し、前進し続けている偉大な大義の一翼を担えますように。立ち止まっていることはできません。前進しなければならないのです。それがわたしたちの義務です。わたしたち一人一人の心に宿る確信こそが教会の真の強さなのです。<sup>26</sup>

この教会の会員はどこにしようとも、自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に励むようお勧めします。ともにこの道を歩み続け、信仰を保ち、全能者を力の源としていこうではありませんか。<sup>27</sup>



## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- わたしたちは主の聖約の民として、「普通の人であってはならない」のはなぜでしょうか（第1項参照）。あなたが神と交わした聖約は、どのように日々の生活に影響を及ぼすでしょうか。
- ヒンクレイ大管長は「自らの信念に従って生きる強さを培わなければなりません」と教えました（第2項）。時として信念を曲げてしまうことがあります。どうしてそのようになるのでしょうか。誘惑に陥らないようにするために、どうすれば自分自身を強めることができるでしょうか。
- ヒンクレイ大管長が語るエリヤの物語をどのようにわたしたちに当てはめることができるでしょうか（第3項参照）。戒めが窮屈すぎると感じている人に、どう答えたらいいでしょうか。戒めに従うことによってどのように自由、安全、平和が得られますか。
- 教会の指導者がどのように勧告と警告を与えるかに関するヒンクレイ大管長の説明をもう一度読んでください（第4項参照）。これまで、教会指導者の勧告に従うことによってどのように祝福を受けてきましたか。
- 行方不明になった貨物車のヒンクレイ大管長の物語から、何を学ぶことができるでしょうか（第5項参照）。小さな決定や行動によって人生が大きく変わるのとはなぜでしょうか。あなたの人生を大きく変えた小さな決定は何だったのでしょうか。ほんの少し本来の道から外れたことで、神の道から離れてしまうことがあります。道から外れているかどうか、どうしたらもっと分かるでしょうか。
- 福音に従って生活することがどのように不確実な世の中に対応する助けとなるでしょうか（第6項参照）。福音に従って生活すると、どうして人生は複雑でなくなるのでしょうか。どうしたらより積極的に教会を強め、世界中の神の業の発展に寄与できるかを考えてください。

### 関連聖句

申命 4：39 - 40；ヘブル 5：8 - 9；教義と聖約 64：33 - 34；93：26 - 28；98：22；アブラハム 3：24 - 26；信仰箇条 1：3

学ぶ際のヒント

「読むことと、研究することと、深く考えることは同じではありません。読めば何かに気づき、研究すれば聖文中のパターンと関連性を見いだすでしょう。しかし、深く考えるときに、御<sup>みたま</sup>霊の啓示を招くのです。わたしの場合深く考えるとは、聖文を入念に読み、研究した後に考え、祈ることを意味しています。」(ヘンリー・B・アイリング「御霊とともに奉仕する」『リアホナ』2010年11月号, 60)

注

1. 「もしあなたがたが快く従うなら」『聖徒の道』1995年6月号, 2-3 参照
2. *Teachings of Gordon B. Hinckley*(1997年), 404
3. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76-77 参照
4. 「開会に当たり」『リアホナ』2005年5月号, 4 参照
5. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 148-149
6. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 146
7. 「あなたのタバナクルを築きなさい」『聖徒の道』1993年1月号, 60 参照
8. 「何も失うものはない」『聖徒の道』1977年2月号, 131 参照
9. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 160-161
10. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 404
11. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000-2004* (2005年), 412
12. 「もしあなたがたが快く従うなら」4 参照
13. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 406-407
14. 「汝もし忠実にして」『聖徒の道』1985年1月号, 89 参照
15. Conference Report, 1965年4月, 78
16. 「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号, 86 参照
17. 「主のみ業」77 参照
18. 「忠誠を尽くす」『リアホナ』2003年5月号, 60 参照
19. 「教会は正しい方向に進んでいます」『聖徒の道』1993年1月号, 657 参照
20. 「もしあなたがたが快く従うなら」『聖徒の道』1972年11月号, 493 参照
21. “Keep the Faith,” *Ensign*, 1985年9月号, 3, 6
22. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 34-35 参照
23. “Keep the Faith,” 3
24. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, 78 参照
25. 「将来に目を向けて」『聖徒の道』1998年1月号, 79 参照
26. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 138-139
27. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」78 参照



## 物質的な自立から 得られる平安と充足感

「教会は、人生における一つの原則として自立を教えています。  
わたしたちは自活し、自分の必要を賄うべきです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレーは、子供時代に両親やきょうだいとともに働きながら自立の原則を学んだ。後日そのことを思い出してこう書き記している。

「わたしは自分たちが住んでいた家を、随分大きいと思っていました。……広々とした芝生があって、たくさんのおびただしい量の木の葉を落とし、それを掃除するのはいつも大変な仕事でした。

……調理用のコンロが台所と食堂に1台ずつありました。しばらくして大型の暖房炉が設置されたときには、何とすばらしいものだと思います。しかし、その石炭の消費量たるやすさまじいもので、自動的に石炭をくべる装置などありませんでした。シャベルで石炭をくべなければなりませんでしたが、夜には注意深く石炭を積み上げなければなりませんでした。

わたしはこの怪物のような暖房炉から大事な教訓を学びました。それは、温かさを維持したければ、シャベルを使って働かなければならないということでした。

父は息子たちが働くことを学ぶ必要があると考えていました。夏も冬もです。そのために父は5エーカー〔約2万平方メートル〕の農場を買い、最終的に30エーカー以上に増やしました。夏になると家族はそこに住み、学校が始まる頃に町に戻って来ました。

大きな果樹園を持っていたので、毎年春になると木の<sup>せんてい</sup>剪定をしなければなりませんでしたが。父は農業大学の講師が指導する剪定講習会にわたしたちを連れて行きました。そこで重要な真理を学びました。それは、2月の剪定のよし悪しが9月に収穫する実の質をほぼ決めるということです。』<sup>1</sup>

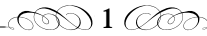


「この地上において、生産的な労働の代わりになるものはありません。  
それは夢を実現するために継続して行うもの……なのです。」

人としての基盤の一部として学んだこれらの真理をもとに、ヒンクレー大管長は、福音生活に関する実際的な教訓を度々教えた。一生懸命に働くことによって得られる祝福について証し<sup>あかし</sup>、収入の範囲内で生活し、将来訪れるかもしれない災難のために自らを備えるよう末日聖徒を励ました。

これらの原則を教えることに加えて、ヒンクレー大管長は聖徒たちがその原則に従えるよう、さまざまな方法を提示した。その一例として、2001年4月に永代教育基金を導入し、これは靈感として主から与えられたものであると説明した。<sup>2</sup>このプログラムを通してこの基金に寄せられた献金は、帰還宣教師を中心に資格ある教会員に短期に貸し付けられ、彼らがやりがいのある仕事を得られるよう、教育や職業訓練を受ける助けとなった。貸し付けの返済金は基金に組み入れられ、次の利用者の支援金となった。永代教育基金は、何万という人々の自立の助けとなった。これは、かつてヒンクレー大管長が述べた「明るい希望の光」をもたらしている。<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



### 誠実に働くことによって、わたしたちの生活は永遠に祝福される

わたしは労働が福音の原則であると信じています。この地上において、生産的な労働の代わりになるものはありません。それは夢を実現するために継続して行うものであり、実現していないビジョンを精力的に達成するための過程なのです。<sup>4</sup>

少しばかりの遊びやくつろぎは良いものです。しかし、男性にとっても女性にとっても、人生に違いを生み出すのは労働です。わたしたちが食べる食物、着る衣服、住む家を賄うのは労働です。個人としてまたは全体として、成長し繁栄しようとするなら、熟練した技術と教育を受けた知性による労働が必要であることは否定できません。<sup>5</sup>

人生とは、偉大な英雄的行為の連続ではないということを知りました。最高の人生とは、裏表のない善良さと良識があるということで、必要なことを必要なときに淡々と行うことです。この世の中に変化をもたらすのは、天才ではないということを見てきました。世の中の業は、ほとんどの場合、ごく普通の男性と女性の驚くべき働きによって成し遂げられてきたことを知ったのです。<sup>6</sup>

子供は両親と一緒に働く必要があります。両親と一緒に皿を洗う、両親と一緒に床の拭き掃除をする、芝を刈る、庭木を剪定する、ペンキを塗る、



「子供は両親と一緒に働く必要があります。……子供は労働が清潔、進歩、繁栄のための代価であることを学ぶのです。」

修理する、後片付けをするなど、たくさんの作業があります。そのことを通して、子供は労働が清潔、進歩、繁栄のための代価であることを学ぶのです。<sup>7</sup>

この教会の偉大な特質は労働です。全ての人が働きます。働かなければ成長しません。信仰、すなわち真理に対する証は、ちょうど腕の筋肉のようです。筋肉を使うと強くなります。腕を包帯でつっていると弱くなり緩んできます。教会では皆さんに働いていただきます。皆さんに大きな期待を抱いています。そして驚嘆すべき素晴らしいことを成し遂げてほしいと思っています。物事を生み出すのは人なのです。<sup>8</sup>

皆さんが働かなければ、この教会では何も起こりません。それはちょうど手押し車のようなものです。2本の取っ手をつかんで押さない限り動きません。勤勉に働くことで主の業は前進します。そして皆さんが本当に誠実に働くことを学んだなら、生涯にわたって祝福を受けることでしょう。わたしは心の底からそう思っています。労働によって、皆さんの生涯は永遠にわたって祝福を受けるのです。<sup>9</sup>

## 2

わたしたちには、人々が自分自身を高め、自立するように助ける責任がある

人に1尾の魚を与えれば、それは1日分の食料となるが、魚の取り方を教えれば、一生食べることは困らない、という古いことわざがあります。……

教会員が霊的な面だけでなく物質的な面でも助けを得られるよう、わたしたちの取るべき行動について、主がビジョンと理解力を与えてくださいますように。わたしたちには、大変重要な義務があります。……ジョセフ・F・スミス大管長は、現世において人のためにならない宗教は、おそらく来世においても大した助けとはならないであろうと述べました（“The Truth about Mormonism,” *Out West magazine*, 1905年9月号, 242 参照）。

わたしたちの民の中に貧困が蔓延<sup>まんえん</sup>しています。わたしたちはできる限りのことをして、そのような人たちが自らを高め、自立という基盤の上に生活を整えることができるようにしなければなりません。それは、訓練<sup>かぎ</sup>によって実現できます。教育は機会を得るための鍵です。……

「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」ることは、わたしたちの厳肅な義務<sup>げんしゆく</sup>です（教義と聖約 81:5）。わたしたちは人々が自立し成功するように助けなくてはなりません。

主は、御自分の民が貧困にあえぐ姿を目にしたとは思われないと信じています。主は忠実な人々が地の良いものを享受することを望んでおられると、わたしは信じています。主は、わたしたちに彼らの助けとなる事柄を行ってほしいと思っておられるでしょう。<sup>10</sup>

教会が教えているように、人はそれぞれ自分でできる限りのことをしなければなりません。自分自身の持ち物を全て使い切ったら、次は自分の家族に援助を求めるべきです。家族ができない場合は、代わって教会が援助します。教会が援助を引き受ける場合、わたしたちの大きな望みは、まずその人の当面の必要を満たし、その後助けが必要な限り援助を行うことです。しかしその過程において、その人が訓練を受け、職を見つけ、再び自

分の足で立てる方法を見つけられるように助けるのです。〔この教会の〕すばらしい福祉プログラムの目標は、そのことに尽きます。<sup>11</sup>

このプログラムから支援を受ける人々は、「怠惰の呪いと施しの悪癖」から逃れてきました。彼らの尊厳と自尊心は守られています。直接支援を受けていない数多くの人々も、食料の生産や加工、またそれに関連するたくさんの方の仕事に参加し、他の人に対する無私の奉仕に喜びがあると証しています。

このプログラムがいかに幅広く実施され、いかに並外れた結果を出してきているかを見ている人なら、このプログラムを生み出し、善を行う実質的な力を伸ばしてきた背景に啓示の御霊があることを疑う正当な理由を見つけることはできません。<sup>12</sup>

今後この業は続きます。これからも援助が必要でなくなることはありません。飢えと困窮と災害がなくなることはありません。そして福音の光に触れ、助けを必要としている世界中の人々のために進んで奉仕し、働き、引き上げる人々がいなくなることはないのです。

それに関連して、教会は永代教育基金を設立しました。これは皆さんの惜しみない献金によって実現しました。……ふさわしい若い男女の教育のために融資が行われています。もしこの基金がなかったら、彼らは両親や先祖が何代にもわたって経験してきた貧困に沈んだ状態から抜け出せなかったことでしょう。……

主の御霊がこの業を導いています。福祉活動はこの世的な活動であり、米や豆、毛布やテント、衣類や医薬品、雇用とより良い職業のための教育という形で実現されます。しかし、いわゆるこの世的な活動は、内なる霊の表れであって、「よい働きをしながら、……巡回され〔た〕」とされている主の御霊が表されているのです（使徒 10：38）。<sup>13</sup>

---

### 3

---

預言者は、来るべき災害のために霊的にも物質的にも備えるように勧めている

わたしたちは、人生における一つの原則として自立を教えています。わたしたちは自活し、自分の必要を賄うべきです。ですから、万が一の場合に備えて、できることなら何がしかのものを用意し、将来の計画を立て、食料を保存し、貯金をするように勧めています。失業、病気、またはそれに類する災いは、時として、全く予期していない時にやって来ます。<sup>14</sup>



世界は昔から、何度も災害や惨事を経験してきました。聖文を読んで信じているわたしたちは、災害に関する預言者の警告を知っています。災害の中にはすでに起こったものもあり、これから起こるものもあります。  
……

長老たちの証あかしの後に降りかかる災いについて述べた教義と聖約第88章の啓示には、重大な意味があります。主はこう言っておられます。

「あなたがたの証の後に、地の中でうなりを起こす地震の証が来る。そして、人々は立っていることができず、地上に倒れる。

また、雷の声と、稲妻の声と、暴風雨の声と、その境を越えて打ち上げる海の波の声の証も来る。

また、すべての物事が混乱する。そして、必ず人々は気落ちする。恐れがすべての人に及ぶからである。」(教義と聖約88：89－91) ……

……過去に災害が起きたのと同じように、これからもさらに起きるでしょう。ではどうしたらよいのでしょうか。

ノアが箱舟を造っていたとき、雨は降っていなかったと言われています。でもノアは箱舟を造りました。その後に雨が降ってきたのです。

主は「備えていれば恐れることはない」と言われました(教義と聖約38：30)。

教義と聖約には最も大切な準備についてこのように記されています。「それゆえ、主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」(教義と聖約87：8) ……

主の守りと導きを願い求められるように生活することができます。これは最優先で取り組むべきことです。主の戒めを進んで守らなければ、主の助けを期待することはできません。この教会には、ヤレド人やニーファイ人の例に見られるように、不従順に対して罰が下されることについての証拠はいくらでもあります。いずれの場合も、邪悪であったために栄光から完全な滅亡にまで転落しました。

もちろんわたしたちは、雨は正しい者にも正しくない者にも降ることを知っています(マタイ5：45参照)。しかし、正しい者はたとえ死んでも、滅びることはなく、贖あがない主の贖しよくだい罪によって救われます。パウロはローマ人に宛ててこう記しました「わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。」(ローマ14：8) ……

わたしたちは、……災いが降りかかるときのために、生き延びられるだけの準備をするよう勧告され、奨励されてきました。

ある程度の量の水、基本的な食料、医薬品、体温を保つための衣類を備えておいたらどうでしょうか。万が一の時のために、多少のお金を取っておく必要があります。<sup>15</sup>

わたしたちにはすばらしい福祉プログラムがあって、穀物倉庫などの施設が各所に備えられています。このプログラムを実施するのは重要なことです。しかし食料を貯蔵するのに最適な場所は家庭です。そして多少の貯蓄をすることです。最良の福祉プログラムは、わたしたち個人が行う福祉プログラムです。家庭にある5ないし6缶の小麦は、福祉用穀物倉庫にある1ブッシュル（訳注——約35リットル）以上のものに値します。……

少しずつ始めましょう。まずは1週間分の食料から始め、1か月分、3か月分と増やしていきます。わたしが今話しているのは、基本的な食料のことです。皆さんは、お気づきでしょうが、この勧告は新しいものではありません。しかしわたしが懸念するのは、長期間の食糧保存をととも無理な目標だと考え、何も努力しない人が大勢いるのではないかとということです。

少量から始めましょう。そして、適切な目標に向けて量を増やしていくのです。また、定期的に少額の貯金をしてください。後で驚くような金額になります。<sup>16</sup>

---

#### 4

---

### 可能な限り負債を避け、必要なときのために 貯金することで、独立と自由を謳歌する

わたしたちは自立について、負債について、儉約について、繰り返し勧告を受けてきました。わたしたちの中には、まったく不必要なもののために大きな負債を抱えている人が大勢います。……この教会の会員である皆さんに、可能な限り負債を解消して、逆境の時のために蓄えをするよう勧告します。<sup>17</sup>

家を整える時期が来ています。……

1938年、総大会の神権部会で、J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長はこう語りました。「一度借金をすれば、利子は昼夜を問わずあなたに付きまといまわす。あなたはそれを阻むことも、それから逃げることも、また忘れることもできません。利子は、懇願にも、威嚇いかくにも、命令にも応じません。そして、やり方に口を挟んだり、反したり、要求に応じなかつたりし

ようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」(Conference Report, 1938年4月, 103)

もちろん、借入れをしなければ家を買えないことは分かります。でも、支払い可能な家を買きましょう。そして容赦も猶予もなくやって来る支払いを軽くしましょう。……

教会の初期の時代から、主は負債の問題について語ってこられました。マーティン・ハリスへの啓示にはこうあります。「印刷業者との契約によって生じた負債を支払いなさい。束縛から自らを開放しなさい。」(教義と聖約 19:35)

ヒーバー・J・グラント大管長はこの問題について繰り返し語り、……こう言いました。「人の心と家族に平安と満足を与えるものを一つ挙げるとすれば、それはわたしたちが収入の範囲内で生活することです。わたしたちを虐げ、落胆させ、希望を失わせるものを一つ挙げるとすれば、それは返済できない借金を負い、果たせない義務を負うことです。」(*Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編, 1941年, 111)

わたしたちは教会全体に向けて自立を呼びかけています。家族に深刻な負債があっては、自立できません。人に負い目があっては、束縛からの独立も自由もありません。

わたしたちは教会の運営において模範を示すように努力しています。わたしたちは方針として、必要なときのために、教会の収入の一定の割合を毎年蓄える慣習を厳密に守っています。

教会は、全ての運営、全ての事業、全ての部門で、借入れをせずに機能していると言えることをうれしく思います。やっていくことができなければ、プログラムを縮小します。収入に見合うように支出を抑えます。借入れはしません。……

借金がなく、少しばかりのお金を緊急時のために取っておき、必要なときに取り出せるというのは何とすばらしいことでしょうか。……

皆さんに強く申し上げたいのは、家計の状態をよく調べて、支出を抑え、購買欲に対する自制心を養い、できるだけ負債を避けるということです。負債はできるだけ早く返済して、束縛から逃れてください。

わたしたちが信じているこの福音には実務面が含まれています。皆さんが家を整えるときに、主が祝福されますように。借金を返済し、蓄えがあれば、それがたとえ少額であっても、嵐あらしが襲ったときの避難場所が自分の〔家族〕にはあり、心には平安があるのです。<sup>18</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- ヒンクレー大管長は、「生産的な労働に代わるものはありません」と教えました(第1項)。あなたの生活において労働はどのような祝福をもたらしてきたでしょうか。あなたは一生懸命に働くことによって何を学びましたか。両親は子供が働くことを学ぶためにどのように助けることができるでしょうか。
- 物資的に困っている人に対するわたしたちの責任は何でしょうか(第2項参照)。他の人が自立するように、わたしたちはどのように助けることができるでしょうか。あなたが行ってきた、また、受けてきた奉仕によって、あなたの人生はどのような影響を受けましたか。
- 必要時の備えをするようにというヒンクレー大管長の勧告を読んでください(第3項参照)。必要なときのために備える大切さについていつ理解しましたか。備えをするために、少しずつ段階的にできることにはどのようなことがあるでしょうか。
- 負債と儉約に関するヒンクレー大管長の勧告を読んでください。金銭を自己管理できることはなぜ大切なのでしょうか。負債は物質的、霊的にどのような影響を与えるのでしょうか。子供がお金を賢く使うようになるために、両親はどのように教えることができるでしょうか。

### 関連聖句

1 テサロニケ 4:11 - 12; 教義と聖約 1:11 - 13; 78:13 - 14; 104:13 - 18; モーセ 5:1

### 教える際のヒント

「準備したレッスンの内容を全て提示しようとするあまりに、よい話し合いを急いで終えてしまうことのないように注意する。用意した資料を全て教えることも大切ではあるが、生徒が御霊の影響を感じ、疑問に思っていたことの答えを受け、福音に対する理解を深め、戒めを守る決意を強めることの方がはるかに大切である。」(『教師、その大いなる召し』64)

### 注

1. 「少年時代の教訓」『聖徒の道』1993年7月号、57 - 58 参照
2. 「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号、60 - 62 参照
3. 「手を差し伸べ、引き上げる」『リアホナ』2002年11月号、60 - 67 参照
4. 「わたしは信じる」『聖徒の道』1993年3月号、5 参照

5. 「わたしは信じる」5 参照
6. *One Bright Shining Hope: Messages for Women from Gordon B. Hinckley* (2006年), 24
7. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 707
8. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000–2004* (2005年), 532
9. 「生ける預言者の言葉」『リアホナ』2000年3月号, 30 参照
10. 「永代教育基金」62 – 67 参照
11. 「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 60 参照
12. ハロルド・B・リー大管長, "An Appreciation," *Ensign*, 1972年11月号, 8. ヒーパー・J・グラント, 1936年10月 Conference Report も参照
13. 「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ……てくれた」『リアホナ』2004年5月号, 61 参照
14. 「それは、片すみで行われたのではない」60 参照
15. 「備えていれば恐れることはない」『リアホナ』2005年11月号, 61 – 62 参照
16. 「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 58 参照
17. 「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号, 85
18. 「若い兄弟たちに、そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999年1月号, 62 参照



「もし主を礼拝し、主に従いたいと思うのであれば、主の奉仕の生涯を見倣うよう努めるべきではないでしょうか。」



## 自分を捨てて他の人に仕える

「福音の本当の意味がわたしたちの心に滴り、父なる神から授けられたこの人生は人に仕えるために用いるべきものであると悟ることができますように。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

若いときにゴードン・B・ヒンクレー長老は専任宣教師としてイングランドで伝道したが、最初の数週間は苦勞した。伝道地に着いた頃は体調も優れず、何度福音を宣べ伝えようとしても拒否されたのである。そのつらい時期に、祝福されて、ヒンクレー長老は後に「決意の日」と呼ぶようになったある経験をする。これは、その後の人生における彼の奉仕の心構えを変えた出来事となった。

ヒンクレー大管長はそのときのことを次のように語っている。「気持ちが沈んでいました。そこでわたしは父に手紙を書き、父からの送金と自分の時間を無駄にしているように思うと伝えたのです。父はわたしのステーク会長でもあり、賢明で靈感にあふれた人でした。父から非常に短い返事が来ました。『愛するゴードン、君の手紙を受け取りました。アドバイスは一つだけ。自分を忘れて御業に励みなさい。』その日の早朝、聖典勉強会で同僚とわたしは主の次の言葉を読んでいたのです。『自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。』（マルコ 8：35）

主のこの言葉は、それに続いて受け取った『自分を忘れて御業に励みなさい』という父のアドバイスと相まって、心に深く刻み込まれました。父の手紙を持って、住んでいたワダムロード 15 番地の家の寝室に入り、ひざまずいて主に誓いました。自分を忘れ、自分を捨てて主の業に励むことを聖約したのです。

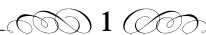
1933 年 7 月のその日は、わたしにとって決意の日でした。わたしの人生に新たな光が差し込み、心に新しい喜びが湧き上がりました。」<sup>1</sup>

この光がゴードン・B・ヒンクレーの人生から消えることは決してなかった。その日以来、主と人々への奉仕のために自分をささげたのである。ヒンクレー大管長の葬儀でヘンリー・B・アイリング管長は、世界中で行った神殿建設、神殿の業を加速するための小規模神殿の建設、永代教育基金の創設、カンファレンスセンターの建築といったヒンクレー大管長の功績を幾つか挙げた後に、こう言っている。

「以上は大管長の功績のごく一部であり、わたしにはその功績を全て言い尽くすことはできません。しかし、大管長が達成してきた事柄には少なくとも一つの共通点があります。それは、常に人に、祝福となる機会を提供することでした。大管長は常に、いろいろな機会にあずかれないでいる人たちや、日々の生活で苦勞しながらイエス・キリストの福音に従って生きようと努力しているごく普通の人たちのことを考えていました。わたしが何か提案すると、大管長は指先でわたしの胸を軽くたたいて、『ハル、苦勞している人たちのことを忘れてはいないでしょうね』と言うのです。こんなことが、一度ならずありました。』<sup>2</sup>

ヒンクレー大管長はこう言っている。「わたしはむしろ立ち上がって行動を起こす方を望みます。しっかりとした決意と目的を持って一日一日を送りたいと思います。目を覚ましている時間<sup>あかし</sup>を全て使って、人々を励まし、重荷を負った人々を祝福し、信仰と強い証を育てる手助けをしたいのです。』<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



わたしたちの命は神から与えられた賜物<sup>たまもの</sup>であり、  
人々に仕えるために用いるべきである

貧困と明らかな物資の不足が全世界にあり、反抗や卑劣な行為、低俗で汚らしい行為が数多く見られ、多くの親が離婚し、家族がばらばらになっています。夢も希望もなく寂しい生活をしている人が非常にたくさんいます。こんな不幸が、至る所にたくさん見られるのです。

皆さんにお願いします。世の中を少しでも良くするために、何かを得るだけでなく、与えるようにしてください。<sup>4</sup>

世の中がもっと良くなるためには、愛によって人の心が変わっていかねければなりません。それはわたしたちが無私の心で神と人を愛するとき、また心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くしてそうするとき起こるのです。



近代の啓示の中で、主は次のように宣言しておられます。「あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、あなたがたの中に暗さが無い……。」(教義と聖約 88 : 67)

わたしたちが愛と感謝の気持ちで神に心を向け、神の栄光にひたすら目を向けて神に仕えるなら、罪や利己心、高慢といった暗黒は、わたしたちの中から消えていきます。そして代わりに、永遠の御父と、わたしたちの救い主、<sup>あがな</sup>贖い主である愛する御子へのさらに大きな愛が宿るのです。自分のことは二の次にして、もっと人々に手を差し伸べるといった、より豊かな奉仕の心が育まれるでしょう。

この愛の原則こそ、イエス・キリストの福音の真髄なのです。<sup>5</sup>

もし主を礼拝し、主に従いたいと思うのであれば、主の奉仕の生涯を見<sup>なら</sup>倣うよう努めるべきではないでしょうか。自分の命は自分のものだと主張できる人はいません。わたしたちの命は、神から授かったものです。わたしたちは自分の力でこの世に来たのではなく、自分の思いどおりに世を去るのでもありません。命の長さは自分で決めるのではなく、神の御心<sup>みこころ</sup>によって決まります。

命をまるで自分だけの所有物のように扱う人が大勢います。命を粗末に扱おうと思えば、それもできるでしょう。しかし、それでは大いなる神聖な信頼を裏切ることになります。主はこのことをはっきり論しておられます。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ 8 : 35)<sup>6</sup>

愛する兄弟姉妹の皆さん、求められているものは非常に大きく、機会は周囲にたくさんあります。神はわたしたちに御業を進めさせようとしておられます。熱意をもって心楽しく携わるよう望んでおられます。御業とは、主の言葉によると、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め〔る〕」ことです(教義と聖約 81 : 5)。

それは、助けを必要としている人に仕えることであり、家族を亡くした人を慰めることであり、夫や父親を亡くして苦勞している人のもとを訪れることであり、乏しい人に食物を与え、裸でいる人に服を着せ、雨露をしのぐ場所のない人を保護することです。「よい働きをしながら……巡回され〔た〕」主のような行いをする事なのです(使徒 10 : 38)。<sup>7</sup>

今日<sup>きょう</sup>皆さんに伝えたいのは、……人生の計画を立てる際に、悲嘆に暮れている人や困っている人のために、見返りを期待しないで自分の時間の一部をささげる決心をしてほしいということです。皆さんの能力は、どのようなものであれ、必要とされています。助けの手を差し伸べれば、人を悲

しみの底から救い上げることができます。皆さんが地道に声をかけていけば、その声が無ければ諦めていたかもしれない人が、力を得るかもしれません。皆さんのさまざまな技能には、困窮している人の生活を驚くべき方法で好転させる力があります。今でなければ、いつ行うのでしょうか。あなたが行わなければ、誰が行うのでしょうか。<sup>8</sup>

福音の本当の意味がわたしたちの心に滴り、父なる神から授けられたこの人生は人に仕えるために用いるべきものであると悟ることができますように。

そのようにして人に仕えるならば、人生は幸福と喜びに満ちたものになるでしょう。そしてさらに大切なのは、わたしたちの主であり救い主であられるイエス・キリストと、出会う全ての人の祝福のために、人生をささげるといことです。<sup>9</sup>

## 2

### 奉仕は、自己憐憫れんびんや利己心、絶望、孤独に一番よく効く薬である

ある大学を訪ねたときのことで。わたしはその学生たちから世の若者たちがよく口にする不平不満を聞かされました。学業が、知識を得るとい恵まれた機会ではなく、何か重荷のようなもので、非常に苦痛だというつぶやき、住む所や食べる物についての不平不満などです。……

わたしはこの若者たちに助言を与えました。学業が苦痛に思えて仕方がないならば、住む所や食べる物に不満を感じるのならば、その解決方法を教えましようと言ったのです。少しの間本を置いて部屋を出て、独り暮らしの老人や病気の人、失意に沈む人のもとを訪れるよう勧めました。自分の生活に不平不満があったら、それは概して、自分のことしか考えていないからなのです。

行きつけの靴修理店の壁に、長い間ある言葉が掲げてありました。こんな言葉です。「靴がないとつぶやいていた。足のない人に会えるまでは。」自己憐憫という病気に一番よく効く薬は、自分を捨てて他の人に仕えることなのです。<sup>10</sup>

多くの人にとって、孤独いを癒やす最良の薬は、人のために働くことだと思います。皆さんの問題を過小評価するわけではありませんが、それよりも深刻な問題を抱えている人がたくさんいるということをあえて申し上げます。そのような人々に手を差し伸べ、助けと励ましを与えてください。僅かな気配りや励ましがいないために、暗い学校生活を送っている少年少女が非常に多くいます。苦痛や孤独、不安を感じながら生活している高齢者



「外に出れば、あなたの手で重荷を下ろしてあげられる人がたくさんいます。」

がいますが、その多くは簡単な会話があるだけで、ささやかな希望や喜びを感じられるのです。……

傷ついている人はたくさんいます。彼らはその傷に包帯をして旅路を進められるよう助けてくれる、良いサマリヤ人を必要としています。小さな親切は、困っている人には大きな祝福となりますし、親切にした側も、気持ちがいよものです。<sup>11</sup>

外に出れば、あなたの手で重荷を下ろしてあげられる人がたくさんいます。わたしたちの周囲には、住む家のない人、おなかをすかせた人、貧困にあえぐ人がいます。老人ホームで孤独な生活をしている人もいます。障がいを持つ子供もいれば薬物依存症の若者もあり、病気で家から出られず優しい言葉に飢え渴いている人もいます。あなたが助けなければ、誰が助けるのですか。

わたしの知る限り、不安を鎮めるのに一番いい薬は労働です。絶望に一番よく効く薬は奉仕です。疲れを癒やす最善の方法は、自分よりもさらに疲れている人を助けようとすることです。<sup>12</sup>

宣教師はなぜ幸福なのでしょう。それは彼らが他の人々のために自分を捨てて働いているからです。

神殿で働いている人が幸せなのはなぜでしょう。言うまでもないことですが、それは彼らの愛の働きが、人類の救い主がささげられた偉大な身代わりの業と一致するものだからです。彼らは自分の働きに対して感謝の

言葉を求めることもなければ、それを望むこともありません。自分が身代わりをする人の名前以外は何も知らないのが普通です。<sup>13</sup>

手を差し伸べて人を慰め、支え、成長させたいという気高い心の望みを実行に移してください。そうするならば、利己心という、人をむしばむ毒があなたの心からなくなり、穏やかなすばらしい気持ちになります。この気持ちは、他の方法では到底味わうことができないでしょう。<sup>14</sup>

### 3

#### 人に助けの手を差し伸べるとき、真の自分を見いだす

何年か前のある日曜日、わたしはアイダホの小さな町の、あるステーキ会長の家で朝を迎えました。朝の祈りの前に家族がそろって、聖典から少し読みました。そのとき読んだ聖句の中に、ヨハネによる福音書第12章24節のイエスの御言葉があります。「よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」

ここで主が、来るべき御自身の死について語られたことに疑いの余地はありません。死なくして、御自身に課せられた使命は何も果たせないということと言われたのです。しかし、この言葉の中には、もう一つ別の意味があります。主はわたしたち一人一人に、自分を捨てて他の人のために働くのでなければ、人生には何の意義もないということをおられるように思えます。それは、主が次のように言葉を続けておられることから分かります。「自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。」(ヨハネ 12:25) ルカによる福音書には、「自分の命を救おうとするものは、それを失い、それを失うものは、保つのである」と書かれています(ルカ 17:33)。別な言い方をすると、自分のことだけを考えて生きる人は衰え、死んでいくが、自分のことを忘れて人のために働く人は、現世においても永遠の世界においも進歩成長していくということです。

わたしが泊まらせてもらった家のあるじであるそのステーキ会長は、その日の午前中、ステーキ大会において、13年にわたって忠実に務めてきた責任を解かれました。このステーキ会長は愛と感謝の言葉を絶えることなくかけられましたが、それは彼が裕福だったからでも、実業界の大物だったからでもありません。彼が自分を顧みずにささげてきた偉大な奉仕の業のためだったのです。彼は自分の利益を考えず、どのような天候であろうと、何万マイルも車を走らせました。文字どおり、数千時間を他の人のために

費やしたのです。彼は助けを必要としている人々のために、自分のことは二の次にしました。そうすることによって、彼は生き生きとした毎日を過ごし、自分が仕えた人々の目に偉大な人物と映るようになったのです。<sup>15</sup>

わたしは何年も前に、田舎<sup>いなか</sup>の学校に赴任してきたある若い女性教師の話を読んだことがあります。この教師のクラスに、以前から勉強についてこられず、今度も落第しかけていた女の子がいました。その子は字が読めなかったのです。彼女の家は大変貧しく、大きな町の病院に行くと、どこが悪いのか、また治るものなのか調べてもらうことすらできませんでした。字が読めないのはその子の目に原因があるのではないかと思ったその若い教師は、自費でその子に視力検査を受けさせることにしたのです。その結果、低い視力は眼鏡<sup>めがね</sup>で矯正できることが分かりました。間もなく、その子の前には新しい世界が開けました。生まれて初めて、目の前の文字をはっきりと見ることができたのです。田舎教師としての彼女の給料は僅かなものでした。しかし彼女は、その僅かな中から資金を出して、落第しかけていた生徒の生活をすっかり変えたのです。またそうすることによって、彼女は自分自身の生活の中に新たな広がりを見いだしました。<sup>16</sup>

奉仕をするときに、皆さんは自分の人生に新たな広がりを得ることでしょう。良い刺激を与えてくれる新しい交友関係を見だし、友情や人々との交わりを得、知識と理解と知恵、さらには行動力においても成長していくことでしょう。<sup>17</sup>

他の人に助けの手を差し伸べるなら、皆さんは自分自身の本当<sup>あかし</sup>の姿を知り、この世界に大きな祝福をもたらすようになることを証します。<sup>18</sup>

---

## 4

### 教会は無私の奉仕の機会を数多く提供している

兄弟姉妹、皆さんは自分自身のことだけを考えて生活しては決して幸せにはなれないでしょう。この世で最善の大義である主の大義に、すなわち定員会と補助組織の活動、神殿活動、福祉の奉仕活動、伝道活動に、自分を忘れて取り組んでください。皆さんは他の人々の生活に祝福をもたらすときに、自分自身の生活に祝福をもたらしているのです。<sup>19</sup>

この業ほど幸福に満ちた業は、世界中どこにもありません。その幸福は特別なものです。それは人に仕えることでもたらされます。真実で、独特で、すばらしいものです。<sup>20</sup>

教会を皆さんの大切な友としてください。皆さんの偉大な同僚としてください。召されたときはどこでも奉仕してください。頼まれたことは行っ



「奉仕をするときに、皆さんは自分の人生に新たな広がりを得ることでしょう。」

てください。どんな責任も、皆さんの能力を増し加えます。わたしはこの偉大な組織の中で多くの責任を受けて奉仕してきました。どの奉仕にも、それ相応の報いがありました。

これには、皆さんの無私の献身と、確固とした忠誠と信仰が必要です。皆さんは人生が終わるまで、多くの立場で奉仕するでしょう。小さく見える責任もあるかもしれません。しかし、この教会には小さな召しや重要でない召しなどはありません。どの召しも重要な<sup>みわざ</sup>のです。御業を進めるために、どの召しも必要なのです。決して教会の責任をないがしろにしないでください。……

皆さんの生活の中に教会のことを行う余地を設けてください。教義に関する知識を増し加えてください。組織に対する理解を深めてください。永遠の真理を愛する気持ちをさらに強めてください。

教会は、犠牲を払うように皆さんに求めるかもしれませんが。皆さんの最善のものをささげるように求めるかもしれませんが。そうすることで失うものは何もありません。犠牲は投資となって、生きている限り皆さんに配当をもたらすのですから。教会は永遠の真理の貯蔵所です。教会を受け入れ、教会にしっかりとつかまっています。21

幸せになりたいと思いますか。それならば、自分を忘れて、この大義に没頭してください。人々を助けるために手を貸してください。誰かに傷つけられても、心の中に赦しの精神を育ててください。主に頼って生活し、神の息子娘たちを励まし、彼らのために働いてください。これを行うならば、これまでまったく知らなかった幸福を知るようになるでしょう。皆さんがどれほど年老いていようと、どれほど若かろうと関係ありません。皆さんは、人を励まし、助けることができます。世の中に助けの必要な人が非常にたくさんいることを、天は御存じです。とても、とても、たくさんいます。兄弟姉妹の皆さん、人をむしばむ利己的な態度を生活の中から払拭して、もう少し多くの人に、もう少しよく仕えましょう。……もっと多くの人に仕え、もっと自分を磨いて、ひざの弱っている人を背負い、手の垂れた人の腕を支えてあげてください。イエス・キリストの福音に従って生きてください。自分のことを忘れてください。22

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- わたしたちの命は神から与えられた賜物<sup>たまもの</sup>であり、人に仕えるために用いるべきであるとヒンクレー大管長は教えています(第1項参照)。どうすれば人に仕えることを日々の生活の一部とすることができるでしょうか。神の栄光にひたすら目を向けて奉仕するとは、どのような意味だと思いますか。あなたは誰かの奉仕のおかげで祝福を受けたことがありますか。それはどのような祝福でしたか。
- 奉仕することによって自己憐憫<sup>れんびん</sup>や利己心、孤独を克服できるのはなぜでしょうか(第2項参照)。奉仕はどのような喜びをあなたにもたらしてきたでしょうか。助けを必要としている人について述べたヒンクレー大管長の言葉を読み、あなたと家族はどのような方法で手を差し伸べて奉仕できるか考えてください。

- 自分のことを忘れて人のために働くことによって「自分自身の本当の姿を知〔る〕」ことができるのは、なぜでしょうか(第3項参照)。第3項に出てくる話から、どのようなことが学べるでしょうか。
- 「この世で最善の大義である主の大義に、……自分を忘れて取り組んでください」とヒンクレー大管長は勧告しています(第4項)。教会で奉仕することによって、これまであなたの生活にどのような祝福が注がれてきましたか。

### 関連聖句

マタイ 20：25－28；25：34－40；ヨハネ 13：35；モーサヤ 2：16－18；18：8－9；教義と聖約 64：33

### 学ぶ際のヒント

「学んでいるときに、……心に浮かんでくる考えと湧き上がる感情に十分な注意を払ってください。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』18) 受けた印象が自分の読んでいる言葉と無関係なように思えるときにも、その印象を記録するようにしてください。それはまさに主があなたに学んでほしいと望んでおられる事柄かもしれません。

### 注

1. 「世の人々への宣言」『聖徒の道』1987年11月号, 6 参照
2. ヘンリー・B・アイリング「万事うまく行きますよ」追悼—ゴードン・B・ヒンクレー, 1910－2008年(『リアホナ』2008年4月号, 付録) 27 参照。26も参照
3. 「証」『リアホナ』1998年7月号, 73 参照
4. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1, 1995-1999* (2005年), 543
5. 「このうちで最も大なるものは、愛である」『聖徒の道』1984年8月号, 5 参照
6. 「自己を捧げる」『聖徒の道』1986年12月号, 3－4 参照。lds.org/liahona/1986/12/the-gift-of-selfも参照。
7. “To Single Adults,” *Ensign*, 1989年6月号, 75
8. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 544-545
9. 「主のみ業に献身する」『聖徒の道』1987年8月号, 6 参照
10. 「自分の命を救おうと思う者は」『聖徒の道』1983年2月号, 5 参照
11. 「独身成人との語らい」『聖徒の道』1997年11月号, 21－22 参照
12. “To Single Adults,” 73-74
13. 「主のみ業に献身する」6 参照
14. “To a Man Who Has Done What This Church Expects of Each of Us” (ブリガムヤング大学ディボーションアル, 1995年10月17日), 6, speeches.byu.edu
15. 「自分の命を救おうと思う者は」1－2 参照
16. 「このうちで最も大なるものは、愛である」4 参照
17. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 79 参照
18. 「自分の命を救おうと思う者は」8
19. 「真理の柱」『リアホナ』2002年5月号, 8 参照
20. 「仕える特権を喜ぶ」『世界指導者訓練集会』2003年6月21日, 25
21. 「人生の責務」『リアホナ』1999年5月号, 5 参照
22. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 597





## 聖なる神権

「わたしはこの教会の神権を心から大切に思っています。  
神権は活力のある生きたものであり、この業の  
中心を成す力です。また、永遠の父なる神が地上で  
御業を成し遂げられる力であり権能です。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

1980年、ゴードン・B・ヒンクレー長老とマージョリー夫人は3週間にわたるアジア訪問ツアーを行い、地域大会で話し、日本東京神殿の奉獻式に出席した。帰国する前に夫妻は日本仙台伝道部を訪れ、ヒンクレー長老の管理の下で、その伝道部初となるステークを組織した。新たに召されたステーク会長との会合の直前、ヒンクレー長老は坂井圭伝道部会長のもとに来て、「聖別された油はないかと尋ね、こう言った。『とても疲れしました。祝福してくださいませんか。』坂井会長は驚いた。坂井会長は、そのときのことを後にこう語っている。『主の使徒を祝福するなど、とても恐れ多く、自分にはそんな力はないと思いました。英語では祝福できない旨を伝えると、日本語でよいと言います。そこで、地区代表の柏倉仁長老とわたしで祝福を授けました。』祝福が終わると、ヒンクレー長老はただ、『ありがとう、ありがとう。これで、明日帰れます』と言った。

翌朝、ヒンクレー長老は体力が回復して健康そうだった。そして坂井会長がおかげんはどうかと尋ねると、『ダイジョウブ、快調です。元気です』と答えたのだった。数日後、坂井会長のもとに、ヒンクレー長老から感謝の手紙が届いた。『……祝福してくださったことに心からお礼を申し上げます。祝福の後、すぐに気分がよくなりました。たちどころに元気になりました。貴伝道本部に宿泊する特権にあずかったことを、ヒンクレー姉妹ともども深く感謝しています。』<sup>1</sup>

ヒンクレー大管長は、奇跡的ではあるが一時的な肉体の癒やしの祝福から、神殿の儀式を通して授けられる永遠の結び固めの祝福に至るまで、神権の祝福について頻繁に証し、こう宣言している。「わたしは御子の神権に



「〔神権があれば、〕神の王国の業を前進させるうえで不可能なことは何もありません。」

神聖な権能があることを信じています。それは、祝福する力、癒やす力、地上における神の諸事を統治する力、地上でつなぐことを天でもつなぐ力です。」<sup>2</sup>。

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 神は神権と天の王国の鍵を地上に回復された

神権の権能は昔の人々に与えられていました。小神権は一部の神聖な教会の儀式とともにこの世の事柄をつかさどるために、アロンの息子たちに与えられました。大神権は主御自身から使徒たちに与えられたものであり、主がペテロに宣言された次の言葉のとおりです。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ 16:19)

神権を完全に回復するために、バプテスマのヨハネと、……ペテロ、ヤコブ、ヨハネが訪れました。……モーセ、エライアス、エリヤもやってきました。この一人一人が神権の鍵を携えて来て、過去の神権時代に行われていた行為や儀式を全て、この大いなる最後の時満ちる神権時代に回復するという業を成し遂げたのです。

神権はここにあります。……この神権の力を、わたしたちは知っています。その力を見てきたからです。わたしたちは、病人が癒やされ、足の不自由な人が歩き、暗黒の中にいた人が光と知識と理解を得るようになるのを見てきました。<sup>3</sup>

預言者ジョセフ・スミスはあるとき、[神権を] こんな言葉で説明しました。「神権は永遠の原則であり、日の初めもなく年の終わりもなく、これまでもこれからも神とともに永遠から永遠にわたって存在するものです。」(*History of the Church*, 第3巻, 386)

神権は確かに全能者の力であり、全能者の名により、全能者に代わって働くために人に与えられています。それは神の権能の委託であり、地上にある他のいかなる力や権能とも異なります。昔この権能を持っていた人物が復活体で現れてこの権能を人に授けたことと、その権能と効力に疑問を挟む余地がないだろうことは、驚くには当たりません。神権がなければ教会は名ばかりの存在になり、そこには神の事柄を執行する権能がないこととなります。神権があれば、神の王国の業を前進させるうえで不可能なこととは何もありません。神権は神聖なものであり、その権能はこの世でも永

遠にわたっても有効です。死の幕の向こう側まで届く地球における唯一の力なのです。<sup>4</sup>

---

## 2

---

### 神権は神が御業を成し遂げられる力であり、権能である

わたしはこの教会の神権を心から大切に思っています。神権は活力のある、生きたものであり、この業の中心を成す力です。また、永遠の父なる神が地上で御業を成し遂げられる力であり権能です。<sup>5</sup>

聖なる神権には、地上における神の王国の諸事を統治する権能があります。主の啓示の下で、教会は3人の管理大祭司によって管理されます。この3人は十二使徒評議会の助けを受け、十二使徒評議會は七十人の助けを受けます。3人から成る管理ビショップリックは、大管長会の指示の下で実務面の責任を果たします。これは皆、神権役員です。彼らは神から力を授かり、その権能によって統治します。ステーキやワードのステーキ会長会やビショップリックも同様です。定員会もそうです。補助組織の役員は、神権者の指示と委任の下で業を進めます。神権がなければ、教会は形だけで、実体がなくなってしまうでしょう。この教会はイエス・キリストの教会であり、「神の御子の位に従う」その権能によって統治されているのです（教義と聖約 107：3）。<sup>6</sup>

---

## 3

---

### 神権の祝福は、全ての人が享受するためにある

〔神権は〕……永遠の父なる神の計画の一部であり、神の息子娘たちの生活をあらゆる時代にわたって祝福するためにあります。<sup>7</sup>

聖なる神権には、祝福する力があります。アロン神権を持つ者には、全人類のために犠牲として命をささげられた主の肉と血の記念の儀式を、ワードや支部の会員のために執り行う権能があります。聖餐、つまり、この記念のパンと水を頂くことは、わたしたちの安息日の礼拝のまさに中心です。これを頂くことによって、神と交わした聖約を更新します。それには主の聖なる御霊がともにあるという約束が伴います。これは全ての人のために用意された類いなき祝福であり、ふさわしい若い男性たちに与えられた権能によって受けることができます。……

メルキゼデク神権には、聖霊を授ける権能があります。神聖な権能を行使する人の手からその賜物が授けられて、神会の御一方の教えと導きを受けるとは、何と偉大な祝福でしょうか。徳をもって歩み続けるならば、主

が言われた次の約束が成就し、わたしたちは喜びに満たされるでしょう。「聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの笏は義と真理の不変の笏となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(教義と聖約 121:46)

神権には、病人を祝福する力があります。今わたしの話を聞いている人の中に、この神聖な力を行使したり感じたりしたことのない人がいるでしょうか。この力に疑問を抱くことのできる人がいるでしょうか。わたしたちは神聖で驚くべき奇跡について語ることができます。実際にそれを見てきたからです。……

この聖なるメルキゼデク神権には、祝福として預言を与え、慰め、支え、導く力があります。わたしたちには祝福師がおり、その権能によって血統を宣言し、導きとなる祝福の言葉を伝えてくれます。この祝福の言葉は錨となり、それにつかまってわたしたちが人生の嵐の中を堅実に歩めるようにしてくれます。

究極的な表現をするならば、聖なる神権には、地上で結び固める権能と、それを天でも有効にする権能があるのです。神権はかけがえのない素晴らしいものです。神の神殿で行使される権能です。生者と死者にかかわる権能です。永遠にとって、まさに根底となるものです。人の不死不滅と永遠の命をもたらす全能者の偉大な計画の一環として全能者から授けられた神の力なのです。

わたしたちが頂いているこの神の賜物は、何と貴いものでしょうか。<sup>8</sup>

## 4

### 神の聖なる権能を持つ神の子たちは、自分の持つ 可能性を最大限に発揮しなければならない

ふさわしい男性は全て、国籍や人種的背景、あるいはその他どのような要因にも左右されることなく、この神権を受けすることができます。決定的要因となるのは、神の戒めに対するその男性の忠実さです。神権の授与は主の前におけるふさわしさに基づいてのみ行われます。……

それこそまさに、この神権の驚異です。富は大切な要素ではありません。教育も大切な要素ではありません。人の誉れも大切な要素ではありません。大切な要素、それは主に受け入れていただけるかどうかということなのです。<sup>9</sup>

アロン神権またはメルキゼデク神権に聖任され、そのいずれかの職を持つ全ての者が、自分の生き方を振り返り、自分の欠点を認識し、自分の受

けている気高い権能にふさわしくない行いを悔い改めるべき時が来ています。……

聖任を受けた人は、若者であろうが年配者であろうが、いかなる人も自分の持つ神権を軽んじてはなりません。神権者は神とともに働くのであり、神の権能を授かった代表者として、神の名によって語り、行動するのにふさわしい生活をするという確固とした神聖な義務を負っています。<sup>10</sup>

たとえ権能を持つ者から頭に手を置かれ、神権の聖任を受けているとしても、本人の行いによっては、この神聖な権能を行使する権利を無効にしたり剥奪はくだつされたりすることがあります。

……「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。」(教義と聖約 121：41－42)

さて、兄弟の皆さん、これらが神権を行使する基準です。神権は気の向くままに着たり、脱いだりするコートのようなものではありません。義にかなって行使するならば、いつでも、どのような状況にあっても、神権はまさにわたしたちの体の組織のようにわたしたちの一部となります。<sup>11</sup>

自分の持つ可能性を最大限に発揮できるよう、誠実に努力しなければなりません。わたしたちは神の聖なる権能を持つという栄誉を受けた神の息子です。しかしわたしたちが生活しているのは邪悪に満ちた世界です。墮落させようとする力、わたしたちの持つ聖なる神権と完全に相反する事柄に手を出させようとする力が常に働いています。……

成人の皆さんにチャレンジを差し上げます。皆さんを支配しようとする俗悪な風潮から逃れてください。世の悪から逃れてください。さらに善い人になれるよう、誠意を尽くしてください。自分の持つ可能性を最大限に発揮できるよう、誠意をもって努力してください。神の神権に関わる聖約に忠実かつ誠実であってください。<sup>12</sup>

この教会で神権の職に就く全ての役員、全ての教師は、その神権の召しを尊んで大いなるものとするという神聖な責任を負っています。わたしたちは各々、他の人々の福祉や成長、進歩に対して責任があります。わたしたちは自分のためだけに生きるものではありません。召しを尊んで大いなるものとするのであれば、自分のためだけに生きてはならないのです。<sup>13</sup>

聖任されたのだから、神権は永遠に自分のものであって、その気になればいつでも行使できると考えている人がたくさんいるようです。そのような人はときどき聖約や戒めを破ったり、何らかの形で罪を犯したりしても、それでもなお自分には神権の力があり、自分が神の聖なる御名と贖い主の御名で語る言葉を神が承認してくださると考えます。これは神を嘲る行為となり、そのように神権を行使する人は、神の御名をみだりに唱えていることになるわたしは思います。そのような人は、神の愛する御子の御名を冒瀆しています。聖任によって授けられた神聖な賜物と、背きのために失った権能を汚しているのです。……

……わたしは若い男性であれ成人であれ、全ての人に、罪を避けるよう警告の声を上げます。背きと神聖な権能は相いれないものです。疫病を避けるようにボルノグラフィーを避けてください。程度にかかわらず、性的な罪を避けてください。不正直とごまかしを避けてください。ほんの少しでも高慢やむなしの野望を持たないように、自制してください。自分の妻や子供に対して支配的な態度や強制的な態度を執ってはいないかよく吟味してください。……

……天の御父は、いかなる人であっても聖任を受けていながら悪に身を委ねるのをお喜びになりません。このことをわたしは確信しています。人は聖任を受けるまさにその過程において、自分と神との間に誓詞と聖約を交わすのです。<sup>14</sup>

若者であろうと年配者であろうと、いかなる人も、女性を辱めたり見下したりする人や、天の御父が望まれるような敬意を神の娘たちに示さない人は、神権を持つ者の標準にふさわしい生き方をしていません。<sup>15</sup>

善い夫、善い父親になりましょう。家庭で独裁者になっているような男性は、神権にふさわしくありません。自分の選んだ伴侶に対して敬意と優しさと愛を示さないような人は、主の御手に使われるにふさわしい者となることはできません。同様に、子供に悪い手本を示す男性や感情を抑え切れない男性、不正直または不道徳な行為に手を染める男性も、神権の力を取り去られることになるでしょう。<sup>16</sup>

あなたが選ぶ妻は、あなたと平等の存在です。……妻はあなたの召し使いでも、所持品でもありません。そのような存在では一切ありません。妻に対する虐待は何と悲しく、恐ろしい行為でしょうか。妻を虐待し、辱め、侮辱し、妻に対して不義の支配を行う教会の男性は誰であっても神権を持つにふさわしくありません。そのような男性はたとえ聖任を受けていても、天は退き去り、主の御霊は深く悲しみ、そして、その人の神権の権能は終

わりとなるのです。虐待を行っている人は、神殿推薦状を持つにふさわしくありません。……

……この罪を犯している人がいれば、悔い改めるようお願いします。ひざまずいて、主に赦しを求めてください。あなたの舌と攻撃的な手を制する力を主に祈り求めてください。妻と子供たちに赦しを求めてください。……

わたしたちが神の裁きの座に立つとき、この世でどれほどの富を蓄えたかとか、どれほどの名声を手に入れたかはほとんど問われないとわたしは確信しています。しかし、家族との関係についてはこと細かに尋ねられるでしょう。伴侶と子供を愛し、敬い、彼らに感謝しながら生きた人だけが、永遠の判士から次の言葉を頂くのだとわたしは確信しているのです。「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ 25 : 21)<sup>17</sup>

## 5

### 神権定員会は、それに所属する定員会会員の力の源にすることができる

主は日曜日の朝に教義を教えるクラスを開くだけではなく、その他にもはるかに大きな働きのできる組織として神権定員会を定められたと、わたしは確信しています。もちろん、福音を効果的に教えることによって霊性を築き、証を強めることは神権の大切な責任です。しかし、これは定員会の仕事の一部にすぎないのです。定員会がその目的を達成するには、全ての会員に対して実際に兄弟愛を示さなければなりません。……

……神権定員会は教会の男性のために設けられた主の組織です。同様に教会の女性のためには扶助協会があります。どちらの組織も、困っている人々を助けることが、基本的な目的となっています。

扶助協会が組織されたとき、預言者ジョセフは扶助協会の女性たちについて次のように述べました。「彼女たちは……急いで出て行って見知らぬ人を助けるでしょう。悲しむ人の傷ついた心に油とぶどう酒を注ぐでしょう。孤児の涙をぬぐい、やもめの心に喜びを与えるでしょう。」[『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』452] わたしは、神権を持つ男性たちについても同じことを言ってよいと思っています。

神権定員会が、それに所属する全ての定員会会員にとって力の源となり、定員会会員一人一人がいみじくも次のように言うことができるとすれば、それは驚嘆すべき日……の到来です。「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の神権定員会に所属しています。わたしは兄弟たちが必要としている





教会の指導者と会員は、男性も女性も、「神権の指示と委任の下で業を進め〔る〕」ために力を合わせて働く。

ことなら何でも援助します。そしてわたし自身も彼らの助けを受けることができると確信しています。兄弟たちとともに働くとき、わたしたちは神の聖約の息子として成長し、力を合わせて働くならば、財政的なものであろうと、社会的、霊的なものであろうと、いかなる逆境にあっても、戸惑いも恐れも覚えることなく、確固として立つことができるのです。」<sup>18</sup>

## 6

### 家庭でも教会でも、男性と女性は力を合わせて主の王国を前進させる

男性は神権を保持しています。それは確かです。しかし、わたしの妻はわたしの伴侶です。この教会では、男性は、奥さんの前に立って歩くのではなく、後ろを歩くのでもなく、並んで歩いています。夫と妻は、偉大な業であるこの人生においては、同等の存在です。<sup>19</sup>

この教会の女性には強さと偉大な能力があ〔ります〕。この主の王国の一翼を担い、神権者と手を携えてこの王国を前進させる女性たちの中には、指導力と方向性、確かな独立心、そして大きな充実感があります。<sup>20</sup>

「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語る」ために聖なる神権が回復されたことを、わたしは永遠の御父に感謝しています（教

義と聖約1：20)。わたしはこのすばらしい教会の統治の中において、神権のすばらしさと驚異とを<sup>ま</sup>目の当りにしてきました。神権の力が自分自身を通して、祝福となり、また病人を癒やす力として流れていくのを感じてきました。偉大で重要な責任に召された謙遜な人々が、神権によってさらにすばらしい人物に成長していくさまも見てきました。また、神の声が彼らを通して語っておられるかのように彼らが天からの力と権能をもって語る姿にも、神権の力を見てきました。

福音の完全さ、福音の幅の広さ、広大さ、奥の深さについて、わたしに<sup>あかし</sup>証を授けてくださったことを、主に感謝しています。福音は生者と死者とを問わず、あらゆる時代の神の息子と娘に祝福をもたらすためにあるのです。<sup>21</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 第1項にある神権の回復に関するヒンクレー大管長の教えを読み返してください。これが真実であるという証を<sup>あかし</sup>あなたが得るうえで助けになった経験には、どのようなものがあるでしょうか。
- ヒンクレー大管長は、「聖なる神権には、地上における神の王国の諸事を統治する権能があ[る]」と教えています(第2項)。この真理は、ステークやワードにどう当てはまるでしょうか。定員会や扶助協会についてはどうでしょうか。神権の権能は、あなたが神の王国で奉仕する際にどのような力を与えてくれるでしょうか。
- 第3項で、神権を通して全ての人が受けられる祝福を復習してください。あなたは神権の力や祝福を、これまでどんな形で経験してきましたか。
- 神権の権能と神権の力の違いについて、ヒンクレー大管長の教えからどんなことが学べるでしょうか(第4項参照)。神権者が「自分の持つ可能性を最大限に発揮[する]」とはどういう意味だと思いますか。神権者が「自分のためだけに生き[ては]」ならないのは、なぜでしょうか。
- 第5項で神権定員会と扶助協会についてヒンクレー大管長が述べている事柄で、あなたが感銘を受けたのはどんなことですか。この勧告に従うために、ワードや支部ではどんなことができるでしょうか。
- 主の業を成し遂げるために男性と女性が「同等の存在」として力を合わせて働く必要があるのは、なぜでしょうか(第6項参照)。

## 関連聖句

へブル 5：1－4；1 ニーフアイ 14：12－14；アルマ 13：1－9；教義と聖約 84：33－44；88：133；112：30－32

## 教える際のヒント

「聖典と末日の預言者の教えから答えを見つけさせるような質問をする。」  
 (『教師、その大いなる召し』62)

## 注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 377
2. 「御父と御子と聖霊」『聖徒の道』1987年1月号, 57 参照
3. 「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号, 6－7 参照
4. “Priesthood Restoration,” *Ensign*, 1988年10月号, 71
5. 「わたしたちはある種の事柄についてなぜそうしているか」『リアホナ』2000年1月号, 68 参照
6. “Priesthood Restoration,” 72
7. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 475
8. “Priesthood Restoration,” 72
9. 「ステーキ会長」『リアホナ』2000年7月号, 59, 60 参照
10. “News of the Church: Priesthood Restoration Honored,” *Ensign*, 1983年7月号, 76 で引用
11. 「神権を行使する個人のふさわしさ」『リアホナ』2002年7月号, 58 参照
12. 「忠誠を尽くす」『リアホナ』2003年5月号, 58－59 参照
13. 「全力を尽くして召しを遂行するために」『聖徒の道』1989年7月号, 51 参照
14. 「正義の原則によりてのみ」『聖徒の道』1993年5月号, 22, 23 参照
15. In “News of the Church: Priesthood Restoration Honored,” 76で引用
16. 「手を差し伸べ、引き上げる」『リアホナ』2002年1月号, 60 参照
17. 「神権を行使する個人のふさわしさ」59－60 参照
18. 「福祉に関する神権定員会の責任」『聖徒の道』1978年2月号, 131, 132 参照
19. 「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 58
20. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 76 参照
21. 「私の証」<sup>あかし</sup>『聖徒の道』1994年1月号, 61 参照



「〔モルモン書が〕 真実か否かの証拠，正当性の証拠は，この書物自体にあるのです。真実かどうかを知るには，読んでみることです。」

## モルモン書の力

「モルモン書は、……信仰の揺らぐ世の人々に向けて、  
主が神であられることを力強く証あかししています。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレーは、聖文を研究する習慣を若い頃に確立した。「宣教師だった頃、わたしは毎晩、モルモン書を数章を読んでから寝ていました。これを続けた結果、心の中に揺るぎない確信が生まれました。この書物に書かれていることが神の言葉であって、全能者の力によってこの地上に回復され、イエスがキリストであられることをユダヤ人と異邦人に確信させるために、神の賜物たまものと力によって翻訳されたという確信です。」<sup>1</sup>

伝道から帰った後、教会のラジオ・広告および伝道文献委員会の職員として働いたが、その際に、モルモン書に対するこの知識あかしと証は、多くの人々に影響を与えた。ゴードンは「ア・ニュー・ウィットネス・フォー・クライスト」(A New Witness for Christ) というラジオ番組シリーズの原稿を書く割り当てを受けたのである。この番組は、ラジオを聞く人たちに、モルモン書の聖句を生き生きと伝えた。ゴードンは当時、同僚にこう言っている。「この仕事最大の成果を上げるのは、聞いている人がモルモン書に興味を抱き、それを読むようになったときだと、わたしはいつも思っています。読めば、これが神聖な書物であることを御霊みたまが証するんですよ。」<sup>2</sup>

教導の業に携わった期間を通じて、ヒンクレー大管長は常にモルモン書の大切さを強調した。2005年8月には、大管長として、年末までにモルモン書を完読するよう末日聖徒にチャレンジしたのである。後に、こう報告している。「その勧めに驚くべき数の人が応えてくれました。実行した人はその努力に対して祝福を受けました。贖い主あがなについてのさらなる証であるこの書物を熱心に読むようになるにつれ、心が活気づき、霊が鼓舞されたのです。」<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

モルモン書は、聖書とともに、イエス・キリストについて証している<sup>あかし</sup>

二人またはそれ以上の証人の口によって、全ての事柄が確かめられると、昔、救い主は言われました。<sup>4</sup>

聖書は旧世界の証であり、モルモン書は新世界の証です。両者はともに、イエスが父なる神の御子であられることを宣言しています。<sup>5</sup>

モルモン書は、ユダヤのベツレヘムで生まれ、カルバリの丘で亡くなられた御方について証〔していま〕す。信仰の揺らぐ世の人々に向けて、主が神であられることを力強く証するもう一つの証です。モルモン書のタイトルページは、約1,500年前にアメリカ大陸に住んでいた預言者が書いたものです。そこには、モルモン書が書かれた目的が、はっきりとこう記されています。「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。」<sup>6</sup>

わたしたちにできることの中で、イエスがキリストであられるという揺るがぬ確信というとりでを個人の生活の中に築くことほど、大切なことはありません。……兄弟姉妹の皆さん、これこそが、この驚くべきすばらしい書物が世に出た目的なのです。<sup>7</sup>

### 2

聖霊の力によって、モルモン書が神によって  
もたらされたという証を得ることができる<sup>あかし</sup>

わたしは、ジョセフ・スミスが神の賜物<sup>たまもの</sup>と力によって翻訳したモルモン書を読みました。聖霊の力によって、この神聖な記録が神によってもたらされたという証と確信を得ました。<sup>8</sup>

モルモン書の起源は驚くべきものであるため、それをよく知らない人に話すと、最初はほとんど信じてもらえません。しかし、実際にこの書物は存在し、触れることも、手に取ることも、読むこともできるのです。この書物の存在に疑問を挟むことは、誰にもできません。この書物の起源についてジョセフ・スミスの説明とは異なる説明をしようという企ては、全て徒勞に終わっています。<sup>9</sup>

証拠を求める傾向の強い世の中において、モルモン書が真実で正当なものだという証拠を探すには、考古学や人類学ではだめです。多少役に立つにしても、この手法では見いだせません。言葉の研究や歴史的な分析によっ

て、事実の確認はできるかもしれませんが、証拠そのものは見いだせません。真実か否かの証拠、正当性の証拠は、この書物自体にあるのです。真実かどうかを知るには、読んでみることです。これは神の書物です。理性的な人は、その起源に率直に疑問を抱くことがあるかもしれませんが、しかし、祈りの心をもって読んだ人には、モルモン書が真実であり、神の言葉が書かれてあって、永遠の福音の救いの真理が説明されており、「ユダヤ人と異邦人に、イエスが……キリストであ〔られる〕……ことを確信させる」ために「神の賜物と力によりもたらされ〔た〕」ことが、五感を超える力によって分かるようになるのです。<sup>10</sup>

〔モロナイは〕自分の名を冠した書に最後の証を書いています。そして、このニーファイの民の記録は、その書で終わっています。自分の記録が将来世に出ることを確かに知っている者として、モロナイはこの記録を書きました。……

モロナイが、自分の書いた書の最後の章で、自分の民のことを書いたこの記録について証を述べ、それを読む者は聖霊の力によってそれが真実であることを知ることができる、とはっきりと約束しているのです〔モロナイ 10：3－5参照〕。

このような約束が書かれている書物は、他にありません。たとえ他に何一つ書いていなかったとしても、この最後の約束を書いたことによって、モロナイは永遠の真理を雄弁に証する者としていつまでも知られることになります。それは、「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう」と言っているからです（モロナイ 10：5）。<sup>11</sup>

### 3

#### モルモン書についての証<sup>あかし</sup>があると、その他の事柄が 真実であることも確信できるようになる

わたしたちはモルモン書を読むよう勧めるたびに、その人を助けています。祈り、真理を知りたいと心から願いながら読むならば、その人はモルモン書に書かれていることが真実であることを、聖霊の力によって知ることができます。

それを知ると、その他多くの事柄が真実であることも確信できるようになります。モルモン書が真実ならば、神は確かに実在します。天の御父が実在し、人格を持つ御方であって、その子供たちを愛し、子供たちの幸せを願っておられるという厳然たる事実の証が、モルモン書のどのページからも伝わってきます。

モルモン書が真実ならば、イエスは神の御子であり、「ほかのどんなおとめにも勝って美し〔い〕おとめ」マリヤから生まれた、肉における御父の独り子であられるということになります(1 ニーフアイ 11:13 – 21参照)。モルモン書にはそのことが、他のいかなる書物にも勝る筆致で証されているからです。

モルモン書が真実ならば、イエスは確かにわたしたちの贖い主であり、世の救い主であります。……

モルモン書が真実ならば、ジョセフ・スミスは神の預言者です。なぜなら、ジョセフ・スミスは神の手に使われて、主が神であられることを証するこの書物を世に出したからです。

モルモン書が真実ならば、〔大管長〕は預言者です。なぜなら、大管長はこの末日の業を起こしたジョセフ・スミスが持っていた全ての鍵と賜物、力、権能を持っているからです。

モルモン書が真実ならば、この教会は真実です。この神聖な記録を世に出したのと同じ権能が、今日わたしたちの中にも存在し、現れているからです。これは、救い主がパレスチナで建てられた教会が回復されたものです。救い主が〔アメリカ〕大陸を訪れて建てられた教会が回復されたものです。これについては、この神聖な記録に書かれています。

モルモン書が真実ならば、聖書は真実です。聖書は旧世界の民との契約の書であり、モルモン書は新世界の民との契約の書です。聖書はユダの民の記録であり、モルモン書はヨセフの民の記録です。この二つの記録は主の手の中で一つとなり、エゼキエルの預言は成就しました(エゼキエル 37:19 参照)。聖書とモルモン書はともに、世の贖い主が王であられ、その王国が確かに存在することを証しています。<sup>12</sup>

#### 4

### モルモン書には、今日の社会にある問題の解決策を見いだす助けとなる教えが記されている

〔モルモン書には、〕ずっと以前に地上から姿を消した国民の記録が記されているのですが、今日の社会に見られるような問題が描写されていて、まるで朝刊を読んでいるかのようです。しかも、朝刊よりもよほど信賴の置ける、靈感に満ちた、人を奮起させる解決策が提示されているのです。<sup>13</sup>

ページを開いて読むと、美しく、励みになる言葉が目に入ってきます。この翻訳の原本である古代の記録は、ちりの中から語る声のように、地から出て来ました。モルモン書は、地上で生活し、逆境と闘い、紛争や戦争



を経験し、あるときは神の律法を守って栄え、あるときは神を捨てて滅びに向かった、何世代もの人々の証として世に出ました。<sup>14</sup>

社会が神の戒めに反する道をたどった結果として起こった悲劇をこれほどまでにはっきりと伝えている書物を、わたしは他に知りません。ページを繰ると、西半球で栄えた二つの異なる文明の物語が語られていきます。どちらも最初は小さな国で、民は主を恐れながら生活していました。しかし、どちらの文明も、栄えるにつれて邪悪な行いが蔓延し、民は野望を抱く狡猾な指導者の策略に屈しました。権力者たちは民に重税を課し、守るつもりのない約束をして民を説き伏せ、邪悪で不道德な生活を容認するばかりか奨励までしました。民を凄惨な戦争に駆り立て、その結果何百万人もの死者を出しました。そして、この二つの偉大な文明は、異なる時期に、ついに完全に消滅したのです。

民も国家も、神を恐れ、神の戒めに従って歩むならば栄え、発展します。しかし、神と神の言葉をないがしろにするようになると、義によって食い止めない限り、民や国家は弱体化し、力を失い、消滅するのです。この事実をこれほどはっきりと証している書物は他にありません。旧約聖書の箴言にある次の聖句のとおりだということが、モルモン書を読むと分かります。「正義は国を高くし、罪は民をはずかしめる。」(箴言 14：34)<sup>15</sup>

## 5

### モルモン書には、わたしたちの人生と物の見方を変える力がある

1830年8月、特定の教派に属さない説教師であったパーリー・パーカー・プラットは、オハイオ州からニューヨーク州東部に向かって旅をしていました。エリー運河沿いのニューアークで船を下り、10マイル〔16キロ〕ほど歩いたところで、ヘムリンという名のバプテスト教会の執事に出会いました。その執事はパーリーに、「ある書物、世にもまれな書物、きわめてまれな書物」の話をしたのです。「……この執事の話によると、その本はもともと、イスラエルの末裔の手で金か真鍮の版に刻まれた記録であって、ニューヨーク州パルマイラの近くに住む一人の青年が、示現、つまり天使の働きによって発見して翻訳したというのである。どうすればその書物を手に入れることができるのかと聞くと、明日自分の家に来れば見せると約束してくれた。……翌朝、彼の家を訪れたわたしは、そこで初めて、まさに書物の中の書物、『モルモン書』を目にしたのである。それは、神の手の中であってその後のわたしの人生を大きく変えた書物であった。



モルモン書は、後に使徒になるパーリー・P・プラットに、深い影響を与えた。

わたしは大いに期待しながらその書物を開き、タイトルページに目を通した。続いて、それがどのような経緯で発見され、どのようにして翻訳されたかを語る数人の証人たちの証<sup>あかし</sup>を読んだ。それから本文を、書かれている順に読み始めた。一日中読んでいた。食事をする時間が惜しく、何も食べたいとは思わなかった。夜が来ると、寝る時間が惜しかった。眠るよりも読んでいたかったからである。

そのようにして読んでいると、主の御霊<sup>みたま</sup>が降り、その書物が真実であることが分かった。人が自分の存在を認識するようにはっきりと、一点の疑いもなく、その書物が真実であることを理解したのである。」(Autobiography of Parley P. Pratt, 第3版, Salt Lake City: Deseret Book Co., 1938年, 36 - 37)

当時、パーリー・P・プラットは23歳でした。モルモン書を読んで非常な感銘を受けたパーリーは、すぐさまバプテスマを受けて教会に入り、モルモン書の非常に優秀で強力な擁護者の一人になったのです。……

モルモン書を読んでこのような経験をしたのは、パーリー・プラットだけではありません。初版のモルモン書が出回って読まれるようになるにつれ、深い感銘を受けた何百人もの熱心な男女が財産を全て手放し、その後の数年間、相当な数の人が、この驚くべき書物が真実であるという証を心に持っていたがために、命をささげているのです。

……今日、モルモン書は、歴史上かつてなかったほど多くの人々に読まれています。……この書物は、時代を超越した真理として、あらゆる人々の心に訴えかけています。<sup>16</sup>

〔モルモン書は、〕祈りながら読み、そこに語られている言葉について深く考えた無数の人々の人生を変えてきました。そのような人の一人を紹介しましょう。……

彼はかなりの成功を収めたビジネスマンで、出張の途中、この教会の二人の宣教師に出会いました。宣教師たちはレッスンの約束を取ろうとしました。彼はなかなか会おうとしませんでした。結局、話を聞くことにしました。そして、宣教師の言っていることをあまり深く考えることなく受け入れました。言っていることが真実だと頭では思いましたが、心を動かされたわけではありません。

彼はモルモン書を読むことにしました。自分は世界を股に掛けて働いてきており、泣いたことなどないと言っていた人物です。ところが、モルモン書を読むと、涙が頬を伝わりました。この書物が何らかの力を及ぼしたのです。もう一度読んでみると、また同じような感動を覚えました。頭での改宗が、心からの改宗に変わったのです。

生き方が変わり、物の見方が変わりました。彼は主の業に打ち込むようになり、現在、愛するようになった主の業の中で、気高くかつ聖なる召しを果たしています。<sup>17</sup>

モルモン書について〔もう一つ〕話をさせてください。わたしは、カリフォルニア州で銀行の役員をしている男性がこんな話をするのを聞いたのです。秘書がいつもたばこを吸っていたそうです。たばこ中毒だったのです。たばこを脇に置くことができませんでした。ある日、秘書が男性に言いました。「どうしたらたばこがやめられるでしょうか。」

男性は机の引き出しに手を入れると、モルモン書を取り出して手渡しました。「では、これを読んでください。」

「分かりました。読みます。」

2日ほどして、秘書が来て言いました。「200ページ読みましたが、喫煙という言葉はどこにもありませんでしたよ。たばこという言葉もありませんでした。たばこの話はまったく出てきませんでした。」

男性は言いました。「そのまま読み続けてください。」

秘書はもう2日ほどするとまた戻って来て、言いました。「さらに200ページ読みましたが、たばこを吸う話も、ニコチンの話もありませんでした。たばこに関する話は何も出てきませんでしたよ。」

男性は言いました。「そのまま読み続けてください。」

それから3、4日して、秘書はまた来ると、言いました。「全部読みました。たばこの話はどこにもありませんでした。たばこを吸う話も出てきませんでした。ところが、この本を読んだ結果、心に何か訴えるものがあつたんです。力のようなものです。そのおかげでたばこを吸いたいという気持ちがなくなりました。爽快な気分です。」<sup>18</sup>

何年前かに教会宛てに送られてきた手紙を、紹介させてください。……ある男性からの手紙で、こう書いてありました。「わたしは今、連邦刑務所に服役中です。最近、刑務所内の図書館でモルモン書という本を見つけました。それを読んだのですが、滅んでいった民についてモルモンが嘆く言葉を読んだときに、わたしは、モルモンが自分に語りかけていると感じました。『おお、美しい者たちよ、あなたがたはどうして主の道から離れてしまったのか。おお、美しい者たちよ、あなたがたは両腕を広げて立ってあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。見よ、あなたがたはそのようにしなければ、倒れなかったであろうに。』(モルモン6:17-18) この本を1冊、送っていただけますか。」

わたしたちは彼にモルモン書を送りました。しばらくたって、彼はまったく別人となってわたしのオフィスに来ました。彼はモルモン書を持つ力によって心を動かされ、今は社会的にも立派に更生し、正直に働いて自分と家族の生活を支えています。

この偉大な書物は、祈りの気持ちをもって読む人々の生活にこのような力を発揮するのです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんにはっきりと約束します。これまでに何度読んだかに関係なく、祈りの気持ちをもってモルモン書を読むなら、皆さんの心に、さらに豊かに主の御霊みたまが注がれることでしょう。主の戒めに従って歩む決意が強くなり、神の御子が確かに生きておられるという証が強くなることでしょう。<sup>19</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- なぜわたしたちにはモルモン書が必要なのでしょうか。イエス・キリストに対するあなたの証を強くしてくれたモルモン書の聖句には、どんなものがありますか。モルモン書と聖書が「ともに」救い主のことを証する例として、どんな例を目にしましたか（第1項参照）。
- モロナイ 10：3－5にある約束がモルモン書の物理的な証拠より大切なものは、なぜだと思いますか（第2項参照）。この約束を試してみて、あなたはどんな経験をしましたか。
- モルモン書についての証を得るとどんな真理を知ることができるか考えながら、第3項を読んでください。モルモン書はそのような真理をどのように証しているのでしょうか。
- 「今日の社会に見られるような問題」をいくつか考えてください（第4項）。そのような問題の解決方法を見つけるうえで、モルモン書からどのような助けが得られるのでしょうか。あなたが試練に遭っているときに助けになったモルモン書の聖句には、どんなものがありますか。
- 第5項に出てくる話についてよく考えてください。モルモン書について誰かに聞かれたら、あなたはこの書物が自分の生活にどんな影響を与えてきたとすることができますか。

### 関連聖句

イザヤ 29：9－18；1 ニーフアイ 13：35－41；2 ニーフアイ 29：6－9；  
モロナイ 10：27－29；教義と聖約 20：8－12；42：12－13

### 学ぶ際のヒント

「聖文を読むことが強調されたことに感謝しています。聖文を読むことが義務ではなく楽しみとなり、皆さんが神の言葉を夢中になって読むようになることを望んでいます。聖文を読むにつれて、思いが照らされ、霊が高められることを約束します。最初は退屈かもしれませんが、神の御心を知り、御言葉を味わうにつれて、すばらしい経験となるでしょう。」（ゴードン・B・ヒンクレイ「内なる光」『聖徒の道』1995年7月号，107参照）

注

1. 「伝道地から持ち帰る贈り物」『リアホナ』2007年3月号, 22 参照
2. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 100 で引用
3. 「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい」『リアホナ』2007年5月号, 116 参照
4. “Inspirational Thoughts,” *Ensign*, 1998年7月号, 2
5. 「神が啓示された偉大な事柄」『リアホナ』2005年5月号, 82 参照
6. 「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号, 4 参照。モルモン書のタイトルページを引用
7. “Excerpts from Recent Addresses by President Gordon B. Hinckley,” *Ensign*, 1997年7月号, 72
8. 「主の預言者を信じなさい」『聖徒の道』1992年7月号, 56 参照
9. 「長き沈黙破りて出づ」『聖徒の道』1980年3月号, 8 参照
10. 「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号, 4 参照。モルモン書のタイトルページを引用
11. *Heroes from the Book of Mormon* (1995年), 198 で引用
12. 「モルモン経」『聖徒の道』1988年10月号, 6-7 参照
13. 「モルモン経」5-6 参照
14. 「信仰の4つの隅石」5 参照
15. 「モルモン経」6 参照
16. 「モルモン経」2-4 参照
17. 「モルモンとは『より良い』」『聖徒の道』1991年1月号, 59 参照
18. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2.: 2000-2004* (2005年), 402-403
19. 「モルモン経」7 参照



## 学ぶという大いなる道を 歩み続ける

「わたしたちは成長し続けなければなりません。  
絶えず学ばなければなりません。知識を増し加え  
続けることは、神から命じられたことだからです。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

「わたしは学ぶことが大好きです」と、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は述べている。「知識を得るどのような機会も楽しく感じます。実際、自分自身にとっても他の人々にとっても教育を追い求めるのは良いことであると生涯にわたって信じ、積極的に支持してきました。……わたしの考えでは、学ぶことは現実的なことであり、霊的なことでもあります。」<sup>1</sup>

ヒンクレー大管長とともに奉仕した教会の指導者は、知識を蓄えて自身の務めに生かす大管長の賜物たまものに驚嘆した。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように述べている。「読書によって、また人と接することによって、これほど物事に詳しくなれる人には出会ったことがありません。誰かと夕食をとともにすれば、帰るときにはその人の専門分野についてある程度の知識を得ているのです。」同じく十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は次のように言っている。「読んだことを記憶にとどめ、覚えておきたいことを選び出すという点において、ヒンクレー大管長は際立っています。知識を積み重ねて養った知性の持ち主であり、持っている知識を生かして賢明な決断ができる人です。」<sup>2</sup>

生涯を通じて学び、自分を高める努力を続けることに関して、ヒンクレー大管長は両親の模範に倣った。父親のブライアント・S・ヒンクレーが学ぶことに熱心であった様子を、大管長は次のように述べている。

「父は今のわたしくらいの年齢の頃にはすっかり第一線を退いていました。それでも物事に積極的でした。田舎いなかの幾分質素ながらも快適な家で暮らしていました。周りは果樹園で、果物を配るのが父の楽しみでした。家の庭には芝生と、灌木かんぼくや樹木がありました。段になっている所に 60 センチ



「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」（教義と聖約88：118）



ほどの高さの石垣があって、天気の良いときはいつも、父はその石垣に座っていました。夏の日差しを避けるために古い帽子をかぶっていました。父を訪ねたときには、わたしはよく父の傍らに腰を下ろしました。ほんの少し促すだけで、父は自分の人生について話してくれたものです。……

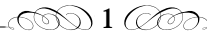
父は教育者でした。実業家としても成功を収めました。1万5千人以上の会員がいる、教会で最も大きなステークを管理しました。伝道部長や、他にもさまざまな立場で奉仕しました。そして今や引退し、石垣に座っているのです。父は大の読書家で、すばらしい蔵書を持っていました。優れた話し手であり、書き手でした。94歳の少し手前でこの世を去るまさに直前まで、父は本を読み、物を書き、得た知識について深く思い巡らしていました。

石垣に座って、暖かい日には何時間もの間、自分の蔵書から読んだことについて思い巡らしていたのです。

父は優雅に、すばらしい年齢の重ね方をしたと思います。貴い宝が収められた数々の本を持っていて、そこにはあらゆる時代の偉大な男女の思想が記されていました。父は学ぶことを決してやめず、石垣に座って、前の晩に読んだことについて深く考えていました。……

……わたしが皆さんに一人の老人と彼が座った石垣について話しているのはなぜでしょうか。それは、わたしたち一人一人に役立つ教訓があると思うからです。わたしたちは決して学ぶのをやめてはいけません。わたしたちは永遠の進歩を信じており、またこの人生は永遠の一部であって、最後の最後まで有意義に過ごすべきであると信じています。<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



主はわたしたちが個人として進歩し、社会に貢献できるように、修養を積むことを望んでおられる

皆さんは教育の大切さを教える教会に属しています。皆さんは自らの知性と心と技術を磨くよう主から命じられています。主はこのように言っておられます。「熱心に教えなさい。……天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識についても同様である。それは、……あなたがたが……あらゆる点で備えられるためである。」(教義と聖約 88 : 78 – 80)<sup>4</sup>

この教会の会員であるわたしたちは、主から驚くべき約束を受けています。主はこう言われました。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約 50 : 24)

何とすばらしい言葉でしょう。これはわたしの好きな聖句の一つです。この聖句には、成長と、進歩と、神の属性を身に付ける道を進むことが語られています。そしてこの聖句は、次の偉大な宣言と対を成すものです。「神の栄光は英知である。言い換えれば、光と真理である。」(教義と聖約 93 : 36)「もしある人が精励<sup>きた</sup>と従順によって、この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るならば、来るべき世でそれだけ有利になる。」(教義と聖約 130 : 19) ……

これらの驚くべき言葉に秘められたチャレンジは、何と深い意味を持っていることでしょう。わたしたちは成長し続けなければなりません。絶えず学ばなければなりません。知識を増し加え続けることは、神から命じられたことだからです。……

……主はわたしたちにこうっておられます。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。あなたがた自らを組織しなさい。……怠惰であるのをやめなさい。」(教義と聖約 88 : 118 – 119, 124)<sup>5</sup>

皆さんの選んだ分野がどのようなものであろうと、主は皆さんが自らの知性と技術を磨くように望んでおられます。冷蔵庫の修理であろうと、熟練を要する外科医の仕事であろうと、訓練を積まなければなりません。受けられる最良の学校教育を求めてください。皆さんを待ち受ける世にあって高潔な働き人となってください。……そのような訓練を受けた結果として、皆さんはこの教会に名誉をもたらし、多くの祝福を受けることになるでしょう。

教育が益になることに疑いの余地はまったくありません。人生を実り豊かにするための努力を避けて通らないでください。そうした努力を避けて通るなら、何度も何度もその付けを払うことになるでしょう。<sup>6</sup>

ただ生きているだけ、存在しているだけでは不十分です。わたしたち一人一人には、社会において価値あることを行うために自分自身を備える義務があります。ますます豊かに光を得て、わたしたち個人の光が暗い世界を照らす助けとなるようにしなければなりません。これは学ぶことによって、修養を積むことによって、知性と霊の両方において進歩し成長することによって可能になります。<sup>7</sup>



「子供たちを早くから書物に親しませてください。」

## 2

計画と自制によって、親は家庭に、学ぶのに適した雰囲気を作ることができる

若い知性が伸び、活気づいていくのを目にするのは、実に興味深いことです。わたしはテレビの持つすばらしい可能性を大いに認める者の一人ですが、同時に、人を啓発することも強めることもない番組を一部の家庭で子供たちが延々と見続け、時間をひどく浪費し好機を甚だしく逸していることを嘆く者でもあります。

わたしは子供の頃、大きな古い家に住んでいました。その中の一部屋は図書室と呼ばれ、丈夫なテーブルと美しいランプ、座り心地の良い椅子が3、4脚置いてありました。部屋は十分に明るく、壁には本棚が並んでいて、父と母が何年も掛けてそろえた本がぎっしりと詰まっていました。

読書を強制されたことは一度もありませんでしたが、いろいろな本がすぐ手の届く所にあり、好きなときにいつでも読めるようになっていたのです。

その部屋は静かで、そこが学びの場であることが分かりました。

教会機関誌や、それ以外にも有益な雑誌が2、3冊あった他、歴史書や文学書、さまざまな分野の専門書、辞書、百科事典、さらに世界地図がありました。当時はもちろんテレビはなく、やっとラジオが普及してきた時代でした。それでも環境が、すなわち学ぶ環境があったのです。博学だと思っ

てほしいわけではありませんが、わたしたちは偉大な文学や偉大な思想家

の偉大な考えに触れ、深遠な思いを美しく表現した人々の言葉に触れました。

今日、とても多くの家庭ではスペースに限りがあって、そのような図書室を設けることは困難だと思います。しかし工夫次第で、部屋の一角をそのような場に充てることができるでしょう。座って本を読み、考えにふけることのできる、周囲の騒音の届かない場所を設けることができるはずで、質素なものでよいのでテーブルや机を一つ用意して、その上に教会の標準聖典や何冊かの良書、教会発行の機関誌、その他のふさわしい書物を置いておくのはすばらしいことです。

子供たちを早くから書物に親しませてください。小さな子供に本を読んでもあげることができない母親は、子供に対しても自分自身に対しても大きな損失を招くこととなります。本を読んであげるには時間が必要であり、確かに、多くの時間を取られます。自制が必要です。その日の1分、1時間の管理ややりくりが必要になってきます。しかし、小さな子供がさまざまな人物や表現、考えを知るようになる様子を見れば、煩わしいなどとは決して思わないでしょう。子供は良書を読むことが大好きになり、長い目で見れば、子供が時間を費やす他のどの活動よりもはるかに豊かな実りをもたらすでしょう。……

親の皆さん、……子供を偉大な人物や気高い思想、永遠の真理、永遠に人を高め動機づけるものに親しませてください。……学ぶのに適した雰囲気や家庭を作り、それによって成長がもたらされるよう努力してください。<sup>8</sup>

---

### 3

---

#### 教育は青少年とヤングアダルトに機会という扉を開ける

現代は若人の皆さんにとってすばらしい機会にあふれた時代であり、皆さんはこの驚くべき時代に地上に生を受けています。皆さんは過去の全ての時代の頂点に立っています。かつて地上を歩んだ人たちが築き上げてきたありとあらゆる学問に触れることができ、それらは教科課程にまとめられていて、皆さんは過去何世紀にもわたって人々が苦労を重ねて学んできた知識を比較的短期間で習得することができます。自分自身を過小評価しないでください。皆さんのすばらしい機会を逃さないでください。機会を捉え、取り組み、熱心に学んでください。<sup>9</sup>

若い男性と若い女性の皆さんが可能な限りの教育を受けることは非常に大切です。……教育は皆さんにとって、機会という扉を開ける鍵です。犠牲を払う価値のあるもの、取り組む価値のあるものです。皆さんが知性と

技術の両方を磨くならば、属する社会に大いに貢献することができます。そして、皆さんが属するこの教会の評価を高めることができるでしょう。愛する若い兄弟姉妹の皆さん、受けられる教育の機会を全て活用してください。父親と母親の皆さん、息子や娘が教育を受けて人生で祝福にあずかれるよう励ましてください。<sup>10</sup>

皆さんには希望する学校教育の全てを受けるための資金がないかもしれません。できる限りのお金を教育に充てるとともに、奨学金や補助金、返済できる範囲内の融資をうまく利用してください。<sup>11</sup>

尊敬に値する職業である限り、皆さんが何になりたいと思ってもかまいません。自動車整備士、れんが職人、配管工、電気技師、医師、弁護士、商人。ただし泥棒はいけません。どのような職業であろうと、そのために訓練を受ける機会を捉えて最大限に生かしてください。皆さんが社会において受ける報いは、社会が皆さんにどのような価値を認めるかによって決まります。今は皆さん一人一人にとって大いなる備えの時期です。もし犠牲を払う必要があるなら、犠牲を払ってください。その犠牲は皆さんの行う最高の投資となるでしょう。生涯にわたって日々それから益を得ることになるからです。<sup>12</sup>

若い女性の皆さん一人一人に勧めます。受けられる限りの学校教育を受けてください。これから足を踏み入れる世のためにそれが必要になります。人生での競争は非常に激しくなっています。……世の中は変化しており、変化に取り残されないように自分自身を備えることがとても大切です。この変化する世の中には良い面もあります。人類の歴史を通じて、現在ほど女性に多くの機会が与えられている時代はありません。皆さんの第一の目標は、幸せな結婚をして、主の神殿で結び固めを受け、続いて立派な家族を築くことであるべきです。教育を受けることによって、これらの理想を実現するためのより良い準備ができます。<sup>13</sup>

教会においても地域社会においても、女性には、結婚生活と母という立場と、あるいは善良で立派な子供を育てる務めと、何の矛盾もなく調和した数々のすばらしい責任があります。<sup>14</sup>

人が行いたいと望む、ありとあらゆる事柄をなす道が今や女性にも開かれています。心を決めて全力で取り組みれば、できないことは何もありません。皆さんの将来なりたい理想の女性像の中に、社会にあって奉仕し、自分の属する分野ですばらしい貢献をする資質を備えた女性を加えることもできるのです。<sup>15</sup>

今日の女性に、科学や職業、その他人間の知るところのあらゆる分野について勉強する機会が〔男性と同様に〕与えられていることをうれしく思います。皆さんには男性と同じく、この世に来る全ての人を照らすキリストの御霊みたまを受ける権利があります（教義と聖約 84：46参照）。結婚と家族という観点から優先順位を決め、それと同時に教育プログラムも求めてください。教育は、結婚していない場合には満足のいく仕事や実り多い職業につながりますし、結婚した場合にも安心感と充足感をもたらしてくれます。<sup>16</sup>

〔若い男性の〕皆さんの前途には数々の大きな困難が待ち受けています。皆さんは激しい競争の世界に足を踏み入れようとしています。受けられる限りの教育を受けなければなりません。主は教育の大切さについて教えておられます。教育によってさらに大きな機会が開けます。教育は、行く手にすばらしい機会のある世にあって、何か価値あることを行うための備えとなります。もし大学に行くことができ、行きたいと望むのであれば、ぜひそうしてください。大学に行きたいという気持ちがないのであれば、専門学校やビジネススクールに通って技術を磨き、能力を高めてください。<sup>17</sup>

〔若人の〕皆さんが自分の得ている教育の機会を大きな祝福とみなすように願っています。地道な努力が求められることは分かっています。困難であることも分かっています。時には落胆することも知っています。自分は何故勉強しているのだらうと思う時があることも知っています。それでもめげずに努力し続け、学び続けてください。皆さんは一生後悔することなく、大きな祝福だと思ふことでしょう。<sup>18</sup>

---

## 4

---

### 霊の教育は知性の教育と同じように、さらにはそれ以上に大切である

わたしたちの時代に示されている知識の大いなる力に、わたしは畏敬の念を抱いています。かつてなかったほど多くの人が、世の学問を学んでいます。世界の若人の多くが毎日教師の下に集まって集中的な学校教育を受け、あらゆる時代の人類の知識を習得しています。これは何と大きな影響力があることでしょう。

その知識の範囲は驚くばかりです。宇宙の星、地球の地質、国々の歴史、さまざまな民族の文化や言語、政府の運営、商法、原子の動き、身体の機能、そして精神の不思議まで含まれています。

これほど多くの知識が得られるのであれば、世界は完全な状態に近いかもしれないと、人は思うでしょう。しかし、わたしたちはコインの裏側、

すなわち社会が患っている病、おびただしい数の人の人生に不幸をもたらしている争いや苦難について絶えず知らされています。

人生とは科学や数学以上のものであり、歴史や文学以上のものであるという事実を、日々ますます認識させられています。もう一つの教育が必要であり、それがなければこの世の学問の実体は滅亡につながるだけかもしれません。わたしが言っているのは、心の教育であり、良心の教育、人格の教育、霊の教育です。言葉では説明が難しい、わたしたちの個性のうちのこれらの側面こそが、わたしたちがどのような人物であって、互いの関係において何を行うかを確かに決定するのです。

……宣教師としてイングランドで奉仕していたとき、わたしはロンドン・セントラル YMCAに行きました。あの古い建物はもう随分前になくなったのではないかと思います。訪れる人をいつも玄関で出迎えた言葉を決して忘れません。それはソロモンの言葉でした。「あなたが何を成すにしても、悟りを得よ。」(箴言 4：7)

何についての悟りでしょうか。自分自身について、人生の目的について、わたしたちの御父であられる神とわたしたちの関係についての悟りであり、何世紀にもわたって人類が真の進歩を遂げる力の源泉となってきた、神から与えられた大いなる原則についての悟りです。……

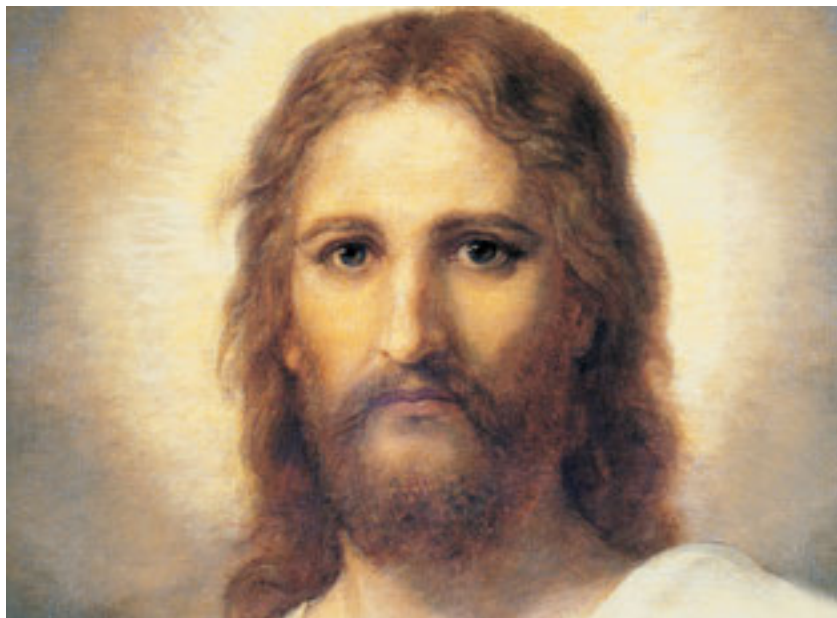
この世の学業に励むとき、御霊<sup>みたま</sup>による修養も生活に加えるようにしましょう。そうするならば、神はわたしたちを祝福し、神からのみもたらされる平安と祝福を授けてくださいます。<sup>19</sup>

イエスは次のように言っておられます。「わたしに学びなさい。……わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11：29 - 30)

神の御子が与えておられるこの指示に従うように勧めます。あらゆる学問とともに、主についても学びましょう。あらゆる研究とともに、主を知る知識を求めする必要があります。その知識はこの世の訓練をすばらしい方法で補って完全なものとし、他のいかなる方法でも得ることのできない人格と、人生における充実感を与えてくれることでしょう。<sup>20</sup>

霊の教育が知性の教育と同じように、さらにはそれ以上に大切であることを決して忘れないようにしてください。<sup>21</sup>

わたしたちのすばらしい教会教育プログラムは進展を続けています。セミナーとインスティテュートのプログラムを通じて生徒を教育する業は絶えず拡大しています。……このプログラムで学んだ皆さんは、その途方



「あらゆる研究とともに、主を知る知識を求めする必要があります。」

もなく大きな価値を御存じです。わたしたちはこのプログラムを利用できる全ての人がある機会を生かすように勧めます。そしてためらうことなく約束します。福音の知識が増し、信仰が強められ、ともに学ぶ仲間とすばらしい友情を築くことでしょ。<sup>22</sup>

主の名を受け、それから信仰をもって出て行って、人類の生活に影響を及ぼし、世に平和と喜びをもたらす事柄を、現実の問題との関連性を強調しながら伝えましょう。世は学識と影響力のある世代を必要としています。しかも、立ち上がって、神が生きておられ、イエスがキリストであられることを、曖昧な表現を用いることなく心から宣言できて、実際に宣言する男性や女性を必要としているのです。<sup>23</sup>

---

## 5

---

年齢が幾つになっても、知識を得、知恵を蓄え、成長し続けることができる

学問とは何とすばらしいものでしょう。その過程を通して、過去何世紀にもわたって蓄積された知識が要約され、フィルターにかけられてきたため、わたしたちは、当初は長い研究と試行錯誤を通してしか学べなかった事柄を短期間で学ぶことができるのです。



教育は、抽象的な知識が有用で生産的な活動に変わっていく、すばらしい変換の過程です。学ぶことに終わりはありません。年齢が幾つになっても、わたしたちは知識を得て、用いることができます。知恵を蓄えて、そこから益を得ることができます。読書や芸術の鑑賞という奇跡を通して楽しみを得、生きていることの祝福と充足感を増し加えることができます。わたしは年を重ねるにつれて、思慮に富んだ古今の作家の言葉と、彼らの書いた作品の味わいをますます楽しんでいきます。<sup>24</sup>

知識が十分な人は……誰一人いません。学ぶ過程は終わりのない過程です。わたしたちは読まなければならず、観察しなければならず、吸収しなければならず、心を開けるものについて深く考えなければなりません。……わたしは向上するべきであると信じています。成長するべきであると信じています。……

兄弟姉妹、皆さんが30歳であろうと70歳であろうと、成長し続けてください。そのように努力していると、望む以上に歳月は速く過ぎていくでしょう。しかし、その歳月は心地良いすばらしい活力にあふれ、その結果、人生は一層味わい深いものとなり、皆さんの教えには力が加わります。<sup>25</sup>

〔ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学〕のすぐ東側に山があります。これまでに〔多くの人が〕、その山を見上げて、「もし頂上まで登れたなら向こう側にある盆地が見えて面白いだろう」と思ってきたことでしょう。しかし実際に登った人は、その盆地がほんの小さな、かなり浅いくぼみにすぎず、その向こうにまだ登っていない、さらに高い山がたくさんあることを知るのです。

皆さんにも同様の発見があるよう願っています。……学ぶ経験はすばらしいもの〔となってきたかもしれません〕が、前途にさらにすばらしい機会や取り組みがいのある事柄があることを知るでしょう。情報の蓄えを増やし、知識を増し、学ぶという大なる道を歩み続けてください。<sup>26</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 教育によって「ますます豊かに光を得〔る〕」ことが大切なのは、なぜでしょうか（第1項参照）。個人として進歩するうえで、学ぶことはどのように役立つのでしょうか。わたしたちが「暗い世界を照らす」うえで、学ぶことはどのような助けとなるのでしょうか。

- ヒンクレー大管長の両親がどのようにして、学ぶのに適した雰囲気在家中に作ったかについて述べている、大管長の話を読んでください（第 2 項参照）。子供が学ぶのが好きになるよう、わたしたちはどのように助けることができるでしょうか。永遠に人を啓発し動機づけるものから学びたいという望みを子供が持てるよう、どのように助けることができるでしょうか。
- 教育はどのようにして青少年とヤングアダルトに「機会という扉を開ける」でしょうか（第 3 項参照）。青少年とヤングアダルトは、教育の機会を捉えるうえで必要となる事柄にどうすればうまく対処できるでしょうか。
- 「霊の教育」という言葉の意味を、あなたならどのように説明しますか（第 4 項参照）。心と人格と霊を、わたしたちはどのような方法で教育できるでしょうか。あなたの人生において、霊的な学びとこの世の学問はどのようにして互いを補ってきたでしょうか。
- なぜ生涯にわたって学び続けるべきなのでしょう（第 5 項参照）。どうすれば生涯にわたって向学心を持ち続けることができるでしょうか。最近学んだことで特に役立っていることは何ですか。

### 関連聖句

箴言 1 : 5 ; 2 ペテロ 1 : 1 - 8 ; 2 ニーファイ 9 : 28 - 29 ; 28 : 29 - 30 ; 教義と聖約 6 : 7 ; 90 : 15 ; 131 : 6 ; 136 : 32 - 33

### 教える際のヒント

ヒンクレー大管長の教えについての話し合いを促す一つのアイデアは、参加者にその章の個人学習で学んだことを話してもらうことです（その他のアイデアについては本書の vi - vii ページを参照してください）。

### 注

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Standing for Something: Ten Neglected Virtues That Will Heal Our Hearts and Homes</i> (2000 年), 59</li> <li>2. シェリー・L・デュー, <i>Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley</i> (1996 年), 449 - 450 で引用</li> <li>3. <i>Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995-1999</i> (2005 年), 406 - 407</li> <li>4. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001 年 4 月号, 34 参照</li> <li>5. 「独身成人との語らい」『聖徒の道』1997 年 11 月号, 22 参照</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 「若人への預言者の勧告と祈り」35 - 36 参照</li> <li>7. <i>Standing for Something</i>, 67</li> <li>8. 「家庭の環境」『聖徒の道』1985 年 10 月号, 2 - 3 参照</li> <li>9. <i>Teachings of Gordon B. Hinckley</i> (1997 年), 171 - 172</li> <li>10. 「靈感を伝える言葉」『リアホナ』1999 年 6 月号, 4 - 5 参照</li> <li>11. 「気高い道にとどまる」『リアホナ』2004 年 5 月号, 113</li> <li>12. <i>Teachings of Gordon B. Hinckley</i>, 172-173</li> </ol> |
|--|--|

13. 「誠意を尽くし、忠誠を守る」『聖徒の道』  
1996年7月号, 107 参照
14. "Youth Is the Season," *New Era*, 1988年9月号, 47
15. 「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 115 参照
16. 「教会の女性の皆さんへ」『リアホナ』1986年1月号, 88 参照
17. 「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』  
1997年7月号, 60 参照
18. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 370
19. "With All Thy Getting Get Understanding,"  
*Ensign*, 1988年8月号, 2, 5
20. "With All Thy Getting Get Understanding,"  
5
21. "President Hinckley Visits New Zealand, Australia, and Mexico," *Ensign*, 1997年8月号, 77
22. 「信仰がもたらす奇跡」『聖徒の道』1984年7月号, 88 参照
23. "With All Thy Getting Get Understanding,"  
5
24. 「私は信じる」『聖徒の道』1993年3月号, 4 参照
25. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 298-299
26. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 299



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「徳を隅石とし、そこに人生を築いてください」と勧告した。



## 徳——人生を築く基となる隅石

「皆さんは一人一人が、神である天の御父の子供です。御父の計画に従って創造主の形に造られています。皆さんの体は神聖なものです。霊の宮なのです。罪で汚してはいけません。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

2007年、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はブリガム・ヤング大学で学生に次のように述べた。

「先日、とても興味深いものを見ました。ソルトレーク・シティーで、土曜日の早朝、爆薬を上手に配置した一連の爆破によってキーバンク銀行の建物が取り壊されました。全ては3、4秒の出来事で、おびただしい粉じんが巻き上がって北西へと流れて行きました。爆破解体と呼ばれるこのプロセスでは、建物は周囲に吹き飛ばすことなく、自らを押し潰すように敷地内で崩れ落ちます。

その建物は30年近く前に建てられたものでした。建設には少なくとも1年、おそらく2年を要したのではないのでしょうか。それが数秒で崩れ去ってしまいました。

わたしの友である皆さん、これと同様のことが、実に多くの人たちの人生で起こっています。わたしたちは何年も掛けて入念に人生を築きます。やがて、緊迫した状況に直面し、過ちを犯します。純潔に関して妥協してしまうのです。人生は崩れ落ち、粉じんだけが残ります。

わたしの執務室にやって来たある若い男女のことを思ったとき、このことを連想しました。ハンサムな男性と、美しい女性でした。二人は大学生でした。将来は明るくすばらしいものに思われました。しかし、誘惑に屈してしまったのです。……

わたしと話す二人の目には涙があふれていました。それでも、直面している現実から逃れることはできません。人生が崩れ落ち、数々の夢が失われてしまったのです。

皆さんにこのようなことがあってはなりません。徳高くあるという決意を曲げて、自分をないがしろにははいけません。皆さんは一人一人が、神である天の御父の子供です。御父の計画に従って創造主の形に造られています。皆さんの体は神聖なものです。霊の宮なのです。罪で汚してはいけません。

さて、崩壊したあの建物の話に戻ると、その場所には新たに立派な建物が建つことでしょう。同じように、戒めに背いた人は贖い主である救い主イエス・キリストに頼ることができ、主の贖罪の力によって清くされ、再び新たな者にさせていただくことができます。』<sup>1</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 徳高い生活は驚くべき素晴らしい祝福をもたらす

徳高くあることほどこの世で偉大なことはありません。徳は色あせることなく輝き、貴く美しいものです。値段のつけようがありません。買うことも売ることもできないほど貴重なものです。自制心の実りなのです。

……主は素晴らしい戒めを与えて、こう言われました。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。」(教義と聖約 121:45) この戒めは熱心に自制心をもって守らなければなりません。この戒めには驚くべき素晴らしい祝福が約束されています。徳高く生活する人に主はこう言っておられるのです。

「そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、……

聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの<sup>しやく</sup>筋は義と真理の不変の筋となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(教義と聖約 121:45 - 46)

これより偉大で美しい約束があるでしょうか。<sup>2</sup>

徳を守るべき確かな理由はあるでしょうか。徳高くあることは、後悔せずに生きるための唯一の道です。徳がもたらす良心の安らぎは、個人の心に宿る偽りのない唯一の平安です。

そしてその全てに加えて、神は徳高く歩む人に揺るぎない約束を与えてくださっています。ナザレのイエスは山上で語ったとき、次のように宣言されました。「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るである

う。」(マタイ5:8) これは、約束を果たす力を持つ御方が立てられた聖約です。<sup>3</sup>

人格を磨き、心の平安を得、幸福な人生を送る方法として、経験と神の知恵の両方が、徳と道徳的な清さを求めています。そのことを認めるべきであり、認めなければなりません。<sup>4</sup>

徳を隅石とし、そこに人生を築いてください。<sup>5</sup>

## 2

### 世の汚れと不道徳から遠く離れるとき、幸福と 安心と心の平安をより一層味わう

世の中を見渡してみると、道徳は捨て去られてしまったように思われます。古い標準に反する行いが一般的になっています。昔ながらの原則が廃れてきているという調査結果が次々と出ています。自制を忘れ、性的不道徳を欲しいままにする風潮が蔓延しています。

しかし、愛する友である皆さん、わたしたちは世の中で一般的になっている事柄を受け入れるわけにはいきません。この教会の会員として、皆さんにはより高い標準があり、より多くが求められています。皆さんの標準は、シナイからの声のように、あなたは快樂にふけてはならないと告げています。欲求をコントロールしなければなりません。<sup>6</sup>

コリントの聖徒に宛てたパウロの言葉は、書き送った相手にとって妥当であったのと同じように、今日のわたしたちにも当てはまります。パウロはこう言っています。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)<sup>7</sup>

また、パウロはテモテにこう勧告しています。「自分をきよく守りなさい。」(1テモテ5:22)

これらは簡潔な言葉です。しかしとても重要な教えです。パウロは要するに、皆さんを霊的に墮落させ、破滅させるものから遠ざかるように言っているのです。汚れた思いや汚い言葉を誘発するテレビ番組を遠ざけてください。邪悪な思いを誘発するビデオを遠ざけてください。何の役にも立ちません。皆さんを傷つけるだけです。言葉や描写が低俗でみだらな本や雑誌を遠ざけてください。清くあってください。<sup>8</sup>



純潔は「幸福な生活への道」である。

男性と女性の結婚は神が定められたものです。神は子供が結婚という制度の下でこの世に誕生するように計画されました。したがって、他のいかなる状況における性的な関係も、律法への背きであり、イエス・キリストの福音の教えに真っ向から対立するものです。<sup>9</sup>

わたしたちは結婚前の純潔と結婚後の完全な貞節を守るべきであると信じています。要約するとそういうことになります。それは幸福な生活への道です。また満足感への道でもあります。心に安らぎを、家庭に平安をもたらします。<sup>10</sup>

家族と家庭が道徳と誠実さ、互いへの尊敬の念という基の上に築かれなければ、どのような家族も平安を得ることはできず、誰の人生も逆境の嵐を免れることはできません。信頼のないところに平安はなく、忠誠のないところに自由はあり得ません。温かい光を放つ愛の太陽は、不道徳の沼地からは昇らないのです。<sup>11</sup>

子供が喜びのうちに迎えられ、養われ、愛される家庭、そして父親と母親がいて、互いに誠実であり、子供に対しても誠実である家庭、そのような家庭に生まれる祝福を全ての子供が享受すべきだとわたしは信じています。……世の策略に毅然とした姿勢を示してください。娯楽を作り出す人々、文学作品の多くを提供する人々は、異なることを皆さんに信じさせようとするでしょう。しかし、何世紀にもわたって積み上げられた知恵は、明確に、疑いの余地なく述べているのです。結婚前は時に裏打ちされた徳の標準に



従って歩み、結婚後は夫婦間の完全な忠誠を守る人だけが、より豊かな幸福、より大きな安心、より穏やかな心の平安、より深い愛を味わえるのだと。<sup>12</sup>

わたしたちは、汚れと不道徳と問題が山積する世界に暮らしています。そこから遠く離れ、確固として立ち、世のものを顧みることなく、主が望まれるように歩んでください。<sup>13</sup>

### 3

#### ポルノグラフィーは依存性があり破壊的な力を持つが、 わたしたちはそれから遠く離れていることができる

不本意ながら以前に採り上げたテーマで話します。わたしはこの話をアルマの次の言葉に込められた精神で話します。「神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである。」(アルマ 29:9)

……わたしはあらゆる形のポルノグラフィーについて話します。ポルノグラフィーに関わることは……邪悪な行為です。福音の精神、神に関わる事柄についての個人的な証……とまったく矛盾した行為です。……

……これに関わる人は誰もが犠牲者となります。子供は食べ物にされ、人生に深い傷を負います。若者は誤った考え方により心にひずみが生じます。ポルノグラフィーに関わり続けると、断ち切ることがほとんど不可能な中毒状態になります。実に多くの人が、目を向けずにはいられなくなります。この下品で低俗なものを追い求めて袋小路に迷い込み、エネルギーと関心をことごとく奪われます。

「避けがたい」「いとも簡単に見られるので逃れようがない」というのが言い訳です。

嵐が荒れ狂い、風がうなりを上げ、猛吹雪が皆さんを襲っているとします。嵐を静めることはできないでしょう。しかし、きちんと着込み、避難所に逃げ込むことはでき、そうすれば嵐の影響を受けることはありません。

同様に、インターネットに下品なものがたくさんあっても、見る必要はないのです。清さ、徳、清い生活について教える福音という避難所に逃げ込めばよいのです。

わたしは今、率直かつ明瞭に話しています。このような話し方をするのは、DVD、ビデオ、テレビ、雑誌販売店に加えて、インターネットにより、ポルノグラフィーが以前にも増して入手しやすくなっているからです。ポルノグラフィーは、自尊心を打ち砕くような空想、不義な関係、しばしば病氣、そして虐待を伴う犯罪の引き金となります。<sup>14</sup>

皆さんは恐ろしい誘惑の世界に住んでいます。低俗で卑猥<sup>ひわい</sup>なポルノグラフィは、恐ろしい津波のように全世界に押し寄せています。ポルノグラフィは毒です。見たり読んだりしないでください。見たり読んだりすると、滅ぼされてしまいます。ポルノグラフィは皆さんから自尊心を奪い、人生の美しい面を感じ取る心を奪います。皆さんを墮落させ、邪悪な思いと、そしておそらく邪悪な行いの泥沼へと引き込んでしまうのです。ポルノグラフィから遠ざかってください。恐ろしい病気を避けるように避けてください。同じように死に至らせるものだからです。思いと行いにおいて徳高くあってください。<sup>15</sup>

この世には汚れと情欲とポルノグラフィがあふれています。わたしたちは末日聖徒として、そうしたものから遠く離れ、確固として立つ必要があります。そうしたものに身を任すわけにはいきません。身を任すわけにはいかないのです。皆さんの心から遠ざけてください。たばこと同じように依存性があり、弄ぶ者<sup>もてあそ</sup>を破滅へと導きます。「絶えず徳であなたの思いを飾るように」してください〔教義と聖約 121：45〕。<sup>16</sup>

#### 4

#### 自制と努力によって思いと行いをコントロールすることができる

思いにおいて清くあってください。そうすれば肉体のコントロールはもっと容易になります。昔の言葉にも、人となりはその心に思うそのままであるからだ、とあります。汚れた思いは汚れた行いにつながります。<sup>17</sup>

わたしたちは誘惑に遭ったとき、邪悪な思いの代わりに〔救い主〕や主の教えを思い浮かべることができます。主はこう言っておられます。「また、あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、あなたがたの中に暗さが無いであろう。そして、光に満たされるその体はすべてのことを悟る。

それゆえ、あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように、自らを聖<sup>きよ</sup>めなさい。そうすれば、あなたがたが神を見る日が来る。神はあなたがたにその顔を現すからである。」(教義と聖約 88：67－68)<sup>18</sup>

イエスは、行いだけではなく思いもコントロールしなければならないという戒めを与えておられます。「だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫<sup>かんいん</sup>をしたのである。」(マタイ 5：28) ……

肉体的欲求や肉の欲望に勝って思いをコントロールしなければなりません。思いが、啓示された真理と完全に調和するようになると、行いもそれに伴って正しくなります。……わたしたち一人一人には、自制と努力によっ

て、思いと行いをコントロールする能力が備わっています。この力を働かせることは、霊的、肉体的、情緒的に成熟する過程の一部なのです。……

あらゆる所にいる人々に切に願います。創造主の教えに従って生活し、肉欲を引き付ける誘惑を退けてください。そうしたものは多くの場合、悲劇を招き、道徳的な背罪を伴います。<sup>19</sup>

## 5

不道徳な行いに関与した人は赦しを得て過去を乗り越えることができる

わたしは否定的になりたくはありません。根が楽観的ですから。しかし、こういった〔ポルノグラフィや不道徳の〕問題になると、現実的になります。もしこのような行為に関わっているなら、今こそ変わる時です。今この瞬間に決意してください。向きを変え、より良い生き方をしてください。<sup>20</sup>

もし周囲の圧力に屈していることに気づいたなら、自らを律してください。手遅れになる前に立ち止まってください。皆さんはそこで立ち止まったことを永遠に感謝するでしょう。

自分に誠実であって、自分の秘めている可能性を最大限に発揮してください。<sup>21</sup>

はっきりと言っておきたいのですが、たとえ過ちを犯したとしても、何らかの不道徳な行いがあったとしても、全てを失うわけではありません。過ちの記憶は残るでしょうが、悔い改めることによって行為そのものは赦され、過去を乗り越えて主に完全に受け入れていただける生活を送ることができるのです。主は皆さんの罪を赦し、もうそれを思い起こさないで約束されました（教義と聖約 58：42参照）。

……困難な状況にあるときには……教会の指導者が助けてくれます。皆さんは自分が関与した悪事を全て捨て去ることができます。新たな希望を持ち、受け入れられる状態で、はるかにすばらしい生活へと進むことができるのです。<sup>22</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ヒンクレイ大管長は「徳を守るべき確かな理由」があると教えています（第1項）。徳を守るべき確かな理由などないと主張する人に、あなたならどのように答えますか。

- 純潔が「幸福な生活への道」であるのはなぜでしょうか。どうして純潔は「心に安らぎを、家庭に平安を」もたらずのでしょうか（第1項および第2項参照）。
- 「わたしたちは末日聖徒として、〔ポルノグラフィー〕から遠く離れ、確固として立つ必要があります」とヒンクレー大管長は言っています（第3項）。ポルノグラフィーから遠く離れるためにどのようなことができるでしょうか。他の人がポルノグラフィーから遠く離れることができるように、どのような助けができるでしょうか。確固として立つとはどのような意味だと思いますか。
- 第4項にあるヒンクレー大管長の勧告を読むと、思いをコントロールすることについてどのようなことが学べるでしょうか。思いを清く保つためにどのようなことが実践できるでしょうか。

### 関連聖句

詩篇 24：3－4；マタイ 5：27－28；ピリピ 4：6－8；モルモン書ヤコブ 3：2；教義と聖約 46：31－33；59：6；信仰箇条 1：13

### 学ぶ際のヒント

読みながら、「一つの節の中にある複数の概念を区別できるように、語句に傍線や印を付けておきます。……学んでいる聖句の余白に、その意味を説明している参照聖句の箇所を書いておきます。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』22－23）

### 注

1. “True to the Faith” (ブリガム・ヤング大学ディボーションナル, 2007年9月18日) 2－3, speeches.byu.edu
2. 「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 114－115 参照
3. “Words of the Prophet: Blessed Are the Pure in Heart,” *New Era*, 1999年7月号, 4
4. 「敬虔さと道徳心」『聖徒の道』1987年7月号, 52 参照
5. Conference Report, 1964年10月, 118
6. 「気高い道にとどまる」『リアホナ』2004年5月号, 114 参照
7. 「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号, 4 参照
8. 「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号, 59 参照
9. 「真理を守り」『聖徒の道』1996年9月号, 6 参照
10. 「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 58 参照
11. 「平和と自由を求めて」『聖徒の道』1990年9月号, 5 参照
12. 「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号, 111 参照
13. 「靈感を伝える言葉」『リアホナ』2007年2月号, 5 参照
14. 「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号, 59－61 参照
15. 「神殿, 改宗者の定着, 伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号, 60 参照
16. 「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1997年10月号, 14 参照

17. 「わたしは清く、汚れがありません」『聖徒の道』  
1996年7月号, 57 参照
18. 「悲劇をもたらす悪」62 参照
19. 「敬虔さと道徳心」51 参照
20. 「悲劇をもたらす悪」62 参照
21. 「誠意を尽くし、忠誠を守る」『聖徒の道』  
1996年7月号, 107 参照
22. 「理想の女性となるには」114 参照



大管長会，1995年。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（中央），第一顧問トーマス・S・モンソン管長（左），第二顧問ジェームズ・E・ファウスト管長（右）



# イエス・キリストの教会の神権指導者

「主はこの業を見守っておられます。  
この教会は神の王国です。わたしたちは  
羊飼いのいない羊のようではなく、  
指揮官のいない軍隊のようでもありません。」

## ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように回想している。「わたしが教会で受けた初めての責任、初めての職は、執事定員会を管理する少年の顧問でした。尊敬するビショップがわたしを呼び、この召しについて話してくれました。わたしは非常に感動しましたが、不安であり、心配でした。信じられないかもしれませんが、わたしはどちらかといえば生来恥ずかしがり屋で引込み思案な少年でした。自分の年齢と経験を考えると、執事定員会の顧問として働くこの召しがとても気がかりでした。現在の責任についても、自分の年齢と経験を考えると、同じように感じます。」<sup>1</sup>

ヒンクレー大管長は 1961 年、十二使徒定員会の会員として奉仕するように召されたときにも同様の気持ちを抱いた。使徒として語った最初の総大会での話の中で、次のように述べている。

「主を受け入れようとしないうる世界を前にして主イエス・キリストの証人として立つこの責任に、少し重圧感を覚えています。『主イエスの愛にただ驚[いて]』います。主の預言者から寄せられた信頼と、この中央幹部の兄弟たちが示してくれた愛に恐縮しています。……わたしは力を求めて祈ります。助けを求めて祈ります。信仰と従う意思を求めて祈ります。」<sup>2</sup>

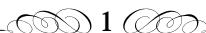
1995 年 4 月 1 日、ヒンクレー大管長は預言者および大管長として初めて教会員から支持を受けた後、総大会の神権部会で話をした。それまでの 14 年間、他の 3 人の大管長の顧問を務め、彼らが神から召されていることを繰り返し証し<sup>あかし</sup>、彼らの勧告に従うよう末日聖徒に勧めてきた。今や自分自身がその立場となったわけであるが、主を頼りとする気持ちは、執事のときや新たに使徒に召されたときから薄らいでいなかった。むしろ、主

の力に支えていただく必要のあることをさらに自覚するようになっていた。ヒンクレー大管長は次のように述べている。

「今朝の聖会における皆さんの挙手は、皆さんの兄弟であり僕であるわたしを信頼と信仰と祈りによって支持するという、皆さんの自発的な意思と望みの表明となりました。わたしはその表明に心から感謝しています。皆さん一人一人に感謝しています。皆さんも既に御存じのように、主が定められた方法にあっては、人が役職を望むということはありません。主は弟子たちに、『あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた』と言われました（ヨハネ 15：16）。この職は求めるものではありません。選ぶ権利は主にあるのです。主は命と死の主であります。人を召す権限は主にあります。取り上げる権限も、とどめる権限も主にあります。全て主の御手の中にあるのです。

わたしは主の偉大な計画においてなぜ自分のような者に重要な務めが与えられるのか分かりません。しかし、この責任を受けた今、力や時間、才能、あるいは命であろうと、自分の持つもの全てを新たな気持ちで主の業にささげ、兄弟姉妹のために務めたいと思っています。再度申し上げます。……皆さんから今日頂いた支持の挙手に感謝します。わたしが切に祈るのは、ふさわしくなるようにということです。皆さんが祈るとき、わたしのことを思い起こしていただけたらと思います。」<sup>3</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



### 主はそれぞれの大管長を、試み、精錬し、磨きあげた後に召される

わたしは……ヒーバー・J・グラント大管長以降代々の大管長とともに働いてきました。……これらの大管長の在任期間、全員の顧問たちと親しくしてきましたし、十二使徒評議会とも親しくしてきました。彼らは皆、人間です。人間的な特性を持ち、おそらく人としての弱さも多少持っていたと思います。しかし彼ら一人一人の生活には、そうした人としての特性や弱さの全てを超越して余りある、圧倒されるほどの神の靈感の示しがありました。大管長を務めてきた人たちは、真の意味で預言者でした。わたしは彼らに啓示の霊が注がれるのをこの目で見てきました。彼らはそれぞれ、十二使徒評議会の会員として、また他の職にあって長年にわたって数々の経験をした後、大管長会に入りました。主はそれぞれに落胆と失敗を理解させ、病と、また時には深い悲しみを経験させて、一人一人を精錬し、磨



いてられました。その全てが大いなる精練の過程の一部となりました。そして、その過程が彼らの人生にすばらしい影響を及ぼしたことをはっきりと見て取ることができます。

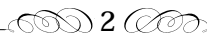
福音における愛する友である皆さん、これは神の業です。この教会は神の教会であり、神の愛される御子の教会であって、御子の御名を冠する教会です。神は偽り者がその教会の頭として立つのを決してお許しになりません。神は御自分の預言者を指名し、彼らに靈感と導きをお与えになるのです。<sup>4</sup>

大管長がほとんどの場合高齢であることに懸念を示す人たちがいますが、わたしはそれに対して、「何という祝福でしょう！」と答えます。……大管長が若々しくある必要はありません。大管長はもっと若い人たちを世界中に送って奉仕の業を進めており、今後もそのように行うことでしょう。大管長は管理大祭司であり、聖なる神権の全ての鍵を持つ人であり、神から神の民に伝えられる啓示の声となる人です。……

わたしは次のことを知っており、心にととも深い安心感があります。すなわち、……わたしたちの大管長となる人は、鍛えられ、訓練され、試練と試みを受けてきた人であり、御業に対する忠実さと大義における誠実さは奉仕という炉で鍛えあげられ、信仰は成熟しており、長い年月を掛けて神に近づいてきた人であることでしょう。<sup>5</sup>

この末日にわたしたちを導く預言者がいることへの感謝の気持ちをもって……申し上げます。主から召され、油を注がれた預言者に忠実であってください。確固として預言者を支持し、その教えに注意を払ってください。かつてわたしは、……預言者がいれば、わたしたちは全てを持っていることになる、と言ったことがあります。預言者がいなければ、何も持っていません。わたしたちには預言者がいます。この教会の設立以来、預言者を頂いてきました。わたしたちが預言者を頂くにふさわしい生活をする限り、預言者が取り上げられることはありません。

主はこの業を見守っておられます。この教会は神の王国です。わたしたちは羊飼いのいない羊のようではなく、指揮官のいない軍隊のようでもありません。<sup>6</sup>



## 大管長が死去すると、前任使徒が次の大管長となる

わたしは〔新しい大管長へ〕権能が継承される過程にこれまで何度も関わってきましたが、その明快さは見事です。その方法は、主が物事をど

のように進められるかを示しています。主の手順に従い、ある人が預言者によって、十二使徒評議会の会員となるように選ばれます。その人はこれを職業として選ぶではありません。イエスの時代の使徒と同じように、召されるのです。主は使徒に、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた」と言われました（ヨハネ 15：16）。歳月が流れ、その人はその職に伴う務めを果たしながら訓練され、鍛えられます。世界中を旅して、使徒の召しを果たします。それは長い備えの過程です。その間にあらゆる地の末日聖徒と知り合い、聖徒たちもその人のことを知るようになります。主はその人の心と本質を試されます。自然の成り行きとして、その評議会に空席が生じます。そして、新たな指名が行われます。この過程で、特定の人が先任使徒になります。彼と同僚の兄弟たちには、それぞれ聖任のときに授けられた神権の全ての鍵が内在しています。しかし、それらの鍵を行使する権限は大管長に限られているのです。〔預言者が〕死去すると、先任使徒がこの権限を行使できるようになります。それから十二使徒評議会の会員たちによって、預言者および大管長として指名され、任命され、聖任されるのです。

選挙運動はありませんし、宣伝活動もありません。ただ神の計画が静かに、明快な方法で進められて、靈感を受け、試しを乗り越えてきた指導者が与えられます。

わたしはこのすばらしい過程を自分の目で見えてきた証人です。〔預言者を選ばれる〕のが主であることを証<sup>あかし</sup>します。<sup>7</sup>

〔ハワード・W・〕ハンター大管長の死去に伴い、大管長会は解散しました。顧問を務めてきたモンソン兄弟とわたしは、教会の管理機関となった十二使徒定員会の会員という立場になりました。

……生存する聖任された使徒が全員、断食と祈りの精神をもって、神殿の階上の部屋に集まりました。わたしたちはそこでもに神聖な賛美歌を歌い、祈りをささげました。そして、主の晩餐<sup>ばんさん</sup>の聖餐を受け、その神聖かつ象徴的なしるしによって、聖なる贖い主<sup>あがな</sup>である御方との聖約と関係を新たにしました。

その後、過去何代にもわたって確立されてきた慣行に従い、大管長会が再組織されました。

そこには役職を巡る選挙運動も論争も野心もありませんでした。静かで、平穏で、明快で、神聖なものでした。主御自身が定められた規範に従って行われました。<sup>8</sup>

### 3

#### 主は大管長が職務を十分に果たせない場合に御自分の 教会を管理するための原則と手続きを定めておられる

ヒンクレー大管長は1992年、大管長会の第一顧問を務めていたときに次のように述べている。この教会の頭は主イエス・キリストです。これは主の教会なのです。しかし、地上での指導者はわたしたちの預言者です。預言者は神聖な召しを授けられた人です。その召しは神から来るものですが、預言者は人間であって、死すべき状態に伴うさまざまな問題を免れません。

わたしたちは現在の預言者、エズラ・タフト・ベンソン大管長を愛し、敬い、尊び、頼りとしています。大管長は偉大かつ有能な指導者であり、この業について証するその声は世界中に響き渡ってきました。ベンソン大管長は今日この地上で全ての神権の鍵を持っています。しかし、高齢となり、以前のように多くのことができなくなっています。それによって預言者としての召しの重要性が損なわれるわけではありません。ただ、肉体的な活動が制限されるということです。<sup>9</sup>

ヒンクレー大管長は1994年、大管長会の第一顧問を務めていたときに次のように述べている。教会全体の人々が当然ながら大管長の様子を知りたがっています。ベンソン大管長は今、94歳です。……高齢と病気のために大変弱っていて、その神聖な職に関わる重要な責任を果たすことができいません。このような状況は、前例のないことはありません。この世の生涯を終える前の数か月、あるいは数年間、病気になったり職務を十分に果たせなかったりした大管長は他にもいます。今後も起こり得ることです。

主が御自分の教会を管理するために定められた原則と手続きには、そのような状況に対して規定が設けられています。大管長が病気であったり職務を十分に果たせなかったりするとき、教会の諸事やプログラムをつかさどる際に靈感や啓示を受ける権利を含め、教会の管理と預言者としての賜物の行使に関して、疑いや懸念が存在しないようにすることは重要です。

大管長会と十二使徒評議会は、神権の鍵を持つ者として召され聖任されていて、教会を治め、儀式を執行し、教義を説き明かし、慣行を確立し維持する権能と責任を受けています。使徒に聖任され、十二使徒評議会の会員として支持される人は皆、預言者、聖見者、啓示者として支持されます。前任者たちと同じように、ベンソン大管長は大管長として召されたとき、先任使徒でした。顧問は十二使徒評議会から選ばれました。ですから、大管長会の定員会と十二使徒評議会の全ての現職会員は、聖なる使徒職に関わる鍵と権利と権能を授かっています。



十二使徒定員会，1965年。腰掛けている使徒（左から右へ）：エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン（椅子の肘掛けに腰掛けている），ジョセフ・フィールディング・スミス（定員会会長），リグランド・リチャーズ。立っている使徒（左から右へ）：ゴードン・B・ヒンクレー，デルバート・L・ステイプレー，トーマス・S・モンソン，スペンサー・W・キンボール，ハロルド・B・リー，マリオン・G・ロムニー，リチャード・L・エバンズ，ハワード・W・ハンター

教義と聖約の言葉を引用します。

「メルキゼデク神権を持つ者の中から，この団体によって選ばれ，その職に指名され，聖任され，また教会員の信頼と信仰と祈りによって支持された三人の管理大祭司が，教会の大管長会の定員会を構成する。」（教義と聖約 107：22）

大管長が病気のときや，その職に関わる全ての責任を十分に果たせない場合，二人の顧問が大管長会の定員会を構成し，大管長会の日々の業務を遂行します。例外的な状況において，一人しか職務を果たせない場合には，教義と聖約第 102 章 10 節から 11 節に定められているとおり，その人が大管長会の職の権能を行使することがあります。……

……大管長会の顧問は……この職に関わる通常の業務を遂行します。しかし，方針，手続き，プログラム，または教義に関する主要な問題については，大管長会と十二使徒会と一緒に，慎重に祈りをもって検討します。これら二つの定員会，すなわち大管長会の定員会と十二使徒定員会是一緒

に集会を持ち、全員が自由に意見を述べて、主要な問題を一つ一つ検討します。

ここで再び主の言葉を引用します。「これらいずれの定員会が下す決議も皆、その定員会の全会一致の声によってなされなければならない。すなわち、彼らの決議を互いに同等の力すなわち効力のあるものとするために、各定員会のすべての会員がその決議に同意しなければならない。」(教義と聖約107:27) ……

……主の聖なる名を冠するこの教会の頭はイエス・キリストであられることを、全ての人に理解してほしいと思います。主はこの教会を見守り、導いておられます。天の御父の右に立ち、この業を指揮しておられます。主は御自身の方法によって人々を気高く神聖な職に召し、また天の家に呼び戻すことによって御心のままに彼らを解任する、特権と力と選択権を持っておられます。主は命と死の主であられます。現在わたしたちが置かれている状況について、わたしは心配していません。わたしはこの状況を主の御心の表れとして受け入れています。また、幹部の兄弟たちとともに、奉獻の精神と愛、謙遜、義務感、忠誠心をもって、この聖なる業を前進させるために行えることを全て行うという責任を引き受けています。<sup>10</sup>

#### 4

### 使徒は全世界におけるキリストの名の特別な証人である

聖なる使徒職に聖任され、十二使徒評議会の会員として任命された後、〔使徒たちは〕何よりもまず奉仕の業に自らをささげるよう期待されます。全世界におけるキリストの名の特別な証人として立つ責任を、他のあらゆる考慮すべき事柄以上に、生活で第一とします。……

わたしたち全員と同じように、彼らも人間です。長所もあれば弱点もあります。しかしこれから残りの生涯の間、忠実である限り、彼らの最大の関心事は地上における神の業を推し進めることとなるに違いありません。教会の内外を問わず、御父の子供たちの福利を気遣うに違いありません。悲しむ人を慰め、弱い人を力づけ、ひるむ人を励まし、友のいない人の友になり、生活に困っている人を養い、病人を祝福するために、そして神の御子であり、友であり主であって、自分たちが僕として仕える御方について、信じていることとしてではなく確かに知っていることとして証を述べるために、行えることを全て行うに違いありません。……

……わたしは彼らの兄弟愛と、献身と、信仰と、勤勉さと、神の王国を推し進めるための驚くばかりの奉仕について証します。<sup>11</sup>

---

 5
 

---

### 大管長会と十二使徒会は決定を下す前に啓示と完全な一致を求める

大管長会と十二使徒会の審議によるいかなる決定も、全会一致の同意なくしては下されません。検討を始める段階では、意見の相違が見られることもあります。それは予想されることです。この人々は異なる背景を持ち、自分の考えを持っています。しかし、最終決定が下される前に、全員が心から一致し、同じ意見に到達します。

主の啓示された言葉に従うならば、このとおりになります〔教義と聖約107：27，30－31参照〕。……

……わたしは十二使徒評議会の一員として奉仕し……，また大管長会で奉仕してきましたが、これを守らずに主要な決議がなされたことは一度もありません。……それぞれが思いを述べるといふまさにこの過程を通して、考えや意見が精査され、選別されます。しかし、わたしは教会幹部の中に深刻な不一致や個人的な敵意を見たことは一度もありません。むしろ、導きを与える聖なる御霊みたまの影響力の下で、また啓示の力の下で、異なる意見が一つとなり、ついには完全に調和し全員が同意するという、美しくすばらしい光景を見てきました。……

このように述べることのできる管理機関を、わたしは他に知りません。<sup>12</sup>

---

 6
 

---

### ステーキ会長は靈感によって召され、ビショップの助言者および人々の指導者として奉仕する

ステーキ会長は、ワードのビショップと教会の中央幹部の間に立つよう啓示によって召される役員です。非常に大切な責任です。ステーキ会長は中央幹部から訓練を受け、次にビショップを訓練します。……

ステーキ会長は、ビショップの助言者を務めます。全てのビショップは、難しい問題に対処するときに、重荷をともに負い、助言してくれる人がいづもいることを知っています。

ステーキ会長は、主の宮に参入する人のふさわしさを判断する際に、第2の安全装置となります。……同様に、ステーキ会長は、教会の代表者として伝道地に赴任する人のふさわしさを判断する際にも、第2の「ふるい」になります。会長も候補者と面接して、ふさわしいと確信したときにだけ推薦状に署名します。また、伝道に召された人を任命し、奉仕を終えたときに解任する権能を授かっています。

最も重要なことですが、ステーキ会長はステーキの宗紀に関する役員の大長です。……ステーキ会長は、ステーキ内で教えられる教義が純粋で汚れなく保たれるよう見守るといふ非常に重い責任を負っています。偽りの教義や間違っただ行いが入り込まないように見守るのは、ステーキ会長の義務です。メルキゼデク神権者や他の人に教義にそぐわない言動があった場合、一部の状況においては、ステーキ会長はその人に勧告を与え、それでもその行いが続くなら、処置を取らなければなりません。その人を宗紀評議会に召喚します。宗紀評議会では、保護観察期間を課す、正会員資格を剥奪する、あるいは教会から破門することがあります。

これは何より厄介で喜ばしくない仕事ですが、ステーキ会長は敢然と公平に対処しなければなりません。この全てを御霊の導きに従い、教義と聖約第102章に定められているとおりに行います。

その後、宗紀上の処置を受けた人に働き掛け、ふさわしいときに連れ戻すために、行えることを全て行わなければなりません。

ステーキ会長にはこの全てと、他にも多くの責任があります。ですから、ステーキ会長は人々の前で模範的な生活をしなければなりません。……

……わたしたちはステーキ会長をこのように信頼していますので、地元の会員の皆さんは中央幹部に助言や祝福を求めないようにしてください。ステーキ会長は、中央幹部が召されたときと同じ靈感の下で召されているのです。<sup>13</sup>

## 7

### ビショップは群れの羊飼いである

この〔教会〕は確かに大きくなり、会員数も増えていくことでしょう。この福音はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に伝えられるに違いありません。近い将来に、決して停滞や挫折なく、世界中で発展し、前進し、シオンが築かれ広められるのです。しかし、このような状況にあっても、全ての会員と賢明で思いやりに満ちたビショップや支部会長との間には、引き続き羊と羊飼のような親しい関係がなければなりません。ビショップや支部会長は群れの羊飼いであり、比較的少数の人々の世話をすることで、誰も忘れられたり、見落とされたり、ないがしろにされたりすることのないようにする責任があります。イエスは苦しむ人に一人ずつ手を差し伸べ、個人的な祝福を授けた、まことの羊飼いでられました。<sup>14</sup>

教会のビショップは……真の意味でイスラエルの羊飼いです。〔教会の〕全ての会員は、ビショップまたは支部会長に対して報告する責任がありま

す。ビショップと支部会長の担う重荷は途方もなく大きいものです。全ての教会員の皆さんにお勧めします。ビショップや支部会長の重荷を軽減するために行えることを全て行ってください。

ビショップや支部会長のために祈らなければなりません。彼らの担う荷は重く、助けが必要だからです。わたしたちはもっと協力的になり、あまり依存しないようすることができます。可能な限りあらゆる方法で手助けし、わたしたちのために行ってくれる全てのことに感謝することができます。わたしたちが課す重荷によって、ビショップや支部会長はそのうちに疲れ切ってしまうでしょう。

……全ての〔ビショップ〕は預言と啓示の霊によって召され、<sup>あんしゅ</sup>按手により任命され、聖任され、ワードの長の職の鍵を持っています。どのビショップも大祭司であり、ワードの管理大祭司であって、管理人の職に伴う非常に大きな責任を負っており、会員にとって父親のような存在です。

誰もその奉仕に対して金銭を受けません。ビショップとしての働きに対して教会から報酬を受けるワードのビショップは一人もいません。

今日のビショップの条件は、パウロの時代と同じです。パウロはテモテに次のように書いています〔1 テモテ 3：2－6参照〕。……

さらにパウロは、テトスへの手紙の中で次のように述べています。「監督〔ビショップ〕たる者は、神に仕える者として、責められる点がなく、……

<sup>おしえ</sup>教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。」(テトス 1：7, 9)

これらの言葉は、今日の末日聖徒イエス・キリスト教会のビショップを的確に言い表しています。<sup>15</sup>

教会員の皆さんに強くお勧めします。皆さんがどこにしようと、問題に直面したときには、まず自分で解決するように努めてください。問題について考え、可能な選択肢を検討し、それらについて祈り、主の指示を仰いでください。もし自分で解決できなければ、そのときはビショップまたは支部会長に相談してください。ビショップや支部会長は神の人であり、群れの羊飼いとして聖なる神権の権能の下で召されています。<sup>16</sup>



## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- わたしたちに生ける預言者が必要なのはなぜでしょうか。大管長を備え、召すために主が用いられる「精錬の過程」について、印象に残ったことは何ですか（第1項参照）。
- 新しい大管長が選ばれる方法に関するヒンクレー大管長の説明を読んで、どのように感じますか（第2項参照）。「靈感を受け、試しを乗り越えてきた指導者」を与える「神の計画」に従って大管長が選ばれるということを知っておくことが大切なのはなぜでしょうか。
- 大管長が全ての義務を十分に果たせない場合に、教会の管理に対して、主はどのような原則と手続きを設けておられるでしょうか（第3項参照）。
- 末日の使徒は「教会の内外を問わず」御父の全ての子供たちに対する気遣いをどのように示しているでしょうか（第4項参照）。最近の大会の説教では、この気遣いがどのように示されているでしょうか。あなたは生ける預言者と使徒の教えからどのような恩恵を受けてきたでしょうか。
- 大管長会と十二使徒定員会が決定を下す方法について、ヒンクレー大管長の教えを研究してください（第5項参照）。彼らが決定を下す方法から、どのようなことが学べるでしょうか。これらの原則を、家庭や教会でどのように応用できるでしょうか。
- 第6項と第7項を読んで、ステーキ会長とビショップの召しについてどのようなことが学べるでしょうか。どうすれば教会の指導者をもっとよく支持できるでしょうか。

### 関連聖句

エペソ 2：19－20；4：11－14；教義と聖約 1：38；21：1－6；アブラハム 3：22－23；信仰箇条 1：5－6

### 教える際のヒント

「レッスンの最後だけでなく、御霊みたまに促されたときはいつでも証あかしをする。また、生徒にも証を述べる機会を与える。」（『教師、その大いなる召し』45）

注

1. 「助言者が多ければ安全である」『聖徒の道』1991年1月号, 55 参照
2. Conference Report, 1961年10月, 115 - 116。「主イエスの愛に」『賛美歌』109 番を引用
3. 「人のためのみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 58 参照
4. 「互いを強める」『聖徒の道』1985年6月号, 4 参照
5. 「主はまどろみも眠ることもされない」『聖徒の道』1983年7月号, 10 - 11 参照
6. 「主の預言者を信じなさい」『聖徒の道』1992年7月号, 60 参照
7. 「幸福への招き」『聖徒の道』1986年7月号, 49 参照
8. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 74 参照
9. 「教会は正しい方向に進んでいます」『聖徒の道』1993年1月号, 62 参照
10. 「神がかじを取っておられます」『聖徒の道』1994年7月号, 59 - 61 参照
11. 「キリストの特別な証し人」『聖徒の道』1984年7月号, 91 - 92, 94 参照
12. 「神がかじを取っておられます」60 参照
13. 「ステーキ会長」『リアホナ』2000年7月号, 61 - 62 参照
14. 「人のためのみ業」60 参照
15. 「イスラエルの羊飼い」『リアホナ』2003年11月号, 60 参照
16. 「福音に従って生きるように」『聖徒の道』1985年1月号, 84 - 85 参照



## この教会の会員でない人々との友情

「どの宗教を信じているか、どこに住んでいるかに関わりなく、善を求める男女に手を差し伸べて助けましょう。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、1994年11月に宗教指導者の会議で話をし、次のように述べている。

「わたしたちが説く教義上の信条はさまざまです。神学上の相違点があることを認めながらも、わたしたちは自分たちが住む世界と社会に悪や問題があることに等しく気づいています。また、公にも個人の生活でも特質を結束して守るという大いなる責任と機会があることにも気づいています。それらの特質は、徳や道徳と呼ばれるものであり、神の子供である全ての男女に敬意を払うことであり、丁寧に礼儀正しい姿勢で対人関係を築くことであり、神が社会の基本単位として定められた家族を維持することです。

……わたしたちは皆、貧しい人を支援したい、悩んでいる人を励ましたい、原因が何であれ困難や苦しみの中にいる全ての人に慰めと希望と助けを与えたいという望みを心に抱いています。

社会の傷を癒やし、現代の悲観主義を楽観主義と信仰に置き換える必要があることを認識しています。わたしたちは批判や非難をし合ってはならないことを認識しなければなりません。わたしたちの影響力を用いて、怒りの声と悪意ある論争を静めなければなりません。

……わたしたちの強さは選ぶ自由にあります。わたしたちの多様性そのものにさえ強さがあります。しかし、人種や国籍などの違いにかかわらず神の全ての息子と娘の生活を高め祝福するために働くようにという、わたしたちそれぞれに神から与えられている命令の中にもっと大いなる強さがあるのです。……

主が祝福してくださり、わたしたちの心から、またわたしたちの社会から、憎悪、偏見、人種差別、その他不和を招く言動を取り除くために一つになって働くことができますように。中傷、人種的侮辱、悪態、悪意に満ちた陰口、



ヒンクレー大管長は、この教会の会員でない人々とともに「地域社会の良い活動」に参加するよう教会員に勧めた。

卑劣で不快なうわさの拡散がわたしたちの間に入る余地があってはなりません。

神がわたしたち皆を祝福してくださり、神から来る平安がありますように。神が祝福してくださり、感謝の心を持ち、また互いに敬意を払って一緒に交わることを決意できますように。そして、一致協力して、わたしたちが恵まれて住んでいる地域社会に幸いをもたらすことができますように。」<sup>1</sup>

このメッセージを述べた1年後に、ヒンクレ大管長は、一般社会のリーダーのグループに話をする機会があった。30人ほどの少人数ではあったが、広範囲に及ぶ影響力を持つグループ、すなわち、合衆国の主要な報道機関を代表する社長たちや編集長たち、プロデューサーたち、リポーターたちである。「和やかで、時にはユーモアを交えた話し合いの雰囲気」の中で、ヒンクレ大管長は「この教会の世界規模の活動を概説し、伝道、人道支援、教育活動について話してから、質問に応じることになりました。……ヒンクレ大管長は一つ一つの質問に率直に答えました。ためらいやぎこちなさはみじんも感じられませんでした。」出席した人々は大管長の率直さにいささか驚いた。それでも、ヒンクレ大管長は、神聖な神殿儀式についてだけは詳しく話せないと答え、「他のことについては何でもお話しします」と述べた。

質疑応答が行われていたある時点で、「シックスティ・ミニッツ (60 Minutes)」というテレビ番組のシニアリポーターを務めるマイク・ウォレス氏が、ヒンクレ大管長について特別企画を組みたいと述べた。すると、ヒンクレ大管長は一瞬沈黙した後、こう答えた。「ありがとうございます。お受けします。」<sup>2</sup>

後にヒンクレ大管長は、厳しいリポーターとして評判のマイク・ウォレス氏からインタビューを受けることについて多少心配したことを認めている。そして、心配しながらもインタビューに応じたのはなぜか、その理由を次のように述べた。

「わたしたちの文化やメッセージの肯定的な部分を多くの人々に知っていただく良い機会になると考えました。そして、ただ何もしないでうずくまっているよりは、これを好機と捉え、たとえ激しい風を受けても前向きに進んでみようとの結論を下したのです。」<sup>3</sup>

広範囲にわたるインタビューでは、次のような会話が交わされた。

ウォレス氏：「モルモンでない人々のことをどのように見ておられますか。」

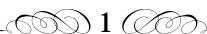
ヒンクレー大管長：「愛し尊敬しています。わたしにはモルモンでない友人が大勢います。わたしは彼らを尊敬しています。本当にすばらしい方々です。」

ウォレス氏：「彼らがまだ実際には光を見ていなくてもですか。」

ヒンクレー大管長：「そうです。この教会の会員でない方々に対して、わたしたちは皆さんがお持ちの徳と善の全てをよく認識していると申し上げたいと思います。それを携えておいください。そして、わたしたちがそれにさらに加えることができるかどうかを見ていただきたいと思います。」<sup>4</sup>

こうしてインタビューが終わる頃には、ヒンクレー大管長とマイク・ウォレス氏は友達になっていたのである。ヒンクレー大管長は「心温かく、思慮深く、上品で、楽観的な指導者」であり、「万人から称賛を受けていると言っても間違いではないふさわしい人物」であると、ウォレス氏は述べた。<sup>5</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



全ての人が神の子供であるということ覚えていれば、周りの人を高め、助けるためにもっと手を差し伸べるようになる

わたしたちは多様性に富んだ世界に住んでいるということを決して忘れてはなりません。地上の人は全て御父の子供であり、多くのさまざまな宗派に属しています。わたしたちは寛容と感謝の精神を育み、尊敬し合わなければなりません。<sup>6</sup>

いかなる地においても、異なるグループ間で争う必要など決してないのです。わたしたちは皆永遠の父なる神の子供であり、親子のきずながあるように、兄弟姉妹のきずなを保つことが可能であり、保たなければならないということ、家庭で教えるようにしましょう。<sup>7</sup>

わたしたちは神聖な受け継ぎを得ていること、現実に神が自分の御父であられ、人が兄弟姉妹であることをいつも心に留めているならば、もう少し寛大で、もう少し思いやり深く、もう少し手を差し伸べて、わたしたちの中にいる人々を高め、助け、支えるようになります。わたしたちに明らかに似つかわしくない行為をあまりしなくなります。わたしたちは神の子供であり、神を愛しています。それをもっと行動で表しましょう。<sup>8</sup>

---

 2
 

---

## この教会の会員でない人々に敬意と感謝と友情を示さなければならない

「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」(信仰箇条 1 : 11)

この教会の教義に従って神を礼拝するということを信じると同時に、傲慢、独善、横柄になることなく、他の人々に彼らが望むままに礼拝する特権を認めること、それは何と重要なことでしょうか。世界の争いの多くは宗教間の対立から生じます。喜ばしいことに、わたしはカトリックの友人たちと膝を交えて話ができ、またプロテスタントの友人たちとも膝を交えて話ができると申し上げることができます。わたしは彼らを擁護し、この教会が行ってきたように、またこれからも行い続けるように、この世で彼らを擁護します。<sup>9</sup>

あらゆる地に住む教会員をお願いします。この教会の会員でない人々に敬意を払い、感謝の念をもって接するようにしてください。信条や人生観が異なる人々の間では、礼儀正しく、敬意を払い合うことが大いに必要とされます。民族的な優越主義を唱える偏狭な人間になってはいけません。わたしたちは多様な世界に住んでいます。わたしたちは自分たちと異なる教えを信じている人々に敬意を払うことができますし、そうしなければなりません。偏狭な考えの犠牲になるおそれがある他の人々の権利を進んで擁護しなければなりません。

1843年にジョセフ・スミスが語った次の意義深い言葉に留意してほしいと思います。

「もしこれまで『モルモン』のために進んで命を差し出すことが証明されてきたとするなら、わたしは自分が長老派、バプテスト、あるいは他の宗派の善良な人の権利を守るためにも同じように命を差し出す用意ができていることを、天の前にあえて宣言します。末日聖徒の権利を踏みにじる考え方は、ローマカトリックや他の宗派の権利をも踏みにじるものです。」(History of the Church, 第5巻, 498)<sup>10</sup>

わたしたちは排他的であってはなりません。決して聖人ぶった態度をとってはなりません。独善的であってはなりません。寛大であり、心を開き、友好的でなければなりません。わたしたちは信仰を保つことができます。自分の宗教を実践することができます。他の人々の反感を買うことなく、

自らの礼拝方法を大事にすることができます。わたしはこの機会を借りてお願いしたいと思います。他の宗派の人々に寛容と隣人愛の精神、友情と愛の精神を持つようにしてください。<sup>11</sup>

教義の違いについて話すときに、不愉快な態度を見せてはなりません。辛辣な態度に出ることなどはもっての外です。ただし、啓示を通して授けられた、また鍵と権能を持つ古代の人々から直接授けられた知識を放棄したり、その知識に妥協を加えたりすることは決してありません。この業が世の救い主が設けられた回復の業であることを決して忘れないようにしましょう。……

わたしたちは他の宗派を尊重できますし、尊重しなければなりません。他の宗派の方々が成し遂げる偉大な善行を認めなければなりません。この教会の会員でない方々に対して寛容で友好的であるように教会の子供たちに教えなければなりません。<sup>12</sup>

わたしたちは他の教会を傷つけるようなことはしません。他の教会を困らせるようなことはしません。他の教会と言い争いません。他の教会と議論しません。他の宗派に属する人々や信仰を持っていない人々にこう言うだけです。「あなたが持っておられる真理を携えておいでください。そうすれば、わたしたちがそれにさらに加えることができるかどうかをお見せしましょう。」<sup>13</sup>

---

### 3

---

#### この教会の教義に妥協を加えることなく、他の人々と協力して良い活動に携わることができる

わたしたちはさまざまな活動において他の宗派の方々とともに働くことができますし、現に働いています。その活動とは、わたしたち全員にとって非常に重要なものとして大切にされてきた価値観を脅かす社会の悪に対する永続的な戦いです。彼らはわたしたちとは信条を異にしていますが、わたしたちの友人、隣人であり、さまざまな活動における協力者です。わたしたちは彼らの活動に喜んで協力します。

しかし、これを全て行いながらも、教義の妥協はありません。わたしたちにとって妥協は必要のないことであり、あってはならないことです。しかし、一緒に働くときにある程度の連帯感があります。<sup>14</sup>

わたしたちは慈善の特質を身につけるべきこと、また全ての人に善を行うべきことを信じるということを忘れないようにしましょう。わたしは確信しています。わたしたちは子供たちがこの教会の教義を信じない人と親





「わたしたちの思いやりある行為は、わたしたちが信じている事柄を伝える最も説得力のある手段になる可能性があります。」

しく交流し、優しく接するときには信仰を失うのではないかと恐れる必要がないほど、子供たちに十分効果的に教えることができます。……地域社会の良い活動に参加しましょう。重大な道德問題が関連していて原則を曲げることはできないという状況があるかもしれません。しかしそのような場合でも、不快感を与えることなく丁寧に反対を表明できます。わたしたちが受け入れられない見解を持つ人々に対しても、その人の誠実さを認めることができます。人柄ではなく原則について話すことができます。

地域社会の環境を整え、地域の全ての人に祝福をもたらすことを意図する活動には、行動を起こし、支援をしましょう。……

……皆さんの責任の下にある人たちに、良い市民になることの大切さを教えてください。静かに論理的に語る声は騒々しくがなり立てる反論の声よりも説得力があるということに留意しながら、公の審議に参加するよう彼らに勧めてください。このような責任を引き受けると、教会員は、地域社会とその家族、教会に祝福をもたらすことになります。<sup>15</sup>

決して悪の軍勢に屈してはなりません。わたしたちはこの教会が組織されて以来擁護してきた標準を維持することができますし、維持しなければなりません。世の方法よりも良い方法があります。独力で擁護することがその方法であるのなら、わたしたちはそうしなければなりません。

しかし、わたしたちは独りではありません。周囲に見る悪を悲しむ人が世界中に何百万もいると、わたしは確信しています。この人々は、徳高くあり、善に満ち、心を高める行いを大切にします。彼らも、維持し育てべきそれらの価値観を守るため、声を上げ、力を注いでくださることでしょ。<sup>16</sup>

善の軍勢のために祈りましょう。どの宗教を信じているか、どこに住んでいるかに関わりなく、善を求める男女に手を差し伸べて助けましょう。自国であれ外国であれ、悪には断固たる態度で立ち向かいましょう。……わたしたちは皆、この世において善なる影響を及ぼすことができます。<sup>17</sup>

#### 4

### 愛と敬意と思いやりをもって人に接するとき、イエス・キリストのまことの弟子であることを示すことになる

わたしたちは教会に特有の使命を果たすとき、この最後の、最終的な神権時代に言葉を発せられた、よみがえりの主からの命令の下に働きます。この業は、主の比類ない驚くべき業です。わたしたちは主について証<sup>あかし</sup>します。しかし、傲慢な態度や独善的な態度でそうしてはなりません。

ペテロが述べたように、わたしたちは選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民なのです。なぜでしょうか。「それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、〔わたしたち〕が語り伝える」ためです（1 ペテロ 2：9）。……

……自分にしてほしいことを人に行うという黄金律を守って、キリストのまことの弟子になりましょう。この教会の会員でない方々に思いやりを示しながら、わたしたち自身の信仰と子供たちの信仰を深めましょう。愛と敬意はあらゆる敵意を消し去ります。わたしたちの思いやりある行為は、わたしたちが信じている事柄を伝える最も説得力のある手段になる可能性があります。<sup>18</sup>

この教会の会員でない人々に手を差し伸べる態度を示して、彼らを助け、励まし、優しく思いやりをもって友好関係に導くようにしてください。そうするときに、教会のすばらしいプログラムへの参加を促すことができますでしょう。

エドウィン・マーカムの詩にこうあります。

「彼は円を描いてわたしを締め出した—  
異端者、謀反人、<sup>あざけ</sup>嘲りの対象者として。  
しかし、愛とわたしには勝利する理性があった—  
円を描いて彼を受け入れたのだ。」<sup>19</sup>

〔自分の宗教を〕自慢したり、いかなる点でも傲慢になつたりしてはならないことは言うまでもありません。そのような態度は、わたしたちが従うように努めるべきキリストの御霊みたまを否定するものです。穏やかで謙虚な生活を送るときに、その御霊は心と精神に働き掛けます。

わたしたちは皆、その洗練された物腰のゆえに見習いたくなるような人物に会ったことがあると思います。そのような人は、言葉に出さなくても、自分の言動に取り入れている福音のすばらしさを模範によって伝えています。

わたしたちはもっと静かな声で話すことができます。悪に対して善で報いることができます。怒りたいときにほほえむことができます。克己心と自制心を働かせて、わたしたちに対する嘲りや侮辱を意に介さないでいることもできます。<sup>20</sup>

わたしたちは本当に理解しているでしょうか。自分が持っているもののとてつもない重要性を理解しているでしょうか。これは何世代もの人の総和であり、あらゆる人間の経験を締めくくる最終章です。

だからといって、わたしたちが他の人々よりも優れているというわけではありません。むしろ、謙遜にならなければなりません。「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」と教えられた救い主の精神で（マタイ 19：19）あらゆる人に思いやりをもって手を差し伸べるといふ、弁解の余地のない責任が与えられているのです。独善を捨て、つまらない自己中心主義を克服しなければなりません。……

この時代のわたしたちは、既に過ぎ去った全世代の最後の刈り入れです。この教会の会員として知られるだけでは不十分です。厳粛な義務びんしゆくが課せられているのです。その義務を受け入れ、果たしましょう。

わたしたちは全ての人に慈愛を示すことによりキリストに真に従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主から告げられた広範囲にわたる奉仕の業を果たさなければなりません。<sup>21</sup>

ユタ州ソルトレーク・シティにあるカンファレンスセンターの奉獻の祈りから：あなたの教会に属するわたしたちが、人々を温かくもてなし、礼儀正しくいられますように。わたしたちが守っていることで知られている標準と習慣を維持し、他の人々に「彼らがどのように、どこで、何を」礼拝しようともその特権を認めることができますように〔信仰箇条 1：11〕。わたしたちが全ての人に良い隣人として手を差し伸べ、助け手となるよう祝福してください。苦難に遭っている人々の手を上げ、弱くなった

ひびを強めることができますように〔教義と聖約 81：5参照〕。わたしたち全員が、互いに対する感謝と敬意の念をもって、ともに平安に暮らすことができますように。<sup>22</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 人との関係を築くのに、わたしたちは皆神の子供であることを覚えておくことが助けになるのは、なぜでしょうか（第1項参照）。どうすれば他の人に対してもっと深い感謝と敬意の気持ちを抱けるようになるでしょうか。人に感謝と敬意を示すことを子供たちに教えるには、どうすればよいでしょうか。
- この教会の会員でない人との関係についてのヒンクレー大管長の勧告を復習してください（第2項参照）。人との関係において自分が傲慢な態度や独善的な態度を見せていないか、どうすれば分かるのでしょうか。どうすれば信条を異にする人にもっと友情と愛を示せるのでしょうか。
- 教会員が他の人々と協力して良い活動に携わることは、なぜ重要なのでしょうか（第3項参照）。このような活動の例として、どのようなものがあるのでしょうか。どうすれば地域社会にもっと良い影響を及ぼせるようになるのでしょうか。
- 第4項のヒンクレー大管長の教えから、弟子となることについて何を学べるのでしょうか。どのような経験から、愛と敬意が敵意を消し去ることが分かりましたか。他の人々に対する行為が「わたしたちが信じている事柄を伝える最も説得力のある手段」であるのは、なぜでしょうか。人に手を差し伸べることができる具体的な方法を幾つか考えてみてください。

### 関連聖句

マタイ 7：12；ルカ 9：49－50；ヨハネ 13：34－35；1ヨハネ 4：7－8；教義と聖約 1：30；123：12－14；信仰箇条 1：13

### 学ぶ際のヒント

「福音を理解することによって喜びを感じると、学んだことを応用したいと思うようになります。理解していることと一致した生活をするよう努力してください。そうすることによって、あなたの信仰と知識と証は強められることでしょう。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』19）

## 注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 663 – 664
2. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年) 537 – 538 で引用
3. 「主よ、あなたのすべての教会員を……思い起こしてください」『聖徒の道』1996年7月号, 95 – 96
4. 「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 60 – 61 参照
5. マイク・ウォレスの言葉。ゴードン・B・ヒンクレイ, *Standing for Something: Ten Neglected Virtues That Will Heal Our Hearts and Homes* (2000年), viiiで引用
6. 「御業は前進する」『リアホナ』1999年7月号, 5 参照
7. 「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」『聖徒の道』1996年6月号, 7 参照
8. “Messages of Inspiration from President Hinckley,” *Church News*, 1996年10月5日付, 2
9. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000–2004* (2005年), 417
10. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76 参照。『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(2007年), 345も参照
11. “Remarks at Pioneer Day Commemoration Concert,” *Ensign*, 2001年10月号, 70
12. 「わたしたちは主について証する」『聖徒の道』1998年7月号, 4 参照
13. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2*, 350
14. 「わたしたちは主について証する」4 参照
15. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 131
16. 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20 参照
17. 「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号, 86 参照
18. 「わたしたちは主について証する」4 – 5 参照
19. 「若人への4つの提言」『聖徒の道』1982年4月号, 69 参照。エドウィン・マーカム, “Outwitted”, ヘーゼル・フェレマン選, *The Best Loved Poems of the American People* (1936年), 67 で引用
20. 「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号, 99 – 100 参照
21. 「明るい夜明けだ」『リアホナ』2004年5月号, 83 – 84 参照
22. カンファレンスセンターの奉献の祈り, 「この偉大な千年紀の始めの年に」『リアホナ』2001年1月号, 84 参照



「伝道活動で世の人々に手を差し伸べ、耳を傾ける全ての人に福音の回復について教えましょう。」



## 伝道活動という末日の奇跡

「この業に対する熱意と宣教師を助けたいという強い望みを持つ大規模な軍勢になってください。宣教師は……きわめて大きな責任を負っています。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

若い男性の頃のゴードン・B・ヒンクレーは、神権者として忠実であったが、専任宣教師として奉仕するように召されることは予期していなかった。「世界の歴史上最悪の経済不況の時代でした」と、ヒンクレー大管長は後に語っている。「[ソルトレーク・シティーにおける]失業率はおよそ35パーセントでした。そして、失業者のほとんどは夫や父親でした。社会に出て働く女性が比較的少数だったからです。当時、伝道に出る宣教師はごく僅か……でした。……わたしは学士号を取得しており、何とかして大学院に進みたいと思っていました。そのときに、わたしにとって衝撃的な提案とも言える話を持って、ビショップがやって来たのです。伝道に出る話でした。」<sup>1</sup>

ゴードンはビショップの「衝撃的な提案」を受け入れ、1933年にで奉仕するように召された。その年に召された宣教師はイングランドに僅か525人であり、その一人になったのである。<sup>2</sup>伝道中に多くの試練に遭ったが、その奉仕が彼の信仰を確固たるものにした。

「伝道地での伝道は楽ではありませんでした。困難や落胆を伴うものでした。しかし、実にすばらしい経験でした。振り返ってみれば、イギリスに渡ったときのわたしはおそらく身勝手な若者だったと思います。それが、利己的な関心事を脇に置いて、主の業に貢献するようになったのですから、何という祝福でしょう。……」

わたしはその伝道を経験できたことに心から感謝しています。少人数ながら人々の人生に触れることができましたし、その人たちは長年にわたって感謝を述べてくれました。わたしにとって大きな価値のあることです。それでもわたしは、自分のバプテスマ数や他の宣教師のバプテスマ数をあまり気にしたことはありません。自分は主から望まれたことを行

い、また主の目的を達成するために主の御手に使われる者になったという確信があったので、それで満足でした。それを経験しながら、これはまさしく神の真実かつ現実の業であるという確信と知識がわたしの心にしっかりと根付いたのです。この業は、これを受け入れ、原則に従って生活する全ての人を祝福するために、預言者を通して回復されました。」<sup>3</sup>

ヒンクレー大管長の伝道は、生涯にわたって主の業に献身する第一歩となったのである。ヒンクレー大管長は、大管長を務めた期間中に、160万キロ以上を旅して70か国以上を訪れ、イエス・キリストと回復された福音について証を述べた。<sup>4</sup>

ヒンクレー大管長は、自分とともに福音を宣べ伝えるようしばしば教会員に求め、在任中に40万人以上の専任宣教師がその呼びかけに応じた。そして、彼らの奉仕と教会員伝道の働きによって、その間に350万人を超える改宗者がバプテスマを受けている。<sup>5</sup>

ヒンクレー大管長は常に楽天的であり、主の業がどれほど発展を続けるかについて広大なビジョンを述べている。

「わたしたちが前進を続け、目標から決して目をそらさず、人を悪く言わず、真実であると知っている偉大な原則に従って生活するならば、この大義は威厳と力をもって進み続け、やがて地を満たすことでしょう。福音を宣べ伝える業に対して今は閉ざされている扉が、やがて開かれることでしょう。」<sup>6</sup>

「将来に対するわたしたちの希望は大きく、信仰は強固です。わたしたちは、これから先の時代に起こることのほんの一部を経験しているにすぎないことを知っています。……前進するに当たってわたしたちの責任はきわめて大きいですが、機会は洋々たるものです。」<sup>7</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 伝道活動で世の人に手を差し伸べ、耳を傾ける 全ての人を教えなければならない

わたしたちはあらゆる国民、部族、国語の民、民族に福音を伝えるように神から命じられています。主イエス・キリストの御名によって教え、バプテスマを施す責任があります。復活された主はこう言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」〔マルコ16：15〕わたしたちは真理と善のために、大いなるかつ激烈な改革運動に携わっています。<sup>8</sup>



この教会が組織される前にも、伝道活動は行われました。そのとき以来、聖徒は度々苦難を経験してきましたが、それでも伝道活動は続きました。わたしたちは皆、全地の御父の息子、娘の不死不滅と永遠の命をもたらすという天の御父の栄えある業の一助となるために、新たな機会を受け入れ、新たな責任感を抱き、新たな義務を引き受ける決意をしましょう。<sup>9</sup>

わたしたちは末日聖徒として、この教会の会員でない人々に手を差し伸べましょう。決して傲慢な心や聖人ぶった態度で行動することのないようにしましょう。むしろ、愛と敬意と好意を示すことができますように。わたしたちはひどく誤解されています。わたしは、その原因の多くがわたしたち自身の行いによるものでないかと危惧しています。わたしたちはこれまでよりもっと寛容で、もっと親切で、もっと友好的で、もっと模範的になることができます。友情と敬意、愛、称賛をもって人に接するように子供たちに教えましょう。そうすれば、尊大な態度で接するよりもはるかに良い結果を生み出すことでしょう。……

伝道活動で世の人々に手を差し伸べ、耳を傾ける全ての人に福音の回復について教え、恐れることも独善的になることもなく最初の示現について話し、モルモン書と神権の回復について証を述べましょう。兄弟姉妹の皆さん、福音の喜びを他の人々にもたらす機会があるように、ひざまずいて祈りましょう。<sup>10</sup>

何千人もの人々が聖なる御霊<sup>みたま</sup>の奇跡により心を動かされ、信じて受け入れ、教会員になっているのは、驚くほどすばらしいことです。彼らはバプテスマを受け、人生に絶えず善の影響を受け、奇跡が起こります。信仰の種が心にまかれ、学ぶごとに膨らんでいきます。そして彼らは、次々と原則を受け入れ、やがて、この末日聖徒イエス・キリスト教会で信仰をもって歩む人々にもたらされる驚くべき祝福をことごとく得るのです。<sup>11</sup>

## 2

### わたしたちは専任宣教師を助けて、真理の知識が他の人々に伝えられるようにしなければならない

南アメリカでのことです。わたしは教会に入ったばかりの女性に会いました。彼女は自分が見いだした教会を愛する気持ちが強かったので、他の人々に熱心に話して回りました。バプテスマから僅か7か月の間に、300人の知人を宣教師に紹介し、福音を教えてもらうよう手はずを整えました。ある時点で、60人が教会に入っていました。今はもっと多くなっていることでしょう。わたしはブラジルのサンパウロで、最初に彼女に福音を教え

た若い宣教師に会いました。彼自身も改宗者であり、経済的に多大な犠牲を払って、教会について伝えるために伝道に出たのです。わたしが話している女性は、彼がその時点までに教会に導いた43人のうちの一人でした。ブラジルで生まれ育ったこの若い男性は100倍を超える成果をもたらしました。彼自身が導いた43人の改宗者と、そのうちの一人による60人の改宗者です。また、彼が導いた他の改宗者たちも多くの人を導いていることでしょう。<sup>12</sup>

伝道活動はただパンフレットを配るだけだと考えている会員が大勢います。この活動に通じている人は、もっと良い方法があることを知っています。それは教会員を通して行う方法です。求道者を紹介する会員がいる場合、そこには即座に対応できる支援体制があります。会員はこの業が真実であることを証し、求道者である友人の幸せを心から願います。そしてその友人が福音を学んで進歩するのを見て、感動します。

実際に教えるのは専任宣教師かもしれません。しかし会員は、可能な場合、宣教師が教える際に自宅を提供して、この伝道活動を進める支援ができます。会員はこの業が神の業であることについて心から証を述べます。宣教師が近くにいないときに、求道者の質問に答えます。大きな変化、またしばしば難しい変化を遂げつつある改宗者の友人になります。

福音は恥とするようなものではありません。むしろ誇りとするものです。パウロはテモテに「あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない」と書き送りました（2テモテ1：8）。福音を伝える機会はどこにでもあります。……

新しい人を教会に連れてくるのは宣教師だけの責任ではありません。会員が中心になって新しい求道者を見つけるとき、宣教師は最大の成功を収めることができます。……

他の人々に真理の知識をもたらす力が自分の中にあるということを全ての会員の心に刻み込んでください。伝道に取り組ませてください。このことについて大いに真剣に祈るように促してください。……

……兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは宣教師だけに伝道を行わせることもできますし、彼らを手伝うこともできます。宣教師だけが行うとすれば、彼らは来る日も来る日もドアをノックすることになり、収穫は僅かでしょう。あるいは、会員であるわたしたちは、求道者を見つけ、教えることについて宣教師を助けることができます。……



「福音を伝える機会はどこにでもあります。」

全てのステークで、福音のメッセージに耳を傾ける人々を見つける機会に気づく能力を高めてください。伝道を行うに当たって、わたしたちは攻撃的になる必要はなく、尊大になる必要もありません。わたしたちが携えることのできる最も効果的なパンフレットは、自分自身の善良な生活と模範です。この業に携わるとき、わたしたちの生活は改善されます。なぜならば、真理に導こうとしている人々の進歩の妨げになるようなことを行ったり、言ったりしないように気をつけるからです。……

教会のあらゆるレベルで熱意をかき立てる必要があります。ときどき<sup>せい</sup>聖餐<sup>さん</sup>会で〔伝道活動の〕このテーマを採り上げてください。毎週の神権会と扶助協会の集会で話し合うようにしてください。若い男性と若い女性は、この最も大切な業を助ける方法について話し合い、計画を立ててください。初等協会の子供たちも、助ける方法について考えてください。子供が初等協会に誘われたことがきっかけになって、教会に入った親はたくさんいます。……

兄弟姉妹の皆さん、ワードやステーク、地方部、支部に属する全ての皆さん、この業に対する熱意と宣教師を助けたいという強い望みを持つ大規模な軍勢になってください。宣教師はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に福音を伝えるというきわめて大きな責任を負っています。「畑はすでに白くなり刈り入れを待っている……。」(教義と聖約4:4) 主はそのように

繰り返し宣言されました。その御言葉どおりに信じるべきではないでしょうか。<sup>13</sup>

宣教師に代わって、……わたしは聖徒の皆さんにお願いしたいと思います。宣教師が教えることのできる〔人々を〕紹介するために、行えることを全て行ってください。そうすれば、皆さんは幸せになります。皆さんの努力で教会に来る人は全て、皆さんの人生に幸福をもたらしてくれます。わたしはこのことを皆さん一人一人に約束します。<sup>14</sup>

---

### 3

---

#### 専任宣教師として伝道することは奉仕する本人に永続する祝福をもたらす

わたしたちは、主イエス・キリストの大使として世界へ出て行く人々のふさわしさと資格について、基準を高くしなければなりません。<sup>15</sup>

今日、世の人々には純粋な証の力が必要です。イエス・キリストの福音が必要です。そして、世の人々が福音を聞くためには、それを教える使者がいなければなりません。

親の皆さんは早いうちから〔伝道奉仕のために〕子供の訓練を始めてください。家族の祈りが行われ、家庭の夕べが開かれ、聖文を読む時間があり、父親と母親が教会に活発で教会と福音について熱心に語る、そのような家庭の子供は、他の人々に福音を教えたいという望みを自然に持つようになります。通常、このような家庭には伝道活動の伝統があります。子供が小さいうちに普通預金口座を開設します。男の子は、教会の宣教師として奉仕するように召されることを当然のように期待しながら大きくなります。男の子の人生計画の中で、伝道は教育と同じように大切なものとなります。<sup>16</sup>

伝道活動は基本的に神権の責任です。若い男性が主たる重荷を負わなければならないのはそのためです。これは彼らの責任であり、義務です。<sup>17</sup>

若い〔男性の〕皆さん、わたしは皆さん全員が宣教師としての奉仕を目指すように望んでいます。楽しいとは約束できません。簡単で快適だとは約束できません。落胆や恐れを感じることはないとも、悲嘆に暮れるようなことがないとも約束できません。しかし、約束できることがあります。それは、皆さんの全生涯の中で同様の期間にこれほどの成長を遂げられる時はないということです。幸せを得られると約束します。特有の、すばらしい、永続する幸せです。皆さんに約束します。皆さんは自分の生活を再評価し、新たな優先順位を定め、もっと主に近く生活し、祈りが現実のすばらしい体験となり、自分の善い行いの結果を信じて歩むようになることでしょう。<sup>18</sup>

わたしたちは〔宣教師として奉仕をする〕若い女性を多少必要としています。若い女性はすばらしい働きをしますし、長老が入れない家に入ることができます。……

〔しかし〕若い女性は……若い男性ほど義務感を抱く必要はありません。中にはどうしても行きたいという人がいることでしょう。そうであれば、親だけでなくビジョップにも相談してください。……姉妹の皆さんに申し上げます。皆さんは伝道に出る出ないにかかわらず、高く評価され、立派に義務を果たしているとみなされ、皆さんの努力は主と教会に受け入れられることでしょう。<sup>19</sup>

若い長老と姉妹が必要であるように、伝道地には夫婦もますます必要になっています。年配の夫婦は伝道部ですばらしい働きをしています。もっと多くの夫婦が必要とされています。特に、外国語の能力がある夫婦が必要です。親切で思いやりのある伝道部会長の指示の下で多くの責任を受けて奉仕することができます。

健康で元気なうちに退職する人の数が増しており、主の業における大きな必要を満たせる人が大勢います。<sup>20</sup>

現役を退いた男女が、世界中でこの教会のために宣教師として意義深い奉仕活動に携わっています。その数は増加しています。彼らは召される地へ行きます。必要とされる地で奉仕します。友情を培い、技術を提供し、機会を広げます。彼らに接した人々は、教え、善をなすためにまったくの無私の精神で自分たちのもとにやって来た男女のことを決して忘れないでしょう。彼らは金銭を受け取りません。自費で出かけていきます。その献身には限度がありません。その働きの成果は計り知れません。<sup>21</sup>

#### 4

### 人に福音を紹介するとき、主の御霊の助けがあり、 わたしたちの間の相違点を乗り越えられる

わたしたちは全て〔神の子供として〕同じ親のもとから来ているので、同じ真理に反応します。肌の色が少し違うかもしれませんし、目の形も少し違うかもしれません。着ている服の形も違うかもしれません。だからといって、決して異なる種類の人間だということではありません。全世界の人は、男女を問わず、同じ刺激を受けると基本的に同じ反応を示します。寒いときには暖を求めます。同じような喜怒哀楽の情を持っています。……

隣人との間で、あるいは文化が異なるということで、さまざまな相違点があるが、福音を伝えようとするときに障害になるように思われることがありま



「今日、世の人々には……イエス・キリストの福音が必要です。そして、世の人々が福音を聞くためには、それを教える使者がいなければなりません。」

す。そのような場合、穏やかに丁寧な態度で接することにより、普通これらの障害は取り払われます。わたしは証します。他の人々に福音を紹介するようという主の戒めを守るとき、主の御霊の助けがあり、福音を教えている人と教えを聞いている人の間の相違点を乗り越えることができます。次の主の言葉の中に、その過程がはっきりと説明されています。「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約 50 : 22)

わたしたち一人一人が福音を伝える召しを果たす際の最も効果的な手段は主の御霊であることを、わたしは確信しています。わたしたちは他の人々の中に主の御霊があるのを目にします。主の業を行うとき、わたしたちは自分自身の中にもそれを感じます。そのような場合、わたしたちとわたしたちが教える人との間の表面的な違いは、目からうろこが落ちるように、なくなってしまうようです(2 ニーファイ 30 : 6参照)。温かい触れ合いと互いへの理解を通して、すばらしいものが見えてくるようになります。わたしたちは文字どおり互いに理解し合い、また文字どおりともに教化されて、ともに喜ぶのです。<sup>22</sup>

## 5

### 信仰をもって前進するとき、主は他の人々に福音を紹介するわたしたちの努力を祝福してください

実に、わたしたちが携わっている業は、驚くべき業です。……天の神がこの末日の奇跡を起こしておられます。そして、わたしたちが目にしてきたことは、これから後に起こるもっと偉大な事柄の前触れにすぎません。御業は、性別や年齢を問わず、謙虚な人々によって遂行されるのです。<sup>23</sup>

御業は成し遂げられます。次の約束をされたのは主だからです。

「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84 : 88)

神から与えられた責任を引き受け、神から約束された祝福を信じて、信仰をもって前進しましょう。そうすれば、主はわたしたちの努力を祝福してくださいます。まず模範によって、次に靈感を受けた教えによって、わたしたちの周囲にいる人々に福音を伝える務めを果たしましょう。

人手によらずに山から切り出された石は、全地に満ちるまで転がり進むことでしょう(ダニエル2章参照)。わたしはこれが真理であること、また、天の御父に導きと靈感を求めるなら自分の状況に合った方法で一人一人が御業に貢献できることを証します。わたしたちが携わっているこの業は神の業です。そして、神の祝福があるので、わたしたちは失敗することはありません。<sup>24</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- わたしたちが福音を伝えるのを時折恐れることがあるのはなぜでしょうか。どうすればその恐れを克服して他の人々に手を差し伸べることができるでしょうか(第1項参照)。あなたが目にした伝道活動の奇跡として、どのようなことがありますか。
- 「会員が中心になって新しい求道者を見つけるとき、宣教師は最大の成功を収めることができます。」それはなぜでしょうか(第2項参照)。会員が専任宣教師を助ける方法として、他にどのようなことがありますか。

- 専任宣教師として伝道することが奉仕する本人の人生に非常に大きな影響を及ぼすのはなぜでしょうか。子供が専任宣教師として奉仕する準備を行えるように、親はどのような助けができるでしょうか(第3項参照)。年配の夫婦が奉仕の準備を行えるように、家族はどのような助けができるでしょうか。
- 第4項を読んでください。全ての人の共通の特性として、どのようなことがあるでしょうか。福音を伝えるのに障害になると思われる相違点を、どのような方法で乗り越えられるでしょうか。人々が相違点を乗り越えられるように主の御霊が助けた実例として、どのような出来事を目にしたことがありますか。
- 「信仰をもって前進」するときに、主は福音を伝えるわたしたちの努力を祝福してくださると、ヒンクレイ大管長を強調しています。どうすれば福音を伝えたいという望みとそれができるといふ信仰を増すことができるでしょうか。

### 関連聖句

イザヤ 52：7；マタイ 28：19－20；アルマ 26：1－5；教義と聖約 1：20－23；4章；18：15－16；38：40－41

### 教える際のヒント

「沈黙を恐れてはならない。質問に答えたり、自分の気持ちを表現したりするのに考える時間を必要とすることがある。質問を投げかけた後、霊的な経験を分かち合った後、あるいは生徒が自分の考えをよく表現できないときに、間を置くことが必要である。」(『教師、その大いなる召し』67)

### 注

1. 「伝道に出るべきですか」『聖徒の道』1986年7月号, 41 参照
2. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 58 参照
3. 「伝道に出るべきですか」42 参照
4. 「開会に当たり」『リアホナ』2005年5月号, 5 参照
5. 「わたしは清く、汚れがありません」『リアホナ』2007年5月号, 60 参照
6. 「将来に目を向けて」『聖徒の道』1998年1月号, 76 参照
7. 「開会に当たり」6 参照
8. 「信仰に忠実に」『聖徒の道』1997年7月号, 77 参照
9. 「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 127 参照
10. 「新しい始まりの時」『リアホナ』2000年7月号, 106 参照
11. 「信仰の奇跡」『リアホナ』2001年7月号, 83 参照
12. 「恐れることはない。ただ信じなさい」『聖徒の道』1996年5月号, 6 参照



13. 「子羊を見いだし、羊を養う」121－123, 127 参照
14. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997 年) 374
15. 「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002 年 11 月号, 57
16. 「伝道」『聖徒の道』1988 年 3 月号, 2 参照
17. 「神殿, 改宗者の定着, 伝道活動について」『聖徒の道』1988 年 1 月号, 61 参照
18. 「若い兄弟たちに, そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999 年 1 月号, 61 参照
19. 「神殿, 改宗者の定着, 伝道活動について」61 参照
20. “There Must Be Messengers,” *Ensign*, 1987 年 10 月号, 4
21. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 2: 2000–2004* (2005 年), 517 – 518
22. 「なすべき業あり」『聖徒の道』1988 年 7 月号, 6 参照
23. 「なすべき業あり」6 – 7 参照
24. 「なすべき業あり」6 – 7 参照



「主はいなくなった羊を見つけるために、99匹を残して出かけられました。」



## 新しい改宗者とあまり活発でない 会員に愛をもって手を差し伸べる

「わたしたちは……改宗者として教会に入る人に……  
フェローシップを行うという、また……活発でな  
くなった人に愛をもって手を差し伸べるという、重要な  
義務を絶えず自覚〔し〕なければなりません。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

ヒンクレー大管長が教会の大管長として在任中に絶えず強調した一つのテーマは、新しい改宗者と教会に活発でない人に手を差し伸べることの大切さである。このことについて、大管長は自ら努力した経験から多くの事例を紹介した。その一例を、悲しみを込めて「わたしの失敗談の一つ」と言い、次のように述べている。

「イギリスで宣教師として奉仕していたときのことです。同僚とわたしはある若者を教え、うれしいことにわたしがバプテスマを施しました。彼は教養のある、洗練された人で、勉強好きでした。わたしはこの才能豊かな若者が教会に入ってくれたことをとても誇りに思いました。彼には将来教会員の指導者になる全ての資質が備わっていると感じました。

彼は改宗者から会員に変わるという大きな調整を行っている途上にいました。わたしは解任されるまでの短い期間、友人として交流する機会がありました。その後、帰国して解任されました。彼はロンドンの支部で小さな責任を与えられ、自分に何が期待されているのかまったく分からず、ある間違いをしました。彼が奉仕した組織の長は、いわば愛の少し足りない批判好きな人であり、多少無慈悲な口調で、ささいな間違いのことでわたしの友人を責めました。

その夜、その若者は気分を害し、傷ついて、教会が借りていた建物を後にしました。……彼は心の中で思いました。「教会員があんな人なら、もう戻るまい。」

こうして彼は活発な会員ではなくなっていました。歳月が流れました。……わたしは〔再び〕イングランドに行ったとき、懸命に彼を見つけようとしました。……帰国後、長い調査の末に、ようやく彼の居場所を突き止めることができました。

わたしは手紙を書き、彼から返事がありました。しかし、福音については何も触れられていませんでした。

次にロンドンに行ったとき、わたしはもう一度彼を捜し、帰国当日になってやっと見つけました。電話を掛け、地下鉄の駅で落ち合いました。わたしたちは抱き合って再会を喜びました。わたしが飛行機に乗らなければならないためにほとんど時間はありませんでした。それでも、わたしたちは短時間、心から尊敬を込めて語り合いました。別れ際に、彼はもう一度わたしを抱き締めました。わたしは二度と音信を絶やさないようにしようと決心しました。……

歳月が流れました。わたしも彼も年を取りました。彼は退職し、スイスに移り住みました。わたしはスイスに行く機会があり、寄り道をして、彼の住む村を訪ねました。彼と奥さんとわたしたち夫婦は、その日の大半を一緒に過ごしました。すばらしい時間でした。しかし、信仰の炎が消えて久しいことは明らかでした。わたしは知り得る限りの手を尽くしましたが、信仰の炎を再びともすべを見いだせませんでした。わたしは連絡を取り続けました。教会の書籍や機関誌、タバナクル合唱団のレコードなどを贈り、それに対して彼はいつも感謝を述べました。

ところが数か月前に、彼は亡くなりました。奥さんがそのことを手紙で知らせてくれました。手紙にはこう書かれていました。『あなたは主人の最良の友でした。』

わたしは手紙を読み、涙が頬を伝いました。自分の働き掛けが足りなかったことを知ったのです。彼が最初に感情を害したとき、わたしがそばにいて励ますことができたら、彼は違う人生を歩めたかもしれません。そのときに彼を助けることができたと思います。彼が負った傷の手当てができたと思うのです。せめてもの慰めは、自分は努力したということですが、うまくいかなかったという悲しみは拭いきれません。

現在のチャレンジはこれまでにない規模です。改宗者の人数がかつてないほど多くなっているからです。……全ての改宗者が貴い人です。全ての改宗者が神の息子、娘です。わたしたちは全ての改宗者に対して大きな、重い責任を負っています。』<sup>1</sup>

新しい改宗者とあまり活発でない会員に対するヒンクレー大管長の関心は、福音が人生にどれほどの祝福をもたらすか、その様子を目にした個人の経験から生じたものである。かつて取材記者から「今日の教会の活動を見て、何に最も喜びを感じていますか」と尋ねられ、ヒンクレー大管長はこう答えた。

「最も喜ばしい経験は、この福音が人々のために役立っているところを目にすることです。福音は新しい人生観を与えます。以前にまったく意識したことのない、物事に対する見方を与えます。気高く神聖な事柄に目を向けるようになり、目を見張るような奇跡が起こります。人々はキリストを仰ぎ見て、生き生きとします。」<sup>2</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### わたしたちには個人に仕える大きな責任がある

わたしたちは個人に気を配らなければなりません。キリストはいつも個人について話をされました。病人を一人一人癒やされました。たとえの中で個人について話をされました。この教会は、会員が多いにもかかわらず、個人に関心を払います。会員数が600万、あるいは1,000万、1,200万、5,000万であろうと、個人が大切であるという事実を決して見失ってはなりません。<sup>3</sup>

この教会は大きなグローバル社会となりつつあります。しかし、わたしたちの関心と気遣いは常に個人に向いていなければなりません。この教会の会員は、男性も女性も、少年も少女も、それぞれが個人です。わたしたちの大きな責任は、一人一人が「覚えられ、神の善い言葉で養われ」るようにすることです（モロナイ6：4）。一人一人が主の業と方法によって成長と自己表現と訓練の機会を得、生活の必需品に事欠く人が誰もいないようにし、貧しい人々の必要が満たされ、各会員が励ましと訓練を受け、不死不滅と永遠の命の道を進む機会を得るようにすることです。……

この業は人に関心を向けています。一人一人が神の息子であり娘なのです。教会が達成してきたことを説明するとき、わたしたちは数字を挙げて話をしますが、わたしたちの働きは全て個人の成長に焦点を当てたものになければなりません。<sup>4</sup>

教会には非常に望ましい、すばらしい成長が見られることを強調したいと思います。……わたしたちが心強く感じる理由はたくさんあります。しかし、改宗者の信仰が弱まってしまうことは悲劇です。会員が活発でなく

なることは大いに憂慮すべき事態です。主はいなくなった羊を見つけるために、99匹を残して出かけられました。主は〔その人のこと〕を実に深く心配され、御自分の偉大な教えのテーマの一つに選ばれました〔ルカ 15：1－7参照〕。気を緩めることはできません。わたしたちは教会役員と会員に対して、改宗者として教会に入る人に心のこもった、温かい、素晴らしい方法でフェローシップを行うという、また何らかの理由で活発でなくなった人に愛をもって手を差し伸べるといふ、重要な義務を絶えず自覚させなければなりません。行おうとする意志があれば行えるという証拠は十分にあります。<sup>5</sup>

---

## 2

---

### 全ての改宗者が貴い人であり、わたしたちは全ての改宗者に対して大きな、重い責任を負っている

教会における最大の悲劇は、教会員になった人たちがその後で離れ去っていなくなってしまうことだと、わたしは感じるようになりました。ほとんど例外なく、そうならず済むはずなのです。わたしは、宣教師からバプテスマを受けた人のほとんどは、十分な教えを受け、知識においても証においても、バプテスマを受けるにふさわしいものを身につけた人であると確信しています。しかし、この教会の会員になって生活を変えるのは容易ではありません。それは過去の人間関係を断ち切ることを意味します。友人と別れることを意味します。大切にしていた信念を捨てることになるかもしれません。習慣を変え、欲求を抑える必要があるかもしれません。寂しさや、未知の事柄への不安に駆られることもよくあります。改宗者が経験するこの困難な時期には、助けと励ましが必要です。その人が教会員として過ごすために非常に大きな代価が払われてきました。宣教師の長期にわたる働きと、奉仕に要する費用、過去に交流のあった人との別れ、またその全てに伴う心痛を考えれば、わたしたちはこの貴い人たちを温かく迎え、安心させ、弱いときに助け、強くなれるように責任を与え、彼らが行う全てのことについて励ましと感謝の言葉を伝える必要があります。<sup>6</sup>

わたしたちがその働きの実を確実に残さない限り、伝道活動を行ってもまったく何の意味もありません。その二つを切り離してはなりません。これらの改宗者は貴い人々です。……わたしたちは全ての改宗者に対して大きな、重い責任を負っています。わたしたちの一員となった人々の世話をすることは、ぜひとも必要なことなのです。……

先日わたしはとても興味深い手紙を受け取りました。1年前に教会員になった女性からです。こう書かれています。



「全ての会員をお願いします。改宗者として教会に入ってくる人々に友情と愛をもって手を差し伸べてください。」

「教会にたどり着くまでのわたしの旅路は、独特であり、非常に困難でした。この1年はわたしの生涯で一番厳しい年でしたが、最も報いの多い年でもありました。新会員であるわたしには、これからも毎日チャレンジが続くことでしょう。」……

彼女はこう述べています。「教会員は、教会の新会員であるということがどうしたことなのか分かっていません。ですから、わたしたちを助ける方法がなかなか分からないのです。」

兄弟姉妹の皆さん、それがどのようなことか分からなければ、どのようなことかと想像してみるようにお勧めします。ひどく孤独を感じることもかもしれません。失望することかもしれませんし、恐れるようなことかもしれません。この教会に属するわたしたちは、自分が思っている以上に、世の人々とは懸け離れた存在です。この女性はこう続けています。

「わたしたちは、求道者から教会員に変わるとき、まったく異なる世界に、つまり独自の伝統、文化、言葉がある世界に足を踏み入れたことに気づいて驚きます。この新しい世界への旅において、助言を求められる相手や場所がないことに気づきます。最初のうち、その旅は好奇心をそそるもので

あり、間違いを犯しても楽しくさえありますが、やがて不満を感じるようになり、ついには不満が怒りへと変わります。そして、この不満と怒りの段階で教会を去ります。以前にいた世界に戻って行くのです。そこは、自分が何者かを知っていた場所、人の役に立っていた場所、言葉が通じていた場所です。」<sup>7</sup>

バプテスマを受けただけで、フェローシップを受けることはなく、2、3か月で教会に別れを告げる人々がいます。兄弟姉妹の皆さん、〔新たにバプテスマを受けた会員が〕確実に改心するように、すなわちこの偉大な業について心の中に確信を抱くようにすることが非常に重要です。頭だけで理解することではありません。それは心の問題であり、聖なる御霊が心に触れることです。そしてついに、この業が真実であることを知るようになります。また、ジョセフ・スミスが誠に神の預言者であること、神が生きておられ、イエス・キリストも生きておられて、御二方が少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、モルモン書が真実であること、神権がその全ての賜物ならびに祝福とともにこの地上にあることを、彼らは知ります。これをいくら強調してもしすぎることはありません。<sup>8</sup>

### 3

#### 全ての改宗者に友情と責任と、神の言葉による養いが必要である

改宗者のますますの増加に伴い、わたしたちは、改宗者が道を見いだせるように助けるため、一層の大きな努力を払わなければなりません。改宗者の誰もが三つのものを必要としています。それは友人と責任と「神の善い言葉」による養い（モロナイ6：4）です。わたしたちにはこれらのものを提供する義務と機会があります。<sup>9</sup>

#### 友情

〔改宗者は〕自分が見いだしたものに対する熱意をもって教会に入ってきます。わたしたちは直ちにその熱意を生かすようにしなければなりません。……彼らの話に耳を傾け、導き、質問に答え、どんな状況やどんな条件の下でもそばにいて助けるようにしてください。……全ての会員にお願いします。改宗者として教会に入ってくる人々に友情と愛をもって手を差し伸べてください。<sup>10</sup>

わたしたちには、バプテスマを受けて教会に入る人々に対してこのような責務があります。無関心であってはなりません。独り放っておいてはなりません。新会員はこの教会の方法と文化に慣れるために助けを必要としています。その助けをすることは、わたしたちにとって素晴らしい祝福で



あり、絶好の機会です。……温かい笑顔、親しい握手、励ましの言葉、これらは驚くべき結果を生みます。<sup>11</sup>

これらの人に手を差し伸べましょう。彼らと友達になりましょう。彼らに親切にしましょう。彼らを励ましましょう。この業、すなわち主の業に対する彼らの信仰と知識を増し加えましょう。<sup>12</sup>

皆さんをお願いします。……教会に入ってくる人を歓待し、友人になってください。また、歓迎されていると彼らが感じ、安らぎを得られるようにしてください。そうすれば、すばらしい結果が見られることでしょう。主は改宗者の定着というこの偉大な過程において助けをなす皆さんを祝福して下さるでしょう。<sup>13</sup>

### 責任

この教会には、人々に期待していることがあります。教会には高い標準があります。力強い教義があります。教会は人々に大いなる奉仕を期待しています。怠けてただついて行くだけであってはなりません。わたしたちは行動するよう人々に期待しており、人々はそれに応じます。彼らは奉仕を行う機会を喜んで受け入れます。そして、奉仕するときに、能力と理解力が増し、物事を行う資格が備わって、それを立派に果たします。<sup>14</sup>

行うことを何か〔新会員に〕提供してください。実践がなければ信仰は強くなりません。信仰と証は腕の筋肉に似ています。その筋肉を使い、栄養を取れば、もっと強くなります。腕を三角巾でつって、そのままにしていれば、その腕は弱く、力がなくなってしまいます。証も同様です。

さて、中には、自分は責任を引き受ける準備ができていないと言う人がいます。しかし、準備ができていたから召されたという人はいません。わたし自身についてもそれが言えます。わたしにはこの大きくかつ神聖な召しに対する準備ができていたと、皆さんは思いますか。わたしは圧倒される思いでした。適任ではないと感じました。今も圧倒される思いでいます。今も適任ではないと感じています。しかし、前進しようと努めており、主の祝福を求めており、主の御心みこころを行おうと努めており、またわたしの奉仕が主に受け入れられるように願い、祈っています。わたしがこの教会で受けた最初の責任は、執事定員委員会会長の顧問でした。12歳のときのことです。自分が適任だとは感じませんでした。圧倒される思いでした。しかし、皆さんが努力しているように、わたしも努力し、その後、数々の責任を与えられました。適任だと感じたことは一度もありませんが、常に感謝の気持ちと進んで努力したいという思いを持っています。<sup>15</sup>



新しい改宗者に教会で奉仕する機会を与える必要があると、ヒンクレー大管長は教えた。

この教会に入る全ての改宗者に、すぐに責任を与えるようにする必要があります。ごく小さな責任かもしれません。しかし、それがその人の生涯を大きく変えるのです。<sup>16</sup>

もちろん新しい改宗者は全てを知っているわけではありません。多少の間違いを犯すことがあるでしょう。だからどうなのでしょう。わたしたちは誰もが間違いを犯します。大切なのは、活動からもたらされる成長なのです。<sup>17</sup>

#### 神の善い言葉による養い

これらの改宗者は福音に対する証を持っている……と、わたしは信じています。彼らは主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、主が神から遣わされた実在の御方であられることを知っている、わたしは信じています。心から罪を悔い改め、主に仕える決心をしていると、わたしは信じています。

モロナイはバプテスマを受けた後の人々についてこう〔述べています。〕「そして人々はバプテスマを認められ、聖霊の力が働いて清められると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ、彼らの信仰の創始者であり完成者であるキリストの功德にだけ頼らせるためである。」(モロナイ6:4)

今日も当時と同様、改宗者は「教会の民の中に数えられ」ます。「それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ」るためです。……改宗者が会員として一步を踏み出すときに、彼らを助けましょう。<sup>18</sup>

〔全ての新しい改宗者〕にとって欠かせないのは、神権定委員会や扶助協会、若い女性、若い男性、日曜学校、あるいは初等協会に参加することです。また、聖餐会せいさんに出席して聖餐を受け、バプテスマのときに交わした聖約を新たにしよう、励ましを受けなければなりません。<sup>19</sup>

#### 4

**教会の活動に戻れば得るものばかりで、戻ることによって失うものは何もない**

名目上教会員でありながら教会を離れており、現在はぜひとも戻りたいと思いつながらどうすればよいか分からず、また努力もしない人が全世界に何千人もいます。……

かつて霊的な受け継ぎを手にしていながら教会を離れてしまい、今は生活にむなしさを覚えている兄弟姉妹、皆さんに申し上げます。戻る道は開かれています。……戻るための最初の小さな一步を皆さんが踏み出せば、友人は両腕を広げて皆さんを迎え、温かく歓迎することでしょう。

一部の人が教会を去った理由を、わたしは知っていると思います。軽率な人に傷つけられて気分を害され、その人の行為を教会の典型だと誤解した人。周りに知り合いがいた地域からほぼ誰も知らない地域に引越し、そこで教会のことをほとんど知らずに過ごしてきた人。

教会内の交際とは相いれないと思っていた教会外の交友や習慣に心を引かれた人。自分は教会の人よりも世の知恵にたけていると考え、優越感を抱いて教会員との交流から身を引いた人。

わたしはここで理由を長々と述べるつもりはありません。皆さんもそうしないようにしてください。過去にこだわらないでください。……得られるものばかりで、何も失うものはありません。友よ、戻ってきてください。あなたが長い間平安だと思っていたものに勝る平安が教会にはあります。多くの人と友達になり、その友情を通してあなたは喜びを味わうことでしょう。<sup>20</sup>

教会から離れている愛する兄弟姉妹の皆さん、教会はあなたを必要としています。そして、あなたにも教会が必要です。あなたは理解しようとする姿勢で耳を傾ける人が大勢いることに気づくでしょう。戻る道を見つけ

られるように手を差し伸べてくれる人が大勢います。心を温めてくれる人がいます。そこにある涙は苦しみの涙ではなく、喜びの涙です。<sup>21</sup>

---

5

---

### 教会の活動に戻る末日聖徒は、我が家に帰ったような心地よさを覚える

ある日曜日のこと、わたしはステーキ大会に出席するためにカリフォルニアのある町を訪れました。地元の新聞には、わたしのことが写真入りで報道されていました。その朝、ステーキ会長と一緒にステーキセンターに着いたとき、電話のベルが鳴りました。わたしへの電話でした。相手は自分の名前を告げて、わたしに会いたいと言いました。そこでわたしはステーキ会長に理由を話して、その朝早く開かれることになっていた集会を彼に託しました。もっと大切なことがあったからです。

わたしのこの友人はおずおずと、何か恐れているような様子でやってきました。長い間教会を離れていたのです。わたしたちは長年別れ別れになっていた兄弟のように抱き合いました。初めはわたしたちの会話は途切れがちでした。しかし、何年も前にイングランドで一緒に過ごした日々の上に話題が移ると、すぐに心が温まりました。かつて非常に熱心に集っていた教会とその後の長くむなしい年月について語るこのたくましい人物の目に、涙がありました。彼は悪夢について語るように、過去のことをあれこれと語りました。彼がその無駄に過ごした年月について述べた後、わたしたちは教会に戻ることにについて語り合いました。それは難しく、恥ずかしいことだと彼は思いましたが、努力することに同意しました。

つい先頃、わたしは彼から手紙を〔受け取りました。〕こう書かれていました。「わたしは戻りました。戻りましたよ。また家に帰ってきたという気持ちは何とすばらしいことでしょう。」

彼のように、ぜひとも戻りたいと思いながら、第一歩を踏み出すのをためらっている友人の皆さんに申し上げます。足を踏み出してください。わたしたちはあなたのもとを訪れ、あなたの手を取り、手助けしましょう。わたしは約束します。我が家に帰ったような良い気持ちを感じるでしょう。<sup>22</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- 世界的な教会においてさえ「わたしたちの関心と気遣い〔が〕常に個人に向いていなければ」ならないのは、なぜでしょうか（第1項参照）。個人的に関心を寄せてくれた人のおかげであなたが祝福を受けたのは、どのようなときでしょうか。もっと思いやりをもって個人一人一人の世話をするためには、どのような方法があるでしょうか。
- 第2項にあるヒンクレー大管長が紹介した手紙から、何を学べるでしょうか。また、それをどのように応用できるでしょうか。信仰を築くように努めている人々を力づけるために何ができるか考えてみてください。
- 全ての新しい改宗者に友情と責任と、神の言葉による養いが必要であるのはなぜでしょうか（第3項参照）。新しい改宗者の友人になるために、どのような方法があるでしょうか。教会の責任を受けている新しい改宗者を、どのように支援することができるでしょうか。新しい改宗者が「神の善い言葉で養われ」るように、わたしたちはどのような助けができるでしょうか。
- 会員が教会の活動に戻るのが難しいことがあるのはなぜでしょうか（第4項参照）。人々に戻るのを、どのように助けることができるでしょうか。教会の活動に戻るときに得られる喜びを、あなたはいつ経験しましたか、あるいはいつ目撃しましたか。
- 第5項にあるヒンクレー大管長が紹介した話から、何を学ぶことができますか。教会に活発でない人が「また家に帰って」くるのを助けるためにどのように手を差し伸べることができるか、考えてみましょう。

### 関連聖句

ルカ 15 章；ヨハネ 10：1－16、26－28；13：34－35；モーサヤ 18：8－10；ヒラマン 6：3；3 ニーフアイ 18：32；モロナイ 6：4－6；教義と聖約 38：24

### 学ぶ際のヒント

「学ぶのに最も良い時間は夜の休息の後の朝であると、多くの人が感じています。……一日の仕事や煩わしいことが一段落した静かな時間に学ぶことを好む人々もいます。……大切なのは、一日のいつかということよりも、

決まった時間を学ぶために取るということです。」(ハワード・W・ハンター, “Reading the Scriptures,” *Ensign*, 1979年11月号, 64)

## 注

1. 「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号, 56-58 参照
2. 「改宗者と若い男性について」58 参照
3. 「靈感を与える言葉」『リアホナ』2003年10月号, 5
4. 「人のためのみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 60 参照
5. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 537-538
6. 「伝道」『聖徒の道』1988年3月号, 5-6 参照
7. 「子羊を見いだし, 羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 125 参照
8. “Messages of Inspiration from President Hinckley,” *Church News*, 1997年4月5日付, 2。「靈感を与える言葉」3も参照
9. 「改宗者と若い男性について」56 参照
10. 「神殿, 改宗者の定着, 伝道活動について」『聖徒の道』1988年1月号, 59 参照
11. 「靈感を与える言葉」4
12. 「生ける預言者の言葉」『リアホナ』1999年8月号, 15
13. “Words of the Prophet: Reach Out,” *New Era*, 2003年2月号, 7
14. 「靈感を与える言葉」3-4 参照
15. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 538
16. 「靈感を与える言葉」『聖徒の道』1998年11月号, 7 参照
17. 「子羊を見いだし, 羊を養う」125
18. 「改宗者と若い男性について」58 参照
19. 「子羊を見いだし, 羊を養う」125 参照
20. 「何も失うものはない」『聖徒の道』1977年2月号, 129-131 参照
21. 「ペテロは外に出て激しく泣いた」『聖徒の道』1994年8月号, 7 参照
22. 「何も失うものはない」131 参照



## 聖なる神殿の祝福

「神殿の儀式は教会が提供すべき  
最高の祝福となっています。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

1997年10月の総大会の神権部会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語った。「教会員は、主の宮に入って神殿の祝福にあずかるまでは、教会が提供する最高のものに到達したとは言えません。ですから、わたしたちはこの神聖な建物の建設が迅速に行われるように全力を尽くし、さらに多くの人々がこの祝福にあずかれるように邁進まいしんしています。」<sup>1</sup>大管長は当時計画あるいは建設のさまざまな段階にあった神殿名を挙げ、次に世界中の人々の生活を一変する発表を行った。

「教会の地域の中には遠く離れていて教会員数が少なく、近い将来増加の見込みのない所が多くあります。そのような地域に住む方々は、永久に神殿の儀式にあずかる祝福を拒まれるのでしょうか。数か月前にそのような地域を訪れたわたしたちは、この疑問について祈りを込めて思いをはせました。そして、輝かしい明確な答えが与えられました。わたしたちはそう信じています。

わたしたちはそうした地域の幾つかに、……小規模神殿を建設します。建築基準は……、一般の集会場の標準よりはるかに高いものです。そして、死者のためのバプテスマやエンダウメント、結び固め、その他主の宮における生者と死者のための全ての儀式が行われるようになります。」<sup>2</sup>

この計画についての靈感は20年以上前に始まったものだった。当時ヒンクレー大管長は、教会神殿委員会の会長として奉仕していた。多くの末日聖徒が容易に神殿の祝福を受けることができていることを気遣い、大管長は日記にこう記した。「教会は〔当時建設中だった〕ワシントン神殿の建設費と同額で〔多くの小規模〕神殿を建設できるはずだ。人が長距離旅をして神殿に行くのではなく、神殿を人々のもとへ届けたい。」<sup>3</sup>



メキシコ・チワワ州コロニアフアレス神殿



1997年、主から啓示が与えられ、このアイデアが現実のものとなった。メキシコ・チワワ州コロニアアレス神殿の奉獻の祈りの中で、ヒンクレー大管長はその啓示の一端に言及している。「ここ北メキシコの地で、あなた様は小規模神殿のアイデアと計画を啓示されました。それは、必要なものを全て完全に備えながら、あなた様のぶどう園のこの地における教会の会員の必要と状況にふさわしい規模のものでした。その啓示は、心から忠実であるこれらの居留地に住むあなた様の民を助けたいという願いと祈りの答えとして授けられたのです。」<sup>4</sup>

小規模神殿の計画を発表してから6か月後、ヒンクレー大管長はさらなる重大発表を行った。

「わたしたちは非常に遠く離れた地の教会員たちの間を旅してきました。この世の富にはあまり恵まれていない多くの人々とお会いしてきました。しかしその人々は、心の中に末日の業に対する非常に熱い思いを持っています。彼らは教会を愛しています。また福音を愛しています。主を愛し、主の御心を果たしたいと望んでいます。僅かかもしれませんが、什分の一を納めています。この人々は神殿に行くために大変な犠牲を払っています。安い料金のバスや古い船に乗り、何日も何日も旅を続けるのです。そのために、生活を切り詰めて、お金をためます。

この人々には、小さくても美しく、十分な機能を持つ神殿が近くに必要です。そこで、わたしはこの機会をとらえて、30ほどの小さな神殿を早急に建設するプログラムを、教会全体に発表します。……

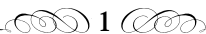
これはすばらしい事業となるでしょう。過去に例のない事業です。……これによって、現在儀式が行われている51の神殿の他に、合計47の新しい神殿ができることとなります。『わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが肉体を取って来られてから』（教義と聖約20:1）、2,000年に当たる今世紀の最後までにさらに二つを加え、ちょうど100にできればと考えています。神殿建設事業において、わたしたちはかつてない速さで前進しています。」<sup>5</sup>

2000年10月1日、ヒンクレー大管長は儀式が行われている神殿として100番目に当たるマサチューセッツ州ボストン神殿を奉獻した。その年の年末までに、大管長はブラジルで二つの神殿を奉獻した。大管長が死去した2008年1月27日当時、教会には儀式が行われている神殿が124あり、さらに13の神殿の建設が発表されていた。儀式の行われている124の神殿のうち、ヒンクレー大管長はそのほとんどの計画と建設に関わり、自ら85の神殿を奉獻した。

多くの新しい神殿の建設を発表し、その美しさに驚嘆したときも、ヒンクレー大管長はそれらの神聖な建造物を建設する目的について末日聖徒たちに思い起こさせた。その目的とは、一人ずつ、そして一家族ずつ、個人と家族を祝福することである。カリフォルニア州サンディエゴ神殿について、次のように語っている。「何と気高く美しい建物でしょう。非常に美しくはありますが、建物は目的を達成するための手段にすぎず、目的そのものではありません。その施設は、この時代に主によって啓示された神聖な儀式を執行するために建設され、奉献されているのです。」<sup>6</sup>

ヒンクレー大管長はまた、別のときにこのように述べている。「〔神殿の儀式〕を受けることができ初めて、人は全ての福音を手にするのです。ですから、神殿を建設する責任はわたしたちの肩に懸かっています。あとのくらい生きられるか分かりませんが、この命が続く限り主の神殿を建設し続け、人々が〔神殿で〕得られるすばらしい祝福を手にするができるよう、神殿を人々のもとに届けたいと思います。」<sup>7</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



### 神殿はわたしたちの<sup>あかし</sup>証の表れであり、わたしたちの 礼拝の究極の姿を現している

末日聖徒イエス・キリスト教会によって建てられた神殿は全て、教会員の証を表すものです。その証とは、わたしたちの永遠の父なる神が生きておられ、あらゆる世代にわたる神の息子、娘たちを祝福するための計画を立てられたこと、ユダヤのベツレヘムで生まれ、ゴルゴタで十字架にかけられた神の<sup>あいし</sup>愛子であり、キリストであるイエスは世の救い主、<sup>あがな</sup>贖い主であること、主の贖いの犠牲により、福音を受け入れ実践する人々に永遠の命をもたらす計画の実現が可能になったということです。<sup>8</sup>

神殿の中で起こることは全て、人を高め、気高い思いにしてくれます。また、現世の生涯と墓の向こうの生涯について教えてくれます。さらに、人は一人一人が神の子としていかに大切な存在であるかについて教え、全能の神が創造された家族の大切さについて教えてくれます。また、結婚の関係が永遠であることを教えてくれます。さらに偉大な栄光に向かって進歩していくことを教えてくれます。神殿は、光の場所であり、平安の場所であり、愛の場所であって、そこでは永遠に関わることが執り行われています。<sup>9</sup>

……神殿は、事実上どれを取ってみても、わたしたちが人の不死不滅を信じていることを表す記念碑として建っています。すなわち、わたしたち

が今経験しているこの現世での生活は、いわば絶えず上り続ける階段の一部にすぎず、この世での生活が存在すると同様に、次の世の生活も存在を信じているということなのです。わたしたちはそれを固く信じています。この確信は救い主の贖いを通じてもたらされるものです。そのため、わたしが申し上げたように、神殿はこの世と次の世をつなぐ架け橋となります。神殿は不死不滅の事柄に関するものなのです。<sup>10</sup>

これらのすばらしく、かつ類いまれな建物、そして、そこで執行される儀式は、わたしたちの礼拝の究極の姿を現しています。これらの儀式は、わたしたちの神学の最も深遠な表現となっています。<sup>11</sup>

神聖な事柄には神聖な配慮が必要です。……ひとたび主の宮の扉を後にしてからは、聖なる事柄について話すことのないようにという神聖な義務を果たさなければなりません。

主はこう言われました。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならないことを覚えておきなさい。」(教義と聖約 63：64) また、このようにも述べておられます。「神聖なものを軽んじないようにしなさい。」(教義と聖約 6：12)<sup>12</sup>

## 2

### わたしたちは神殿の儀式を通して福音の最高の祝福を受ける

現在地上に散在するこれらの神殿は、救い主の贖い<sup>あがな</sup>が完全に成就するために必要です。この神殿では、聖なる神権の権能の下、救いのみならず永遠の昇栄に導く儀式が執行されるようになるでしょう。<sup>13</sup>

神の御子イエス・キリストは人類の罪を贖うために、カルバリの十字架上でその命を捨てられました。それは、わたしたち一人一人のためにささげられた身代わりの犠牲でした。この犠牲を通して、万人に復活が約束されたのです。これは、神の慈悲によってもたらされるものであり、人が努力して得られるものではありません。また、主はこの地上におられたとき、聖なる神権の鍵<sup>かぎ</sup>を十二使徒に与えられました。それは、昔この鍵を保持していた使徒たちによってこの神権時代に回復され、その鍵を通して大きな祝福が与えられるようになりました。それらの祝福の中には主の宮の中でのみ受けられる、すばらしい儀式もありました。「完全な神権」は、神殿の儀式においてのみ、行使されるのです(教義と聖約 124：28)。<sup>14</sup>

神殿の儀式は教会が提供すべき最高の祝福となっています。<sup>15</sup>

……参入資格を備えた男女に与えられる神殿の祝福の中には、主の前に清い者となるための洗いや油注ぎの儀式、また、教えを受けるためのエン

ダウメントの儀式もあります。エンダウメントに伴う義務と祝福は、わたしたちを福音の原則に沿って行動するよう促してくれます。さらに、地上でつなぐことを天でもつなぐ結び固めの儀式は、家族を永遠のきずなで一つにしてくれます。<sup>16</sup>

〔かつて、〕わたしは大病で入院している、ある母親の臨終の枕元に呼ばれたことがあります。程なく彼女は、夫と4人の子供を残して亡くなりました。下の子は6歳の男の子でした。痛ましく、つらい、深い悲しみがその場を覆いました。しかし彼らの涙の奥には、美しい確かな信仰が輝いていました。それは、今は確かに悲しい別離があるけれども、いつか必ずうれしい再会があるという信仰です。なぜなら、この夫婦の結婚は聖なる神権の権能により、主の宮でこの世から永遠にわたって結び固められて出発したからです。……

大勢の人が神殿結婚の祝福を受けるために〔長い〕旅をして来ました。まだ自国に神殿が建てられる前、遠いハワイ州ライエ神殿に参入するために、食事を抜いてまでお金を蓄えた日本の末日聖徒たちを知っています。ヨハネスブルグに神殿ができる以前には、南アフリカからイングランドのサリーにある神殿まで、必需品にも事欠く中で蓄えたお金で7,000マイル（約1万1,000キロ）の空の旅をして来た人々にも会いました。彼らの目には輝きがあり、顔には笑みがありました。彼らの口から、神殿の祝福は自らが払ったどのような犠牲にもはるかに勝る価値があるという証を聞くことができました。

かつてニュージーランドで、オーストラリアの西岸から来たという男性の証を聞いたことがあります。民事結婚をした後で妻子とともに教会に入った彼は、あの広大な大陸を横断し、タスマン海を渡ってニュージーランドのオークランドに着き、美しいワイカト溪谷にある神殿に参入したのです。この男性がこのようなことを言っていたのを覚えています。「わたしたちにはとても神殿を訪問する余裕はありませんでした。我が家の財産といえば、古い車と家具と食器だけでした。わたしは家族に『神殿に行けそうにない』と言いました。でも、美しい妻やかわいい子供たちの顔を見詰めたとき、わたしは、こう言い直しました。『神殿に行かないわけにはいかない。主が父さんに力を与えてくださるなら、うんと働いてまた車や家具や食器は買える。だが、愛するおまえたちを失うことにでもなったら、この世だけでなく永遠に惨めになってしまうからな。』」<sup>17</sup>

兄弟姉妹の皆さん、……神殿においてその業が始められるに当たり、わたしは小さな奇跡を見てきました。わたしは、たくましい男性がこの聖な

る宮の聖壇で妻を抱き締め、涙を流すのを見てきました。また、同じ聖壇の傍らで、子供たちを抱き締めて涙を流す父親と母親を見てきました。彼らは神殿で行使された権能を通して、時も死も彼らのきずなを断ち切ることはできないと知ったのです。<sup>18</sup>

### 3

**神殿は奉仕の聖域であり、わたしたちはそこで福音を受けることなく  
亡くなった人々のために身代わりとして救いの儀式を受けることができる**

かつて地上に生を受けながら福音を聞く機会がなかった人々が無数にいます。彼らは、この教会の神殿で提供されている祝福を受けられないのでしょうか。

この世を去った人々は、代理を務める生者を通して、まったく同じ儀式を受けることができます。死者のために地上で行われるバプテスマ、結婚、家族の結び固めなどの儀式を受け入れるのも拒むのも、霊界にいる当人たちの自由です。主の業に強制があってはなりません。なければならぬのは機会なのです。<sup>19</sup>

ここは奉仕の聖域です、この神聖な宮の中で行われる業の大部分は、既に死という幕のかなたへ行ってしまった人々のために身代わりで執行されるものです。わたしはこの業に比肩できる業を他に知りません。神の御子は、全人類のために身代わりの犠牲となりました。死者のための業は、わたしの知っているどの業よりも、この主の犠牲に近い業なのです。わたしたちは、幕のかなたにいるこの神聖な奉仕から恩恵を受けた人々から感謝の言葉を期待していません。この業は、今生きている人々が、既に亡くなっている人々のために行う奉仕であり、自己を捨てるという点では、いわば奉仕の神髄とも言える活動なのです。<sup>20</sup>

大勢の少年少女が……これらの神殿は自分たちの両親のためだけでなく、自分たちのためのものでもあることを思い出したことでしょう。12歳になると彼らは主の宮に参入し、死者のために身代わりのバプテスマを受けることができます。何と偉大な無私の奉仕でしょうか。自分で儀式を受けられない人々の代わりにこのまったくの無私の行いに携わるのは、青少年にとって実に素晴らしいことです。

増大する神殿活動と密接に関連して、家族歴史活動もますます盛んになっています。コンピューターの進歩は御業の進展を速めてくれています。提供される新しい技術を、人々はよく活用しています。「主がこれら全てに関わっておられる」という結論に達しない人などいるのでしょうか。コンピュー

ターの設備が向上すると同時に、増大する家族歴史活動に対応するため、神殿の数も増えています。<sup>21</sup>

わたしたちはこれまで地上で生きた全ての人々、すなわち、これまで地上で生活した数え切れない世代にわたる男女と、現在地上に生きている人々、そしてこれから地上に生を受けるであろう人々全員の永遠の祝福について責任を負っています。何と重い責任でしょう。この責任を全うするには、わたしたちはもう少し確固として立ち、もう少し熱心に働かなければなりません。<sup>22</sup>

幕のかなたにいる人々は、霊に関しては亡くなっておらず、まだ生きているわけですから、彼らは目を覚まして歓喜し、「不死不滅と永遠の命」に向かって前進することでしょう（モーセ1：39）。<sup>23</sup>

#### 4

自らをふさわしく保ち、頻繁に神殿に参入するとき、大いなる祝福が与えられる

今日、皆さん一人一人にチャレンジします。自らの生活を整え、主の宮に参入できるようにしてください。主の宮に行けば、皆さんのために用意された特別な祝福にあずかることができます。……求められる要件は少なくありませんが、それに勝る祝福が与えられます。<sup>24</sup>

わたしは全ての会員の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、それを貴重な財産と考へて大切に、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるようにと、わたしの持てる限りの力を込めて、強くお勧めします。<sup>25</sup>

頻繁に神殿に行くことができても、あるいはできなくても、神殿推薦状を得るにふさわしくあり、推薦状を常に携帯してください。それは末日聖徒として皆さんに何が期待されているかを思い起こさせてくれることでしよう。<sup>26</sup>

誠意と信仰をもって神殿に行く全ての人が、参入するたびにさらに成長した人となって出て来ることに、わたしは喜びを覚えています。わたしたちは皆、常に進歩を必要としています。時にはこの世の喧騒を離れて、神の神聖な宮の中に足を踏み入れ、神聖さと平安の中に主の御霊を感じる必要があります。<sup>27</sup>

この神聖な建物は、神に関わる崇高で神聖なことを学習する「まなびや」となります。ここでは、愛に満ちた御父が、全ての時代の息子娘のために定めてくださった計画について、その概略を学びます。また、前世からこ

の世の生涯を経て次の世に至る、人の永遠の旅路について、その壮大な行程が示されます。根底となる偉大な基本的な真理が、それを聞く誰にでも理解できるよう、明確かつ簡潔に教えられます。……

神殿はまた、個人の啓示や靈感を受ける場所でもあります。苦しみ悩むとき、難しい決断を下さなければならないとき、あるいは、複雑な問題に対処しなければならなくなったとき、これまで実に多くの人々が天からの導きを求めて、断食と祈りの精神で神殿に参入してきました。その結果、天からの声を直接聞くことがなくとも、進むべき方向について、そのとき強く心に感じ、後にそれが祈りに対する答えだと分かったと証する人々が大勢います。<sup>あかし</sup>

この神殿は永遠の真理の泉です。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない……。」(ヨハネ4：14)ここでは、いと高き所からもたらされる神聖な真理が、そして深遠な意味を持つ永遠の真理が教えられるのです。

この建物の中に入る人々にとって、この宮は聖約の家となります。ここでわたしたちは、全力を尽くしてイエス・キリストの福音に沿った生活をするを、厳かに、また神聖な思いで約束します。また、真実の宗教の礎であるそうした原則に従って生活することを、永遠の父なる神と聖約するのです。<sup>28</sup>

皆さんの生活は苦勞でいっぱいですか。問題や悩みや心配事がありますか。心に平安を感じたいと望んでいますか。主と心を通わせ、主の方法について深く考えたいと望んでいますか。どうぞ主の宮に行き、そこで主の御霊を感じて主と心を通わせてください。そうすれば、他のどのような場所でも見つけることのできない平安を知るようになるでしょう。<sup>29</sup>

悩み苦しむときは、主の宮に行き、世の煩いを閉め出してみてください。聖なる儀式を受け、先祖に同じ儀式を受ける機会を提供しましょう。セッションが終わったら、日の栄えの部屋に静かに座り、自分のために、あるいは亡くなった人々のために身代わりとして受けた祝福について深く考えてください。あなたの心は感謝で満たされ、主の大いなる幸福の計画が永遠の真理であるという思いで奮い立つでしょう。<sup>30</sup>

この騒がしく、忙しく、競争の激しい世界にあって、主の御霊による聖<sup>きよ</sup>めの力を経験できる聖なる宮があるのは、何という特権でしょう。わたしたちの心には絶えず利己的な思いが押し寄せてきます。わたしたちはそれに打ち勝たなければならず、そのためには、主の宮に行って、そこで死の



「どうぞ主の宮<sup>みたま</sup>に行き、そこで主の御霊を感じて主と心を  
通わせてください。そうすれば、他のどのような場所でも見つける  
ことのできない平安を知るようになるでしょう。」

幕の向こう側にいる人のために身代わりを務めて仕えること以上に良い方法はありません。……

わたしは皆さんにこの祝福された特権をもっと十分に生かすようにお勧めします。それによって皆さんの性質は精錬されるでしょう。わたしたちを覆っている利己心の殻が剥れ落ちるでしょう。生活に文字どおり聖めの力がもたらされ、より善い男性やより善い女性になるでしょう。<sup>31</sup>

……忙しいことは承知しています。なすべきことが山ほどあることも承知しています。しかし、もし主の宮へ行くなら、祝福され、生活がより善くなることを約束します。愛する兄弟姉妹の皆さん、どうか、どうか主の宮に行き、そこで受けることのできるすばらしい祝福を全て享受するという大いなる機会を逃さないでください。<sup>32</sup>



## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- ・ ヒンクレー大管長は、神殿の儀式は「わたしたちの神学の最も深遠な表現」（第1項）であり、「教会が提供すべき最高の祝福」（第2項）であると言っています。これらの儀式を通して、今までどのような祝福を受けてきたでしょうか。
- ・ ヒンクレー大管長は、神殿で喜びの涙を流す男性や女性について語っています（第2項）。神殿の儀式によってそのように感情が強くかき立てられるのはなぜか、個人的な経験から考えてみましょう。
- ・ ヒンクレー大管長は死者の贖いの業<sup>あがな</sup>について、「このまったくの無私の行いに携わるのは、青少年にとって実にすばらしいことです」と語っています（第3項）。両親と青少年がこの業にともに携わるために、どのようなことができるでしょうか。
- ・ どうしたら神殿における奉仕と礼拝のために時間を作ることができるでしょうか。神殿で奉仕すると、神殿の外の生活にどのような影響があるでしょうか（例については第4項を参照）。神殿に参入することで、どのような祝福を受けましたか。

### 関連聖句

出エジプト 25 : 8 ; 列王上 6 : 11 - 13 ; 教義と聖約 88 : 119 - 120 ; 109 : 12 - 13, 24 - 28 ; 110 : 1 - 10 ; 128 : 22 - 24

### 学ぶ際のヒント

「学んだことを分かち合う。これは学んだことを整理し、記憶力を高めるのに役立つ。」（『教師、その大いなる召し』17）

### 注

- |  |   |
|--|---|
| 1. 「神殿、改宗者の定着、伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号, 57  | チワワ州コロニアアレス神殿の奉獻の祈りから, <i>Church News</i> , 1999年3月13日付, 7                                  |
| 2. 「神殿、改宗者の定着、伝道活動について」57  | 5. 「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」『聖徒の道』1998年7月号, 95 - 96 参照   |
| 3. シェリー・L・デューによる引用, <i>Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley</i> (1996年), 325 | 6. <i>Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995-1999</i> (2005年) 311 - 312 |
| 4. "This Is a Day Long Looked Forward To" (1999年3月6日にささげられたメキシコ・                                   |   |

7. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年) 641
8. 「平和な神の宮居」『聖徒の道』1993年7月号, 76 参照
9. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 623-624
10. 「生ける預言者の言葉—ゴードン・B・ヒンクレーの教えと勧告」『リアホナ』2001年5月号, 16
11. 「伝道と神殿, そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, 60
12. 「神殿を聖く保つ」『聖徒の道』1990年7月号, 56
13. "Shining Star in a World Oppressed with Darkness" (2004年6月13日にささげられたニューヨーク州マンハッタン神殿の奉獻の祈り), *Church News*, 2004年6月19日付, 5
14. 「神殿は主の宮居」『聖徒の道』1986年1月号, 56 参照
15. 「福音の『最高の祝福』をもたらす新しい神殿」96
16. 「神殿と神殿事業」『聖徒の道』1982年11月号, 3
17. 「永遠に続く結婚」『リアホナ』2003年7月号, 5 参照
18. 「神殿は主の宮居」57 参照
19. 「なぜ神殿を」『聖徒の道』1992年6月号, 6
20. 「ソルトレーク神殿」『聖徒の道』1993年11月号, 6
21. 「大会へようこそ」『リアホナ』2000年1月号, 4 参照
22. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 640
23. 「将来に目を向けて」『聖徒の道』1998年1月号, 77
24. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1*, 362
25. 「伝道と神殿, そして管理の職」58
26. 「生ける預言者の言葉」4
27. 「伝道と神殿, そして管理の職」58
28. 「ソルトレーク神殿」6
29. "Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley," *Ensign*, 1996年4月号, 72
30. *One Bright Shining Hope: Messages for Women from Gordon B. Hinckley* (2006年), 103
31. 「結びの言葉」『リアホナ』2004年11月号, 104-105
32. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 624

---

しよくざい

# イエス・キリストの贖罪—— その影響は 広範囲にして個人的

「わたしは主イエス・キリストの贖罪について証<sup>あかし</sup>します。  
贖罪がなければ、人生は無意味です。  
贖罪こそ、わたしたちの存在の要なのです。」

## ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

2000年1月1日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は十二使徒定員会と連名で、救い主についての証<sup>あかし</sup>を発表した。「生けるキリスト」と題されたこのメッセージの中で、使徒たちは次のように宣言している。「わたしたちはイエス・キリストの類いまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖<sup>あがな</sup>いの犠牲が無限の力を有することを証します。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受ける全ての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてこられた人物は存在しません。」<sup>1</sup>

3か月後の総大会で、ヒンクレー大管長は生涯で救い主から多大な影響を受けたと証した。大管長は優しく、そして親しく、時には感極まって言葉を詰まらせながら語った。

「今朝、わたしが感謝の気持ちを感じている全てのこのことの中で、とりわけ感謝していることがあります。それはイエス・キリスト、すなわち全能なる神の御子、平和の君、聖なる御方に対して生きた証を得たことです。

……

イエスはわたしの友です。イエスほど多くのものを与えてくださった御方はおられません。『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。』（ヨハネ 15：13）イエスはわたしのために命を捨ててくださいました。永遠の命に至る道を開いてくださいました。これができるのは神をおいて他におられません。わたしは、イエスの友としてふさわしいと思われる人物でありたいと願っています。



「全ては主に、主の贖<sup>あがな</sup>いの犠牲に懸かっていたのです。……それが、御父〔の〕偉大な計画というアーチをつなぐ要石だったからです。」

イエスはわたしの模範です。イエスの生き方、まったく利己心のない行い、助けを必要とする人々に手を差し伸べること、そして最後の犠牲。全てがわたしにとって模範です。到底イエスの域に達することはできませんが、努力はできます。……

イエスはわたしを癒やしてくださいます。主が行われた奇跡に畏敬の念を覚えますが、それらが実際起きたことを知っています。わたしはイエスが生と死を治める主であられることを知っているのです、それらが真実であると受け入れます。イエスとその務めの中で行われた奇跡は、思いやりと愛とすばらしい人間性の表れです。

イエスはわたしの指導者です。イエスの降誕以来 2,000 年の間にイエスを愛し、イエスに従ってきた人々の長い行進の列に加わられたことを、わたしは光栄に思います。……

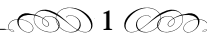
イエスはわたしの救い主であり、わたしの贖い主です。イエスは痛みと筆舌に尽くしがたい苦しみを経験した後に自らの命を与えることにより、死後の永遠の闇の深みからわたしと皆さん一人一人と、神の全ての息子と娘を引き上げてくださいました。イエスはさらに、もっと良いものを用意してくださいました。それは、わたしたちが永遠の命に通じる道を進むことができる光と理解の世界、そして成長と美の世界です。わたしの感謝はとどまるところを知りません。主に対するわたしの感謝は尽きることがないのです。

イエスはわたしの神、わたしの王です。イエスは永遠から永遠にわたって、王の王、主の主として治め、支配されます。主の権限に限界はありません。主の栄光に闇が訪れることはないのです。

いかなる人もイエスの代わりを務めることはできません。それは永久に不可能です。イエスは傷のない、いかなる欠点もない神の小羊であります。わたしはイエスに頭を垂れ、イエスを通して天の御父に近づくのです。……

感謝と心からの愛をもって、これらのことを主の聖なる御名によって証します。」<sup>2</sup>

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え



天の御父の愛は、独り子を賜物として下さったことに表れている

天の御父の深い愛を考えると、心がへりくだるのを覚えます。神がわたしたちを愛してくださっていることを思うと、感謝の気持ちで満たされま

す。その愛が人の理解を超えた深いものであることは、独り子を贈り物として世にお遣わしになったことに表れています。その贈り物を通して御父は、わたしたちの心に希望をもたらし、人との関わりに思いやりと敬意をもたらし、そして何よりも、わたしたちを罪から救い、永遠の命へと導いてくださるのです。<sup>3</sup>

#### 救い主の前世での働き

わたしたち全ての者の御父は、その子供であるわたしたちへの愛をもって、……〔一つの〕計画を与えてくださいました。その計画では、人生で歩む道を選択する自由が与えられます。御父の長子である、わたしたちの長兄がその計画には不可欠でした。人は選択の自由を持ち、それに付随して責任を問われることになっていました。人は世の道を歩み、罪や過ちを犯すことが分かっていました。しかし、神の御子が肉体を受け、全人類の罪を贖うために犠牲として御自身をささげられることになっていました。筆舌に尽くしがたい苦しみを通して、主は偉大な贖い主、全人類の救い主となられるのです。<sup>4</sup>

#### 救い主のこの世での働き

歴史を振り返ってみても、主ほど偉大な人物はおられません。偉大なエホバであられる主は、その身を落とされて、ベツレヘムの馬屋でこの世の生涯をお始めになりました。主はナザレで少年時代を過ごし、「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」のです（ルカ2：52）。

主はヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられました。「すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上を下ってくるのを、ごらんになった。

また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』（マタイ3：16－17）

主は地上で教え導かれた3年の間に、他の人がそれまでしなかったことをされました。また、それまで誰も教えなかったことを教えられました。

そして御自身をささげられる時が来ました。2階の部屋で晩餐ばんさんが開けられました。死すべき肉体をもって十二使徒と過ごす最後の晩餐でした。主は弟子たちの足を洗うことで、謙遜けんそんと奉仕について教えられました。それは彼らにとって決して忘れられない教えとなりました。<sup>5</sup>

## ゲツセマネの園での苦しみ

次いでゲツセマネの苦しみが続きます。主は言われました。「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」(教義と聖約 19:18)<sup>6</sup>

ゲツセマネの園でイエスは大いに苦しみ、御父に祈り求めつつ血の汗を流されました。しかしこれも偉大な贖いの犠牲のほんの一部でしかありませんでした。<sup>7</sup>

あるときわたしは〔ゲツセマネの園にある〕古いオリーブの木の木陰に〔座り〕、神の御子が間もなく確実に訪れる出来事を思って血の汗を流すほどの大きな苦しみを味わわれたことについて読んだことがあります。そのとき主は、御心ならその杯を取りのけてくださいと御父に祈りながら、しかし、わたしの思いではなく、御心が成るようにしてくださいと言われました。……そのとき非常に強く感じたのは、主の嘆願は間もなく御自分が経験する十字架上のひどく残酷な苦しみを思ってなされたものではないということです。もちろんそれも少しはあったでしょう。しかし、主の苦しみの大部分は、全ての世代にわたる神の息子と娘たち一人一人の永遠の福利のために果たすべき御自分の役割の重大さを思ってのものだったと、わたしは思います。

全ては主に、主の贖いの犠牲に懸かっていたのです。それが鍵だったのです。それが、御父がその息子と娘の永遠の命のために備えられた偉大な計画というアーチをつなぐ要石だったからです。これに向き合うことがどれほど悲惨で、それを達成するのがどれほど絶えがたい重荷であったとしても、主はそれに向き合い、それを達成されました。それは驚嘆すべきすばらしいことです。わたしたちの理解を超えることだと思います。それでもなお、わたしたちはその一端を見ることができます。そして、なお一層感謝を深めなければなりません。<sup>8</sup>

## 逮捕、はりつけ、死

主は荒々しい兵士たちに捕らえられ、律法に反して夜にアンナスのもとに引き出され、次いで狡猾で邪悪なサンヒドリンの議員であるカヤパの前に立たされます。そして翌朝早く、この奸計にたけた腹黒い男の前にもう一度お立ちになります。それからローマの総督ピラトのもとに送られました。彼の妻はこう警告します。「あの義人には関係しないでください。」(マタイ 27:19) このローマ人は責任を回避しようと、墮落し情欲に心を腐

らせたガリラヤの領主ヘロデのもとに主を送りました。キリストはののしられ、打たれました。鋭いばらで編んだ冠をかぶらされ、血だらけの背には、<sup>あざけ</sup>嘲るかのように、紫のがいとうが掛けられたのです。こうしてまた、主はピラトの前に連れて行かれましたが、群衆はピラトに「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」と叫びました（ルカ 23：21）。

主はよろめきながらゴルゴタへの道を歩いて行かれました。そこで残酷な心の持ち主が思いつきそうな最も非人道的で苦痛の伴う処刑法により、傷ついた主の体はくぎで十字架にはりつけにされました。

それでも主は次のように叫ばれたのです。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」（ルカ 23：34）<sup>9</sup>

全ての歴史の中で、ゲツセマネにおける、また十字架上におけるイエスの御姿<sup>みすがた</sup>以上に強く心に訴える姿はありません。それは、人類の贖い主、世の救い主が贖罪<sup>しよくざい</sup>を行う姿でした。

わたしはエルサレムにあるゲツセマネの園をハロルド・B・リー大管長……とともに訪れたときのことを思い出します。わたしたちは、そこで生じた大きな苦悩、すなわち、イエスが霊において独りで苦闘されたときにあらゆる毛穴から血を流されたほどの大きな苦痛を、ごく僅かにすぎませんが、感じることができました（ルカ 22：44；教義と聖約 19：18 参照）。わたしたちは、信頼ある職に召されていた者の裏切りを思い起こしました。悪意ある者たちの荒々しい手が神の御子を捕らえたことも思い起こしました。十字架上の苦しみの中で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれた孤独な御方のことを思い出しました（マタイ 27：46）。しかし、世の救い主は、勇敢にも、わたしたちのために贖罪を行う務めを続けられたのです。<sup>10</sup>

時間とともに、主の体は苦しみの中で衰弱していきました。地震が起こり、神殿の幕が裂けました。主の乾いた唇から次のような言葉が出てきました。「『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』こう言ってついに息を引きとられました（ルカ 23：46）。

全てが終わりました。主のこの世での生涯が終わったのです。主が全人類の身代わりとして命をささげられたのです。主を愛した人々は希望を失いました。主のなされた約束も忘れ去られました。ユダヤの安息日の前夜、主の遺体は慌ただしくはあってもいたわりをもって、借りた墓の中に納められました。<sup>11</sup>





「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。」（マタイ28：6）

### 復活

日曜日の朝早く、マグダラのマリヤと他の女性たちは墓の所にやってきました。墓への道を急いでいた彼女たちは、墓の入り口からどうして石が動かされているのか不思議に思いました。そこに着いたとき、彼女たちは天使を見ました。天使は言いました。「あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。」（マタイ28：5－6）

それはこれまでになかったことでした。空になった墓は、長年問われてきた疑問に対する答えでした。パウロは言いました。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」（1コリント15：55）<sup>12</sup>

## 2

## 救い主の贖いの犠牲によって全ての人々が墓からよみがえる

復活の朝のあの奇跡……は、全人類のための奇跡です。それは神の力による奇跡であり、神の愛子が全ての人類の罪の贖いのために命をささげられた奇跡です。それは、神のあらゆる息子や娘のための愛の犠牲でした。そうすることによって、主は死の縄目を解かれたのです。<sup>13</sup>

死ほど万人に共通したものではありません。しかし、不死への確信ほど信仰と希望をもたらす輝かしいものもありません。死に伴う失望、愛する者を失ったときの落胆は、あのイースターの朝の御子の復活に対する確信によってのみ和らげられます。……

たとえ死の冷酷な手に打たれても、そこには悲しみと暗闇のときに光を注ぐ主イエス・キリスト、神の御子の勝利の姿があります。主は類いまれな永遠の力で死に打ち勝たれました。主は世の贖い主であります。わたしたち一人一人のためにその命をささげられました。しかし主は復活し、眠っている者の初穂となられたのです。キリストは王の王として、全ての王の上に君臨しておられます。また、全能者として全ての統治者の上に君臨しておられます。主はわたしたちの慰めであります。霊が肉体を離れるときにわたしたちを取り囲む、この世の夜の闇のとばりに対する真の慰めであります。

全人類の頭上にそそり立つのが、キリスト・イエスなのです。<sup>14</sup>

わたしは一人の善良な人物の葬儀で話をしたことを思い出します。その友人の善良さに影響され、わたしはもう少し気高くなろうと思ったものです。わたしは何年もの間、彼の笑顔や思いやりにあふれる言葉、聡明な知性の働き、他の人々への心の広い奉仕を見てきました。そのような頭脳明晰で善良であった彼が突如亡くなったのです。わたしは彼のなきがらを眺めました。彼はわたしに気づくことなく、じっとしたまま、一言も発しませんでした。……

わたしは涙している友人の夫人と子供たちを見ました。わたしと同様、彼らもこの世で決して再び彼の声を聞くことができないのを知っていました。しかしそのとき、言葉では表現できない穏やかな思いがわたしに平安と安らぎをもたらしました。まるで「静まって、わたしこそ神であることを知れ」と言われているかのようなようでした（詩篇 46：10）。

また、次のように言っているようにも思われました。「心配することはない。これは全てわたしの計画の一部である。死を逃れる者は誰もいない。

わたしの愛する子でさえ十字架上で死んだ。しかし、そうすることによって、彼は栄光ある復活の初穂となった。彼は死からそのとげを、また墓からその勝利を取り去った。」

わたしは、悲しむマルタに主が語られた言葉を心の中で聞くことができました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ 11：25 - 26)<sup>15</sup>

### 3

#### 救い主の贖いの犠牲によって昇栄し永遠の命を得る機会が与えられる

全能の神に感謝をささげましょう。神の栄光ある御子は死の縄目を絶たれました。それはあらゆる勝利に勝る大いなる勝利でした。……キリストはわたしたちの勝利の主です。また、わたしたちの罪を贖ってくださった贖い主です。主の贖いの犠牲によって全ての人は墓からよみがえります。主が道を開いてくださったので、不死不滅だけでなく永遠の命を得ることができるのです。<sup>16</sup>

わたしは御子の贖罪しよくざいの意義をごく一部ですが理解し、感じています。全てを理解することはできません。贖罪はきわめて広範囲に及び、その影響はきわめて個人的であって、理解を超えます。<sup>17</sup>

贖罪の重要性を完全に理解することはわたしたちにはできません。わたしが知っているのは、贖罪が行われたという事実、そしてそれがわたしと皆さんのためであったということだけです。救い主の苦しみはあまりに大きく、苦悶くもんはあまりに激しいものでした。そのため、主が全人類の罪のために身代わりとして御自身をささげられたときのことを理解できる人は誰もいません。

わたしたちは救い主を通して赦しゆるを得ます。そして救い主を通して全人類が死から復活し、救いの祝福を受けるという確かな約束を得ることができます。救い主とそのきわめて重要な犠牲によって、従順であることを条件に、昇栄と永遠の命への扉が開かれるのです。<sup>18</sup>

わたしたちは皆、悔い改めて天の御父あわの憐れみによって赦しを受け、その後御父の模範ほうたうに従う必要のある放蕩息子、娘ではないでしょうか。

御父あいしの愛子であられる贖い主は、赦しと憐れみをもってわたしたちに手を差し伸べてくださっていますが、同時に悔い改めを命じてもおられます。……主が預言者ジョセフに与えられた啓示から引用しましょう。

「それゆえ、わたしは、悔い改めるようにあなたに命じる。わたしの口のむち鞭によって、わたしの憤りによって、またわたしの怒りによって打たれて、つらい苦しみを被ることのないように、悔い改めなさい。これらの痛みがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。

見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの痛みを負い、人々が悔い改めるならば痛みを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その痛みは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に痛みを受けたほどのものであった。……

わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御みたま霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約 19:15 - 18, 23)<sup>19</sup>

何と言っても、全ての歴史を調べ、人の心の奥底を探ってみるとき、全能者の御子、御父の王家の王子、かつてエホバと呼ばれた御方、身を低くしてベツレヘムでみどりごととしてこの地上に来られた御方が、屈辱と苦痛の中で御自分の命をささげられたこの恵みの行為以上にすばらしく、荘厳で、偉大なものはありません。この御方はこの行為によってあらゆる時代の神の息子たちと娘たちを全員、すなわち必ず死ぬ定めにある全ての人が再びその足で歩き、永遠に生きられるようにされたのです。主は、わたしたちが誰も自分ではできないことを代わってしてくださったのです。……

預言者イザヤはこう宣言しています。

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……

しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲こらしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:4 - 5)

クリスマスのすばらしい、本当の話は次のとおりです。前書きはユダヤのベツレヘムでのイエスの降誕で、序章は主の3年間の教導の業です。そしてこの話の重要な本編に当たるのが主の犠牲、すなわちわたしたち全員の罪を贖うためにカルバリの十字架上で痛みを受けてお亡くなりになるという、まったく無私的行為です。

終章は復活の奇跡です。それにより、「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」という保証が与えられました（1コリント 15：22）。

復活祭がなければクリスマスもありません。ゲツセマネとカルバリで贖いの業を行われたキリストがおられず、勝利の復活という事実がなかったなら、ベツレヘムのみどりごイエスは他の赤ちゃんと何ら変わらなかったでしょう。

わたしは永遠の生ける神の御子、主イエス・キリストを信じています。かつて地上を歩んだ人でこれほど偉大な御方はいらっしゃいません。それに匹敵する犠牲を払い、あるいは同等の祝福を与えてくださった御方はおられないのです。主は世の救い主であり、贖い主であられます。わたしはこの御方を信じています。わたしは曖昧さも妥協もなく、この御方の神性を宣言します。主を愛しています。わたしは敬虔に、また驚嘆の念をもって主の御名を呼びます。また、霊と誠とをもって御父を礼拝すると同じように、主を礼拝します。わたしは御父に感謝し、その愛子の前にひざまずきます。御子がかつて手を差し伸べ、わたしたち一人一人に言われました。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」（マタイ 11：28）

……わたしは皆さん一人一人が、僅か 1 時間でも、神の御子の行われたこのことの驚異と壮大さについて静かに瞑想し、思い巡らす時を過ごしてくださいよう願います。<sup>20</sup>

わたしは主イエス・キリストの贖罪について証します。これがなければ、人生は無意味です。贖いこそ、わたしたちの存在の要なのです。それにより、この世に生を受ける前にわたしたちがすでに生きていたことが分かります。この世の生涯は、将来のはるかに栄光に満ちた状態に到達するための一段階でしかありません。死の悲しみは復活の約束によって和らげられるのです。<sup>21</sup>

イエスはキリスト、身を低くして地上に来られた、予任された神の御子、かいばおけでお生まれになり、征服された国の隷属する民の中でお育ちになった神の御子、御父の肉における独り子、御父の長子、そしてわたしたちの救いの源です。主はわたしたちの贖い主、救い主であられます。そして、主はその教えに忠実に歩むものが皆、その贖いによって永遠の命を得ることができるようにしてくださったのです。<sup>22</sup>

## 研究とレッスンのための提案

### 質問

- 天の御父はどうしてわたしたちに「独り子〔という〕<sup>たまもの</sup>賜物」を遣わされたのでしょうか(第1項参照)。この賜物に対する感謝の気持ちを表すために、あなたは何かができるでしょうか。救い主がわたしたちのためにしてくださった事柄を要約したヒンクレー大管長の言葉を読むとき、あなたは何を考え、どのような気持ちになりますか。
- 第2項の中でヒンクレー大管長が死と復活を表現するために使った言葉を比較しましょう。それぞれの言葉の違いから、どんなことを学ぶことができるでしょうか。救い主の復活についての証<sup>あかし</sup>は、あなたの生活にどのような影響を及ぼしていますか。
- イエス・キリストの贖罪<sup>しよくざい</sup>について述べたヒンクレー大管長の証から何を学ぶことができるでしょうか(第3項参照)。救い主の贖罪のおかげで、あなたはどのような祝福を頂いているでしょうか。救い主があなたのために犠牲を払われたことを考えるとき、どのような気持ちになりますか。救い主について「静かに<sup>めいそう</sup>瞑想し、思い巡らす」時間を取るよう計画しましょう。

### 関連聖句

イザヤ 53 章；ヨハネ 3：16；11：25；2 ニューファイ 9：6－13；アルマ 7：11－13；34：8－10；ヒラマン 14：13－19；教義と聖約 18：10－12

### 教える際のヒント

「祈りを込めて教える準備をするとき、……特定の原則を強調するよう導かれるかもしれないし、特定の概念を提示するための最善の方法が思い浮かぶかもしれない。また日々のごくありふれた生活の中に、事例や実物を用いたレッスン、靈感に満ちた話などを発見することもある。さらに、誰かを招いてレッスンの援助をしてもらおうと思いついたり、皆に話せる自分自身の体験を思い出すかもしれない。」(『教師、その大いなる召し』48)

### 注

1. 「生けるキリスト—使徒たちの証<sup>あかし</sup>」『リアホナ』2000年4月号, 2
2. 「わたしの証」『リアホナ』2000年7月号, 83－85 参照
3. 「クリスマスのすばらしい、ほんどうの話」『リアホナ』2000年12月号, 3 参照
4. 「キリストに頼る」『リアホナ』2002年7月号, 102 参照

5. 「死に対する勝利」『聖徒の道』1985年7月号, 56 参照
6. 「死に対する勝利」56 参照
7. 「わたしの知っていること」『リアホナ』2007年5月号, 84
8. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 29 – 30
9. 「死に対する勝利」56 – 57
10. 「確信をもって生活する」『リアホナ』2001年9月号, 2 – 4 参照
11. 「死に対する勝利」57 参照
12. 「死に対する勝利」57 参照
13. 「死に対する勝利」57 参照
14. 「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号, 74
15. 「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」2, 4 参照
16. 「このかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」『リアホナ』1999年7月号, 85
17. 「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」4 参照
18. 「<sup>ゆる</sup>赦す」『リアホナ』2005年5月号, 84 参照
19. 「<sup>たんに</sup>汝らには赦すことが求められる」『聖徒の道』1991年11月号, 5 – 6 参照
20. 「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」6 参照
21. 「わたしの知っていること」84
22. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: Teachings of Gordon B. Hinckley* (1996年) 560 から



「信仰こそ、とどのつまりは、わたしたちにとって  
唯一偽りのない、永続する希望なのです。」



## 信仰をもって前進する

「この世において成功と達成感を得るために必要なものが一つあるとすれば、それは信仰です。」

### ゴードン・B・ヒンクレーの生涯から

「〔昔〕伝道に出るとき、父から（英語で）5つの単語を書いたカードを渡されました。それは、自分の娘の死を知らされた会堂司<sup>つかさ</sup>へかけられた主の言葉でした。『恐れることはない。ただ信じなさい。』（マルコ5：36）」<sup>1</sup>イングランドで奉仕する間、若かりしヒンクレー長老はその言葉を思い起こす必要に迫られる多くの苦難に直面した。後年、一つの経験について次のように述べている。

「ある日、ロンドンの新聞社のうち3社か4社が、1冊の古い本の復刻版に関する書評を掲載しました。モルモンの歴史と称するその本は悪意に満ち、その論調は卑劣なものでした。〔伝道部会長の〕メリル会長はわたしに向かい、『本の出版社まで行って、この件に関して抗議して来てほしい』と言いました。わたしは彼を見て、危うく『え、わたしがですか』と言うところでしたが、素直に『承知しました』と答えました。

正直言って、怖かったです。自分の部屋に戻ると、主にパロのもとに行くように命じられたモーセが感じたであろう思いに似たものを感じ、祈りをささげました。地下鉄でフリート街に行くためにグッジ街駅まで歩く間、胃がきりきりと痛みました。社長室を見つけ、受付の女性に名刺を渡しました。彼女はそれを持って社長の執務室に行きましたが、すぐに戻って来ると、社長は多忙のため面会できないと告げました。わたしは、もう5,000マイル〔8,000キロ〕も旅して来たのだから待ちます、と答えました。それからの1時間、彼女は2、3度社長の執務室まで足を運びました。そして、ようやく社長に会えることになったのです。部屋に入ったときの光景を一生忘れないでしょう。長い葉巻をくゆらせながらわたしを見る彼の表情は、まるで『じゃまするな』と言わんばかりでした。

わたしは手に書評欄を握り締めていました。それから自分が何を言ったかはまったく記憶にありません。自分を通して別の力が語っていたような

気がします。最初彼は反論する構えを見せ、けんか腰でさえありました。やがて態度が和らぎ始め、最終的には何らかの措置を取ると約束してくれました。それから1時間もたたないうちに、その本を全て出版社に返品するようイングランド中の書籍商に向けて指示が出されたのです。彼は多額の経費をかけて但し書きを印刷し、全部の表紙に貼り付けました。そこには、その本はフィクションにすぎず、歴史書と考えるべきではないこと、そして尊敬すべきモルモン信者に対していかなる悪意も意図するものでないことが明記されていました。後年、彼は教会に対してもう一つ大きな価値のある便宜を図ってくれました。そして、亡くなるまで毎年、わたしにクリスマスカードを送ってくれました。』<sup>2</sup>

出版社の社長室を訪れるという割り当てを受けたことで、ヒンクレー長老は、生涯を通じて自分の行動規範となる行いを実践したのだった。それは、信仰をもってチャレンジを受け入れ、助けを求めて熱心に主に祈り、それから仕事に取り掛かることである。

## ゴードン・B・ヒンクレーの教え

### 1

#### 天の御父とイエス・キリストを信じる信仰は目的意識を持った生活の源となり得る

この世において成功と達成感を得るために必要なものが一つあるとすれば、それは信仰です。信仰とは精力的で力強く、すばらしいものであり、パウロが宣言したように、それによって世界自体が創られたのです（ヘブル11：3参照）。わたしが言う信仰とは、単なる霊妙な概念などではありません。日常的で実用的な、役に立つ信仰です。わたしたちをひざまずかせ、主に導きを願い求めさせる信仰であり、一定の自信を授けられて立ち上がり、希望の結果をもたらすために働くよう動機づける信仰です。そのような信仰は比類なく貴重なものです。そのような信仰こそ、とどのつまりは、わたしたちにとって唯一偽りのない、永続する希望なのです。

……信仰は目的意識をもった生活の源となることができ、善を行ううへで何よりも強い動機づけは、わたしたちが神の子供であって、神がわたしたちに有意義な人生を送るよう望んでおられ、求めれば助けを与えてくださることを知ることで……。……

……わたしが信仰について話すとき、それは抽象的なものではありません。それは、神を我々の父として、またキリストを救い主として認めることから生まれる、生きた、生命力としての信仰です。……

神性を持つ御方を信じる信仰、万能者を信じる信仰はまさに、わたしたちを変えることのできる最も大いなる力なのです。<sup>3</sup>

昔わたしは山岳地帯の山道を縫うように走る鉄道の会社で働いていました。列車にはよく乗りました。蒸気機関車の時代です。線路を走るその怪物は巨大で、速く、危険でした。わたしは、機関士は夜中によく長い距離を走らせるものだと不思議に思ったものです。しかし後で、列車は長い距離を一度に進むわけではなく、短い距離を積み重ねていくことに気づきました。機関車には強力な前照灯が装備されていて、400ヤード（約350メートル）から500ヤード（約450メートル）先を照らすことができます。機関士が見ているのはその範囲だけです。それでいいのです。前照灯は夜が明けるまで列車の前方を照らし続けてくれるのですから。……

わたしたちの永遠の旅路も同じです。一步ずつ進むのです。そのようにして未知の世界を目指します。でも、信仰が行く手を照らしてくれます。信仰を養い育てれば、暗闇を進むことはありません。……

教会員の誰もが直面するチャレンジは、次の段階に進むこと、つまり自分にはできないと感じるときでも召された責任を受けること、しかも主が行く手を照らしてくださいという確信に似た期待を胸に信仰をもって召しを受けることです。<sup>4</sup>

## 2

### 信仰は地上における主の業の証と強さの土台である

教会の唯一の真の富は教会員の信仰にあります。<sup>5</sup>

実は大勢の人々が聖なる御霊の奇跡により心を動かされ、信じて受け入れ、教会員になっている事実はすばらしく、驚くべきものです。バプテスマを受けた彼らの人生は、永遠に善を求める人生となり、奇跡が起こります。信仰の種が心にまかれ、学ぶごとに膨らんでいきます。そして原則に原則を加えて受け入れていき、ついにはこの末日聖徒イエス・キリスト教会への信仰をもって歩む人々にもたらされる、驚くべき恵みをことごとく得るようになるのです。

……この貴く驚くべき信仰の賜物は永遠の父なる神からの賜物であり、今もこの業に力を与え、そのメッセージを静かながら活力のあるものとしています。信仰は全ての土台です。信仰は全ての本質です。伝道に出るときも、知恵の言葉を守るときも、什分の一を納めるときも皆同じです。わたしたちの全ての行いに信仰が現れるのです。

……この大義と王国の力は、どれほど膨大であっても物質的な財産にあるのではありません。それは教会員の心の中にあるのです。教会の成功の理由はそこにあります。力強く発展している理由はそこにあります。驚くべきことを達成できている理由はそこにあります。全ては、疑わず恐れずにただ前進する神の子供たちに全能者が授けてくださる信仰の賜物から来るのです。……

信仰は証<sup>あかし</sup>の土台です。信仰は教会への忠誠心の基本です。信仰は犠牲であり、主の業を推し進めるために喜んで自らをささげることです。<sup>6</sup>

福音はよき知らせです。これは勝利のメッセージです。熱い思いをもって受け入れるべき大義です。……

恐れてはなりません。イエスが、わたしたちの導き手であり、力であり、王なのです。

今は悲観的な考えがはびこっている時代です。わたしたちには信仰の使命があります。世界中の兄弟姉妹の皆さん、自分の信仰を再確認し、この業を世に推し進めようではありませんか。……

「兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。」(教義と聖約 128:22) これは、預言者ジョセフ・スミスが信仰をたたえて書いたものです。

この偉大な大義は過去においても栄光に満ちていました。それは、英雄的な行為と勇気と大胆さと信仰に満ちた時代でした。そして、主の僕<sup>しもべ</sup>のメッセージに耳を傾けようとしている全世界の人々に祝福をもたらすために前進しているわたしたちの時代も実にすばらしいものです。全能者が推し進めておられるこの輝かしい業の行く末は、何とすばらしいものになることでしょうか。神は、福音を受け入れて実践しようとする全ての人を感化し、世の贖<sup>あがな</sup>い主への愛で心を満たしている人々の無私の働きにより、あらゆる世代の神の息子娘のために備えられた永遠の祝福をも得させようとしておられるのです。……

この教会の会員はどこにいようと、力強く自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に従い、主を愛し、王国の建設に励むよう一人一人にお勧めします。ともにこの道を歩み続け、信仰を保ち、全能者を力の源としていこうではありませんか。<sup>7</sup>

## 3

### 信仰があれば、恐れを乗り越え、生きていくうえで遭遇する どんな障害やチャレンジにも立ち向かうことができる

一体、不安や恐れを感じたことのない人などいるのでしょうか。まったく感じたことがないという人に、わたしはいまだかつて出会ったことがあります。もちろん、人より大きな不安を抱く人もいます。すぐに不安を取り除くことのできる人もいれば、不安のとりこになって圧倒され、打ち負かされてしまう人もいます。人にばかにされるのではないかという不安、失敗を恐れるために感じる不安、孤独や無知への不安など、わたしたちはさまざまな不安に駆られます。現在に対して不安を感じる人もいれば、将来に対して不安を抱く人もいます。また罪の重荷を負い、その重荷から逃れるためなら何もかも手放してもよいと思いつつ、生活を変えることを恐れている人々もいます。恐れや不安は神から来るのではないことをはっきりと認識しておかなければなりません。そうした執拗<sup>しつよう</sup>で破壊的な力は、真理と義に敵対する者から来るものです。恐れは信仰と相反するものです。恐れや不安は人をむしばみ、死に至らせることもあります。<sup>8</sup>

パウロはテモテにこう書き送っています。「神がわたしたちに下さったのは、臆<sup>おく</sup>する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥づかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

この教会の全ての会員がこの聖句を見える場所に貼っておき、毎朝一日を始めるときにぜひ読んでほしいと思います。この言葉はわたしたちに、人に話す勇氣とやってみる信仰を与え、主イエス・キリストに対する信仰をより確かなものにしてくれます。このことを行えば、地上にさらに多くの奇跡が生まれるでしょう。<sup>9</sup>

わたしはある日、故国から亡命してきた一人の友人と話をしました。国が滅びたとき、彼は逮捕され、抑留されました。妻子は逃れることができたのですが、彼は愛する家族と連絡を取るすべを絶たれたまま、3年以上も獄中生活を送らなければならなかったのです。食物も乏しい陰うつな生活環境の下で、事態の好転する見込みはありませんでした。

わたしは「暗い毎日で何があなたの支えになったのですか」と尋ねてみました。

彼はこう答えました。「信仰です。主イエス・キリストを信じる信仰です。重荷を主に委ねると、とても心が軽くなったように感じました。」<sup>10</sup>



「だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、  
決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:8)

万事うまくいく。心配しなくていい。わたしは毎朝そう自分に言い聞かせます。万事うまくいくのです。最善を尽くすなら、万事うまくいきます。神に信頼を置き、信仰と将来に対する自信をもって前進してください。主はわたしたちをお見捨てにはなりません。主がわたしたちをお見捨てになることはないのです。<sup>11</sup>

神を信じる信仰をさらに強めても今以上の成果を挙げることはできないと、誰が言えるでしょうか。どんなに大きな障害も、どんなに難しいチャレンジも、信仰があれば克服することができます。信仰があれば、生活する中で絶えずわたしたちをつまずかせようとする悲観的な要素を乗り越えることができます。また努力すれば、墮落や邪悪な行為へと導く衝動に打ち勝つ力を養うことができます。信仰があれば、欲望を抑えることができます。悲観し、挫折した人々に手を差し伸べ、わたしたちの信仰の強さと力で温めてあげることができます。<sup>12</sup>

## 4

## わたしたちが信仰を働かせるとき、主は信仰を増し加えてくださる

自分の時間と才能を用いて神の業に働くならば、信仰は強くなり、疑いは徐々に消えていきます。<sup>13</sup>

教会は皆さんに多くのことをお願いするでしょう。さまざまな職で奉仕するようお願いすることになります。教会には専門の牧師がいません。皆さんがこの教会を教え導くのです。奉仕の業に召されるときはいつも、それを受けるように強くお勧めします。そうするなら、皆さんの信仰は強められ、増し加えられます。信仰はわたしの腕の筋肉に似ています。筋肉は使えば、そして栄養を与えるなら、強くなり、さまざまなことができるようになります。しかし、包帯で腕をつるしてまったく使わなければ、筋肉は徐々に力を失い、役に立たなくなってしまいます。奉仕する機会を全て受け入れ、召しを全て受けるなら、それを果たせるように主が助けてください。教会は、主の助けを借りてもできないようなことを皆さんにお願いすることはありません。<sup>14</sup>

「〔主よ、〕わたしたちの信仰を増してください。」(ルカ 17:5 参照) わたしは全ての人のためにそう祈り求めます。不安や疑いの深い淵<sup>ふち</sup>を埋めることができるように、わたしたちの信仰を増し加えてください。……

……主よ、この神聖で偉大な業をあしざまに言う愚かな人々の攻撃を乗り越えることができるよう、わたしたちの信仰を増し加えてください。わたしたちの意志を強めてください。あなたの偉大な指示に従ってあなたの王国を築き、世に広げることができるよう助けてください。また、この福音<sup>あかし</sup>があらゆる国々への証として世界中に<sup>の</sup>宣べ伝えられますように。……

……さまざまな問題を抱えて苦しいときも、奇跡に満ちた将来を思い描くことができるように信仰を与えてください。<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一や献金を納めて全能の神であるあなたを信頼し、約束されたように天の窓を開く信仰を与えてください。しかし、正しいことを行って結果を神に委ねる信仰を与えてください。

逆境<sup>あらし</sup>の嵐が吹きすさび、わたしたちが地に投げ出されるときに、信仰を与えてください。病めるときには神権の力に対する確信を強くし、ヤコブの勧告に従えるように導いてください。

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名<sup>みな</sup>によって、オリーブ油を注いで祈ってもらおうがよい。

信仰による<sup>いのり</sup>祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。」(ヤコブの手紙5：14－15，強調付加) ……

主よ、わたしたちが死の陰の谷を歩むときに、ほほえみを浮かべて苦しみを乗り越えられるように信仰を与えてください。それは、悲しみも恵み深い御父の永遠の計画の一部であり、この世の生涯の後にはより輝かしい栄光の世界が待っていて、神の御子の<sup>あがな</sup>贖いを通して全人類が復活し、忠実な人々は昇栄を受けることを知っているからです。

あらゆる時代の人々に対してあなたの永遠の<sup>みこころ</sup>御心が成就するために、死者の贖いの業を推し進める信仰を与えてください。

父よ、大きな結果を得るために、小さなことについて与えられた勧告に従順になれるよう信仰を与えてください。……

主よ、わたしたちがお互いを、そして自分自身をより一層信頼し、善をなして偉大なことを行う力があるという自信を強められるように助けてください。……

主よ、わたしたちの信仰を増し加えてください。わたしたちに最も必要なのは、信仰を増し加えることです。ですから、愛する父よ、あなたとあなたの<sup>あいし</sup>愛子、そしてあなたの大いなる永遠の業を信じる信仰を増し加えてください。また、あなたの子供である自分自身をもっと信頼し、御心と教えに従って出て行き行動する自分の能力に自信が持てるように強めてください。<sup>15</sup>

## 研究とレッスンのための提案

---

### 質問

- ヒンクレー大管長は、神を信じる信仰は「わたしたちを変えることのできる最も大いなる力」であると教えました(第1項)。あなたはどのような経験を通して、信仰の力について学んできましたか。どのように、「未知の世界を目指〔すとき〕、信仰が行く手を照らしてくれ〔る〕」のを体験しましたか。
- 教会の力の源について、第2項からどんなことを学べますか。信仰と犠牲にはどのような関連があるのでしょうか。どうすれば「この業を世に推し進めよう」というヒンクレー大管長の呼びかけに従うことができるか考えてください。
- 信仰に試練の中にあるわたしたちを助ける力があるのはなぜでしょうか(第3項参照)。信仰のおかげで恐れを克服することができたのは、どん



なときですか。信仰のおかげで他の障害を乗り越えることができたのは、どんなときですか。

- 第 4 項にあるヒンクレー大管長の祈りを読んでください。この祈りのどの言葉に特別な意味を感じますか。信仰は、疑念や疑問を克服するのをどのように助けてくれるでしょうか。さまざまな問題を抱えていても、信仰によって奇跡が見られるようになるのはどうしてでしょうか。

### 関連聖句

ヨハネ 14 : 12 – 14 ; ローマ 5 : 1 – 5 ; 2 ニーフアイ 26 : 12 – 13 ;  
モロナイ 7 : 33 – 38 ; 教義と聖約 27 : 16 – 18

### 教える際のヒント

「聖文を定期的に研究し、御<sup>みたま</sup>霊の導きを熱心に求めるならば、レッスンをどう準備するかについて理解の目が開かれる。また、レッスン中に御霊の導きを受けてそれに従うための備えもできる。」(『教師、その大いなる召し』14)

### 注

1. 「恐れることはない。ただ信じなさい」『聖徒の道』1996年5月号, 4 参照
2. “If Ye Be Willing and Obedient,” *Ensign*, 1995年7月号, 5
3. *Standing for Something: Ten Neglected Virtues That Will Heal Our Hearts and Homes* (2000年), 109 – 110
4. 「信仰によって歩む」『リアホナ』2002年7月号, 80 – 81 参照
5. 「教会の現状」『聖徒の道』1991年7月号, 56 参照
6. 「信仰の奇跡」『リアホナ』2001年7月号, 83 – 85 参照
7. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, 78 参照
8. 「神がわたしたちにくださったのは、臆する霊
9. 「恐れることはない。ただ信じなさい」6
10. 「信じない者にならないで」『聖徒の道』1990年4月号, 5 参照
11. “Latter-Day Counsel: Excerpts from Addresses of President Gordon B. Hinckley,” *Ensign*, 2000年10月号, 73
12. *Standing for Something*, 109–110
13. 「かねて言われたとおりに、よみがえられたのである」『聖徒の道』1983年9月号, 9
14. “Inspirational Thoughts,” *Ensign*, 1999年6月号, 2
15. 「主よ、わたしたちの信仰を強めてください」『聖徒の道』1988年1月号





## 絵画・写真リスト

- 40 ページ—「ジョセフ・スミスの最初の示現」の一部, グレッグ・K・オルセン画
- 48 ページ—「一人の羊飼い」ハワード・リヨン画
- 57 ページ—「エンサインピークに立つブリガム・ヤング」A・パロイ・イートン画
- 60 ページ—「キリストと金持ちの若い役人」の一部, ハインリッヒ・ホフマン画, C・ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載
- 76 ページ—「パーリー通りの行き止まり」グレン・S・ホプキンソン画
- 83 ページ—「手車隊の救助」グレン・S・ホプキンソン画
- 122 ページ—「山上の垂訓」の一部, ハリー・アンダーソン画
- 126 ページ—「弟子の務めについて教える救い主」ジャスティン・クンツ画
- 129 ページ—「エマオへの道」ジョン・マクノートン画
- 136 ページ—「主イエス・キリスト」デル・パーソン画
- 172 ページ—「ニーファイの折れた弓」マイケル・ジャービス・ネルソン画
- 194 ページ—「ベテスダで病人を癒すキリスト」カール・ハインリッヒ・プロッホ画
- 222 ページ—「モルモン書を読むパーリー・P・プラット」ジェフ・ハイン画
- 236 ページ—「キリストの肖像」の一部, ハインリッヒ・ホフマン画, C・ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載
- 286 ページ—「もう失われることはない」グレッグ・K・オルセン画
- 308 ページ—写真©Deseret Morning News
- 312 ページ—「ゲツセマネにおけるキリスト」ハリー・アンダーソン画
- 330 ページ—「少年とキリスト」の一部, カール・ハインリッヒ・プロッホ画



# 索引

## あ

### 愛

- \_\_は心を変えることができる, 196
- \_\_は福音の基本原則である, 197
- あまり活発でない会員に\_\_の手を差し伸べる, 290
- 家族は\_\_を通して強められる, 167 - 168
- 教会の会員でない人々に対する\_\_, 270 - 272
- 夫婦の\_\_, 150 - 157

### 証

- \_\_の賜物, 135 - 145
- \_\_は教会の偉大な力である, 137, 180, 327 - 328
- \_\_は信仰をもって歩むときに支えとなる, 137 - 142
- \_\_をよりどころとし, 人に伝えなければならぬ, 144 - 145
- ゴードン・B・ヒンクレーの\_\_, 4, 5, 33 - 34, 135, 311 - 313, 321
- モルモン書についての\_\_, 218 - 219
- わたしたちの生活は\_\_の象徴となるべきである, 123

### あまり活発でない会員

- 愛の心で\_\_に手を差し伸べる, 290
- 教会活動に戻って来るよう勧める, 295 - 296

### 安息日, 59, 118

## い

### イエス・キリスト

- ある人々は\_\_の神性を否定する, 128 - 130
- \_\_と天の御父は別個の御方であられる, 46
- \_\_に頼る, 121 - 133

- \_\_について証を得る, 128 - 132, 142 - 144
- \_\_の復活, 125 - 128, 317
- \_\_の贖罪, 125, 311 - 321
- \_\_は人類史上, 中心となる御方, 42
- 『生けるキリスト—使徒たちの証』, 33 - 34, 311
- 十字架におかかりになった, 125, 315 - 316
- ジョセフ・スミスに御姿を現された, 42, 44 - 46
- 前世での働き, 314
- 地上における教導の業, 123 - 125, 314
- わたしたちとともにいると約束しておられる, 61, 283

### 一致

- 教会員の間の\_\_, 61
- 教会の会員でない人々との\_\_, 263 - 266
- 大管長会と十二使徒の間の\_\_, 258

### 祈り

- \_\_の答えを求める, 108 - 109
- \_\_の力, 103 - 109
- \_\_は祝福と幸福をもたらす, 103 - 104
- 家族の\_\_は奇跡を引き起こす, 105 - 108
- 家族の\_\_は子供たちが信仰を育みながら成長するのを助ける, 163 - 164
- ゴードン・B・ヒンクレーの家族の\_\_, 103

## え

- 永代教育基金, 28 - 29, 185, 188

## お

- 恐れ, 70 - 72, 144, 329

## 親

- \_\_は怒りを抑えるべきである, 167 - 168
- \_\_は家庭で学ぶのに適した雰囲気を作るべきである, 231 - 232
- \_\_は子供たちのために祈るべきである, 104, 163, 166
- \_\_は子供たちを教え, 世話をする責任がある, 161 - 163
- \_\_は早くから子供を伝道活動に備えるべきである, 280 - 281
- \_\_は反抗的な子供についてあきらめるべきでない, 166 - 167
- ひとり\_\_, 161 - 163

## か

改宗者の定着, 30, 287 - 296

## 開拓者

- ウィリー手車隊とマーティン手車隊の\_\_, 81 - 84
- \_\_の受け継ぎ, 77 - 87
- \_\_はその信仰を実現させた, 78 - 80
- 現代の\_\_, 78, 84 - 85
- 初期の教会の\_\_, 2 - 3, 55 - 58, 77 - 84
- 全ての教会員は\_\_である, 84 - 85

## 回復

- \_\_に先立ってルネッサンスと宗教改革が起こった, 43 - 44
- 最初の示現により\_\_が到来した, 42, 44, 54
- ジョセフ・スミスを通してなされた\_\_, 41 - 42, 44 - 50
- 神権の鍵と権能の\_\_, 42, 44 - 45, 207 - 208
- 福音の\_\_, 41 - 50

## 家族

- 愛と尊敬の精神によって\_\_を強める, 167 - 168
- \_\_に対する教会の立場, 58
- \_\_の宣言, 29, 159, 161
- \_\_は永遠にわたって結び固めることができる, 49

- \_\_は関係の中で最も神聖である, 161
- \_\_は社会の基本単位, 49, 106
- \_\_は天の御父によって定められた, 161

## 家族の祈り

- \_\_は奇跡を引き起こす, 105 - 108
- \_\_は子供たちが信仰を育みながら成長するのを助ける, 163 - 164
- ゴードン・B・ヒンクレーの家庭の祈り, 107

確固として立つ, 72 - 73, 173 - 174, 203, 245

## 家庭

- \_\_で学ぶのに適した雰囲気を作る, 231 - 232
- 義になかった生活の基, 159 - 168
- ゴードン・B・ヒンクレーの\_\_, 159
- 「家族」の項も参照

家庭の夕べ, 164

神会, 46

感謝, 67 - 68

寛容, 266 - 268, 270 - 272, 277

## き

## 儀式

- 死者のための\_\_, 49, 305 - 306
- 神殿の\_\_は教会の最高の祝福である, 303 - 305

## 教育

- 永代教育基金を通して\_\_を受ける, 28 - 29, 185, 188
- \_\_は機会をもたらす, 230, 232 - 234
- ゴードン・B・ヒンクレーの\_\_, 4 - 6
- 生涯にわたる\_\_, 227 - 237
- 霊の\_\_は知性の\_\_と同じように大切, 234 - 236

## 教会の改宗者

- \_\_は神の御言葉による養いが必要である, 289, 292, 294 - 295
- \_\_は責任が必要である, 289 - 290, 292 - 294
- \_\_は貴い, 289 - 292
- \_\_は友情が必要である, 292 - 293

## 教会の大管長

- \_\_が職務を十分に果たせない場合、  
255 - 257
- 主により召される、252 - 253
- 先任使徒が次の\_\_になる、253 - 254

虐待、211 - 212

## 逆境

- 開拓者が経験した\_\_、3、77、78、80  
- 84
- \_\_にあっても堪え忍ぶ、66
- \_\_に関するモルモン書の記述、220
- \_\_に備える、188 - 190
- 信仰は\_\_に耐えるのを助ける、  
329 - 330

キリスト、「イエス・キリスト」の項を参照

緊急時の備え、188 - 190

## く

## 悔い改め

- \_\_は救い主の贖罪により可能となった、  
319 - 320
- \_\_は福音の第一の原則の一つである、  
68
- 不道德な行いの\_\_、247

## け

## 啓示

- \_\_は静かな細い声を通して与えられる、  
115 - 116
- 現代の\_\_、50
- 小規模神殿を建設する\_\_、30 - 32、  
299 - 301
- 中国香港神殿を建設するための\_\_、113  
- 114

## 結婚

- \_\_において誠実で忠実である、157
- \_\_における幸福は愛にあふれた関心を示すことからもたらされる、155 - 157
- \_\_は対等な協力関係、152
- \_\_は天の御父によって定められた、  
150 - 151

- ゴードン・B・ヒンクレーとマージョリー・ペイの\_\_、12 - 13、91 - 92、147 - 150
- 対等なパートナーシップ、147 - 157

決断、178 - 179

## こ

## 幸福

- 祈りがもたらす\_\_、103 - 104
- 結婚における\_\_は愛にあふれた関心を示すことにある、155 - 157
- \_\_は福音の知識によってもたらされる、  
68 - 70、95
- \_\_を培う、65 - 73
- 主の計画は\_\_の計画である、67
- 伝道活動がもたらす\_\_、280 - 281
- 奉仕がもたらす\_\_、198 - 200

## 子供

- \_\_たちには罪がない、49
- \_\_の人生には育った家庭の教えが色濃く反映する、167 - 168
- \_\_はごく幼いときから教えるべきである、164 - 166
- \_\_は主の賜物、162
- \_\_は早くから伝道活動に備えるべきである、280 - 282
- \_\_は光と真理の中で育てられるべきである、100
- 反抗的な\_\_には愛と祈りが必要、166

## さ

最初の示現、42、44 - 46、54

財政管理、188 - 191

## し

使徒、42、253、255 - 257

シニア宣教師、281

## 従順

- あらゆる面で\_\_であることが求められる、175
- \_\_とは福音に従って生活することを意味する、171 - 180
- \_\_は教会を強める、179 - 180

\_\_は幸福への道である, 68  
 \_\_を通してもたらされる祝福, 61,  
 175 - 176

贖罪, 「イエス・キリスト, の贖罪」の項  
 を参照

女性  
 神の計画における\_\_の神聖な役割,  
 92 - 93  
 神の娘としての\_\_, 91 - 100  
 教会における\_\_の責任, 96 - 97  
 \_\_に与えられる機会, 233 - 234  
 \_\_は神権者と協力して働く, 96 - 97,  
 213 - 214  
 忠実な\_\_の力, 98 - 100

ジョセフ・スミス, 「スミス, ジョセフ」  
 の項を参照

自立  
 永代教育基金を通して\_\_する, 28 -  
 29, 185, 188  
 \_\_は平安をもたらす, 183 - 191  
 他の人が\_\_するのを助ける, 187 - 188

試練, 「逆境」の項を参照

シングルアダルト, 153 - 155

神権  
 神は\_\_を通して御自身の業を成し遂げら  
 れる, 208  
 \_\_と教会の組織, 47 - 48, 251 - 260  
 \_\_の権能と鍵が回復された, 42, 44 -  
 45, 137, 207 - 208  
 \_\_の力と祝福, 205 - 214  
 \_\_の定員会は力の源となる, 212 - 213  
 \_\_は神の全ての子供たちを祝福する,  
 208 - 209  
 \_\_を持つためのふさわしさ, 209 - 213  
 全てのふさわしい男性は\_\_を持つことが  
 できる, 209  
 メルキゼデク\_\_, 208 - 209

信仰  
 開拓者の\_\_, 78 - 80  
 義にかなった女性の\_\_は力をもたらす,  
 99  
 \_\_は証の土台である, 327 - 328

\_\_は目的意識をもった生活の源,  
 326 - 327  
 \_\_はわたしたちが恐れや逆境を乗り越え  
 る助けとなる, 329 - 330  
 \_\_を働かせると, \_\_が増す, 331 - 332  
 \_\_をもって前進する, 325 - 332

神殿  
 家族は\_\_で永遠に結び固められる,  
 151 - 152, 304 - 305  
 死者のための儀式は\_\_で行われる,  
 305 - 306  
 小規模\_\_を建設する啓示, 30 - 32,  
 299 - 301  
 \_\_の祝福, 299 - 308  
 \_\_は平安と啓示の場所である,  
 306 - 308  
 \_\_はわたしたちの証の表れ, 302 - 303

## す

家族に関する宣言, 29, 155  
 救いの計画, 49, 306 - 307

## せ

聖約, 118, 173 - 174, 307

## 聖霊

\_\_は家庭や教会における奉仕を導く,  
 114 - 115  
 \_\_は真理を証する, 114, 218 - 219  
 \_\_は人との相違点を乗り越えるのを助け  
 る, 281 - 282  
 \_\_はわたしたちにささやき、啓示を伝え  
 る, 113 - 118  
 \_\_はわたしたちを啓発し、築き上げ、鼓  
 舞する, 116 - 118  
 \_\_を常に伴侶とすることができる,  
 114 - 115, 118

## そ

ステーキ会長, 258 - 259  
 スミス, エマ, 93 - 95, 176  
 スミス, ジョセフ  
 教会は\_\_を通して回復された, 41 -  
 42, 44 - 50, 137



- \_\_の証, 127  
 \_\_の最初の示現, 42, 44 - 46  
 \_\_はモルモン書を翻訳した, 218, 220
- 尊敬  
 教会の会員でない人々に対する\_\_,  
 267 - 268, 270 - 272  
 \_\_は家族の関係を強める, 167 - 168
- ち
- 
- 父親  
 神権者は善い\_\_となるべきである,  
 210 - 212  
 \_\_の責任, 162  
 「親」「家族」の項も参照
- 父なる神, 「天の御父」の項を参照
- て
- 天の御父  
 \_\_がこの教会を導いておられる, 61,  
 176  
 \_\_とイエス・キリストは別個の御方であ  
 られる, 46  
 \_\_について証を得る, 142 - 144  
 \_\_は戒めを守る者を祝福される, 61  
 \_\_は家族を定められた, 161  
 \_\_は骨肉の体を持っておられる, 46  
 \_\_はジョセフ・スミスに御姿を現された,  
 44, 44 - 46  
 \_\_は力の真の源, 93  
 \_\_はわたしたちに祈るよう勧めておられ  
 る, 104 - 105  
 \_\_はわたしたちの霊の父である, 49,  
 73, 104 - 105  
 \_\_はわたしたちを愛しておられる,  
 313 - 314
- 伝道活動  
 家族の祈りは\_\_を助ける, 106 - 108  
 ゴードン・B・ヒンクレーの\_\_, 6 - 9,  
 65, 195, 275 - 276, 325 - 326  
 主はわたしたちの\_\_における努力を祝福  
 してくださる, 283  
 \_\_において専任宣教師を助ける,  
 277 - 280  
 \_\_のために子供を備える, 280 - 281
- \_\_は幸せをもたらす, 280 - 281  
 \_\_は神権の責任である, 280  
 \_\_を通して世の人に手を差し伸べる,  
 276 - 277  
 末日における\_\_, 275 - 283
- と
- 
- 徳  
 \_\_高い思い, 246 - 247  
 \_\_の価値, 94, 242  
 \_\_は祝福をもたらす, 242 - 243  
 \_\_を人生の基とする, 241 - 247
- は
- 
- 背教, 42 - 43, 47
- 母親  
 \_\_という神聖な召し, 95 - 96  
 \_\_の責任, 161 - 162  
 「親」「家族」の項も参照  
 バランスが取れずに育った木, 164 -  
 166
- ひ
- 
- ビショップ, 259 - 260
- ヒンクレー, エイダ・ビトナー (母), 2 - 6,  
 8, 65, 91, 135
- ヒンクレー, ゴードン・B  
 永代教育基金を導入する, 28 - 29,  
 185, 188  
 夫としての\_\_, 12, 147 - 150  
 改宗者の定着を強調する, 30,  
 287 - 296  
 『家族—世界への宣言』を読み上げた,  
 29, 159  
 カンファレンスセンターを奉献する,  
 33  
 癌を患う, 35  
 教会の大管長になる, 22 - 24,  
 251 - 252  
 教会のラジオ広告および伝道文献委員会  
 の幹部書記に使命される, 10 - 11,  
 14, 53 - 54, 217  
 子供時代, 3 - 4

- 「60 ミニッツ (60 Minutes)」のインタビューを受ける, 25, 265 - 266  
 小規模神殿を建設する啓示を受ける, 31 - 32, 299 - 301  
 十二使徒定員会での\_\_の奉仕, 18 - 19, 251  
 スイス・ベルン神殿のための神殿エンダウメント映像を製作する, 16  
 専任宣教師としての\_\_の伝道, 6 - 9, 65, 195, 275 - 276, 325 - 326  
 ソルトレイク・シティで2002年冬季オリンピックが開催される, 25 - 26  
 大管長会での\_\_の奉仕, 20 - 22, 251 - 252  
 大統領自由勲章を受賞する, 26  
 地域会長会を召すことを発表する, 21  
 父親としての\_\_, 12 - 14, 103, 159  
 中央宣教師委員会の幹部書記に指名される, 15  
 妻マージョリーの死を悼む, 34, 150  
 デンバー・アンド・リオ・グランデ鉄道に勤める, 14  
 100番目の神殿を奉献する, 32, 281  
 \_\_が受けた教育, 4 - 6  
 \_\_とマージョリー・ペイの結婚, 12 - 14, 91 - 92, 147 - 150  
 \_\_の証, 4, 5, 33 - 34, 135, 311 - 313, 321  
 \_\_の家族の受け継ぎ, 2 - 3, 81 - 82  
 \_\_の死, 36  
 \_\_の葬儀, 35 - 36  
 \_\_の旅, 9, 27, 41, 91, 154, 276  
 \_\_の誕生, 2  
 \_\_の両親, 2 - 9, 65, 91, 135, 227  
 マージョリー・ペイとのコートシップ, 6, 12, 147  
 ユタ大学を卒業する, 6, 53  
 霊的な学問とこの世の学問を推進する, 28 - 29, 227 - 237  
 若い男性のときに信仰の試しに遭う, 5 - 6
- ヒンクレー, プライアント・ストリングム(父), 2 - 6, 65, 77, 91, 135, 183, 195, 227 - 229
- ヒンクレー, マージョリー・ペイ(妻)  
 ゴードン・B・ヒンクレー大管長とのコートシップ, 6, 12, 147  
 \_\_とゴードン・B・ヒンクレーの結婚, 12 - 14, 91 - 92, 147 - 150  
 \_\_の死, 34, 150
- 
- ふ
- フェロウシップ  
 教会の会員でない人々への\_\_, 263 - 272  
 新会員やあまり活発でない会員への\_\_, 287 - 296
- 福音  
 \_\_は勝利の言葉, 70 - 72  
 \_\_はジョセフ・スミスを通して回復された, 41 - 42, 44 - 50  
 \_\_は喜ぶ理由を与える, 68 - 70, 95
- 福祉, 187 - 188, 191  
 扶助協会, 97 - 98  
 負債, 190 - 191
- 復活  
 イエス・キリストの\_\_, 125 - 128, 317  
 \_\_は救い主により可能となった, 318 - 319
- ブラット, パーリー・P, 221 - 223
- 
- へ
- 平安  
 自立から得られる\_\_, 183 - 191  
 神殿で\_\_を見いだすことができる, 306 - 308  
 徳高い生活から得られる\_\_, 243 - 245  
 \_\_を求めて祈る, 105
- 
- ほ
- 奉仕  
 教会は\_\_の機会を提供する, 201 - 203  
 神殿での\_\_, 305 - 306

- 聖霊は\_\_においてわたしたちを導いてく  
 ださる, 114 - 115  
 扶助協会での\_\_, 96 - 98  
 \_\_によって真の自分を見いだす,  
 200 - 201  
 \_\_は不幸せに一番よく効く薬である,  
 198 - 200  
 無私の\_\_, 196 - 203  
 ポルノグラフィー, 118, 211, 243 -  
 247
- ま**


---

 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 初期の指導者は, \_\_の行く末を見据えて  
 いた, 55 - 56, 80  
 ジョセフ・スミスを通して回復された,  
 41 - 42, 44 - 50  
 全地に満ちる, 44, 54 - 55, 283  
 \_\_にあって, 他の教会とは異なる教え,  
 46 - 50  
 \_\_の会員一人一人に果たすべき大切な役  
 割がある, 56 - 58  
 \_\_の組織, 47 - 48, 251 - 260  
 \_\_は国々の民を招く旗, 53 - 61  
 \_\_は奉仕の機会を提供する, 201 - 203
- も**


---

 モルモン書  
 イエス・キリストについて証する, 47,  
 218  
 ジョセフ・スミスによって翻訳された,  
 218, 220  
 \_\_の証によりその他の事柄が真実で  
 あることも確信できるようになる,  
 219 - 220
- \_\_の証を得る, 218 - 219  
 \_\_の力, 217 - 224  
 \_\_の物語, 176, 220 - 221  
 \_\_は今日の問題の解決策を見いだす助け  
 となる, 220 - 221  
 \_\_は聖書と並ぶもう一つの証, 47  
 \_\_はわたしたちの人生と物の見方を変え  
 る, 221 - 224  
 \_\_を読むというゴードン・B・ヒンクレー  
 のチャレンジ, 217
- よ**


---

 預言者  
 \_\_は主により召される, 252 - 253  
 \_\_はたいてい高齢の男性である, 253  
 \_\_は霊的にも物質的にも備えるようわたし  
 たちに勧めている, 188 - 190
- ら**


---

 楽観主義, 65 - 73
- れ**


---

 霊, 「聖霊」の項を参照
- ろ**


---

 労働  
 \_\_の必要性, 185 - 187  
 \_\_は教会の偉大な特質である,  
 186 - 187  
 \_\_を通して学ぶ教訓, 183